

5. V区（第24～34図）

V調査区は配石遺構群の東側に位置し、調査面積は約290㎡で、東から西へ幾分傾斜しており、調査区東部と西部の比高差は60cm程となっている。

配石遺構群に隣接しており、調査区北東部ではFG62配石を検出しており、調査区全域から竪穴住居跡や土坑が密集して検出されている（第24図）。また、これらの竪穴や土坑を切る掘立柱建物跡等に伴う柱穴群を検出しているが、柱穴の覆土と竪穴住居跡や土坑の覆土が類似しており検出が非常に困難であったため、竪穴を掘り下げ柱穴群を検出したところもあり、掘立柱建物跡2棟などを検出している。また、南端部には掘立柱建物の柱穴を見つけることを主目的として7.70×3.85mのトレンチを入れ遺構検出面まで掘り下げたが、柱穴らしいものは検出できなかった。

調査区全域で検出した遺構数は竪穴住居跡27棟、土坑23基、柱穴240個に及ぶ。

（1）竪穴住居跡

FG62-01竪穴住居跡（第26図）

調査区北西部で炉と床面の一部を確認している。東側はFG64-01住、南側はFG62-04住に切られ、北～西側は調査区外に広がり未調査で、住居の規模、形状とも不明である。堆積土は1層灰黄褐色土、2層黒褐色土、3層灰黄褐色土と明黄褐色ロームの混土、4層～5層黒褐色土、6層灰黄褐色土と橙色焼土粒の混土となる。炉は竪穴南壁から北方向への掘り込みと径68×50cmの石組炉からなる複式炉と思われる。石組炉の南側は開口しており、炉の内部は5cm程掘り込まれ焼土が散布している。

遺物は床面からIV群土器（第39図19）、堆積土中からIV群土器片、石鏃1点が出土している。

FG62-02・03竪穴住居跡（第27図）

いずれも調査区北西部で検出している。FG62-04住の堆積土中で貼り床の一部を確認しFG62-02住居跡とした。貼床は叩き締められかなり硬化している。貼床直上には炭化したドングリや琥珀片が散布しており一部床面は火を受け橙色に変色している。遺物は床面直上からIV群土器片、石鏃4点、磨石1点が出土している。

同じくFG62-04住の堆積土中で炉を確認しFG62-03住居跡とした。炉は石組炉で40×25cmのコの字形を呈し西部が開口している。炉の中に焼土は形成されていない。遺物は周辺からミニチュア土器1点、IV群土器片、石鏃1点、石皿1点、石棒1点、径10cm程の白色粘土塊が出土している。

FG62-03住はFG62-02住に伴う複式炉の石組部ではないかと考えたが、FG62-02住床面と比較してレベルが数cm低いため別住居の炉あるいは野外炉とも思われたため別遺構名を付した。

FG62-04竪穴住居跡（第24～26図）

調査区北西部で確認している。住居北部を床面近くまで調査している他は、北～東壁の上部を検出している。大半が未調査であり住居の形状は不明であるが、南北に約9.50m程の大型住居と思われる。堆積土は1層黒褐色土、2a層明黄褐色ローム粒を含むい黄褐色土、2b層明黄褐色ローム粒を含む褐灰色土、2c層にい黄褐色土と明黄褐色ロームの混土、2d層明黄褐色ローム粒を含む褐色土、2e層明黄褐色ローム粒を含む暗褐色土、2f～2g層黒褐色土、3層灰白色シルトを含む褐灰色土、4層明黄褐色ローム粒を含むにい黄褐色土、5層黄褐色ロームとなる。2d層と2e層間には硬化した土が部分的に検出されているが、層の傾斜に沿って堆積しており、竪穴の貼床が捨てられたものかもしれない。切り合い関係はFG62

-01住、FG62-06住、FG64-05住、FH62-05住、FH62-02住を切り、FG62-05住、FH60-03住、掘立柱建物に伴う柱穴に切られている。

遺物は堆積土中からⅣ群土器（第37図8、40図39など）、石鏃17点、削器1点、凹石3点、磨石5点、石皿2点、砥石1点、石棒2点、有孔石製品1点、有孔土製品1点、盤状土製品8点が出土している。

FG62-05 竪穴住居跡（第27図）

調査区北西部、FG62-04住の堆積土中で確認している。住居西部は調査区外に広がっているため住居の規模、形状は明確ではないが、南北に径4.20m程の円形の住居と思われる。壁高は南壁77cmを測り、北～東壁は大きく崩れている（第26図）。堆積土は1層褐灰色土と黒褐色土の混土、2a～2b層黒褐色土、3a～3c層黄褐色ローム粒を含む黒褐色土、3d～3f層明黄褐色ロームを含む黒褐色土となり、2a～3c層中に多量の径5～20cmの川原石が含まれている。調査区西端で炉の東端を確認している。炉は西壁に寄っており、床面より20cm程掘り込まれ底に焼土が形成されている。本住居に伴う柱穴は14個程検出しており、P1（深さ89cm）、P2（深さ54cm）、P5（深さ54cm）の3本が主柱穴と考えられ、他のものはいずれも30cm以下の浅いものである。

遺物は堆積土中からⅣ～Ⅴ群土器片、石鏃8点、敲石1点、磨石5点、石皿6点、石棒1点、有孔石製品1点、土玉1点、土錘2点、盤状土製品2点が出土している。

FG62-06 竪穴住居跡（第26図）

調査区北部で床面の一部を確認している。北側はFG64-06住、東側はFG64-05住、南側はFG62-04住に切られており、竪穴の形状、規模とも不明である。堆積土は浮石を含む黒褐色土。

遺物は堆積土中から磨石1点が出土している。堆積土やⅢ期の竪穴（FG64-05住）に切られていることなどからⅢ期の竪穴と考えられる。

FG62-07 竪穴住居跡（第24図）

調査区北部に位置する。現場で竪穴とは気付かなかったが、いずれの柱穴の堆積土にも炭化材片が含まれており、焼失住居の壁柱と思われる。

FG64-01 竪穴住居跡（第26図）

調査区北部で南西部を確認している。竪穴は調査区外に広がっており形状、規模とも不明である。壁高は58～78cm、堆積土は1a～1d層黄褐色ロームと黒褐色土の混土、2a～2b層黄褐色ロームと黒褐色土の混土、3a層黒褐色土、3b～3d層黄褐色ロームと黒褐色土の混土、3e層灰黄褐色土となり、1層には大量の川原石（～15cm）や土器片を含んでいる。周溝は深さ15cm程のものが壁際に巡っており、壁から約20～50cm内側にも深さ15cm程の周溝を2本検出しており、竪穴は2回程建て替えられている。壁柱を壁際の周溝内からP13（深さ26cm）、P10（深さ40cm）、P12（深さ11cm）、P9（深さ25cm）、P1（深さ21cm）、内側の周溝内からP6（深さ34cm）、P7（深さ58cm）、P8（深さ41cm）、P12（深さ21cm）を検出している。その他竪穴に伴う柱穴はP2、4、11の3個検出している。土層セクションの観察から、竪穴は拡張ではなく縮小されたものと思われる。切り合い関係はFG62-01住、FG64-06住、FG64-05住を切っている。

床面からは敲打痕が残る川原石が出土し周辺に剥片が散っており、石器製作を行った跡と思われる（カラーグラビア）。その他遺物は1層からⅣ群土器片、2層からⅤ群土器片、堆積土中から石鏃2点、磨石1点、

凹石 1 点、磨製石斧 1 点、石皿 1 点、有孔石製品 1 点が出土している。

FG64-02 竪穴住居跡 (第27図)

調査区北東部で炉と硬化した床面の一部を確認している。FG64-05住の堆積土中に築かれており、床面の4～5cm下からは、同じくFG64-05住の堆積土中に築かれたFG64-03住の炉及び床面を検出している。炉は焼土の周りに20cm前後の川原石が5個配置されたもので北側が開口している。

遺物は出土していない。

FG64-03 竪穴住居跡 (第27図)

調査区北東部で炉と硬化した床面の一部を確認している。FG64-05住の堆積土中に築かれており、堆積土は1a～1c、2層黒褐色土となる。炉は石組炉で、38×45cmのコの字形を呈し東部が開口している。炉の中には部分的に橙色焼土が形成され、炉周辺が硬く締まり硬化している。

遺物は床面から石鏃 1 点が出土している。

FG64-04 竪穴住居跡 (第25～27図)

調査区北東部で炉と硬化した床面の一部を確認している。FG64-05住の堆積土中に築かれている。堆積土は1層黄褐色ローム粒を含む褐灰色土、2層橙色焼土粒を含む褐灰色土、3層明黄褐色ローム粒を含む褐灰色土、4層黒褐色土と明黄褐色土の混土となるが、以上の堆積土は壁際に厚さ十数cm程しか堆積しておらず、堆積土上面には厚さ50cm程の土器片などの遺物を含む層(A層)が堆積しており、遺物の出土状況などからA層は一気に埋められたものと思われる。A層は竪穴廃棄後窪地を埋めるため捨てられた土であろうか。A層はIV期の竪穴(FH62-03住)に切られている(第25図)。貼床(硬化面)は北東から南西径3.60m程の円形に分布している。炉は石組炉で、東西50×65cmの円形を呈し中に焼土は形成されていない。切り合い関係はFG64-05住、FG64-03土坑を切っている。

床面からIV群土器(第37図7)、堆積土中からⅢB群、IV群土器片、石鏃 3 点、石錐 1 点、磨石 1 点、凹石 1 点、斧状土製品 1 点が出土している。

FG64-05 竪穴住居跡 (第26図)

調査区北東部で西半部を調査している。住居の東側、北側は調査区外に広がるし、南側はFH62-03住に切られており、住居の規模、形状は不明であるが、径7.00m程の大型の竪穴と思われる。壁高は西壁60cm、堆積土は1a層明黄褐色ローム粒を含む黒褐色土、1b層黒褐色土、1c層明黄褐色ロームを含む灰黄褐色土、2a層黒褐色土と黄橙色ロームの混土、2b層にぶい黄褐色ロームを含む暗褐色土、2c層黒褐色土と黄色シルトの混土、3層褐灰色土と明黄褐色ロームの混土、4層明黄褐色ローム、5層褐灰色土、6層褐灰色土と灰黄褐色土の混土、7層褐灰色土と黄橙色ロームの混土となる。炉は西壁から東方向に長さ210cm、幅118cm、深さ29cmの掘り込み(前庭部)と径92×78cmの台形の石組炉からなる複式炉である。石組の西側は開口しており、炉の内部は15cm程掘り込まれ焼土が形成されている。周溝は壁際に深さ13cmのものが巡っており、壁から約70cm内側にも深さ18cmの周溝を検出しており、竪穴は拡張されている。柱穴は17個程検出しており、P1(深さ21cm)、P2(深さ25cm)、P4(深さ26cm)、P9(深さ31cm)が拡張前の主柱穴、P3(深さ42cm)、P8(深さ70cm)、P11(深さ51cm)、P12(深さ40cm)が拡張後の主柱穴と思われる。P10(深さ21cm)は前庭部壁際にあり、竪穴西壁に傾くように柱が設置されていたようである。他のものはいずれも深さ数cmの浅いもので、FG64-02～04住に伴う柱穴の底部を検出しただけなのかもし

れない。拡張は支柱穴を全て取り替え柱の規模も大きくする大規模なものであるが、柱配置は基本的に変えていない。切り合い関係はFH62-05住、FG64-06住、FG62-06住、FG64-03~04土坑を切っており、FG64-01~04住、FG62-04住、FH62-03住に切られている。

遺物は床面からⅢB群土器片（第45図124、129）、石鏃4点、凹石1点、磨製石斧1点、堆積土中からⅢB群、Ⅳ群土器片、石鏃1点、器台1点が出土している。

FG64-06竪穴住居跡（第26図）

調査区北部で住居南部を確認している。北側はFG64-01住、西側はFG64-05住に切られており、極めて一部しか残っていない。壁高は38cmで、堆積土は1~2層浮石を含む黒褐色土、3層黒褐色土と明黄褐色ロームの混土となり、3層は周溝内に堆積している。周溝は深さ18cm程のものが壁際に巡っている。切り合い関係はFG62-06住を切っており、FG64-01住、FG64-05住に切られている。

遺物は出土していないが堆積土やⅢ期の竪穴（FG64-05住）に切られていることなどから、Ⅲ期の竪穴と思われる。

FH60-01竪穴住居跡（第30図）

調査区西部で確認している。住居の一部は調査区外に広がっている。南北4.70mを測り円形の竪穴と思われる。壁高は北壁39cm、東壁13cm、南壁19cmを測るが、北壁上部は凸凹に掘りあげており土坑などの別遺構があったものと思われる。堆積土は1 a層黒褐色土、1 b層焼土粒を含む暗褐色土、1 c層焼土粒を含む黒褐色土、2層黒褐色土と黄褐色ロームの混土、3層黄褐色ローム粒を含む黒褐色土、4層黄褐色ローム粒を含む灰黄褐色土、5層褐色土と淡黄色ロームの混土となる。炉は南北72cm、東西56cmの方形の石組炉を検出しており、炉の中は6cm程掘り込まれており焼土は形成されていない。また、石組炉の北側は周辺の床と比較して6cm程低くなっており、北壁からの掘り込みと石組炉からなる複式炉であったのかもしれない。周溝は確認できないが壁柱はP4（深さ10cm）、P2（深さ11cm）、P3（深さ17cm）の3個検出している。その他柱穴状の掘り込みはP1（深さ44cm）を検出している。また、FI60-02住のP6（深さ46cm）としたものは本住居に伴う柱穴なのかもしれない。切り合い関係はFI60-09土坑を切り、FI60-02住、柱20・48・97に切られている。

遺物は堆積土中からⅣ群土器片、石鏃1点、盤状土製品1点が出土している。

FH60-02竪穴住居跡（第24~25図）

調査区西部で南東壁上部を検出しただけで大半が未調査であり、規模、形状とも不明である。堆積土は暗灰黄褐色土とロームの混土。切り合い関係はFH60-02土坑、FH60-03住に切られている。

遺物は出土していない。

FH60-03竪穴住居跡（第28~29図）

調査区西部で確認している。住居の西端部は未調査であるが、東西に約5.50m、南北に4.50mの楕円形の中型住居である。壁高は東壁10cm、南壁7cm、堆積土は1 a~1 c層褐色土とにぶい黄褐色ロームの混土、2 a~2 c層褐色焼土粒、炭化材片を多量に含む黒褐色土、3 a~3 b層黄褐色ロームと灰黄褐色ロームの混土、4 a層黒色土を含む褐色土、4 b~4 c層黒褐色土と黄褐色ロームの混土となる。4 b~4 c層は周溝内に堆積しており、2 a~3 b層に多量の川原石を含んでいる。炉は東西78cm、南北70cmの方形の石組炉で、炉の中は10cm程掘り込まれ焼土が形成されている。また、石組炉の西側は周辺の床と比較し

最大7cm程低くなっており、西壁からの掘り込みと石組炉からなる複式炉なのかもしれない。切り合い関係はFG62-04住、FH60-02住、FH62-01~02住、FH62-04住を切っている。

遺物は石棒2点が住居南壁付近床面より、同じく床面よりⅣ群土器（第37図13、15）、Ⅵ群土器（第40図43~44）、堆積土中からⅣ~Ⅴ群土器片、石鏃8点、磨石2点、凹石1点、磨製石斧1点、石皿1点、台石1点、有孔石製品2点、盤状土製品1点が出土している。

FH62-01 竪穴住居跡（第28図）

調査区西部で確認している。FH60-03住の床面下にある竪穴南部の一部のみ床面まで調査している。住居の規模、形状とも不明である。壁高は7cm程残っており、堆積土は1層明黄褐色ロームを含む灰黄褐色土、2層明黄褐色ロームを含む灰黄褐色土、3層暗褐色土、4層暗褐色土と明黄褐色土の混土となる。切り合い関係はFH60-04土坑を切り、FH60-03住、FH62-02住、柱188に切られている。

遺物は堆積土中よりⅢB群土器片が出土している。

FH62-02 竪穴住居跡（第28図）

調査区西部で確認している。FH60-03住の床面下にある竪穴南部の一部のみ調査しており、住居の規模、形状とも不明である。壁高は4cm程残っており、堆積土はにぶい黄褐色土。切り合い関係はFH62-01住を切り、FH62-03住に切られている。

遺物は出土していない。

FH62-03 竪穴住居跡（第28図）

調査区東部で住居西半部を調査している。住居は調査区東側の調査区外に広がるため、住居の規模、形状は不明であるが、北東から南西に径7.50mを測る大型住居である。壁高は北壁70cm、南壁85cm、西壁35cm、堆積土は1層褐灰色土とにぶい黄橙色ロームの混土、2a~2c層橙色焼土粒、炭化材片を多量に含む黒褐色土、3a~3b層黄褐色ロームと灰黄褐色ロームの混土、4a層黒色土を含む褐灰色土、4b~4c層黒褐色土と黄褐色~黄橙色ロームの混土となり、4b~4c層は周溝内に堆積しており、2a~3b層に多量の川原石や粘土塊、焼土、土器片を含んでいる。炉は西壁から長さ170cm、幅184cm、深さ23cmの掘り込み（前庭部）と径132×108cmの台形の石組炉からなる複式炉である。石組炉の内部は19cm程掘り込まれ焼土が形成されている。また、石組炉の南東に深さ3cm程の掘り込みを検出している。底面に焼土層が形成されており、石は抜かれて残っていないが建て替え前の複式炉の石組部と思われる。新旧の炉の軸はさほど変わらない。周溝は壁際その他、壁の内側約70~90cm、95cm（住居北東部の一部）、140~160cm、計4本巡っており、いずれも深さ25cm程である。周溝から見ると竪穴は3回程拡張されたようである。本竪穴に伴う柱穴は21個程検出しており、建設当初の時期の支柱穴はP8（深さ42cm）、P18（深さ52cm）、1回目の拡張後の支柱穴がP7（深さ60cm）、P6（深さ42cm）、P3（深さ53cm）、2回目の拡張後の支柱穴がP14（深さ54cm）、P2（深さ61cm）、P10（深さ56cm）、P16（深さ45cm）、P5（深さ52cm）、3回目の拡張後の支柱穴がP17（深さ32cm）、P11・12（深さ57cm・41cm）、P13（深さ58cm）、P15（深さ48cm）のように思える。その他北西壁際に径75cm×68cm、深さ17cmの長方形を呈する掘り込みがあり、この掘り込みの北東辺からP20（深さ55cm）、南西辺からP21（深さ76cm）を検出している。P20、21はいずれも直径10cm程の杭状のものを打ち込んだような穴で、柱穴というより出入りに設置された梯子などの用途を想像させられる。その他7個の柱穴はいずれも浅いもの（深さ15~21cm）である。拡張はFG64

-05住とは異なり柱の規模は拡張に伴い深くはなっておらず、主柱の本数を増やすことで対応しているようである。切り合い関係はFH62-04住、FH62-05住、FG62-04住、FG64-05住、FI62-03住を切っており、FG61-1～2掘立柱建物跡に伴う柱穴に切られている。

遺物は床面からⅣ群土器（第38図11、39図21）、Ⅵ群土器（第40図36）、堆積土中からⅢB、Ⅳ群土器、石鏃33点、石槍1点、石錐2点、凹石4点、磨石1点、磨製石斧2点が出土している。

FH62-04 竪穴住居跡（第28図）

調査区中央部で住居南部を確認している。東側はFH62-03住、西側はFG62-04住、FH60-03住に切られており、竪穴の規模、形状とも不明であるが大型住居と思われる。壁高は南壁30cm、堆積土は1層黄橙色ローム粒を含む灰黄褐色土、2層黄橙色ロームと灰黄褐色土の混土となる。切り合い関係はFI62-04土坑を切っており、FG62-04住、FH62-03住、FH60-03住、柱114～116に切られている。

遺物は床面からⅢB群土器（第44図90、45図111、114）、堆積土中からⅢB群土器、Ⅳ群土器片が出土している。

FH62-05 竪穴住居跡（第28図）

調査区北部で住居の一部を確認している。東側はFG62-1掘立柱建物に伴う柱穴、FH62-03住、西側はFG62-04住に切られており、床面と周溝の一部しか残っていない。堆積土は1層灰黄褐色土、2層黒褐色土と明黄褐色ロームの混土となり、2層は周溝内に堆積している。周溝は深さ32cmと深い。

遺物は出土していない。

FI58-01 竪穴住居跡（第24～25図）

調査区南西端で住居東部を確認している。竪穴の一部を床面まで調査しているが、大方は未調査で、竪穴の規模・形状とも不明である。壁高は78cm、堆積土は1層黒褐色土、2 a層明黄褐色ローム粒を含むにぶい黄褐色土、2 b層黄橙色ローム粒を含む灰黄褐色土、3層にぶい黄褐色土と明黄褐色ロームの混土、4層明黄褐色ローム粒を含むにぶい黄褐色土、5層ローム粒を含む褐色土となる。切り合い関係はFI58-02住を切っており、FJ58-01住に切られている。

遺物は堆積土中からミニチュア土器1点（第51図12）、磨石1点が出土している。

FI58-02 竪穴住居跡（第24～25図）

調査区南西端で住居東部を確認している。FI58-01住、FJ58-01住に大半を壊されており竪穴の規模、形状とも不明である。壁高は8cm、堆積土は1層黒色土と褐色土の混土、2層褐色土、3層褐色土と淡黄色シルトの混土となる。

FI58-03 竪穴住居跡（第24図）

調査区南部に位置する。柱穴の配列から竪穴住居跡の壁柱と考えた。

遺物は出土していないが、切り合い関係はⅢ期の土坑（FJ60-03土坑）、Ⅳ期の住居跡（FI60-01住）を切っている。

FI60-01 竪穴住居跡（第30図）

調査区南部で確認している。住居西半はFH60-01住、FI60-02住に切られており、住居の規模、形状とも不明であるが、南西から北東3.87mを測る円形の竪穴と思われる。壁高は東壁8cm、南壁3cm、堆積土は1層黒褐色土、2層明黄褐色ローム粒を含むにぶい黄褐色土となる。炉は検出されておらず住居の西半部に

あったのであろうか。切り合い関係はFI60-09土坑を切り、FH60-01住、FI60-02住、柱48、97に切られている。

遺物は堆積土中から第IV群土器（第47図170）が出土している。

FI60-02 竪穴住居跡（第30図）

調査区西部FH60-01住の堆積土中で確認している。住居の一部は調査区外に広がっているが、南北3.06m、東西3.00m程の円形の竪穴と思われる。壁高は東壁15cm、西壁18cm、南壁30cm、堆積土は1 a層にぶい黄褐色土、1 b層黒褐色土、1 c層黄褐色ローム粒を含む暗褐色土、1 d層黒褐色土、2層焼土粒、川原石を多量に含む黒褐色土となる。炉に伴う掘り込みの東部を住居北西寄りで見出ししているが大方調査区外に広がっている。壁柱の可能性が考えられる柱穴をP 1（深さ16cm）、P 2（深さ12cm）、P 6（深さ46cm）、P 7（深さ11cm）の4個検出している。しかし、P6はFH60-01住に伴う柱穴かもしれない。その他柱穴状の掘り込みはP 3（深さ25cm）、P 4（深さ18cm）、P 5（深さ20cm）の3個検出している。切り合い関係はFH60-01住、FI60-01住、FI60-09土坑を切り、柱48、96～97に切られている。

遺物は堆積土中からIV群、V群土器片、ミニチュア土器1点、石鏃4点、凹石1点、石皿1点、石棒2点、土玉4点が出土している。

FI60-03 竪穴住居跡（第24図）

調査区北部に位置する。柱穴の配列から竪穴住居跡の壁柱と考えFI60-03竪穴住居跡とした。切り合い関係はFJ60-04土坑を切っている。

FI62-01 竪穴住居跡（第25、30図）

調査区東部で住居西半部を確認している。北東から南西に8.08mの大型住居である。壁高は北壁16cm、西壁20cm、南壁34cm、堆積土は1～2層黒褐色土、3層黄褐色ロームを含む黒色土、4 a～4 d層黄褐色ローム、褐色土、黒褐色土の混土、5 a層にぶい黄褐色土、5 b層黒褐色土となる。周溝は西～南西壁沿いに部分的に深さ10cm程のものが巡っている。竪穴に伴う柱穴は6個程検出しており、P 1（深さ68cm）、P 2（深さ96cm）、P 3（深さ70cm）の3個が主柱穴と思われる。

遺物は床面からV群土器片、堆積土中からV群土器片、石鏃1点、石匙1点、石皿1点、石棒1点、耳飾り1点、有孔土製品1点、キノコ形土製品1点、盤状土製品2点が出土している。

FI62-03 竪穴住居跡（第24～25、28図）

調査区東部で住居南西部を確認している。大半が未調査であり竪穴の規模、形状とも不明である。壁高は50cm程、堆積土は黒褐色土、切り合い関係はFH62-03住に切られている。

遺物は堆積土中から石槍1点が出土している。

FJ58-01 竪穴住居跡（第31～32図）

調査区南西端で確認している。住居北半を床面まで調査しているが、南半部は遺構確認面で調査を終了している。北から南に4.75m、東から西に4.75mを測る。壁高は北壁40cm、東壁47cm、堆積土は1層黒褐色土、2 a層明黄褐色ローム粒と焼土粒を含むにぶい黄褐色土、2 b～2 c層黒褐色土、3 a～3 b層にぶい黄褐色土と明黄褐色ロームの混土、4 a層黒褐色土、4 b層明黄褐色ローム粒を含むにぶい黄褐色土、5層ローム粒を含む褐色土、6層ローム粒を含む黒褐色土、7層黒褐色土と明黄褐色ロームの混土となり、4 a～6層は壁際に、7層は周溝内に堆積している。2 a～3 b層に大量の川原石（～20cm）を含んでいる。炉は

北壁から南に102cm、幅50cm、深さ12cmの掘り込みと径76×84cmの方形の石組炉からなる複式炉で、掘り込みの西面と東面には長さ45～55cmの細長い川原石が壁と直行する方向に配され、掘り込みの中には炭化材片が分布している。石組炉の西側の石は抜かれており、炉の中に橙色焼土が形成されV群土器の底部片などが出土している。周溝は深さ15cm程のものが巡っており、竪穴西部には壁から約20cm内側にも周溝を検出している。内側の周溝堆積土上面はロームで蓋がされており、竪穴は拡張されたようである。竪穴に伴う柱穴はP 1～P 3の3個検出しており深さ61～73cmと深く、いずれも支柱穴と考えられる。また、P 1、P 3からは径20cm程の柱痕を検出している。西北部からは本住居跡に伴う径68cm×68cmの円形の土坑を検出している。切り合い関係はFJ60-01住、FJ60-02住、FI58-01～02住、FJ58-02土坑を切っており、柱136、145～147、205～207、FJ58-01土坑に切られている。

遺物は床面からV群（第40図30、47図195）、VI群土器（第41図50）、堆積土中からV群、VI群土器片、ミニチュア土器1点、石鏃2点、凹石1点、敲石1点、磨石6点、石皿3点、石棒1点、有孔石製品1点、土偶1点、盤状土製品3点が出土している。

FJ58-02竪穴住居跡（第24～25、31図）

調査区南西端で床面の一部を確認している。大方未調査で竪穴の規模、形状とも不明である。堆積土は黒色土と黄橙色ロームの混土、竪穴に伴う柱穴1個（深さ25cm）を検出している。切り合い関係はFI58-01住、FJ58-01住に切られている。

遺物は床面から石製品1点（第73図35）が出土している。

FJ60-01竪穴住居跡（第31～32図）

調査区南東端で確認している。住居北半部を床面まで調査しているが、南半部は遺構確認面で調査を終了している。竪穴西部はFJ58-01住に切られているため形状・規模とも明らかではないが東西7m強、南北6m強の円形の竪穴と思われる。壁高は北壁23cm、堆積土は1a層褐灰色土、1b層橙色焼土粒を含む褐灰色土、1c層灰黄褐色土、1d層橙色焼土粒を含む褐灰色土、1e層橙色焼土、1f層褐灰色土、2a層灰黄褐色土と明黄褐色ロームの混土、2b層黒褐色土、3層にぶい黄橙色シルト、4層にぶい黄橙色シルトと明黄褐色ロームの混土、5層浅黄褐色シルト、6層明黄褐色ロームと黒褐色土の混土となり、6層は非常に固くしまる貼床の土である。堆積土中には大量の川原石（～20cm）を含んでいる。周溝は検出されていないが深さ25cm程の壁柱が約50cm間隔で巡っている。竪穴に伴う柱穴はP 1～P 14の14個検出しており、深さはP 10～83cm、P 1～62cm、P 4～61cmの3個が深く支柱穴と考えられ、他は5～37cmと浅い。切り合い関係はFJ60-02住、FJ60-07土坑を切っており、FJ60-01住、柱142、FJ60-06・08土坑に切られている。

遺物は床面からV群土器（第40図28、49図199）、堆積土中からV群土器（第40図31、49図213）、石鏃2点、石匙1点、石錐1点、凹石4点、磨石6点、磨製石斧2点、石皿5点、棒状土製品1点、盤状土製品3点が出土している。

FJ60-02竪穴住居跡（第31図）

調査区南西部FJ60-01住の床面下で確認している。大半が未調査で竪穴の規模、形状とも不明である。堆積土は黒色土と黄橙色ロームの混土。切り合い関係はFI58-01住、FJ60-01住に切られている。

遺物は出土していない。

FJ60-03 竪穴住居跡（第24図）

調査区南部に位置する。柱穴の配列から壁柱列と考えFI60-03竪穴住居跡とした。切り合い関係はFJ60-04土坑を切っている。

(2) 土坑

FG64-02 土坑（第32図）

調査区北東部FG64-05住の堆積土中で確認している。西から東に2.44m、北から南に1.60mを測る楕円形の土坑で、底面は凹凸が激しい。堆積土は1層多量の土器片、骨片を含む褐灰色土、2層黒褐色土となる。1層はⅡa区、Ⅳ区で調査した盛土層と類似している。

遺物は底面からⅣ群土器（第38図9、47図177、178、50図234）、石鏃1点が出土している。

FG64-03 土坑（第32図）

調査区北東部FG64-05住の床面下で確認している。土坑の形状、規模はFG64-05住に切られているため不明であるが、底径は北西から南東に1.20m、北東から南西に0.77mを測る楕円形のフラスコ土坑である。堆積土は1層浮石を含む黒色土と明黄褐色ロームの混土、2層明黄褐色ローム、3層明黄褐色ローム粒を含む黒色土、4層浮石、ローム粒を含む黒色土、5層浮石を含む黒色土となる。

遺物は出土していないが、堆積土やⅢ期の竪穴（FG64-05住）に切られていることからⅢ期の土坑と思われる。

FG64-04 土坑（第26図）

調査区北東部FG64-05住の複式炉に切られており、土坑の形状、規模は不明である。深さ30cm、堆積土は浮石を含む黒色土となる。

遺物は出土していないが、堆積土やⅢ期の竪穴（FG64-05住）に切られていることからⅢ期の土坑と思われる。

FH60-01a・b 土坑（第32図）

調査区西部で確認している。南北1.17m、東西0.96mを測る楕円形の土坑（FH60-01b土坑）を再利用し南北1.50m、東西1.22m、深さ54cmを測る土坑（FH60-01a土坑）を構築したものと思われる。FH60-01a土坑の堆積土は1～4層ロームと灰黄褐色土の混土、5層ロームブロックを含む褐灰色土、FH60-01b土坑の堆積土は1～4層にぶい黄褐色土と黄褐色ロームの混土となる。

遺物はFH60-01b土坑底部からⅢB群土器（第43図77）、FH60-01a土坑底部から磨石2点、堆積土中から石鏃1点が出土している。

FH60-02 土坑（第32図）

調査区西部で確認している。南北1.03m、東西0.92m、深さ21cmを測る楕円形の土坑である。堆積土は1層にぶい黄褐色土、2層にぶい黄褐色土と灰黄褐色土の混土、3層黄橙色ローム粒を含むにぶい黄褐色土となる。切り合い関係はFH60-03土坑に切られている。

遺物は出土していない。

FH60-03 土坑（第32図）

調査区西部で確認している。東西0.92m、南北0.65m、深さ33cmを測る楕円形の土坑である。堆積土は1層黒褐色土、2層黒褐色土と浅黄橙色シルトの混土、3層黄橙色ローム粒を含むにぶい黄褐色土、4層明黄

褐色ローム粒を含む暗褐色土となる。切り合い関係はFH60-02土坑を切り、柱55に切られている。

遺物は出土していない。

FH60-04土坑（第28図）

FH62-01住の床面下で確認している。土坑の北側と、南側の一部は未調査であるが、底径0.90mの円形のフラスコ土坑と思われる。堆積土は浮石、明黄褐色ロームを含む黒褐色土で、堆積土よりⅢ期の土坑と考えられる。切り合い関係はFH62-01住、柱113に切られている。

遺物は出土していない。

FI60-03土坑（第32図）

調査区中央部で確認している。東西0.87m、南北0.70m、深さ21cmを測る楕円形の土坑である。堆積土は1層黄褐色ローム粒を含む黒褐色土、2層黒褐色土と淡黄色シルトの混土、3層黒褐色土となり、長さ26cmの川原石が土坑東端部から出土している。

遺物は堆積土中からⅥ群土器片が出土している。

FI60-04土坑（第32図）

調査区西部で確認している。開口部径0.95×0.89m、底径0.95×0.90m、深さ34cmを測るフラスコ土坑で、堆積土は1層褐色土と明黄褐色ロームの混土、2層ローム粒を含む灰黄褐色土となる。切り合い関係は柱10に切られている。

遺物は堆積土中から凹石1点が出土している。

FI60-05土坑（第32図）

調査区南西部で確認している。南北1.20m、東西0.86m、深さ25cmを測る楕円形の土坑で、堆積土は1層明黄褐色ローム粒を含む灰黄褐色土、2層浅黄褐色ロームを含む灰黄褐色土となる。切り合い関係は柱85を切る。

遺物は出土していない。

FI60-06a・b土坑（第33図）

調査区南部で確認している。北西から南東1.46m、北東から南西1.18m、深さ37cmを測る楕円形の土坑で、土層セクションからFI60-06b土坑を再利用し、FI60-06a土坑を構築しているように思われる。堆積土は1層淡黄色シルトを含む黒褐色土、2層灰黄褐色土、3～6層灰黄褐色土と明黄褐色ロームの混土となる。切り合い関係はFI60-07・09土坑を切っている。

遺物は堆積土中からⅢB群土器（第45図122）、磨石2点、石皿4点、土玉1点が出土している。

FI60-07土坑（第33図）

調査区南部で確認している。南北0.78m、深さ21cmを測る円形の土坑で、堆積土は1層浮石を含むにぶい黄褐色ロームと淡黄色シルトの混土、2層浮石、淡黄色シルトを含む灰黄褐色土、3層灰黄褐色ロームと灰白色シルトの混土となる。切り合い関係はFI60-06・08土坑、柱43に切られている。

遺物は出土していないが堆積土やⅢ期の土坑（FI60-06土坑）に切られていることなどから、Ⅲ期の土坑と思われる。

FI60-08土坑（第33図）

調査区南部で確認している。東西1.48m、南北1.00m、深さ47cmを測る楕円形の土坑で、堆積土は1層浮

石を含むにぶい黄橙色土、2層灰黄褐色土、3層浮石を含む明黄褐色ローム、4層灰黄褐色土となる。切り合い関係はFI60-07土坑を切っている。

遺物は堆積土中より石皿2点が出土しており、堆積土からⅢ期の土坑と思われる。

FI60-09土坑（第30図）

調査区中央部で確認し西半分を調査している。開口部径2.60×2.80m、深さ1.05mを測る円形の大型フラスコ土坑である。堆積土は1 a～1 g層黒褐色土と暗褐色土の互層、2 a～2 e層褐色土～浅黄橙色ローム（壁の崩落土）、3 a層黒褐色土、3 b層黒褐色土と褐色土の混土となる。切り合い関係はFI60-01～02住、FH60-01住、柱95に切られている。

遺物は底部からⅢB群土器片（第44図94、第45図118、127）、堆積土中から石鏃1点が出土している。

FI62-01土坑（第24図）

調査区東部で確認している。開口部径0.47×0.65mの楕円形の小さな土坑である。FI62-01土坑と重複するが切り合い関係は不明。

遺物は出土していない。

FI62-03土坑（第24図）

調査区東部で確認している。開口部径0.94×0.86mの楕円形の土坑である。堆積土は1層黒褐色土を含む黄色ローム、2層黒褐色土、3層黒褐色土と黄色ロームの混土、4層浅黄橙色ロームと明黄褐色ロームの混土となる。

遺物は1～3層よりV群土器片が、4層よりⅢa群土器片が出土している。

FI62-04土坑（第33図）

調査区中央部FH62-04住の床面で確認している。土層セクションをとるためトレンチ調査をしている。底径2.55mの円形の大型フラスコ土坑で、堆積土は浮石を含む黒褐色土である。

遺物は底部からⅢB群土器片（第42図81）、同じく1層からⅢB群土器片（第43図103）が出土している。

FI62-05土坑（第33図）

調査区南東部で確認している。土層セクションをとるためトレンチ調査をしている。平面プランや土層セクションより開口部径南北0.90m、東西1.50m、底径東西2.08mを測る円形の大型フラスコ土坑であることが判明している。堆積土は1層浮石、黄褐色ロームブロックを含む黒色土、2層浮石を含む黒褐色土、3層黒褐色土と明黄褐色ロームの混土、4層褐灰色土と明黄褐色ロームの混土となる。切り合い関係は柱30、31に切られている。

FJ58-01土坑（第24図）

FJ58-01住、FJ60-01住の調査時に土坑北部を確認しているが大半は確認できずに掘り下げており、規模、形態とも不明である。FJ58-01住、FJ60-01住の堆積土を掘り込んで築かれている。深さ38cmを測り底部は凹凸が激しく定型的な土坑ではない。堆積土は灰黄褐色土。

遺物は出土していない。

FJ60-01土坑（第24図）

調査区南東部で確認している。東西0.64m、南北0.48mを測る楕円形の土坑である。

堆積土は1層明黄褐色ローム粒を含むにぶい黄褐色土、2層灰黄褐色土と黄褐色土の混土、3層黒褐色土

と黄褐色土の混土となる。

遺物は出土していない。

FJ60-02土坑（第33図）

調査区東部で確認している。開口部径0.54×0.71mの楕円形の土坑である。堆積土は1、3層明黄褐色ロームとにぶい黄褐色土の混土、2層黄褐色ロームと暗灰黄褐色土の混土となる。

遺物は出土していない。

FJ60-03土坑（第33図）

調査区南部で確認している。開口部径1.25×0.80m、底径1.75×1.50m、深さ1.11mの円形のフラスコ土坑である。堆積土は1層浮石、褐灰色土を含む灰黄褐色土、2層灰白色シルト（壁崩落土）、3層灰白色シルトと灰黄褐色土の混土、4層浮石を含む黒色土、5～6層ローム粒を含む灰黄褐色土、7層にぶい黄褐色土と明黄褐色ロームの混土、8層明黄褐色ロームとなる。切り合い関係はFI58-03住壁柱に切られている。

遺物は堆積土中からⅢB群土器片（第44図117）、石鏃1点が出土している。

FJ60-04土坑（第33図）

調査区南東部で確認している。開口部径1.20×0.93m、底径1.15×0.78m、深さ77cmの楕円形のフラスコ土坑である。堆積土は1層褐灰色土と黄褐色ロームの混土、2層ローム粒を含む黒褐色土、3層浅黄橙色ローム粒を含む灰黄褐色土となる。切り合い関係はFJ60-03住壁柱など7～8個の小規模な柱穴に切られている。

FJ60-05土坑（第33図）

調査区南部で確認している。東西1.46m、南北0.93m、深さ44cmの長方形を呈し、堆積土は1層黄褐色土、2層褐色土となる。底面は平坦で東西の壁際に深さ10～12cmの溝が掘られている。切り合い関係は柱137、139を切っている。

遺物は出土していない。

FJ60-06土坑（第33図）

調査区南東部で確認している。一部調査区外に広がっているが、開口部径1.26m、深さ107cmを測る円形のフラスコ土坑で、堆積土は1層にぶい黄褐色土、2層黄褐色ローム粒を含むにぶい黄褐色土、3層明黄褐色ローム粒、橙色焼土粒を含む黒褐色土、4層橙色焼土粒を含むにぶい黄褐色土と明黄褐色ロームの混土、5層黄橙色ローム粒を含む灰黄褐色土、6～7層灰黄褐色土と黄橙色ロームの混土、8層黄橙色ロームとなる。切り合い関係はFJ60-01住を切り、FJ60-08土坑に切られている。

堆積土中からⅣ群土器片、石鏃2点、石匙1点、凹石1点、有孔石製品2点、盤状土製品1点が出土しているが、Ⅴ期の住居跡（FJ60-01住）を切っていることからⅤ期の土坑と思われる。

FJ60-07土坑（第33図）

調査区南部で確認し北西部を調査している。開口部径1.38m×1.12mの円形のフラスコ土坑で、土層セクションでの深さは90cm、堆積土は1層黒色土、2a層黄橙色ローム粒、浮石を含む灰黄褐色土、3a～3b層灰黄褐色土と淡黄色シルトの混土、4a層浮石を含む黒色土、4b層浮石を含む黒色土と灰黄褐色土の混土となる。

遺物は出土していないが堆積土よりⅢ期の土坑と思われる。

FJ60-08土坑（第33図）

調査区南東部で西部の一部を確認しているが大半は調査区外に広がっている。土層セクションでの開口部径1.05m、底径1.17m、深さ76cmを測り、切り合い関係はFJ60-06土坑を切っている。FJ60-06土坑を再利用したものかもしれない。

遺物は4層より白色粘土塊しか出土していないが、V期の住居跡（FJ60-01住）を切っていることからV期の土坑と思われる。

（3）配石遺構

FG62配石（第34図）

調査区北西部で確認している。径10～40cm程の川原石が円形に配されていたものと思われるが、石は抜き取られたものも多い。

（4）掘立柱建物跡・柱穴群（第3・34図）

掘立柱建物跡は調査区北部で2棟検出している。柱穴は239個検出し内179個掘り下げ調査しており、その分布は調査区中央部に集中している。

柱穴の確認面からの深さは30cm以下のもの60個（33.5%）、31～60cmのもの55個（30.7%）、61～90cmのもの44個（24.5%）、90cmを超えるもの20個（11.2%）となり、浅いものほど比率が高くなる。

柱1（掘り方径82cm、柱痕径45cm、深さ125cm）、柱27（掘り方径57cm、深さ142cm）、柱96（掘り方径82cm、柱痕径45cm、深さ115cm）、柱97（掘り方径78cm、柱痕径35cm、深さ103cm）、柱108（掘り方径80cm、柱痕径36cm、深さ108cm）以上5本が群を抜いて大規模な柱穴であるが、いずれも掘立柱建物跡が検出された区域から外れた調査区西部から検出している。

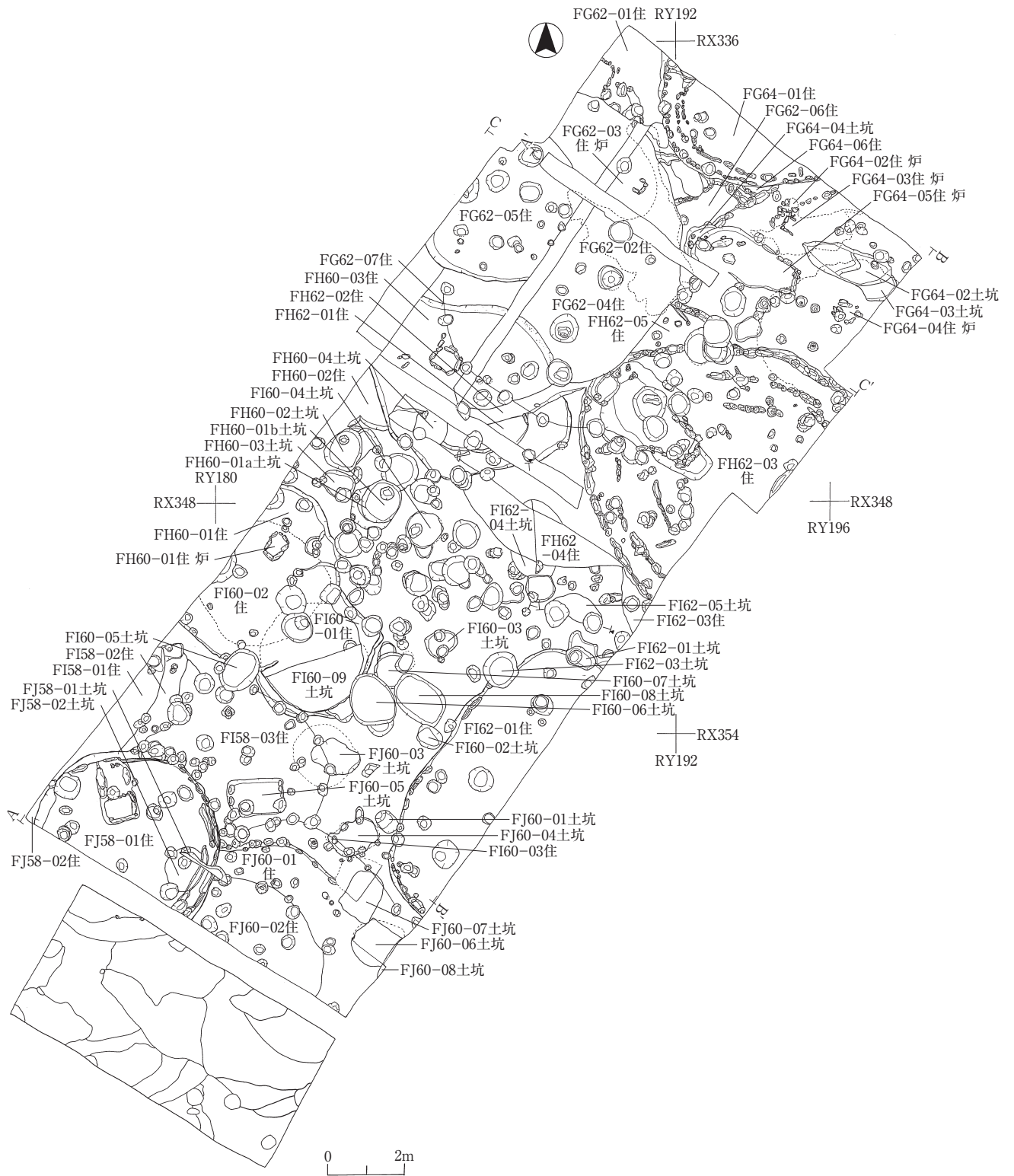
遺物は柱67、144、155、157、163、164、169、181、192からIV群土器片、柱27、119、138、210、232からV群土器片が出土している。

FG62-1掘立柱建物跡（第34図）

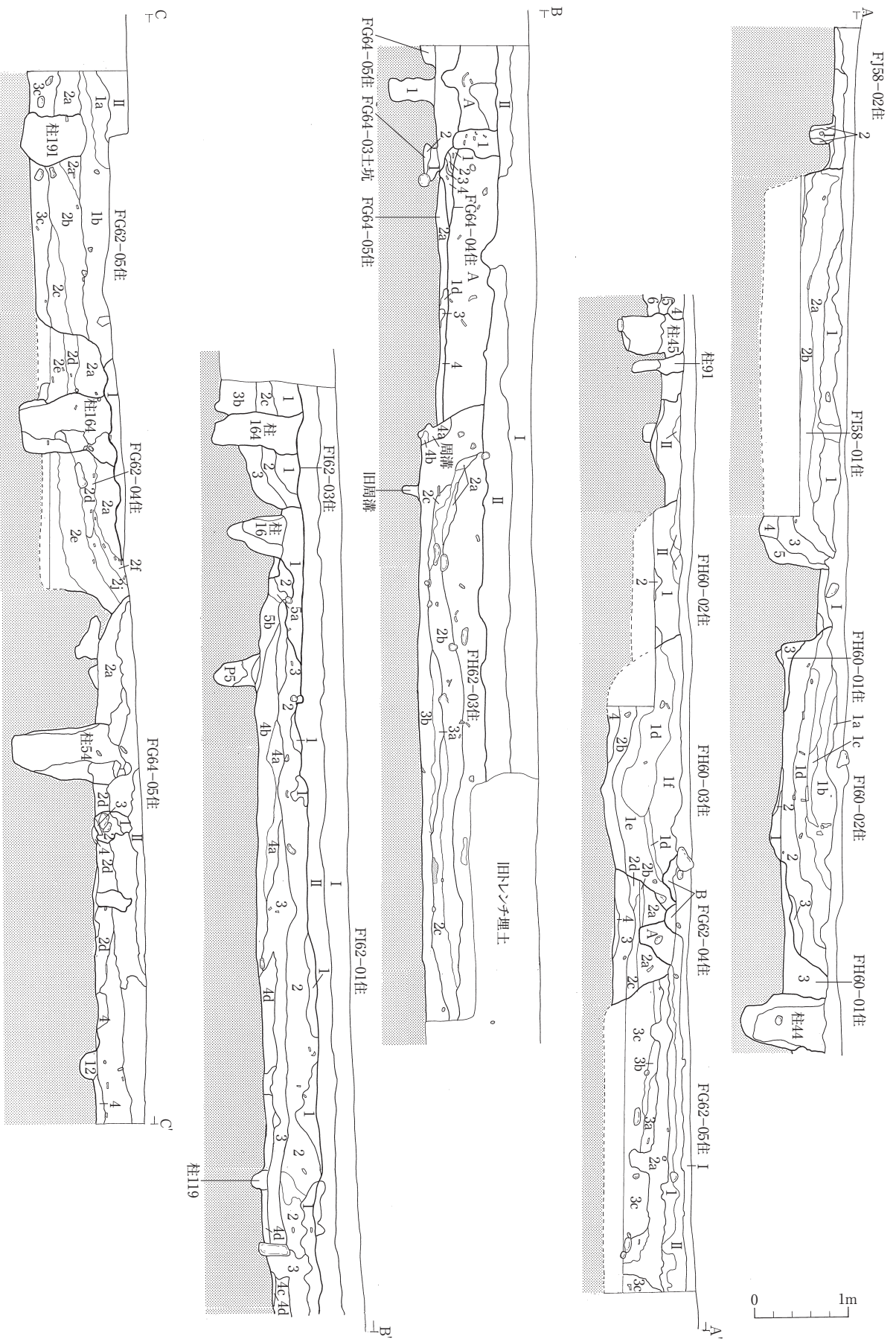
調査区北部に位置する。東西に2間、南北に1間の6本柱の建物で、南西端の柱穴はFG62-05住調査時に検出できずに掘り下げてしまったものと考えられる。南北の柱間は3.30m（柱54～柱173）、3.05m（柱164～167）、東西の柱間は3.50m（柱54～164）、2.50m（柱164～191）、2.90m（柱173～167）で、各柱穴の掘方の規模は柱54-径62×70cm、深さ117cm、柱164-径60×62cm、深さ96cm、柱191-径57×66cm、深さ55cm、柱173-径85×86cm、深さ73cm、柱167-径72×73cm、深さ100cmとなっており、柱痕は柱54（径32cm）、柱164（径38cm）、柱173（径43cm）、柱167（径42cm）で確認している。

FG62-2掘立柱建物跡（第34図）

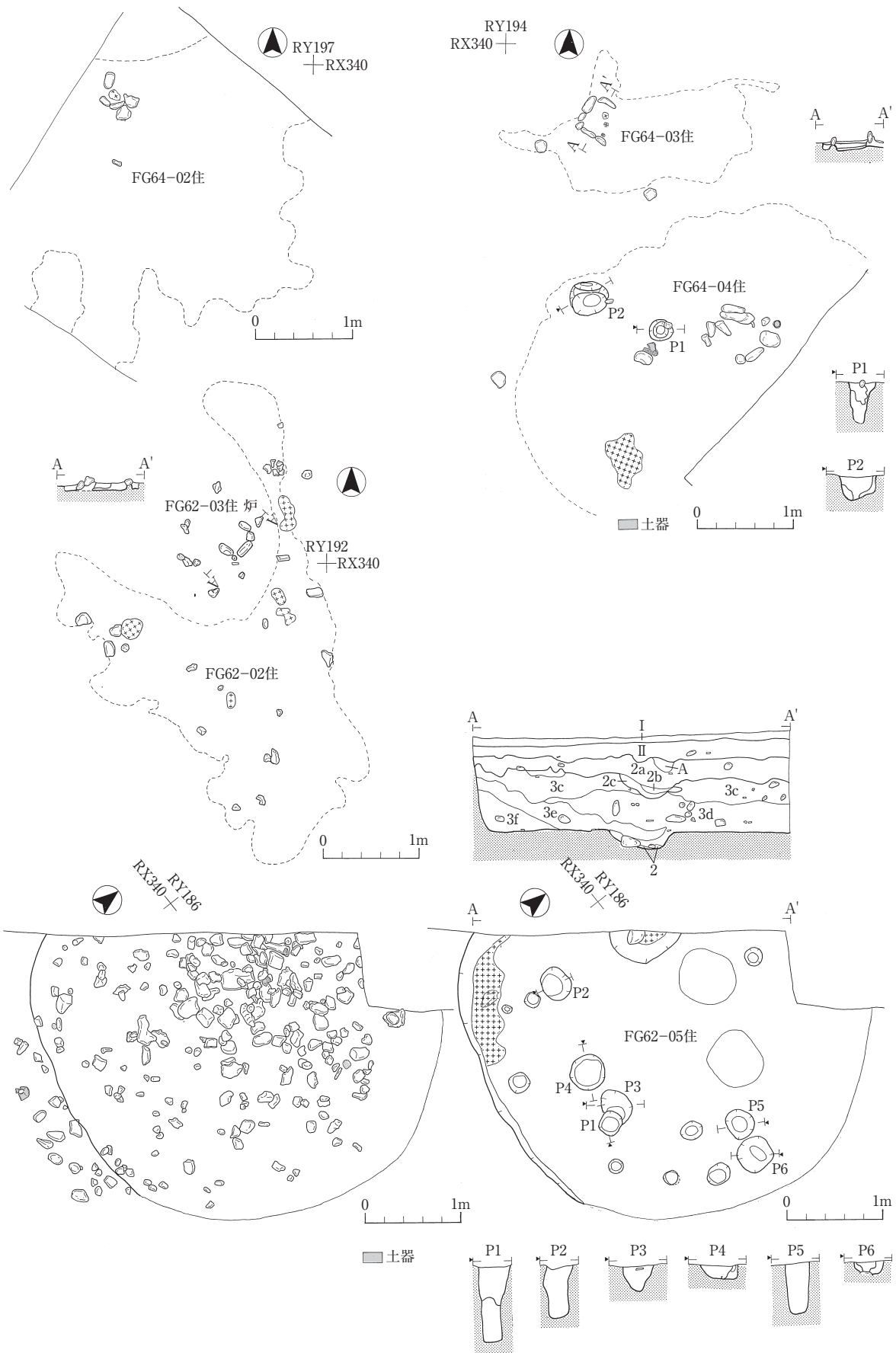
調査区北部に位置する。東西に1間、南北に1間の4本柱の建物で、南北の柱間は2.80m（柱157～柱163）、2.90m（柱68～59）、東西の柱間は3.15m（柱157～68）、2.90m（柱163～59）で、各柱穴の掘方の規模は柱157-径58×70cm、深さ74cm、柱163-径68×72cm、深さ76cm、柱68-径75×82cm、深さ102cm、柱59-径64×65cm、深さ94cmとなっており、柱痕は柱157（径28cm）、柱163（径38cm）で確認している。北東部の柱68は3回程建て替えており柱67、155、156は以前FG62-1掘立柱建物跡に使用された柱穴と思われる。



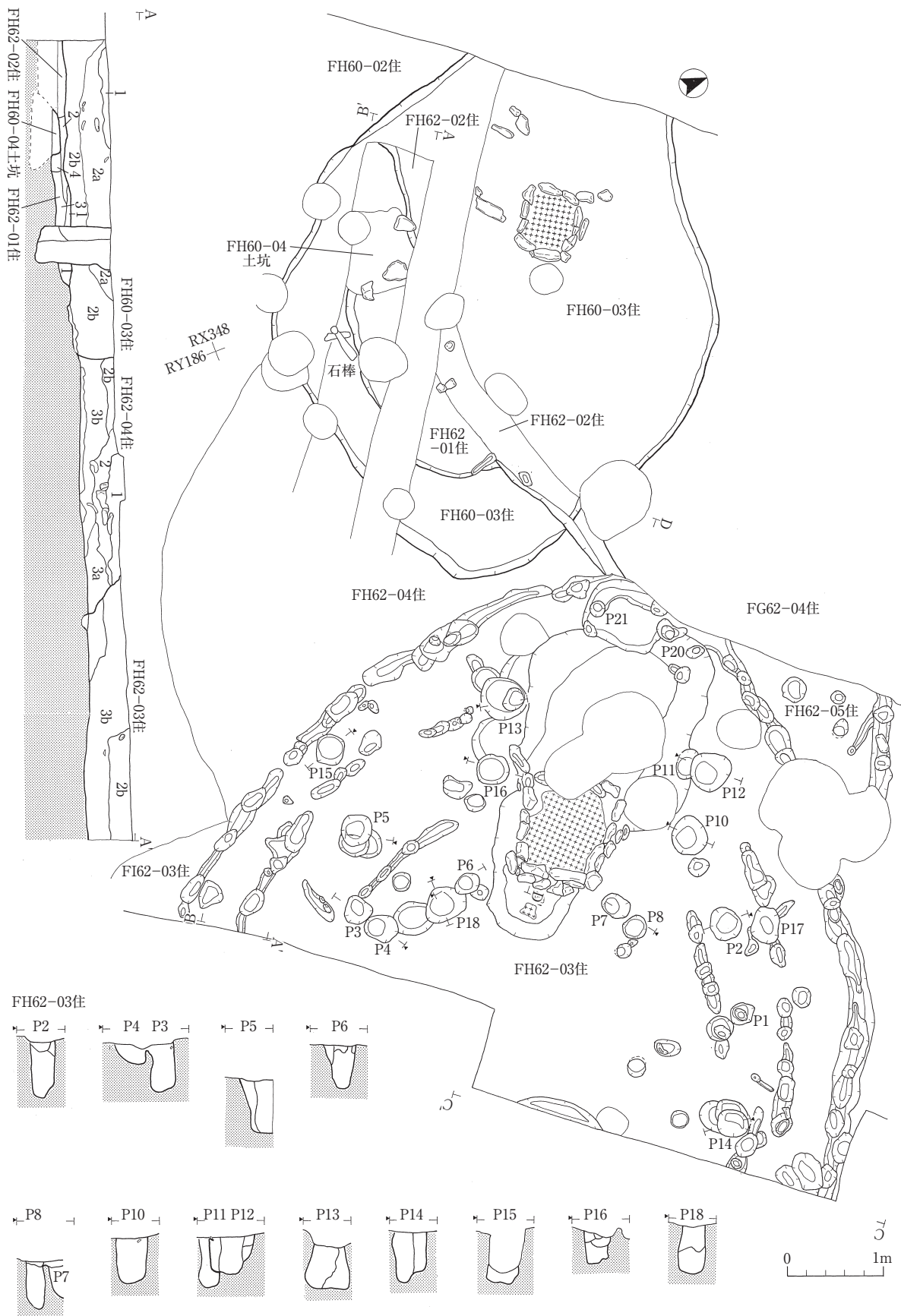
第24图 V区全体图



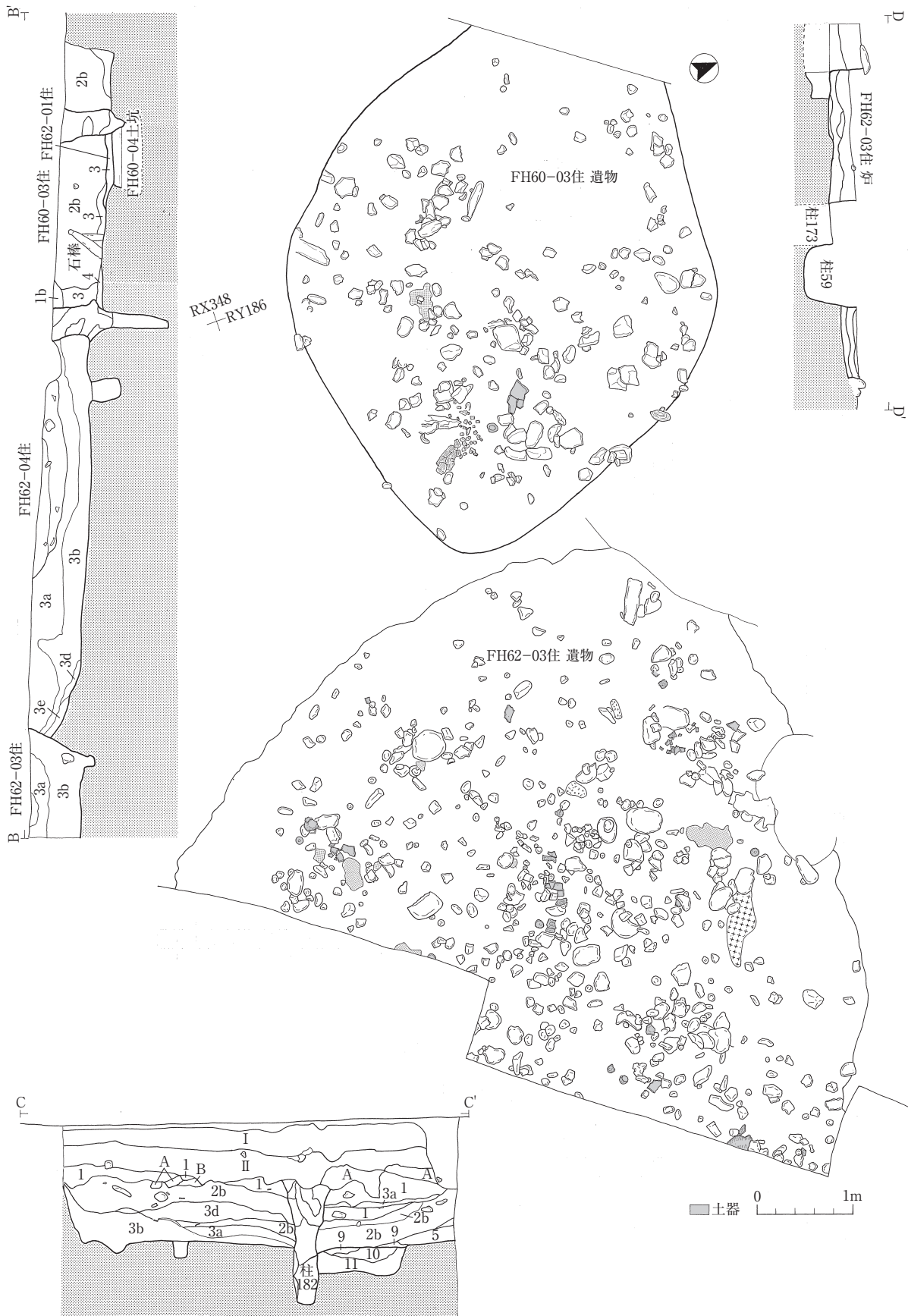
第25図 V区土層セクション



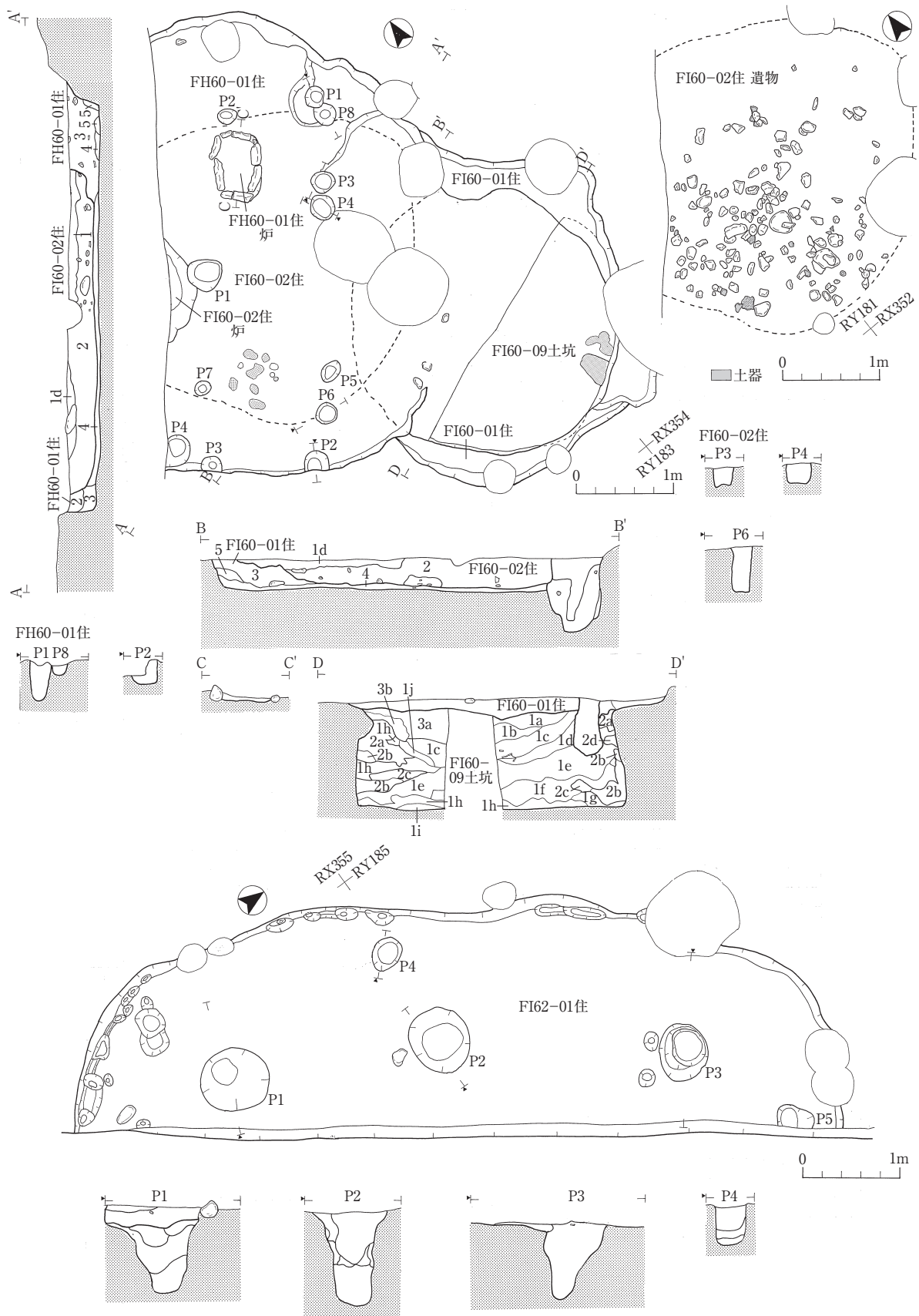
第27図 V区検出遺構 (2)



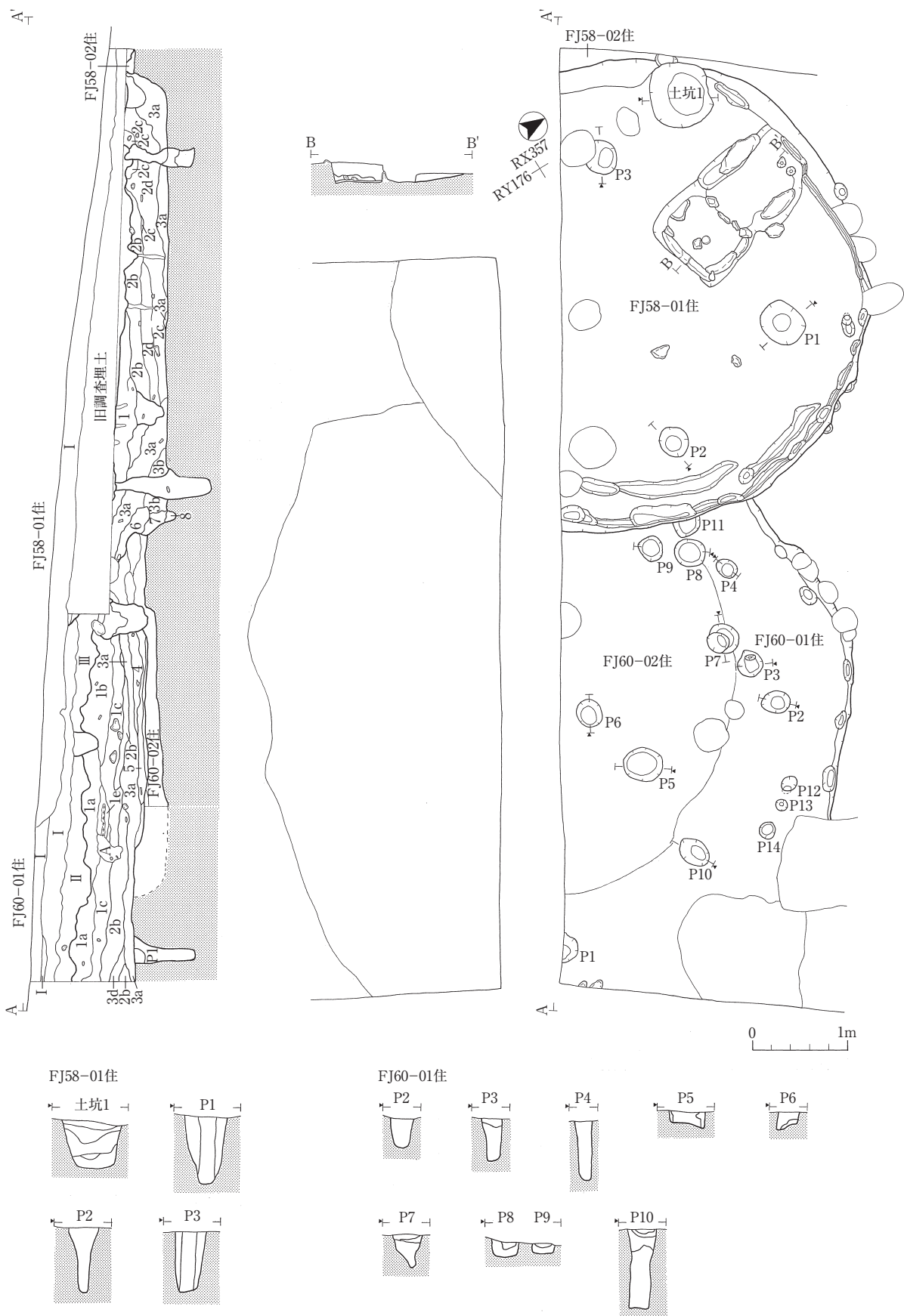
第28図 V区検出遺構 (3)



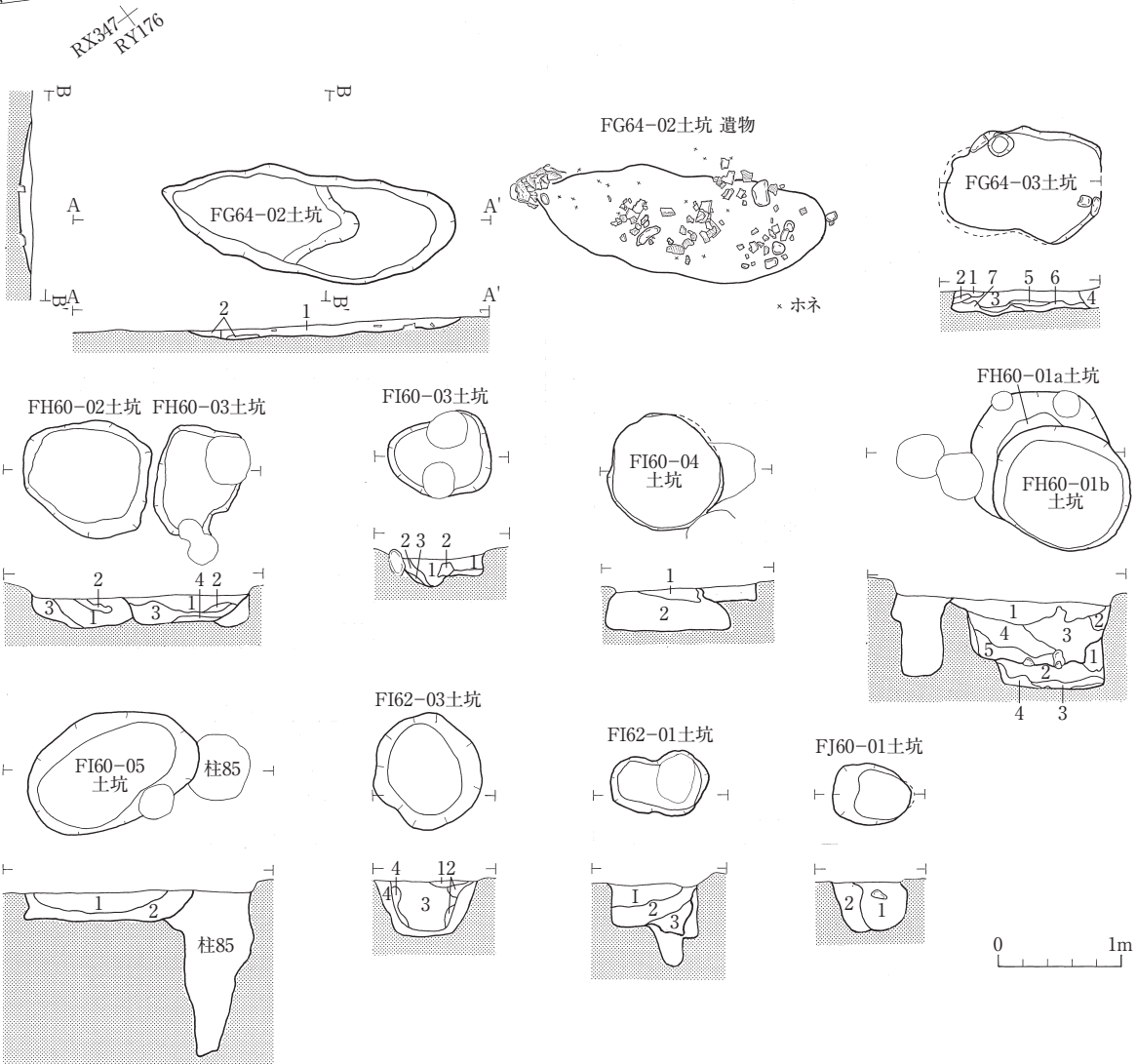
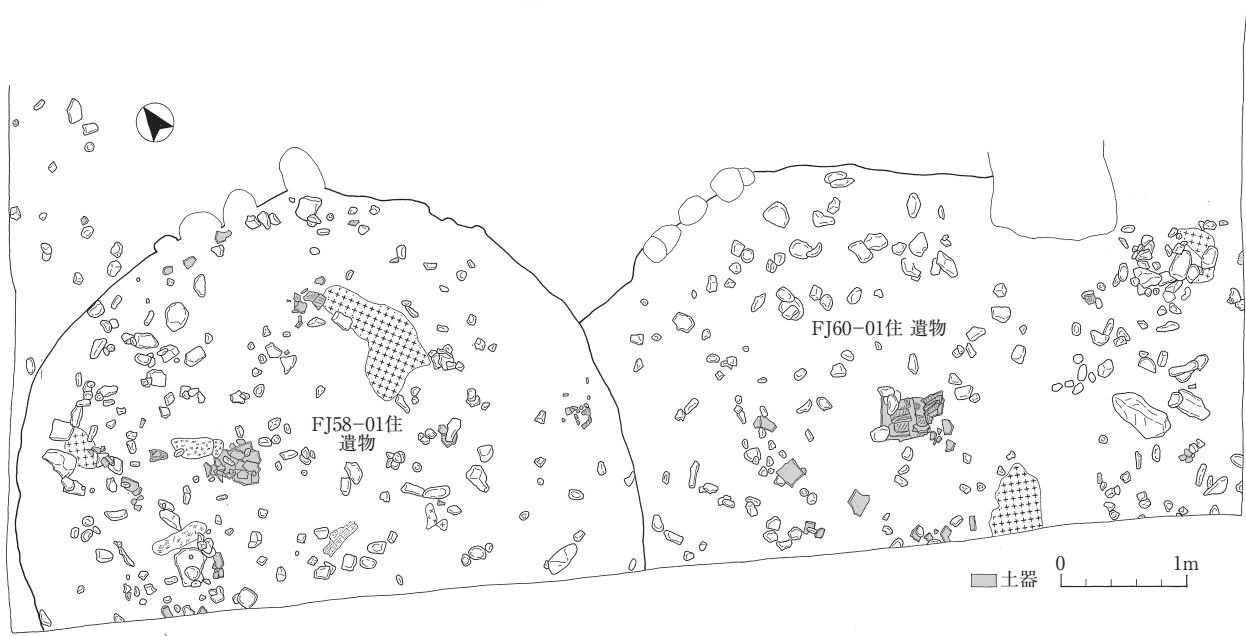
第29図 V区検出遺構 (4)



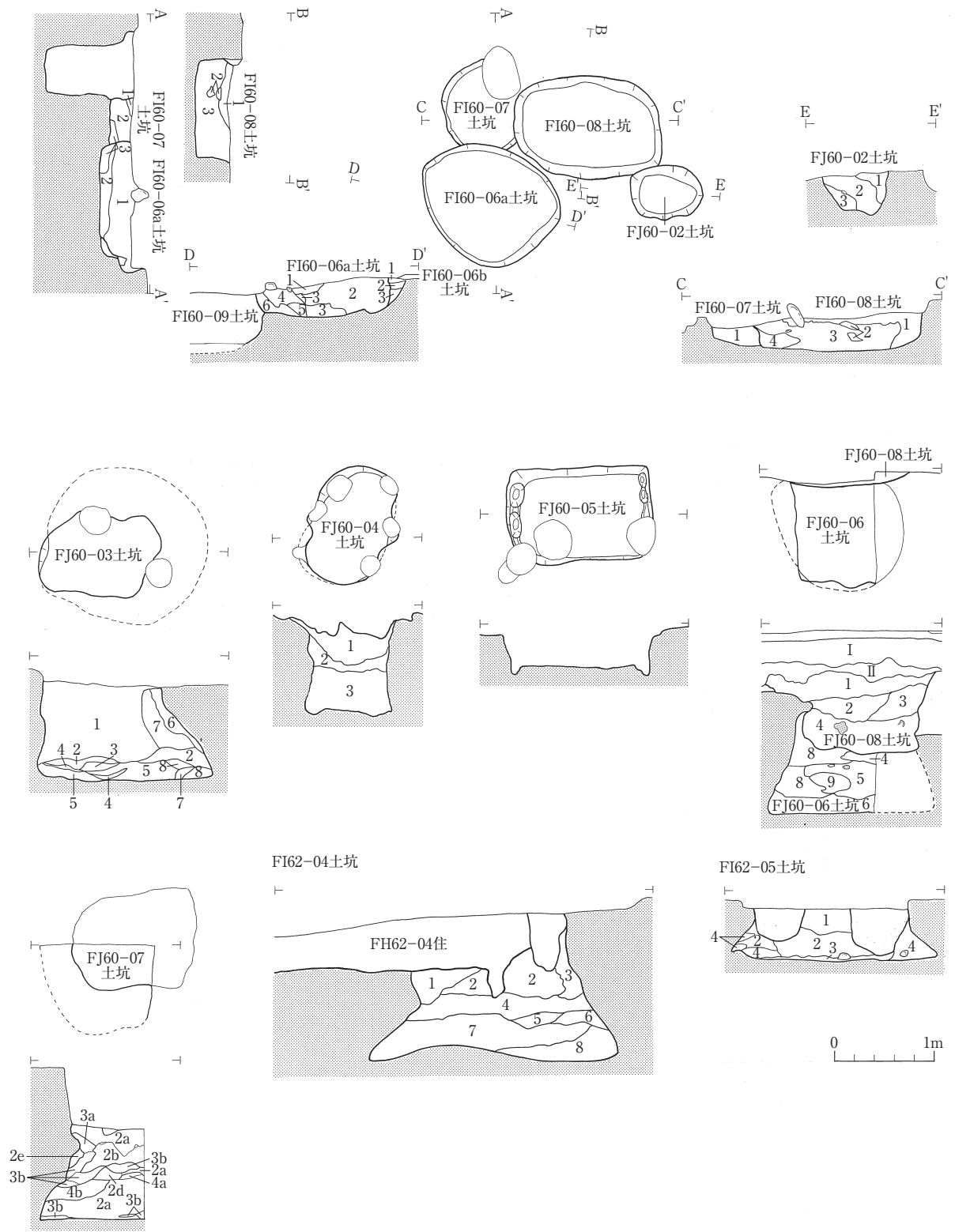
第30図 V区検出遺構 (5)



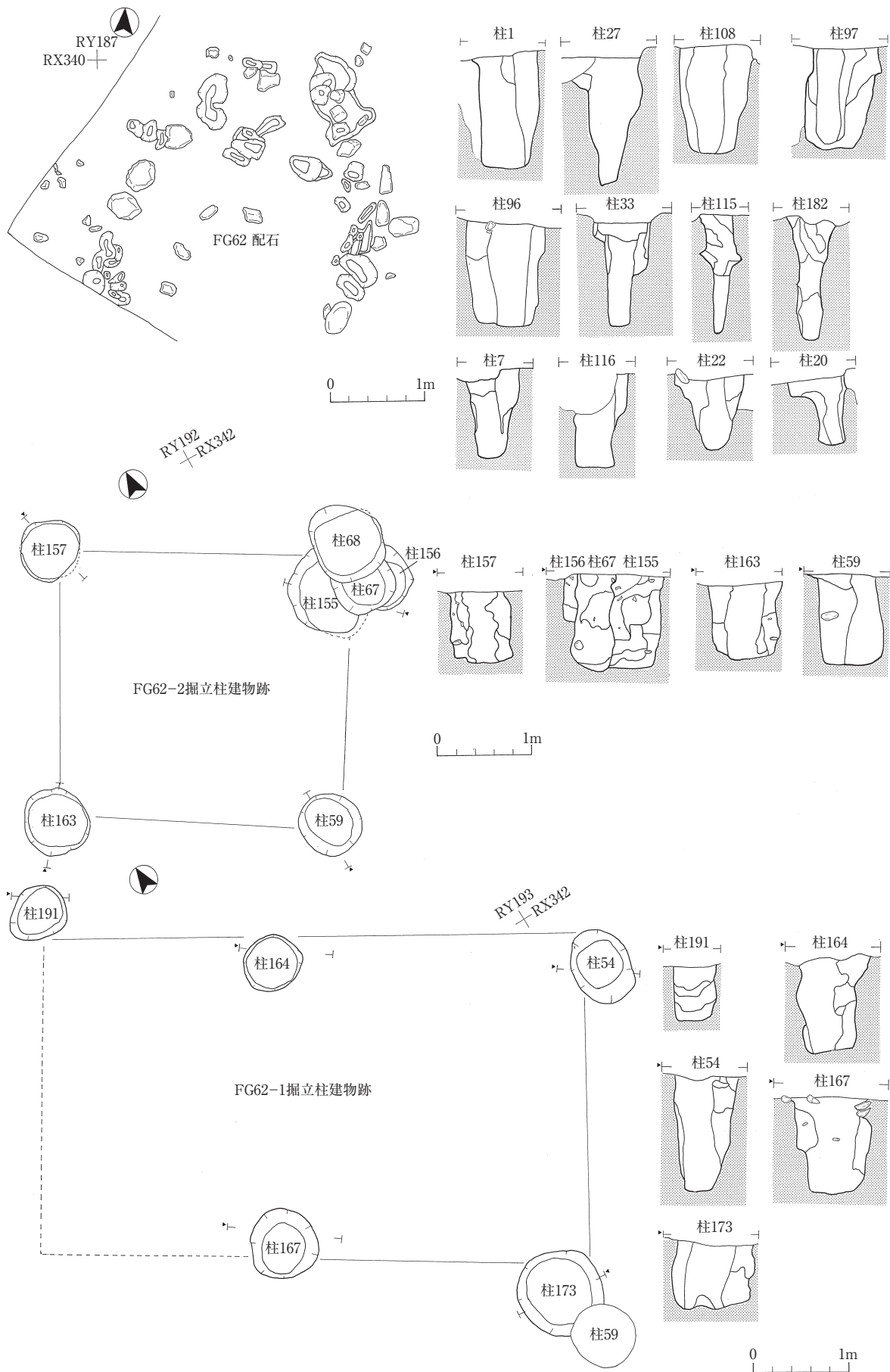
第31図 V区検出遺構 (6)



第32図 V区検出遺構 (7)



第33图 V区検出遺構 (8)



第34図 V区検出遺構(9)

PL 9 V調査区(1)



調査区全景（南より）



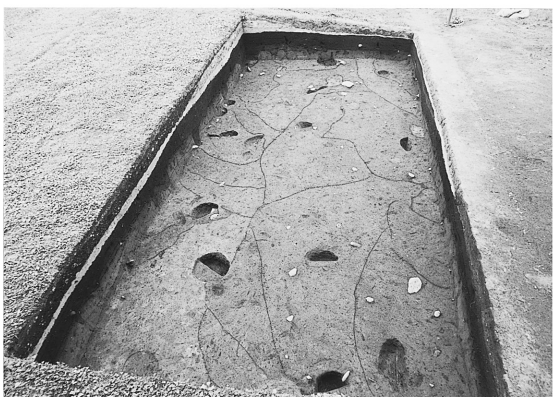
調査区全景（北より）



調査区北部（西より）



調査区北部（北より）



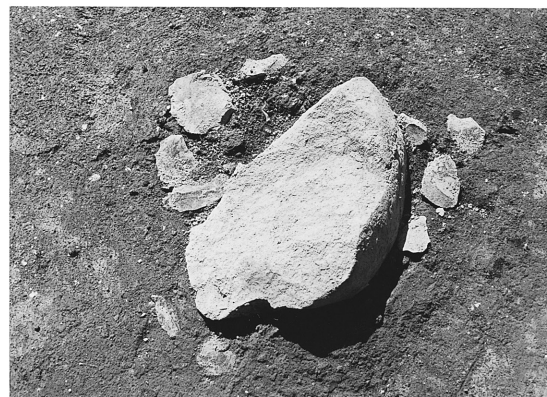
調査区南部（東より）



FG62-01住居跡



FG64-01住居跡

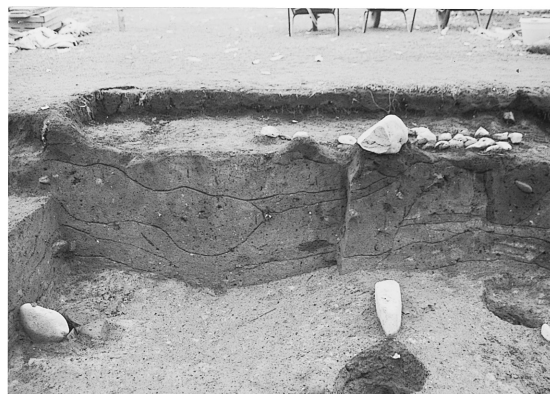


FG64-01住居跡剥片・台石出土状況

PL10 V調査区(2)



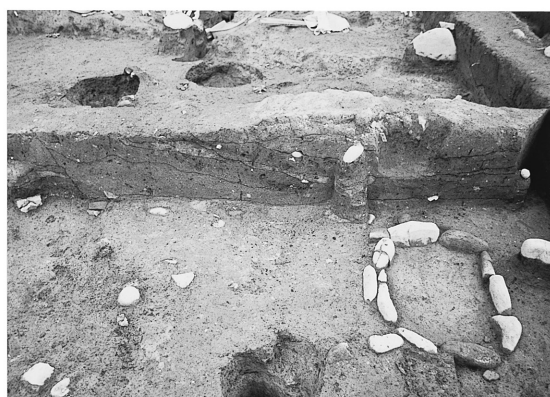
FG62-05住居跡



FH60-03住居跡土層セクション



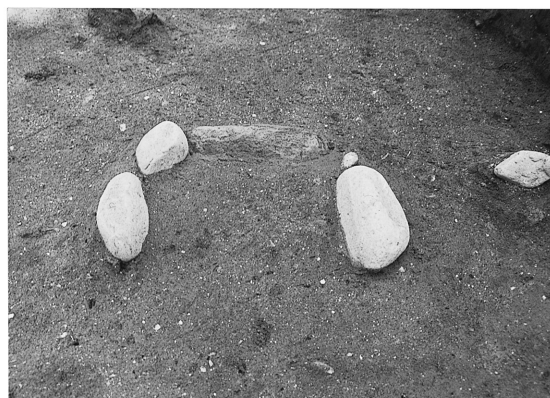
FH60-03住居跡



FH60-03住居跡土層セクション



FH60-03住居跡石棒出土状況



FG62-03住居跡炉



FH60-03・04住居跡炉



FH60-01・FI60-02住居跡

PL11 V調査区(3)



FH62-03住居跡



FG64-05住居跡



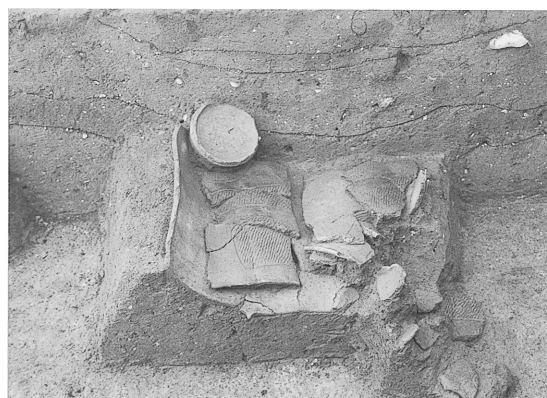
FH62-03住居跡土層セクション



FJ58-01住居跡



FJ60-01住居跡



FJ60-01住居跡土器出土状況



FI62-01住居跡



FG64-02土坑検出状況

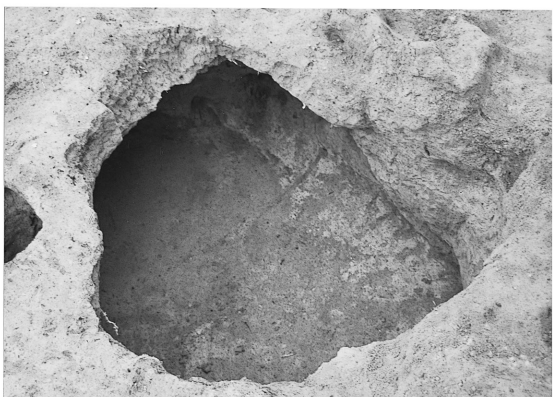
PL12 V調査区(4)



FH60-01 a · b 土坑



FI60-09土坑



FI60-03土坑



FH60-02 · 03土坑



FI60-06 · 07 · 08土坑



FJ60-05土坑



FJ60-04土坑



FJ60-07土坑

PL13 V調査区(5)



FJ60-06土坑



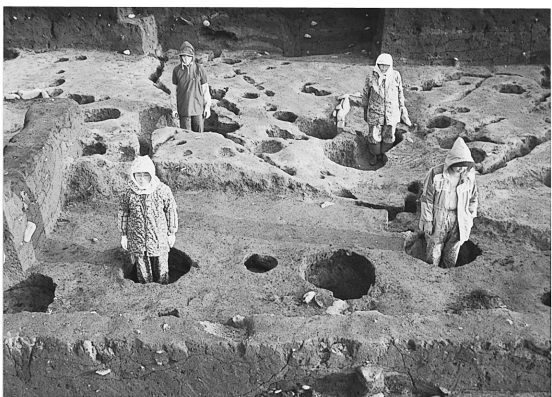
FJ60-06・08土層セクション



FG62配石



FG62-01掘立柱建物跡



FG62-02掘立柱建物跡



柱1



柱164土層セクション



石製品出土状況

IV. 縄文時代のまとめ（第35、36図）

1. 各調査区の遺構群

(1) II a 調査区

中央部北側にある2基の配石遺構群のうち、規模の大きい東側の配石遺構群の北側に設定した調査区である（第3図）。FE58配石の西側に設定した南北トレンチ（II a - 1）とその北側の東西トレンチ（II a - 2）とから構成されている。縄文時代の遺構はこの調査区の全面に分布しているが、II a - 1の南側では径1m前後の小判形、あるいは不整楕円形の土坑が密集した状態で検出されている。周辺にはいくつか配石遺構に伴う石も残存していることから土坑群はいずれも墓の可能性が強い。ただいずれもフラスコ土坑や竪穴住居跡と重複し、その上に構築されているため個々の掘り込みは明確に識別できなかったが、数回平面で確認してその状態を図化し下には掘り下げなかった。

II a - 2区の西側では土器片、骨片、焼土粒、石などが堆積土と混在した状態で出土している。石の中には意識的に配列されたものも含んでいるし、焼土も他の遺物と混在し廃棄された状態で出土するものと現地性のものがある（第5図）。そのほか表土下の遺構検出面でそのまま確認できるのが掘立柱建物跡等に伴う柱穴状のピットである。主にII a - 2区の西側に密集しているが、その部分は他の遺構がなく地山がそのまま露出していたためピットが検出し易かった事もあり特に多い可能性もある。遺構が重複していた場所は確かに遺構検出が難しいため検出遺構数が少ない可能性もあるが、数cmづつ繰り返し掘り下げながら平面で確認したり、あるいは断面で慎重に識別しても、そのほかの場所ではピット数はさほど多くなかった。以上の柱穴群のなかで2棟の掘立柱建物跡を確認している。2棟の掘立柱建物跡以外の柱穴状のピットは径30cm、深さ30cm以下の浅いものが圧倒的に多く、竪穴住居跡、あるいは単独柱や作業などに伴う柱穴も多く含まれている可能性が強い。柱穴状のピットのなかには調査区の中央部で検出した2個のように掘り方の直径60cm、深さ120cm以上のもの（P92、P12）があり、あるいは特殊な柱を埋設した可能性もある。2個以外に対応する柱穴は確認できなかった。

調査区内で圧倒的に多いのは竪穴住居跡である。前述の柱穴状ピットが密集している場所を除きそのほぼ全面から竪穴住居跡が発見されている。そのうち完掘したのはII a - 2区の数棟だけであり、そのほか調査区の壁際に部分的に溝状のトレンチを設定して竪穴住居跡の重複を確認している。検出した竪穴住居跡が27棟、そのほか未調査のものも含めると本調査区内で40棟近くになるのはほぼ間違いのないものと思われる。大型の土坑はいずれも断面が袋状になるフラスコ土坑である。いずれも第35図のようにII a - 1調査区内で竪穴住居跡と重複している。

以上が今回II a区で調査した遺構群である。いずれも完掘したものは少なく検出したまま、あるいは半掘したのものも含まれているが、そのなかで出土遺物から時期を特定できる遺構もある。

竪穴住居跡のうちFC60-01住、FD60-01~02住はII期、FA54-01住、FB54-01住、FB56-01住、FE54-01住はIII期、FA52-04~05住、FB52-02住はV期、フラスコ土坑のFD56-01、FD56-03、FD56-05、FE54-01、FE56-01~02はいずれもIII期のものである。そのほか墓坑、柱穴状のピット、掘立柱建物跡、遺物の密集地などはいずれもIII期、あるいは遺構によってはIV、V期に伴う可能性が強いものも含まれている。

(2) II b 調査区

東側の配石遺構群の西側に南北に長く設定し（Ⅱb-1区）、さらにそのほぼ中央から東側に分布している配石遺構群の中心地にかけて東西に設定した（Ⅱa-2区）調査区である。中央部の配石遺構群周辺の調査は平成4年から本格的に開始しているが、当初はⅡb-1区の南側とⅡb-2区の中央部までが調査範囲であったが、その後北側、あるいはさらに西側に拡張して調査を進めてきた。

検出した遺構はⅡb-1区中央からⅡb-2区でやや希薄になるほかはほぼ全面で遺構を確認している。

掘立柱建物跡に伴う柱穴状のピットは南北のⅡb-1区に集中しており、配石遺構の外側に密集しているのは確実である。各柱穴は径10数cmのものから径85cm、深さも10数cmの浅いものから146cmのものまである。合計636個確認しているが、柱痕跡を確認しているのが大半であり柱穴と考えられる。そのうちFB52、FC50-01、FC50-02、FC48、FF48、FG50の6棟の掘立柱建物跡を確認している。そのほか一列だけの柱列はFG50、FF46の2ヶ所で確認した。以上の掘立柱建物跡を確認できたその周辺で柱穴状のピットが検出される例が多く、しかも群在している。墓坑と考えられる小判形、あるいは楕円形の土坑は、配石遺構周辺のⅡb-2に南北に密集し連なっており配石遺構と関係あることが想定される。ただ数は少ないが柱穴状のピットが密集しているⅡb-1区の北側でも数個同じ形態の土坑を確認しており同じく墓跡の可能性が高い。この土坑群の東側は比較的遺構が薄く、配石遺構の外側とは対照的な分布状態となっているが、この空白区に不規則な穴がブロック状に密集する場所が4ヶ所ある。それぞれFE52、FF54、FG56、FF56の4ヶ所で、その規模や形態から石の抜き取り痕、つまり配石遺構の痕跡の可能性もある。ただその下部はまだ調査していない。

竪穴住居跡と大型のフラスコ土坑は対照的な分布を示している。つまり竪穴住居跡はⅡb-2調査区の東端で1棟検出した他は、いずれもⅡb-1区の南北トレンチ内、つまり配石遺構群の外側で検出している。しかもいずれも同じ場所で重複した状態で確認されている。それに対してフラスコ土坑はあまり規則性がなく分布もまばらで、しかもその範囲も調査区全域にわたっている。このフラスコ土坑と墓坑が重複している例があり、いずれもフラスコ土坑の上に墓坑が掘られている。そのほか掘立柱建物跡に伴う柱穴は竪穴住居跡の上に掘られている例も多いため、竪穴住居跡はできるだけ掘らないようにしている。また竪穴住居跡の上に構築されているため掘立柱建物跡の柱穴の堆積土が非常に類似したものとなっているため確認できない柱穴もまだかなりあるものと予想される。竪穴住居跡は27棟、フラスコ土坑は14基確認している。そのほか未検出の遺構もかなりあるものと思われる。

以上が今回Ⅱb区で検出した遺構群である。いずれも完掘したものは少なく、検出したままの状態、あるいは一部だけ調査したものもあるが、そのなかで時期を特定できる遺構もある。竪穴住居跡はFC48-01住がⅡ期、FB52-03住、FC50-02住がⅢ期、FA50-01住、FE48-01住がⅣ期、フラスコ土坑FA52-01、FC48-02、FE50-05、FE50-12土坑はⅢ期のものである。

（3）Ⅲ調査区

西側の小規模な配石遺構群内に設定した調査区である。東西6.8m、南北5.5mの調査区内で竪穴住居跡24棟、土坑7基、柱穴状のピット9個などを確認している。調査区北端と中央部にそれぞれトレンチを設定して各遺構の一部を掘り下げて特に竪穴住居跡の様相を確認している。調査の結果調査区内のほぼ全面に竪穴住居跡が分布しているのが判明した。もともとこの調査区は配石遺構群の中に設定しており、調査区内にEJ12配石の石をそのまま残してその周辺を掘り下げたところ、いずれも竪穴住居跡と重複して土坑7基を検出し

ているが、そのうちの5基はいずれも平面プランが小判形、あるいは不整楕円形を呈しており、墓坑と考えられる。そのほかフラスコ土坑（EJ42-01）1基、さらに浅い皿形の土坑（EJ42-02土坑）がそれぞれ1基ずつ検出している。皿形土坑の中には焼土粒、炭化材などが含まれており、II a・IV調査区盛土層の様相と似たような状況となっている。以上の土坑はいずれも堅穴住居跡の堆積土のなかで検出しておりもともと識別できなかった土坑がもっとあった可能性が高い。堅穴住居跡24棟はいずれも完屈したものはないが、中央部で検出したEI42住のように長軸が10m近いものやそれに近い大型の堅穴住居跡もかなり含まれているようである。

調査区北部のトレンチ内で検出した柱穴状ピット（P 2、P 4）は御所野遺跡で検出された柱穴の中では最も大きいもので、それぞれ深さが146cm、162cmとなっている。以上が今回Ⅲ区で検出した遺構群である。いずれ完掘したものがないため時期を確定できる資料に欠けるが、調査区内からはⅡ期～Ⅴ期の土器が出土している。平面で検出した堅穴住居跡の平面プランからⅢ期以降の遺構が多いものと考えられる。各遺構は堅穴住居跡から土坑・配石遺構という変遷が推定される。

（4）Ⅳ調査区

中央部の配石遺構群南側の東西80～90m、南北30mの140cmほど小高い盛土遺構のなかに設定したのがⅣ調査区である。南北11m×東西9mの北西に3.5m×3.5mの範囲が張り出したトレンチで平成4年度の調査でFH46トレンチ、FJ46トレンチ、GA44トレンチとして盛土遺構の確認面までレベルを下げ、平面プランを土色などにより分層、実測している。II a区で検出した焼土粒・炭化材や骨片・土器片などが堆積土と混在した状態で大量に出土しているところもあるし、逆に遺物をあまり含まずローム系の堆積土だけが盛土されている部分もいくつかある。調査では各堆積土の単位を確認するため、土色を中心に識別しているが、実際はかなり難しかった。盛土層中では多くの焼土を確認しているが、現地性のものとはかの遺物と混在した状態で出土し廃棄された可能性が高いものがある（第23図）。なかには炉1～炉3のように石組炉も確認されている。各盛土層はほとんど掘り下げていないため詳細については不明であるが、繰り返し繰り返し盛土した可能性が高い。ただ炭化物・骨片・焼土粒、あるいは土器を含むことではII a区と共通しているが、II a区の場合の堆積土は基本層序Ⅲ層、Ⅳ層起源の黒褐色土が多かったのに対して、Ⅳ調査区の今回の調査では地山の褐色土系の土がほとんどであった。盛土遺構の時期については、既に報告済みのGB44-01住を最下層で調査しているが、Ⅱ期の遺構であることが判明しておりそれ以降の遺構と考えられる。土器もⅢ期～Ⅴ期のものが出土している。

（5）Ⅴ調査区

配石遺構群東側の東西に長い調査区である。

調査区内のほぼ全域に遺構が分布している。圧倒的に多いのが堅穴住居跡で、調査区中央の地山が検出された場所を除いたほぼ全面に分布している。今回の調査の目的は配石遺構群に伴う掘立柱建物跡の検出を目的としているため堅穴住居跡は完掘せずに遺構確認面で調査を終了しているものもあるが、堅穴住居跡や土坑などと重複しているため柱穴を識別できなかったものもあるものと思われる。柱穴状のピットは特に調査区の北側で多く検出しているが、ここは堅穴住居跡が深く掘りこまれているため柱穴の識別が難しいところであり、実際はもっと密集していた可能性もある。この周辺の柱穴群から掘立柱建物跡2棟を確認しているが、そのほかのピットは深さ30cm以下の浅いものが圧倒的に多く、あるいは堅穴住居跡に伴うものが含まれて

いる可能性もある。以上の掘立柱建物跡はⅣ期の竪穴住居跡の上に構築されている。また、調査区中央で径45～82cm、深さ103～142cmの大規模なピット5個（P1、P27、P96、P97、P108）を検出している（第3、34図）。そのほか調査区内で確認した遺構は、竪穴住居跡27棟、土坑23基であるが、土坑のうちいくつかは小判形、あるいは長方形を呈しているものがあり、墓坑と考えられるものもある。

竪穴住居跡はFH60-01、FH62-04住、FG64-05住はⅢ期、FG62-01住、FG62-04住、FG62-05住、FH62-03住、FH60-01住、FI60-02住はⅣ期、FG64-01住、FJ58-01住、FJ60-01住はⅤ期のものである。土坑はFH60-01、FH60-04、FI60-09、FI62-04、FJ60-03土坑がⅢ期、FJ60-06、FJ60-08土坑がⅤ期のものである。

各遺構の分布と時期的な変遷を見ると竪穴住居跡は調査区の中央部でもいくつか検出しているが、大半は南北に分布しており、北側はⅢ期からⅤ期、南側はⅤ期の竪穴住居跡が密集している。中央部の竪穴住居跡はいずれもⅢ期からⅣ期のものである。そのほかフラスコ土坑は中央部、さらに墓坑と考えられる土坑も中央部に分布している。

2. 調査区全域の遺構分布の状況

(1) 竪穴住居跡

今回の調査はいずれもトレンチという限られた範囲内での調査で、しかも各遺構が重複しているため必要最小限しか調査しなかったこともあり、竪穴住居跡のなかには床面まで掘り下げていないものが多い。したがってやや不確実な段階での検討になるが、伴出遺物などから時期を想定できるものを中心としておおよその時期ごとの分布について検討してみたい。

Ⅰ期の竪穴住居跡は今回の調査内では全く検出できなかった。

Ⅱ期は部分的にⅡa区北西部（FC60-01住、FD60-01住、FD60-02住）とⅡb区（FC48-01住）で調査している。Ⅱa区北西部では3棟が重複している。Ⅲ期はⅡa区の東側で4棟（FA54-01住、FB54-01住、FB56-01住、FE54-01住）、Ⅱb区で2棟（FB52-03住、FC50-02住）、Ⅴ区で3棟（FH62-01住、FH62-04住、FG64-05住）確認している。Ⅳ期はⅡb区で2棟（FA50-01住、FE48-01住）、Ⅴ区で7棟（FH62-03住、FG62-01・03～05住、FH60-01住、FI60-02住）検出しており、北側のⅡa区で確認していないが、配石遺構群の東西に分布することが明らかになった。

Ⅴ期はⅡa区の西側で3棟（FA52-04～05住、FB54-02住）、Ⅱa区北東部で1棟（FC58-01住）、Ⅴ区北側（FG64-01住）、Ⅴ区南部（FJ58-01住、FJ60-02住）から検出されている。いずれも掘立柱建物跡や大規模な柱穴と重複していないことからそれらの遺構とセットになる可能性もある。

(2) 土坑

FJ60-05土坑など一部長方形を呈するものもあるが、大半はフラスコ土坑と小判形土坑である。フラスコ土坑は配石遺構周辺部を削平前にあった基本土層Ⅳa層に相当する土が堆積土中に含まれていること、破片であるがⅢ期の土器が出土するものも多く、ここの遺構群のなかでは比較的古い時期の遺構と考えられる。その分布は密集するほどでもないが、いくつかまとまって分布している可能性もある。小判形土坑は配石遺構群の分布する中心部に集中するが、なかにはⅢ区の配石周辺、あるいはⅤ区の中央部、あるいはⅡb区の中央部でも少数であるが検出している。またこのような小判形土坑のなかにはフラスコ土坑の上で検出される例がいくつかある。理由は不明であるが今後類例を検討してみたい。

(3) 掘立柱建物跡・柱列・柱穴群

掘立柱建物跡はいずれも中央部の配石遺構群を取り囲むように分布している。柱穴群は主にⅡ a 区の西側、Ⅱ b 区のほぼ全域、Ⅴ区の中央から南側などに集中しており、その配置から掘立柱建物跡に伴うものもあり、いくつか建物として復原できそうなものもあるが、なかには周辺で広範囲に柱列を検討してもどうしても確認できないものもある。特にⅡ a 区の中央やⅤ区では掘立柱建物跡とした柱穴と比較してもかなり大きな柱穴を検出している。柱痕から判断して直径45cmを越す巨大な柱の可能性もある。同じく大規模な柱穴はⅢ区でも調査しており、それぞれ東西2つに分かれた配石遺構群に伴う遺構とも考えられる。

一方では掘立柱建物跡の柱穴より小規模で浅い柱穴群も数多く分布している。このような小規模な柱穴の配列から建物跡としたものはないが、このような柱穴群の性格も今後検討しなければならない。

以上の柱穴はⅤ期の竪穴住居跡と重複する例がほとんどないこと、Ⅱ～Ⅳ期の竪穴住居跡と重複する場合いずれも新しいことからこれらの遺構群はⅤ期を中心とした時期のものと考えられる。また柱穴群の分布をみると同じ場所に集中する例が多いことからその位置は規制されていた可能性が強い。

また配石遺構の南側に分布する盛土遺構の一部(Ⅳ区)も検出面まで掘り下げて調査したが柱穴は今回全く検出できなかった。

(4) 骨片・炭化材・焼土粒などを含む堆積土

Ⅱ a 区西部で検出している。繰り返し掘り返されたからか、土器の細片などが混在した状態で出土し、なかには骨片、炭化材、焼土粒、石器片、礫などが含まれている。焼土は現地性の焼土もあることから捨てる行為とともに火を焚いている可能性がある。部分的にⅣ期やⅤ期の竪穴住居跡堆積土中にもあることからそれ以降の時期が想定される。

以上が今回調査した中央部の遺構群である。縄文時代の遺構は今回報告分だけで竪穴住居跡97棟、掘立柱建物跡10棟、土坑190基、陥穴1基、柱穴1,135個と膨大な数になるが、なかには遺構を検出した段階で調査を終了したものも多いし、さらに未調査区の面積を考慮すれば今までの遺構とは比較できないほどの遺構数がまだ残されているものと思われる。



第35図 竪穴住居跡・フラスコ土坑分布図



第36図 縄文時代時期区分

3. 土器（第37図～51図）

中央調査区で出土した縄文土器は、ダンボール箱（29×43×29cm）で約180箱の膨大な量となっている。その全てが中期中葉から中期末の土器群である。ここでは『御所野遺跡Ⅰ』『御所野遺跡Ⅱ』で用いた第Ⅰ～第Ⅴ群の大別により分類し、それぞれの土器群についてまとめてみた。

第Ⅰ群土器

幅広の隆線、隆線間の連続刺突文に特徴がある土器群で、円筒上層C式に相当する。今回の調査区からは出土していない。

第ⅡA類（1～2、52～54）

体部が直線的に外傾、あるいは直立気味に立ち上がる円筒深鉢形の土器群で、口縁部には4個の突起が付き、この突起下に懸垂文により体部上半の文様帯は縦に4区画されている。円筒上層d式、あるいはe式に相当する。文様から1類から3類まで細分する。

1類（1～2、52～53） 文様帯が「懸垂文+弧状文（あるいは並行線文）」施文の土器群で、体部文様帯の施文方法から、隆線施文のもの（1～2、52～53）、懸垂文が隆線で弧状文が沈線のもの（54）、いずれも沈線施文のもの（55、57、60、63）に細分できる。

2類（58） 体部弧状文施文の土器群で、1類の懸垂文のない土器群。

3類（64～66） 体部文様帯がない土器群。

第ⅡB類

口縁部で膨らみを持つキャリパー形の深鉢、体部が膨らみを持ち口縁部が緩やかに外反する深鉢などの器形に、山形文、波状文、楕円形文、渦巻文、横位S字文などを施文する土器群。大木8a式に相当する。今回の調査区からは破片しか出土していない。

第ⅢA土器群（68～73）

体部ほぼ中央で膨らみ口縁部が外反する深鉢で、口縁部に渦巻文と溝状文を施文する土器群である。渦巻文は波状を呈する口縁部の頂部に限られ、その間は溝状文となる。榎林式土器に相当する。

1類（72～73） 文様が口縁部に限られている土器群で、口縁部に渦巻文と溝状文を施文している。

2類（69～72） 突起下の文様帯が平行沈線文あるいは沈線による弧状文などが施文される土器群で、突起下の懸垂文により体部上半の文様帯を区画するもの（72）もある。

第ⅢB土器群（3～5、74～130）

隆線に沿って沈線を施文したものあるいは沈線による渦巻文、平行文、刺文、区画文などを施文した土器群である。他群土器に比較して胎土、焼成とも良好で、内外面ともに丁寧にミガキ調整されるものが多い。隆沈線による肉彫的な文様が体部全面に施文されているものもある。器形は深鉢と浅鉢で構成されるが特に深鉢の形態は多様である。大木8b式に相当する。器形から次のように分類している。

1類（3） 体部下半で膨らみ体部上半が外反し口縁部が内傾する深鉢。口唇部は平坦に整えられ口縁部は無文帯となる。

2類（4） 頸部でくびれ、口縁部が膨らむキャリパー形の鉢。

3類（74） 体部が直線的に立ち上がり口縁部が外反する深鉢。

4類（75～79、81～83） 体部上半から口縁部にかけて内弯し波状縁を呈する深鉢。

5類 (84~90) 体部上半から口縁部にかけて内弯し平縁を呈する深鉢。

6類 (91~93) 体部上半から口縁部にかけて内弯し、口唇部が短く外傾する深鉢。

7類 (97) 体部下半で膨らみながら頸部でくびれ口縁部が外反する深鉢。

8類 (5、105) 体部が外傾し口縁部が強く内弯する浅鉢。文様は口縁部に限られ、隆沈線により渦巻文などが施されている。

第Ⅳ群土器群 (7~25、131~185)

区画文が縦位に施文される土器群で、区画文が磨消縄文帯になるものとならないものがある。器形は多様である。大木9式に相当する。器形から次のように分類している。

1類 (6~7、131~134) 口縁部が強く内弯する深鉢。

2類 (8) 体部上半が膨らみ口縁部が直立する平縁の深鉢。

3類 (9~12) 体部上半が膨らみ口縁部が外傾する深鉢。

4類 (15) 体部上半が膨らみ口縁部が短く直立する深鉢。

5類 (13~14) 体部上半で膨らみ口縁部が長く直立する深鉢。

6類 (17) 体部が外傾し口縁部が直立する鉢。

7類 (18) 体部上半が膨らみ口縁部が外傾する鉢。

8類 (22) 頸部が締まり口縁部が直立する徳利形のもの。

第Ⅴ群土器 (27~31、33、186~221)

曲線的な磨消縄文施文の土器群である。本群土器の磨消縄文帯は、沈線で区画→区画内に縄文を充填するという手順で施文された充填縄文が圧倒的に多く、磨消縄文手法の多い第Ⅳ群土器とは対照的である。主として体部上半に磨消縄文帯の曲線文などが施文される。曲線文の先端部にはヒレ状の突起の付く例が多く、同じくヒレ状突起は口縁部の内面や稀に外面に付けられる。大木10式に相当する。主に器形から次のように分類している。

1類 (27~28、188~198) 体部中央で膨らみ口縁部が外反する深鉢で、第Ⅴ群土器で最も一般的な器形である。

2類 (59~60) 体部上半で膨らみ頸部で締まり口縁部が外反する壺形に近い深鉢。

3類 (29) 体部上半から口縁部にかけて内弯する波状口縁の深鉢。

4類 (30) 体部中央が張る算盤玉形の注口土器。口縁部周辺は破損しているため全体の形状ははっきりとしないが体部の左上が開口し、頂部に貫通孔がある。

5類 (31~34) 体部が球形に近いほど膨らむ壺形土器。31、33には頸部に橋状把手が配されている。

第Ⅵ群土器 (32、35~51、222~237)

第Ⅰ群土器から第Ⅴ群土器の粗製土器。器形などから次のように分類したが、その他にも多様な破片が出土している。

1類 (32、35~36、47、41~42、233~234) 体部上半から口縁部が内弯する深鉢。

2類 (37) 体部上半が膨らみ口縁部が外反する深鉢。

3類 (225) 体部から口縁部が直線的に外傾する深鉢。

4類 (40) 体部上半が膨らみ口縁部が短く直立する鉢。

5類（38、39、43） 口縁部が内弯する鉢。

6類（45） 体部から口縁部が直線的に外傾する鉢。

以上のようにⅠ～Ⅵ群に分類している。その他、ミニチュア土器が18点出土している。器種は皿が1点、他はすべて鉢類で台が付くものも2点（16～17）出土している。3～6、8、10～12、14はⅣ期の竪穴住居跡（FA50-01住、FB52-03住、FE48-01住、FG62-03～04住、FI60-02住）、2、15はⅤ期の竪穴住居跡（FB54-02住、FJ58-01住）の覆土から出土している。

・第Ⅰ群土器は円筒上層C式である。

過去の調査でも破片資料が数点出土しているだけであり出土量が極端に少ないため詳細については不明である。

・第Ⅱ群土器はA群が円筒上層d式、e式、B群が大木8a式に相当する。

A群土器とB群土器が併行することは、他の遺跡や過去の御所野遺跡の調査から確実であり、同じⅡ群として扱っている。Ⅱ群土器になるとある程度纏まって出土し今回報告分の調査区（配石遺構周辺部）では、全出土土器の1割弱程の量である。

ⅡA群土器はⅡa区FC60-01住、Ⅱb区FC48-01住、FD50-01住、Ⅳ区盛土層などから出土している。一方ⅡB群土器は破片数点出土しているだけでA群の比率が圧倒的に高く過去の調査でもⅡ群の8割程を占めている。また、A群土器とB群土器の折衷土器はほとんど出土しておらず、当地域のような両文化の接触地域でも器形と文様がアンバランスな土器は多くない。

・第Ⅲ群土器はA群が榎林式、B群が大木8b式に相当する。

A群2類土器が過去の調査でⅡ群土器と共伴した出土例もあるが、ここではA群土器とB群土器が併行することと同じⅢ群として扱った。A群に比較して圧倒的にB群が多くⅢ群の8割程を占めている。東北地方北部では大木8b式以降大木式土器の影響が強まるが、御所野遺跡の出土状況も一致している。

ⅢA群土器はⅡa区FB54-01住、FE54-01住、Ⅱb区FC48-01住、FE50-05土坑、Ⅴ区FG64-05住から出土しているがいずれも破片資料である。

ⅢB群土器はⅡa区FA54-01住、FB54-01住、FB56-01住、FE54-01住、FD56-01・03住、Ⅱb区FB52-03住、FC50-12住、FD50-01住、FB52-01住、FE48-02住、FE50-12住、FF48-01土坑、Ⅳ区盛土層、Ⅴ区FG64-04～05住、FH62-01・04住、FH60-01住、FI60-06・09住、FI62-04住、FJ60-03土坑より出土しているが破片資料が圧倒的に多く、特にⅣ区から出土した資料は2～3cmの極めて小さな破片ばかりであるが、出土点数は今回報告分の調査区では全出土土器の約3割を占めている。唯一FC50-02住の炉の燃焼部～前庭部の覆土から出土したものが接合し完形に近いもの（第36図3）であるが、内面は二次過熱を受けており特に上半部が円形剥奪しており埋設炉として転用されていたものと思われる。

・第Ⅳ群土器は大木9式、あるいは大木9式に併行する土器群である。

大木9式に特徴的な縦位の磨消縄文施文の土器群やその影響を受けた土器群であり、第Ⅲ群土器の8b式土器が大木式土器そのものが圧倒的に多かったのと比較し、大木9式の段階から当地方の地域的特徴があるもの（10、12など）も含まれている。

Ⅳ群土器はⅡb区FA50-01住、EI42-01住、FB50-01土坑、Ⅳ区盛土層、Ⅴ区FG62-01～05住、

FH60-03住、FH62-03住、FI60-01~02住、FG64-02土坑より出土している。今回の調査区では最も出土量が多く全出土土器の4割程である。

- ・第V群土器は大木10式、あるいは大木10式に併行する土器群である。曲線的な充填縄文あるいは方形区画文の施文された体部中央で膨らみ口縁部が外反する深鉢が多くなるが、徳利形のものや体部上半が膨らみ頸部で締まり口縁部が外湾する壺形に近い深鉢など、本来の大木文化圏ではあまり出土しない器形のものもあり、大木9式同様、当地方の地域の特徴があるものも含まれている。

II a区FA52-04~05住、FB54-02住、FC58-01住、IV区盛土層、V区FG64-01住、FI62-01住、FJ58-01住、FJ60-01住、FI62-03土坑より出土しており、今回の報告分の調査区では、全出土土器の2割弱程である。

- ・第VI群土器は第I~V群土器に伴う粗製土器である。今後、他遺跡の資料と比較することにより、当地域の粗製土器の編年も組めるものと思われる。

以上が第I~VI群土器群の様相である。I~V群の出土量は凡そ0:1:3:4:2となる。各土器群ともかなり時間幅のある区分となるが、『御所野I』『御所野II』と同様に第I群から第V群土器をそれぞれI期からV期とする。

4. 石器・石製品

今回の調査区で剥片石器485点、礫石器510点、石製品48点、総計1043点が発見された。その他、記録化はしていないが多量の剥片・碎片が出土している。ここでは『御所野I』『御所野II』の分類により形状を加工した出土石器・石製品についてまとめてみた。

剥片を素材としたものをA~F類に分類し、礫素材の石器はG~J類に、石製品をK~O類に分類した。

A類:石鏃。Iとして茎のない「無茎鏃」、IIとして茎のある「有茎鏃」、IIIとして全体が木葉形に作られた「木葉形石鏃」あるいは「柳葉形石鏃」、IVとして粗い調整によって形を大まかに作った「粗加工石鏃」もしくは「石鏃未製品」に細分している。Iは更にa=凹基・b=平基とした。

内訳はI a類162点(36.8%)、I b類22点(5.0%)、II類132点(30.0%)、III類65点(14.8%)、IV類51点(11.6%)、その他破損品のためどの類に属するものか不明のもの8点(1.8%)、計440点となる。

アスファルトの付着が基部に確認できるものはI a類31点(付着率19.1%)、I b類2点(9.1%)、II類22点(16.7%)、III類5点(7.7%)、IV類3点(5.9%)計63点となる。

B類:石槍。Iとして木葉形に作られたいわゆる「木葉形石槍」、IIとして固定茎のある石槍に細分している。

内訳はI類2点、II類は今回の調査区では出土していない。

C類:石匙。Iとして刃部を作り出した身部の長軸線につまみを持つ縦形のもの、IIとして長軸線に直行する側につまみを持つ横形のもの、IIIとしてその中間のものに細分している。内訳はI類6点、II~III類は今回の調査では出土していない。その他破損品のためどの類に属するものか不明のもの1点、計7点となる。

D類:スクレーパー。Iとしていわゆる「エンドスクレーパー」、IIとして「サイドスクレーパー」に細分している。内訳はI類1点、II類5点、その他破損品のためどの類に属するものか不明のもの1点、計7点となる。

E類：石錐。I類としてつまみ部のあるもの、II類としてつまみ部と針部の境が明瞭でないものに細分している。内訳はI類20点、II類3点、計23点となる。

F類：剥片石器でA～E類以外の資料を一括した。6点出土している。三日月形の両面調整石器が3点含まれており、FI類とした。

G類：川原石（礫）の形をあまりかえず使用したもので、磨痕、敲打痕、凹みが使用の結果として残る磨石類。磨石類は単一の要素のみで確認できるわけでもなく、厳密な区分が有効であるか疑わしいが、凹石の要素がある場合は磨石、敲石の要素があっても凹石とし、敲石の要素があっても磨石の要素があるものは敲石とし、Iとして凹石、IIとして敲石、IIIとして磨石に細分している。内訳はI類139点、II類13点、III類189点、その他破損品のためどの類に属するものか不明のもの5点、計346点となる。

H類：加工により形状を変形して使用した刃部を持つ礫石器。I類として磨製石斧、II類として打製石斧に細分している。I類は更にa = 大型磨製石斧、b = 小型磨製石斧とした。内訳はI a類20点、I b類8点、その他I a、I bどちらに属するか不明のもの1点、計29点となり、II類は今回の調査では出土していない。

I類：大型の石や扁平な石を素材とし、磨り痕跡・敲き痕跡を残す石器。I類として石皿、II類として台石、III類として砥石に細分している。破片資料も多くI類とII類の厳密な区分ができないものが多かった。I～II類は121点、III類12点、計133点となる。

J類：これまでに類型化した以外の礫石器。2点出土している。

K類：盤状石製品。今回の調査では出土していない。

L類：石棒類。I類として断面円形の石棒、II類として片側に刃がある断面が扁平な三角形のいわゆる石刀と呼ばれているものに細分している。断面が扁平な菱形または楕円形のいわゆる石剣と呼ばれているものはなかった。内訳はI類21点、II類2点、計23点となる。

M類：玉丸。今回の調査では出土していない。

N類：有孔石製品。I類として径3cm以下の安山岩、凝灰岩、シルトなどの粗い素材の小石に穿孔しているもの。II類として軽石に穿孔されているもの。III類として硬質頁岩、泥岩、シルトなどの良質な素材に穿孔を有するもの。

内訳はI類2点、II類2点、III類11点、計15点となる。第72図33は吹くと容易にきれいな音を鳴らすことができ笛と思われる。

O類：これまでに類型化してきた以外の石製品。3点出土している。半円状扁平打製石器1点、青竜刀形石器片1点、三日月形石器に類似するもの1点である。

各類の発見数量と石器組成の比率

出土石器を上記の通り分類したが、その出土点数を過去の調査のものと合わせて集計すると第1表のようになる。

御所野遺跡の石器組成比率の特徴を理解するために、御所野遺跡に接した一段低い段丘上にある馬場平遺跡（御所野でいうI～III期の遺跡）、同じく谷を隔てた丘陵上にある田中遺跡（V期の遺跡）、馬淵川の対岸の丘陵上にある大平遺跡（I～後期の遺跡）など他遺跡のデータを加えたものが第2表である。

剥片石器組成の特徴はスクレーパー類が少ないことと石錐の比率（46.3%）が高いことである。馬場平遺

跡も非常に高い（55.3%）が、両遺跡に共通していることはAⅣ類に分類した粗い調整によって形を大まかに作った「粗加工石鏃」もしくは「石鏃未製品」と呼ばれるものの比率が高い点である。御所野遺跡では1434点のうち152点（10.6%）が、馬場平遺跡では337点のうち68点（20.1%）がAⅣ類に分類されている。AⅣ類は配石遺構周辺部からの出土例が多く、遺跡中央部が石器製作の場としても利用されていたようである。また、V区FG64-01住からは剥片石器を製作した状況を示す資料も見つかっている。

礫石器組成は特に大きな特徴はなく他遺跡の組成となんらかわらないが、若干石皿・台石、磨石類の比率が高めである。

第1表 調査区・器種毎の石器集計表

	石鏃	石槍	石匙	スクレ ーパー	石錐	他の剥 片石器	磨石類	磨製 石斧	打製 石斧	石棒類	石皿 台石	他の礫石器 ・石製品	報告総数
今回報告分 (中央部)	440 (42.2)	2 (0.2)	7 (0.7)	7 (0.7)	23 (2.2)	6 (0.6)	346 (33.2)	29 (2.8)	0	23 (2.2)	121 (11.6)	39 (3.7)	1,043 (100%)
御所野 I・II報告分	994 (48.4)	19 (0.9)	37 (1.8)	66 (3.2)	29 (1.4)	17 (0.8)	501 (24.4)	53 (2.6)	2 (0.1)	28 (1.4)	160 (7.8)	145 (7.1)	2,051 (100%)
計	1,434 (46.3)	21 (0.7)	44 (1.4)	73 (2.4)	52 (1.7)	23 (0.7)	847 (27.4)	82 (2.7)	2 (0.1)	51 (1.6)	281 (9.0)	184 (5.9)	3,094 (100%)

第2表 遺跡別・器種毎の石器集計表 *御所野遺跡の点数は『御所野I』『御所野II』報告分も含めた。

	石鏃	石槍	石匙	スクレ ーパー	石錐	他の剥 片石器	磨石類	磨製 石斧	打製 石斧	石棒類	石皿 台石	他の礫石器 ・石製品	報告総数
御所野遺跡	1,434 (46.3)	21 (0.7)	44 (1.4)	73 (2.4)	52 (1.7)	23 (0.7)	847 (27.4)	82 (2.7)	2 (0.1)	51 (1.6)	281 (9.0)	184 (5.9)	3,094 (100%)
大平遺跡 (一戸町)	78 (34.2)	21 (9.2)	10 (4.4)	17 (7.5)	7 (3.1)	0	28 (12.3)	26 (11.4)	3 (1.3)	7 (3.1)	7 (3.1)	24 (10.5)	228 (100%)
田中遺跡 (一戸町)	28 (18.5)	0	7 (4.6)	20 (13.2)	4 (2.6)	4 (2.6)	40 (26.5)	17 (11.3)	0	4 (2.6)	15 (9.9)	12 (7.9)	151 (100%)
馬場平遺跡 (一戸町)	337 (55.3)	12 (2.0)	2 (0.3)	8 (1.3)	3 (0.5)	35 (5.7)	126 (20.7)	19 (3.1)	12 (2.0)	5 (0.8)	9 (1.5)	41 (6.7)	609 (100%)
観音堂遺跡 (大迫町)	299 (11.7)	0	28 (1.1)	785 (30.8)	25 (1.0)	398 (15.6)	608 (23.8)	45 (1.8)	6 (0.2)	8 (0.3)	159 (6.2)	118 (4.6)	2,551 (100%)
大館町遺跡 (盛岡市)	116 (15.0)	5 (0.6)	34 (4.3)	301 (38.9)	14 (1.8)	19 (2.5)	106 (13.7)	13 (1.7)	2 (0.3)	1 (0.1)	17 (2.2)	145 (18.8)	773 (100%)
天戸森遺跡 (鹿角市)	154 (10.8)	21 (1.5)	93 (6.5)	756 (52.9)	54 (3.8)	2 (0.1)	236 (16.5)	52 (3.6)	3 (0.2)	13 (0.9)	40 (2.8)	5 (0.3)	1,429 (100%)

石材の鑑定と器種ごとの用材

石材については石器一覧表に記号化して示したが、器種別にまとめ直したのが第3～4表である。

剥片石器では硬質頁岩（90.6%）が多く、どの器種でも好んで使われている。他にチャート（5.5%）、玉髄（1.3%）、石英（0.9%）などが混ざるが、硬質頁岩の恒常的な入手が確保されていることはこの地域の一般的な傾向である。

礫石器では安山岩（79.1%）が多く、磨石、石皿・台石では8割以上使われているが、他の石材も含まれており安山岩への極端な固執はないようである。磨製石斧は粘板岩、安山岩、砂岩が主に用いられ、石棒は安山岩の他、粘板岩、砂岩などが用いられている。

第3表 剥片石器の器種毎の石質集計表 *資料は『御所野Ⅰ』『御所野Ⅱ』報告分も含めた。

	J 硬質頁岩	P 玉 髓	K 鉄石英	L 黒曜石	B チャート	S 砂 岩	N 粘板岩	Q 石 英	T 珪化木	H 凝灰岩	E 頁 岩	G シルト	合 計
石 鏃	1301 (90.7)	17 (1.2)	11 (0.8)	5 (0.3)	85 (5.9)	1 (0.1)		12 (0.8)				2 (0.1)	1,434 (100%)
石 槍	21 (100%)												21 (100%)
石 匙	40 (90.1)	2 (4.5)			1 (2.3)			1 (2.3)					44 (100%)
スクレーパー	69 (94.5)	2 (2.7)	1 (1.4)		1 (1.4)								73 (100%)
石 錐	45 (86.5)				4 (7.7)			1 (1.9)	1 (1.9)	1 (1.9)			52 (100%)
他の剥片石器	16 (90.6)					2 (8.7)	4 (17.3)				1 (4.3)		23 (100%)
計	1,492 (90.6)	21 (1.3)	12 (0.7)	5 (0.3)	91 (5.5)	3 (0.2)	4 (0.2)	14 (0.9)	1 (0.1)	1 (0.1)	1 (0.1)	2 (0.1)	1,647

第4表 礫石器の器種毎の石質集計表 *資料は『御所野Ⅰ』『御所野Ⅱ』報告分も含めた。

	B チャート	S 砂 岩	N 粘板岩	A 安山岩	D 閃緑岩	F 軽 石	G シルト	T 珪化木	R 泥 岩	U 花崗岩	H 凝灰岩	その他	合 計
磨 石 類	3 (0.4)	60 (7.1)	7 (0.8)	743 (87.7)	21 (2.5)		2 (0.2)		1 (0.1)	8 (0.9)	2 (0.2)		847 (100%)
磨製石斧	1 (1.2)	14 (17.1)	31 (37.8)	26 (31.7)	1 (1.2)				7 (8.5)	1 (1.2)		1 (1.2)	82 (100%)
打製石斧				2 (100)									2 (100%)
石 棒 類	1 (2.0)	5 (9.8)	8 (15.7)	34 (66.7)			1 (2.0)				2 (3.9)		51 (100%)
石皿台石		17 (6.0)	1 (0.4)	243 (86.5)	9 (3.2)	2 (0.7)		1 (0.4)		5 (1.8)	1 (0.4)	3 (0.7)	281 (100%)
他の礫石器・ 石 製 品	20 (10.9)	33 (17.9)	15 (8.2)	96 (52.2)	6 (3.3)	2 (1.1)	3 (1.6)	2 (1.1)		1 (0.5)	2 (1.1)	4 (2.2)	184 (100%)
計	25 (1.7)	129 (8.9)	62 (4.3)	1,144 (79.1)	3 (2.6)	4 (0.3)	6 (0.4)	3 (0.2)	8 (0.6)	15 (1.0)	7 (0.5)	7 (0.5)	1,447 (100%)

5. 土製品 (第73図～80図)

土製品は土玉12点、耳飾り6点、三角形土製品7点、環状土製品1点、有孔土製品9点、土錘3点、土偶2点、棒状土製品5点、キノコ形土製品3点、斧状土製品10点、盤状土製品119点、器台4点、不明3点、その他に焼成粘土塊4点、計188点出土している。以下種別毎に記載する。

土玉 (14～25)

12点出土している。円筒形のもの (14～19)、算盤玉形のもの (20、23、25)、球形のもの (22、24)、半球形のもの (21) があり、20、23～24は列点で施文されており、他の9点は無文である。

耳飾り (1～6)

6点出土している。全て滑車形の耳飾りである。文様は1～4が両面に刺突文が施され、5～6は無文で

ある。1～2は片面に2個1対のヒレ状の突起が貼付されており、3は欠損品だが1個のヒレ状突起が見られる。

三角形土製品（9～13）

7点出土している。三角形の頂点が内湾し穿孔がみられるもの（7、9）と土偶と共通した要素を持つ三角形土偶などと称されるもの（8、10～13）とに分けることができる。前者は9は無文、7はLR縄文が施されている。後者はY字状文を中心に線対称の文様が沈線（10）、連続刺突文（13）、隆線（12）などで描かれている。

環状土製品（26）

1点出土している。完形品で両面に刺突文が施されている。

有孔土製品（27～35）

9点出土している。球形を呈する大型の土玉状のもの（27～28、32）、盤状を呈し短軸方向に穿孔のあるもの（30）、円盤状を呈し中央部に穿孔のあるもの（34）、棒状を呈し一端に穿孔のあるもの（31、35）、棒状を呈し長軸方向に穿孔のあるもの（33）などがある。27～33、35は装飾品であろうか。

土錘（36～38）

3点出土している。楕円形を呈し、36、37は無文、38は食物の繊維を押し当て施文しているようである。

土偶（55～56）

2点出土している。いずれも板状の土偶で55は胴部、56は肩部の破片でいずれも連続刺突文が施され、55は貼付により臍が表されている。

棒状土製品（39～42）

4点出土している。大きさや断面の形状は様々である。40のみ完形品、他は欠損品である。

キノコ形土製品（44～45）

2点出土している。44はカサの一部、45は茎の部分を欠損している。

斧状土製品

10点出土しているが、いずれも欠損品である。47は断面の短軸方向に54は長軸方向に穿孔がみられる。48、49は無文、53は沈線と縄文、他は全て縄文が施されている。

盤状土製品（57～150）

土器片を加工して一定の形態に作り出したもので119点出土している。円形を呈するもの96点、三角形を呈するもの21点、四角形を呈するもの2点に分類できる。57には穿孔がある。

器台（158～161）

4点出土している。いずれも欠損品で孔がある。158は渦巻文などが施されておりⅢ期のものである。

焼成粘土塊（151～154）

4点出土している。長さ2.6～3.8cmと小さく、土製品というより余った粘土をただ丸めたもののように思える。

その他土製品（155～157）

3点出土している。155は円錐形を呈し無文である。156、157は破損品で形状は不明。

土製品の種別毎の集計

今回の調査区の土製品の特徴は土玉が多いことである。すべてV区からの出土で1点は土坑から出土しており、他のものは竪穴住居跡覆土などからの出土である。土玉が出土したFI60-02~03住、FH60-02住、FG62-05住はすべて配石付近に位置し、検出した住居壁の上部はいずれも整っておらず凸凹に掘りあげているが、土坑（墓坑）があったのかもしれない。また、器台や焼成粘土が今回の調査区から出土しているが、他の調査区からは出土しておらずこのことも大きな特徴といえる。

第4表：種別毎の集計表

	土玉	耳飾り	三角形 土製品	有孔 土製品	土錘	土偶	キノコ 形	斧形 土製品	盤状 土製品	器台	焼成 粘土塊	他製品 ・不明	報告 総数
今回報告分 (中央部)	12 (6.4)	6 (3.2)	7 (3.7)	9 (4.8)	3 (1.6)	2 (1.1)	3 (1.6)	10 (5.3)	119 (63.3)	4 (2.1)	4 (2.1)	9 (4.8)	188 (100%)
御所野I・II 報告分	0	8 (1.7)	13 (2.7)	6 (1.3)	1 (0.2)	9 (1.9)	3 (0.6)	15 (3.1)	400 (83.7)	0	0	23 (4.8)	478 (100%)
計	12 (1.8)	14 (2.1)	20 (3.0)	15 (2.3)	4 (0.6)	11 (1.7)	6 (0.9)	25 (3.4)	519 (77.9)	4 (0.6)	4 (0.6)	32 (4.8)	666 (100%)

6、動物遺体

焼骨が2,000資料程出土しており、大方が微細な骨片である。焼土粒や土器破片を含む盛土層から集中して出土している。遺構からの出土としたものの多くは遺構検出面での出土である。西本豊弘氏に分析載っている（IV章（4）に掲載）。

7、植物遺体

炭化材の他、炭化種子が400資料程出土している。FA52-05住、II b区柱穴37・45からは炭化種実が纏まって出土しているが、他の遺構から出土したものはいずれも数点で量的に乏しい。炭化植物遺体については辻誠一郎氏に分析載っている（VI章（1）に掲載）。

8、アスファルト

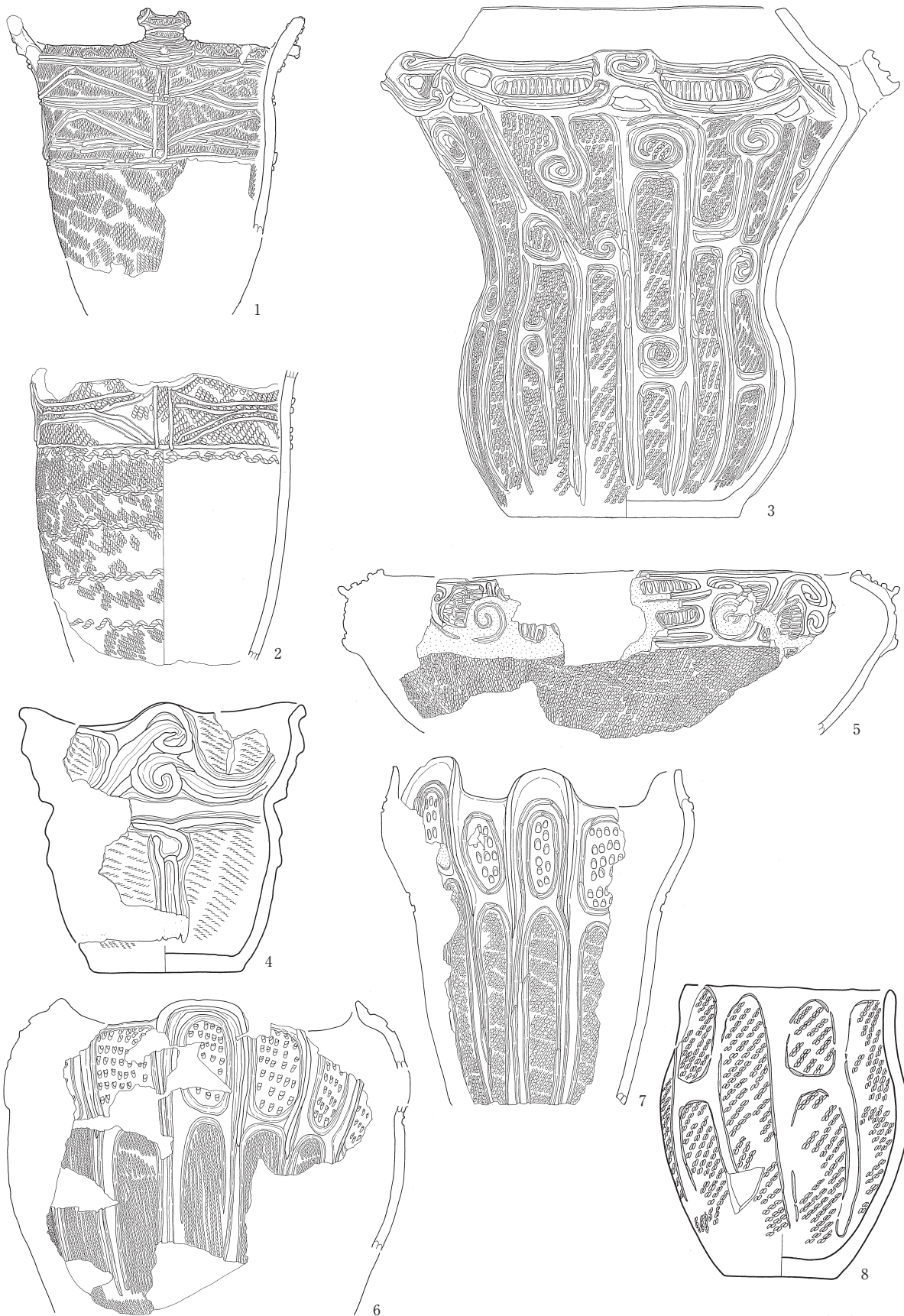
アスファルト塊は3資料出土している。FB52-02住、FG64-03住から出土したものは5g程の小さなものであったが、II a区FD58グリッド遺構確認面から出土したものは162.2gの大きなものであった。また、FE54-01住からはパレットとして使用されたと考えられる土器の内面にアスファルトが大量に付着した第VI群土器片（第41図45）が出土している。

9、琥珀

竪穴住居跡の覆土や遺構外など28地点から出土している。いずれも砕けた破片資料である。

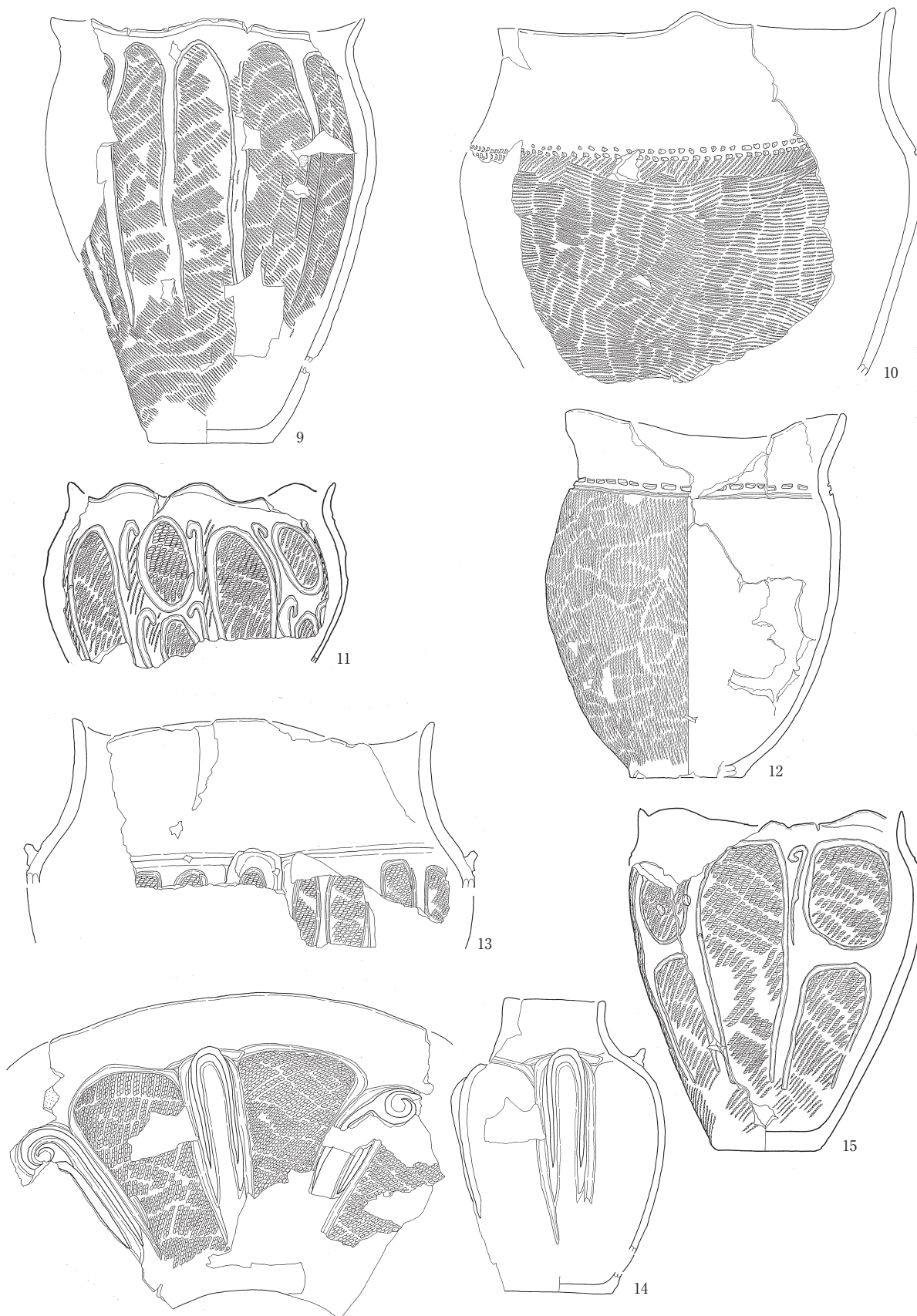
10、粘土

白色粘土塊がII a区、V区の竪穴住居跡覆土などから出土している。II a区FB56-02住炉、FC56-01住の床面、FB54-02住・FB56-03住覆土、II b区FF56-01土坑覆土、V区FI60-01住の床面、FG64-01住・FH60-03住・FH62-03住の覆土から出土している。FC56-01住の床面のもは炉周辺からの出土である（第7図）。



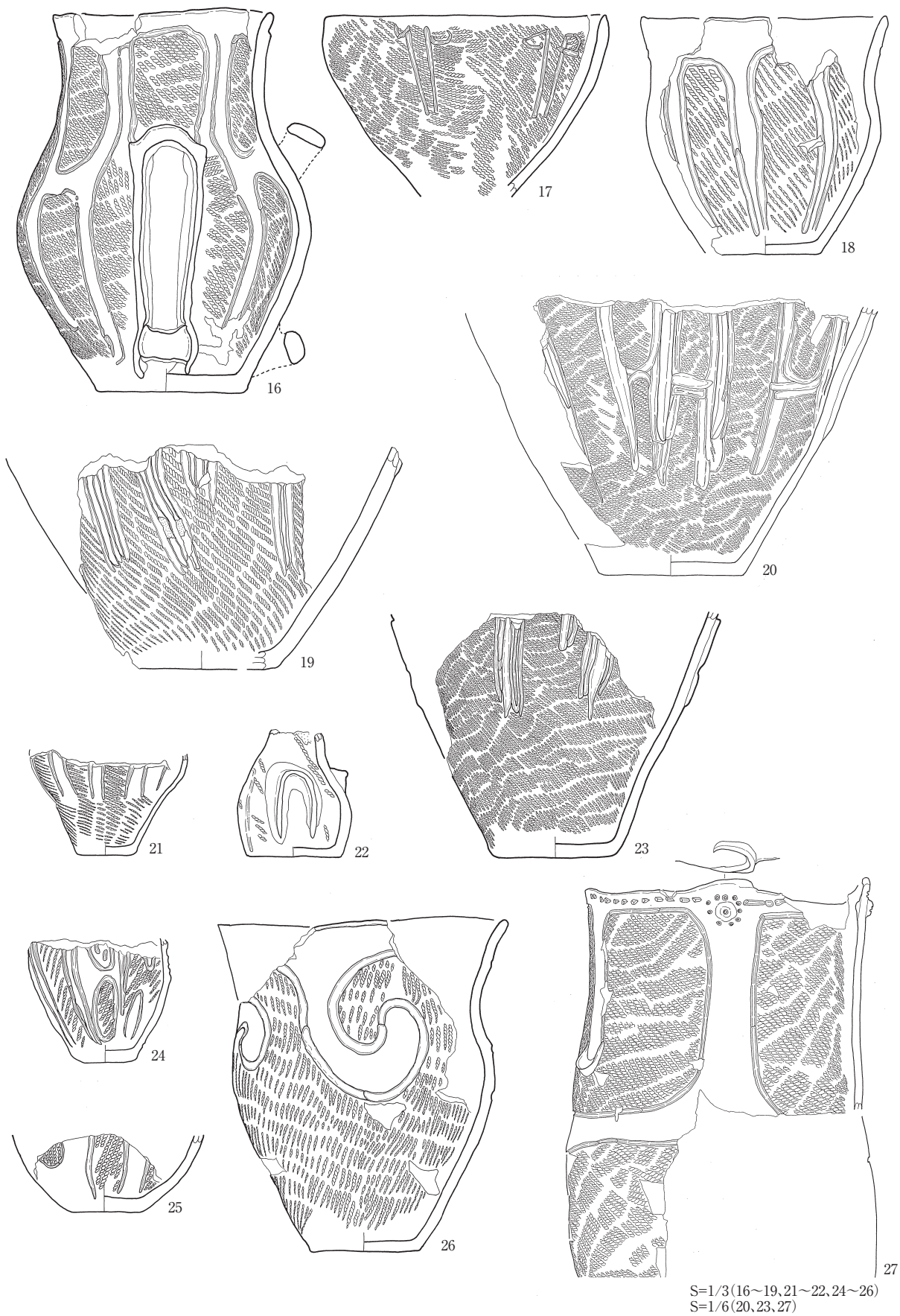
S=1/3(4,8)
S=1/6(1~3,5~7)

第37图 出土土器 (1)

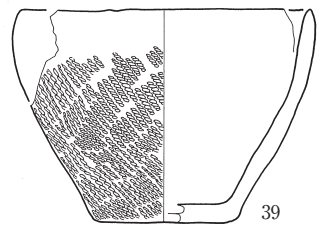
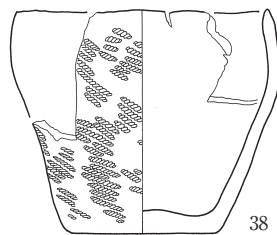
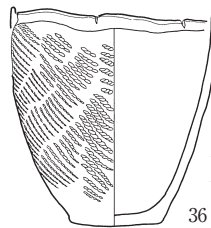
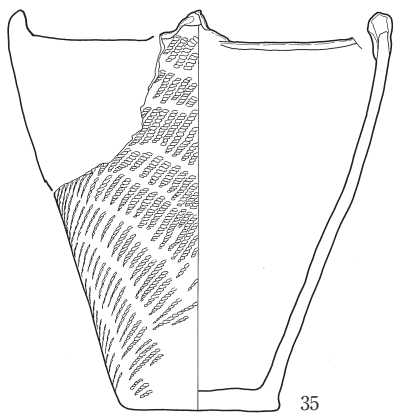
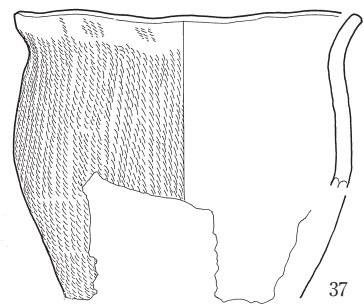
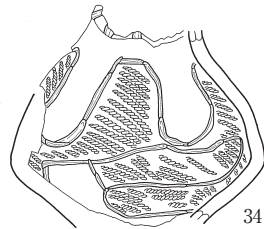
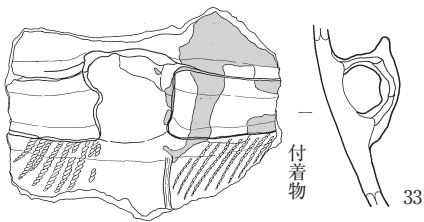
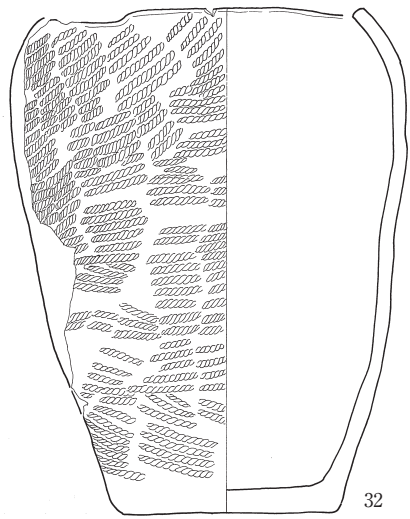
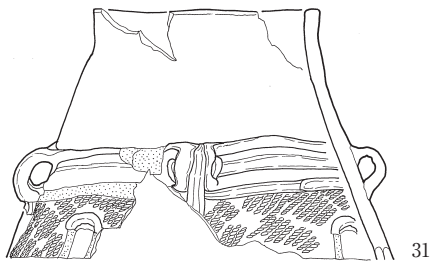
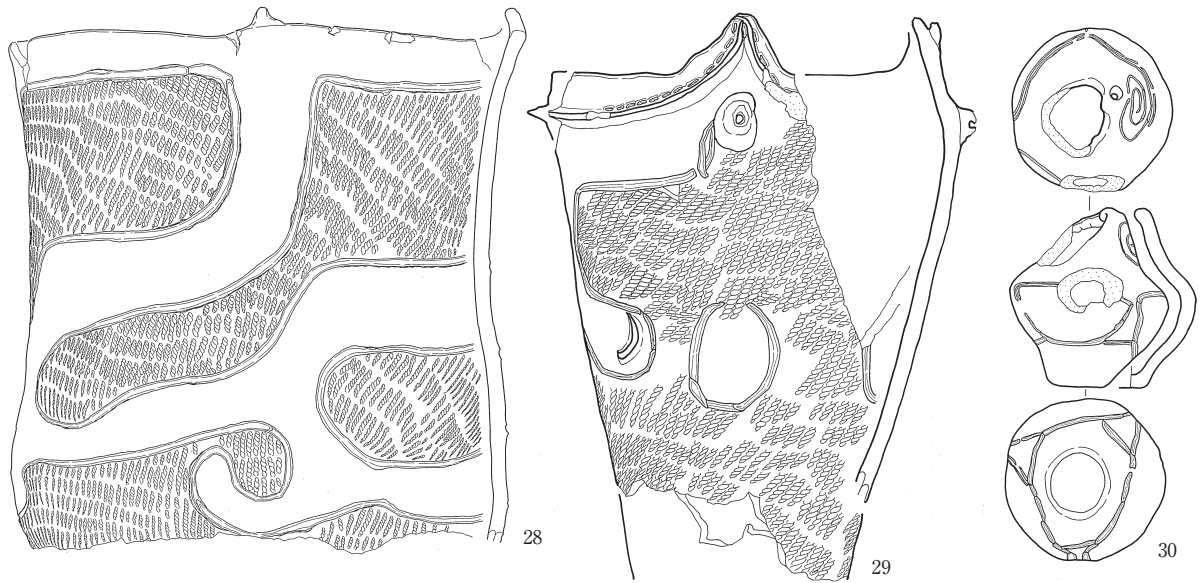


S=1/3(11,15)
S=1/6(9~10,12~14)

第38図 出土土器 (2)

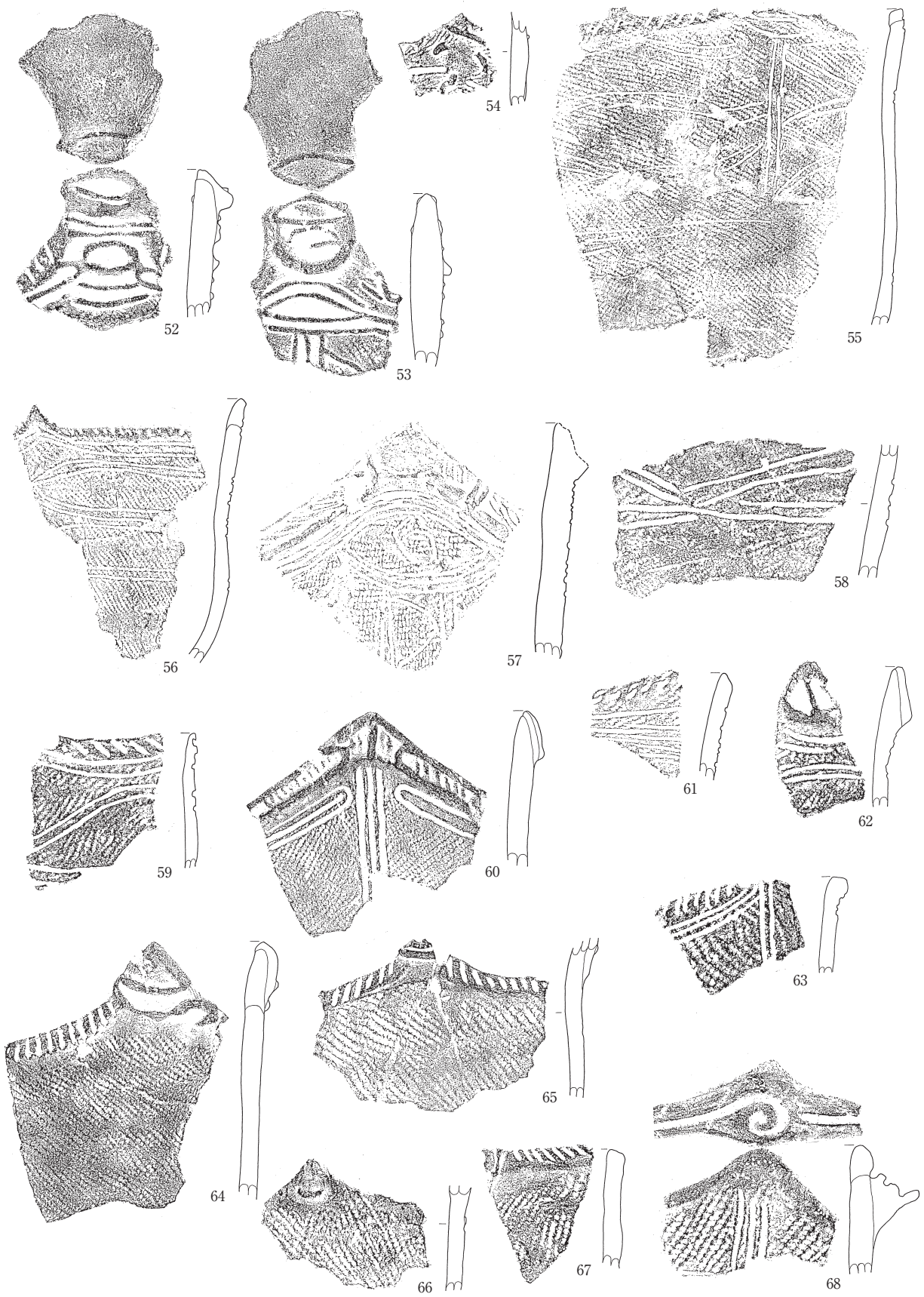


第39图 出土土器 (3)



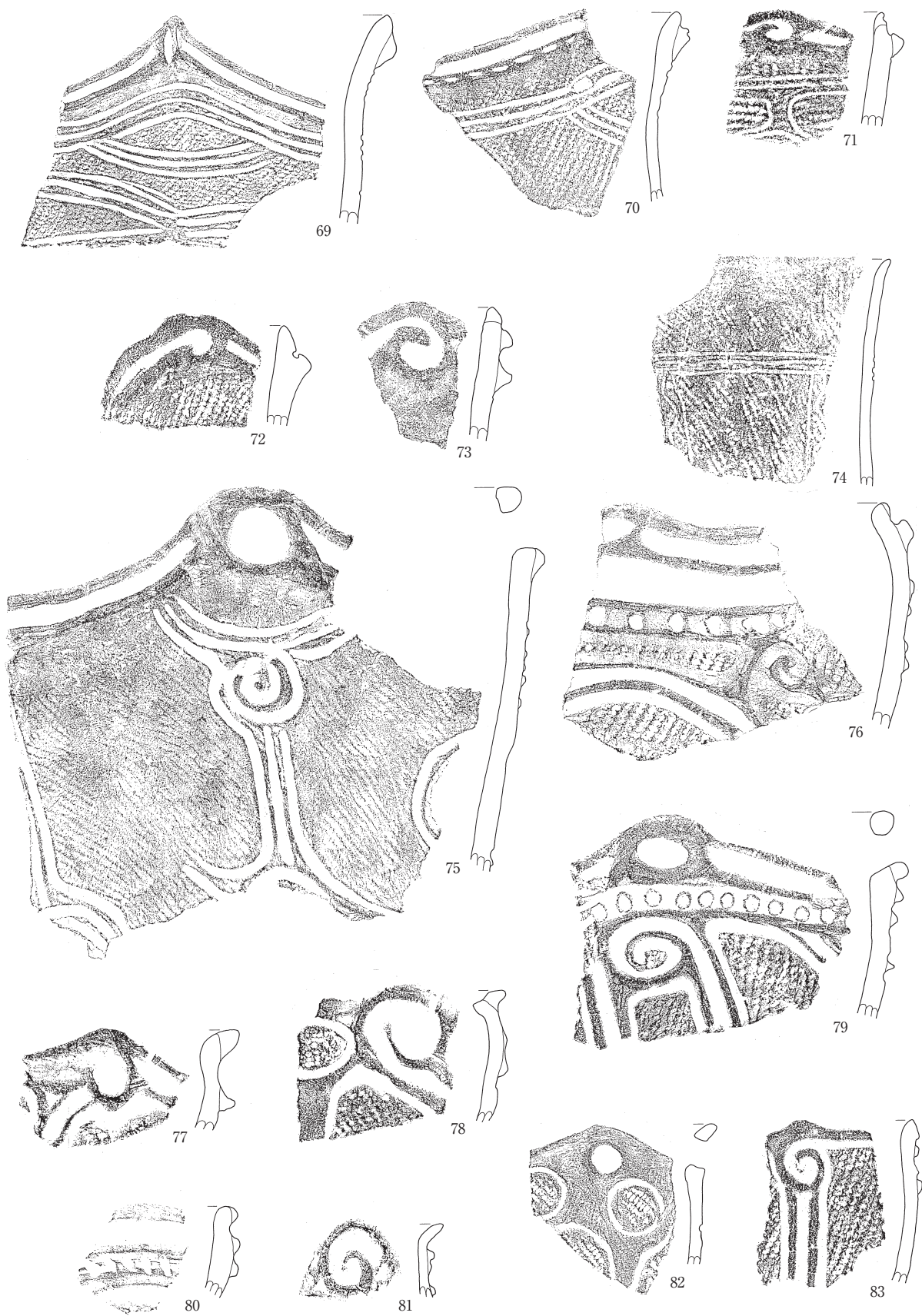
S=1/3 (29~39)
S=1/6 (28)

第40図 出土土器 (4)



S=1/3

第42图 出土土器 (6)



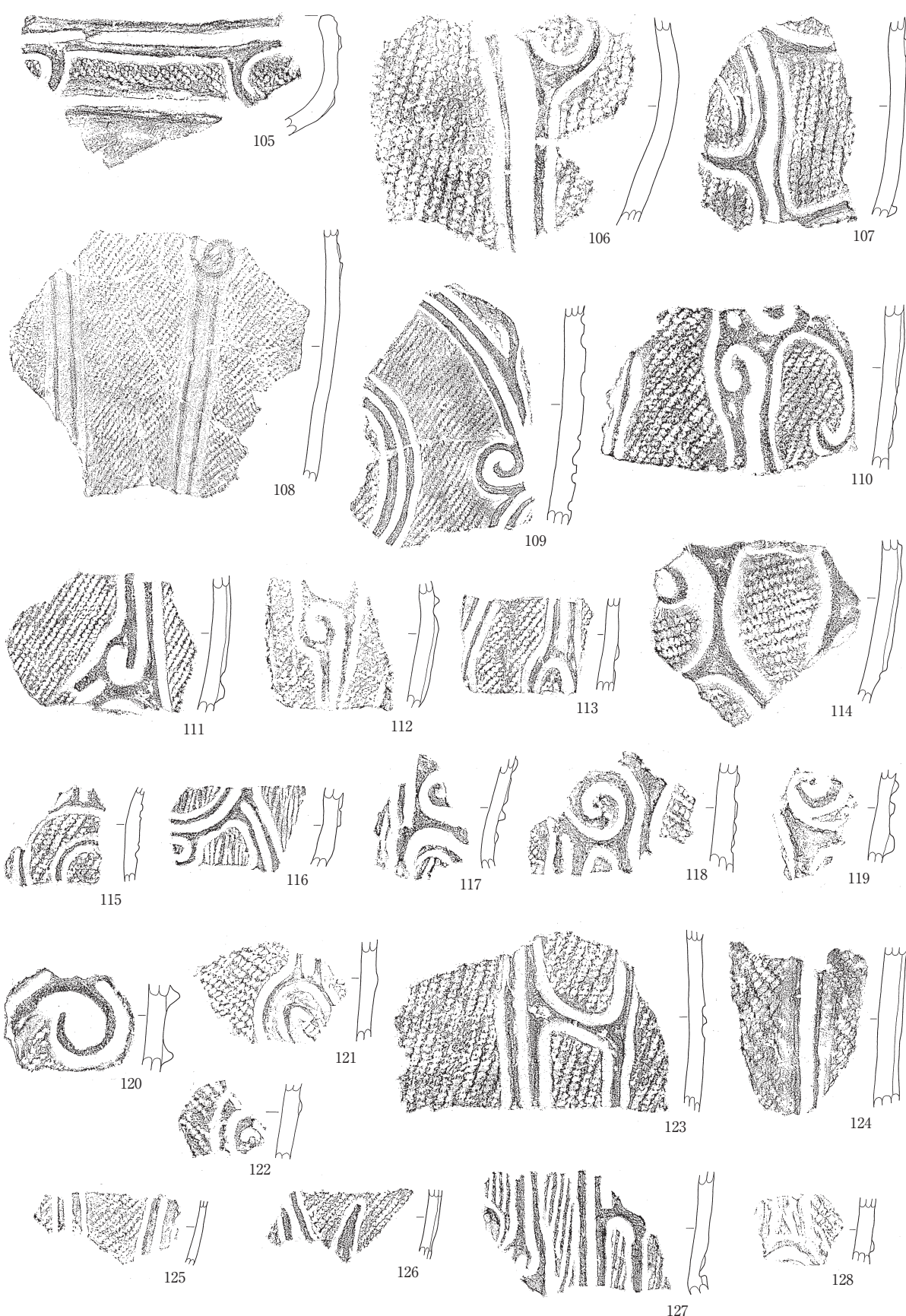
S=1/3

第43图 出土土器 (7)



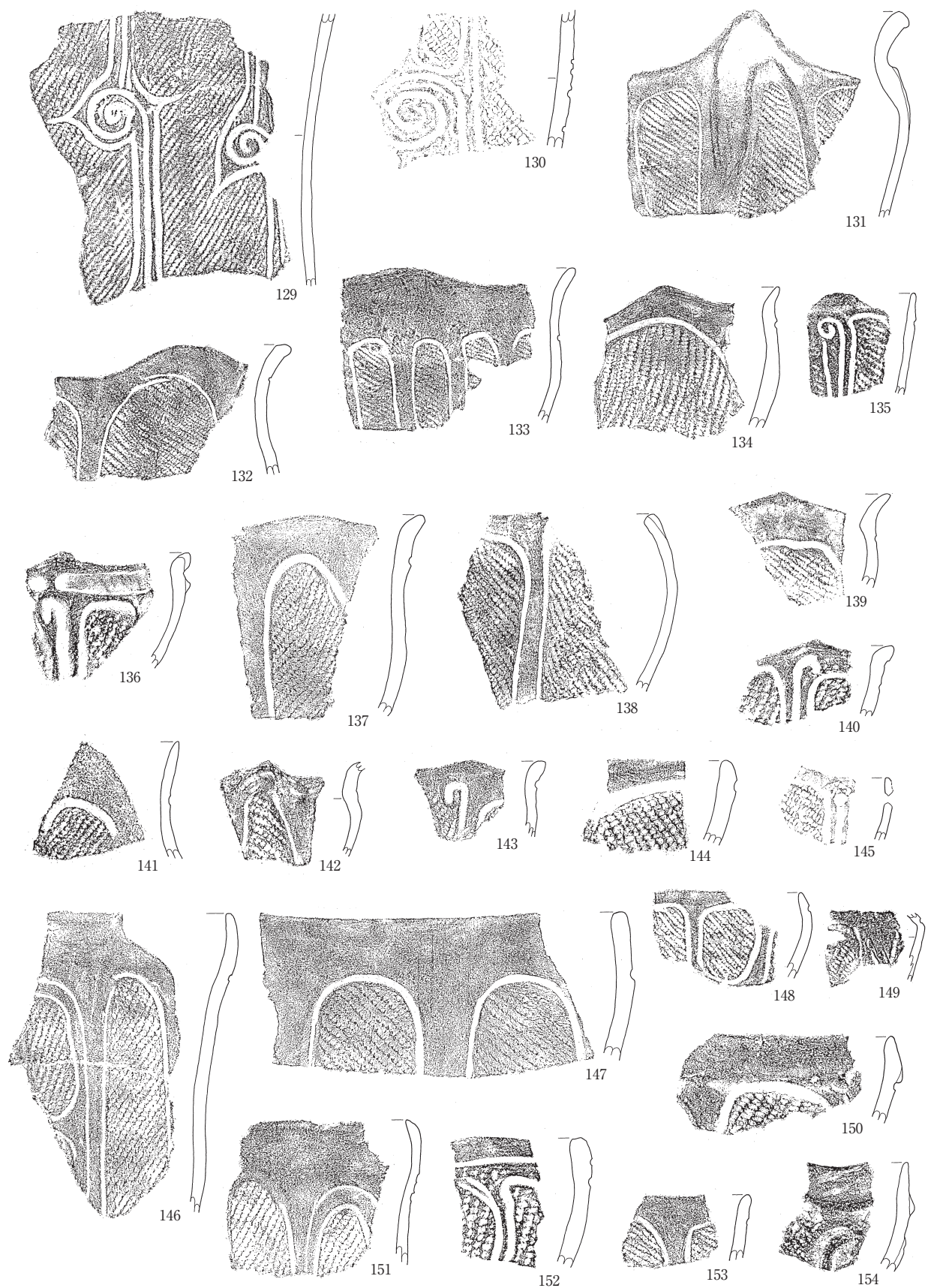
S=1/3

第44图 出土土器 (8)



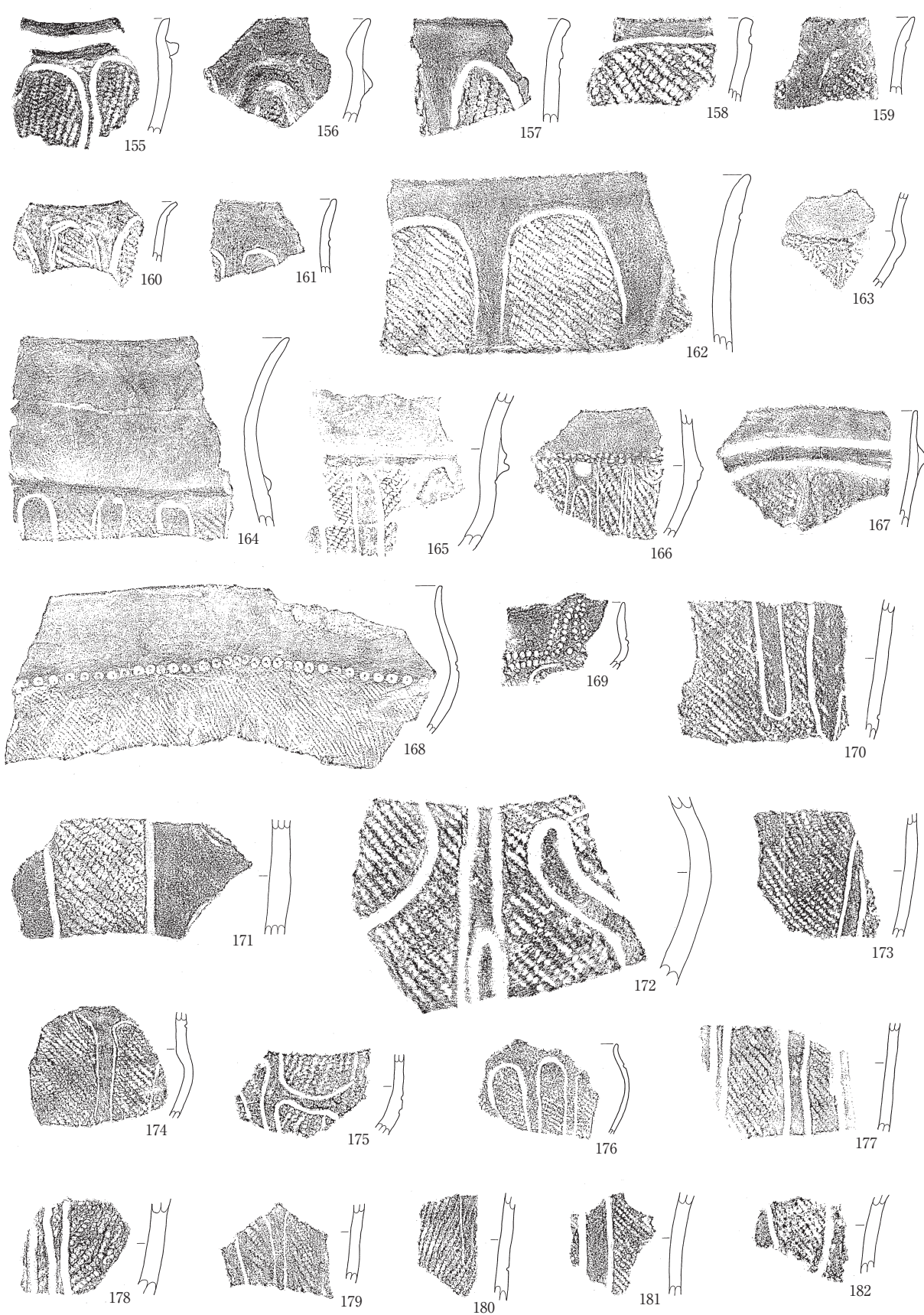
S=1/3

第45图 出土土器 (9)



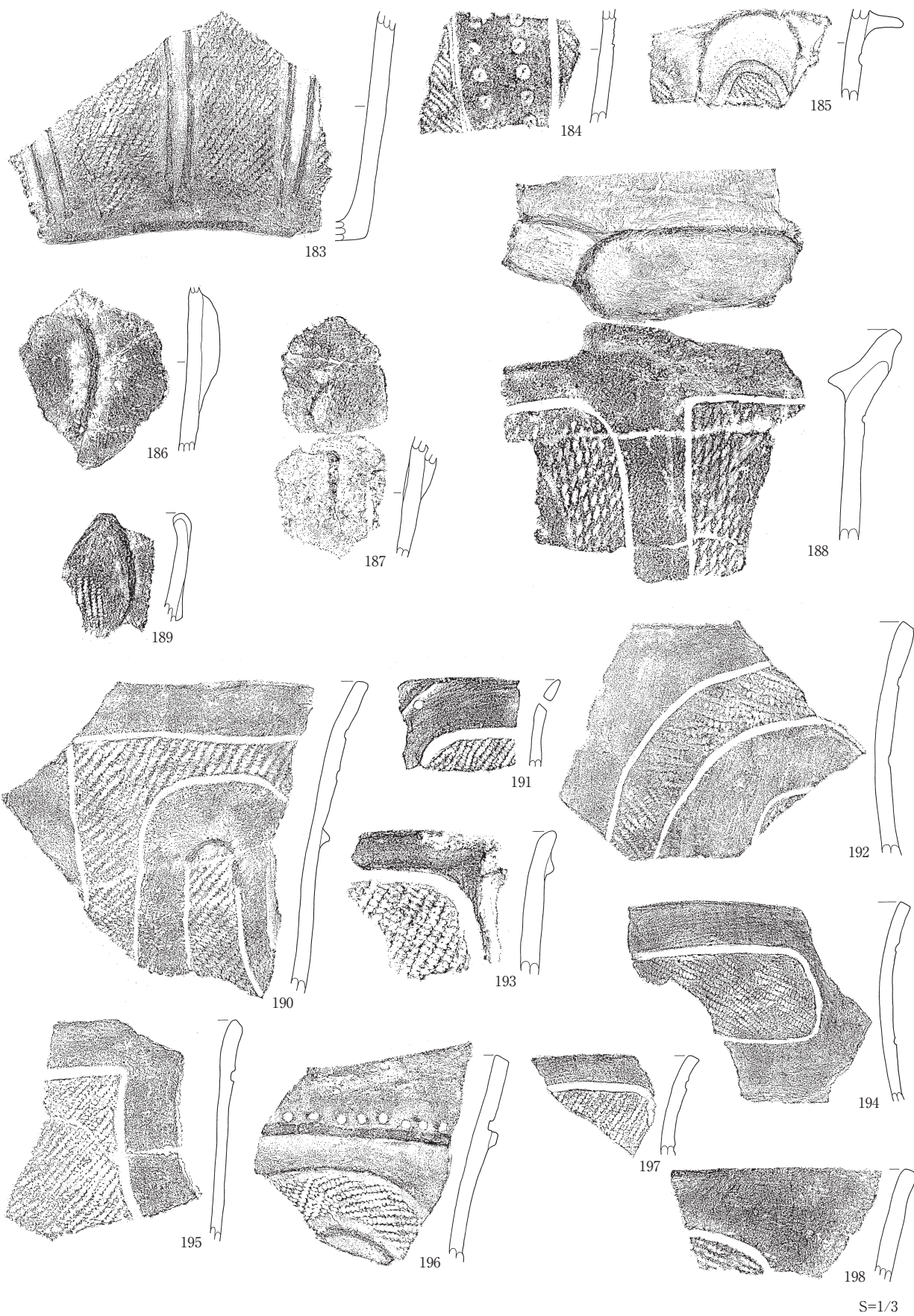
S=1/3

第46图 出土土器 (10)

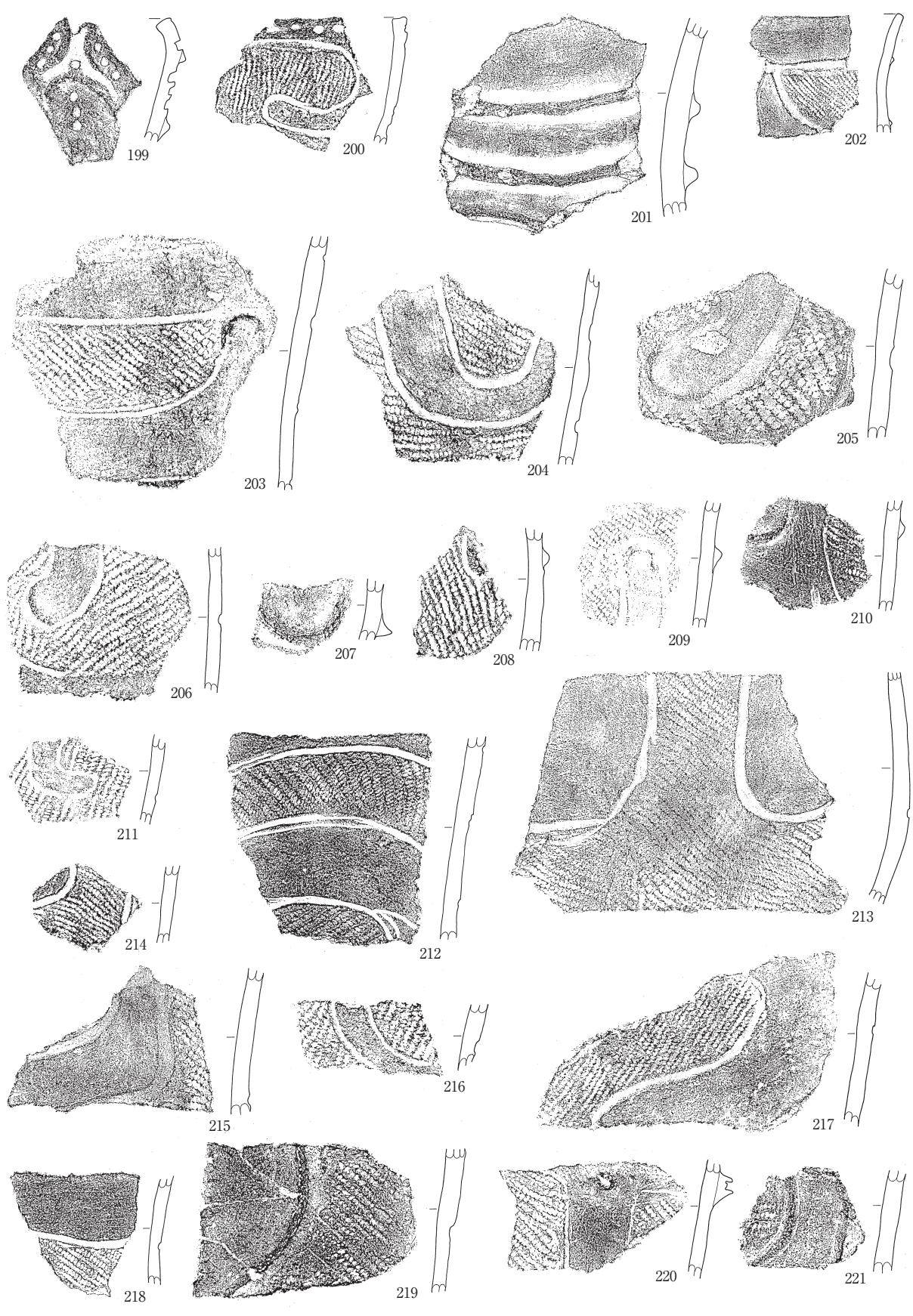


S=1/3

第47图 出土土器 (11)

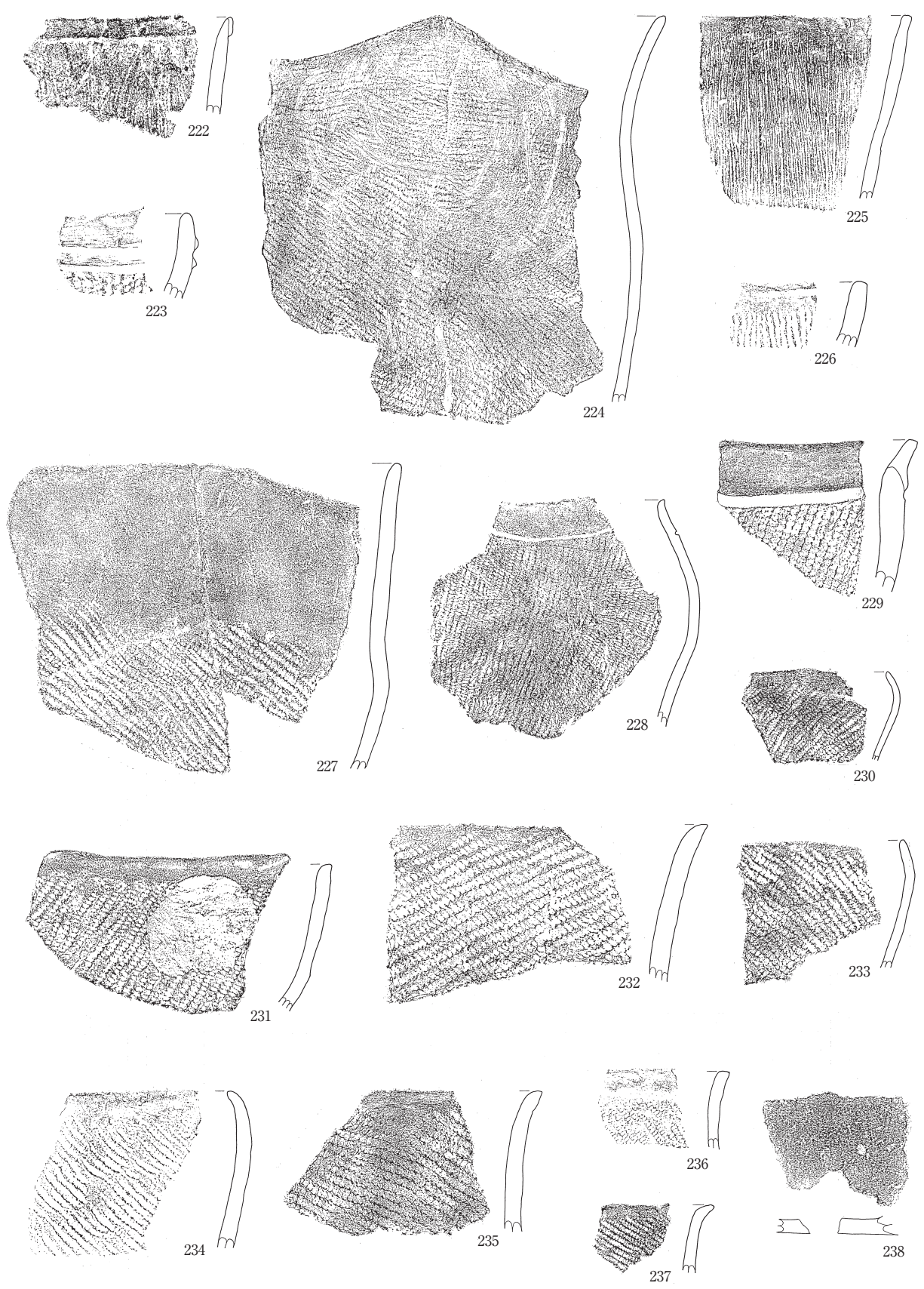


第48图 出土土器 (12)



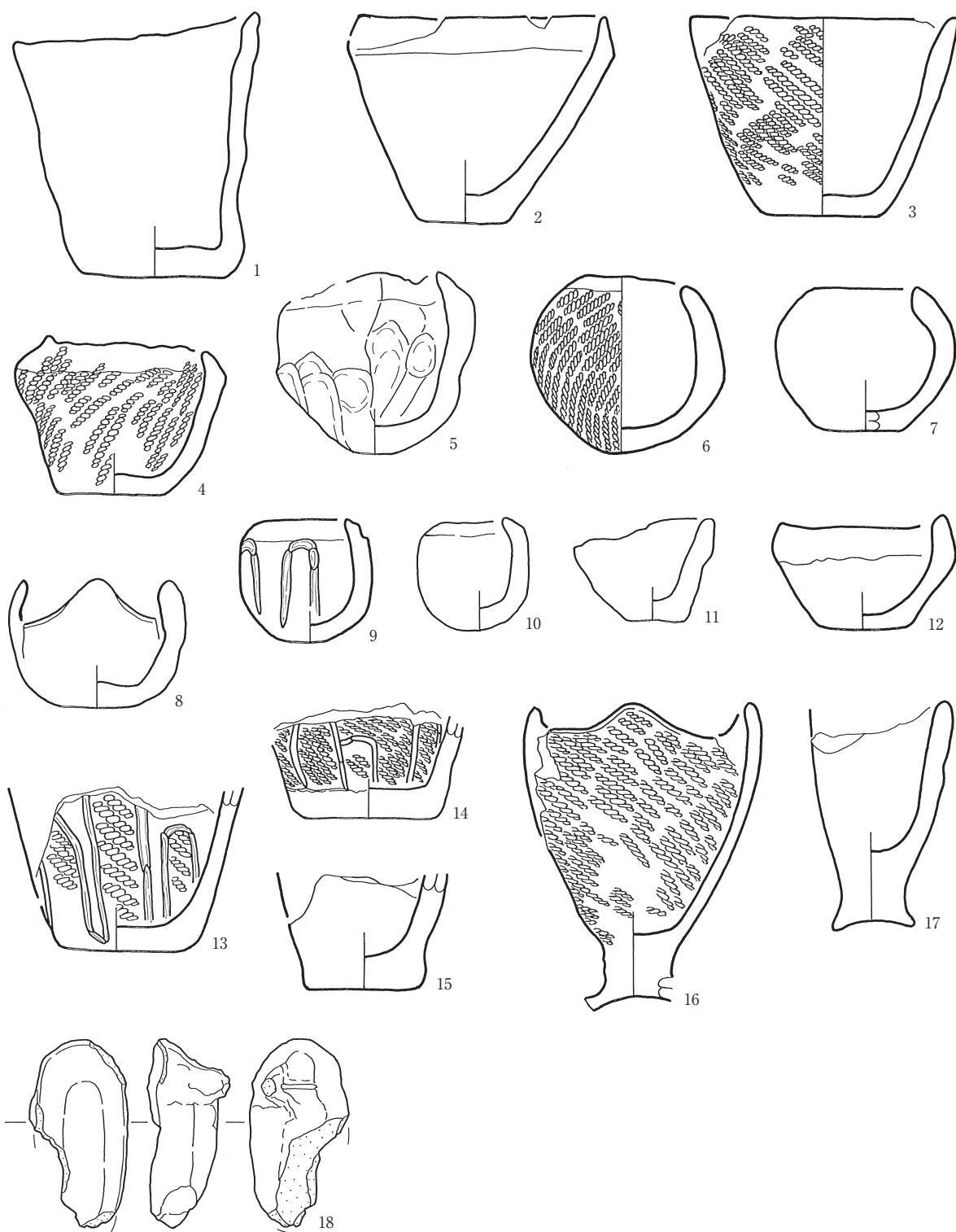
S=1/3

第49图 出土土器 (13)



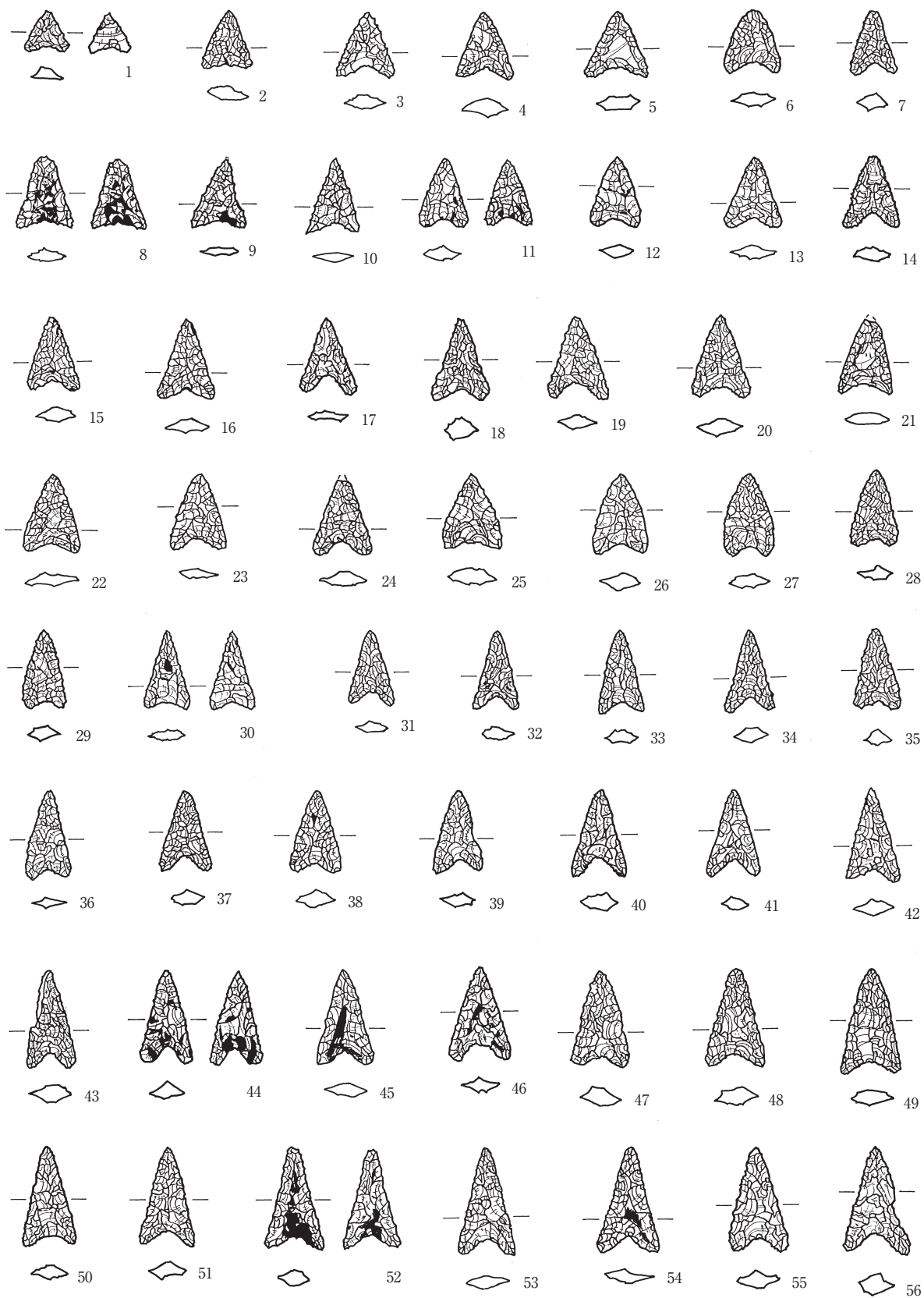
S=1/3

第50图 出土土器 (14)



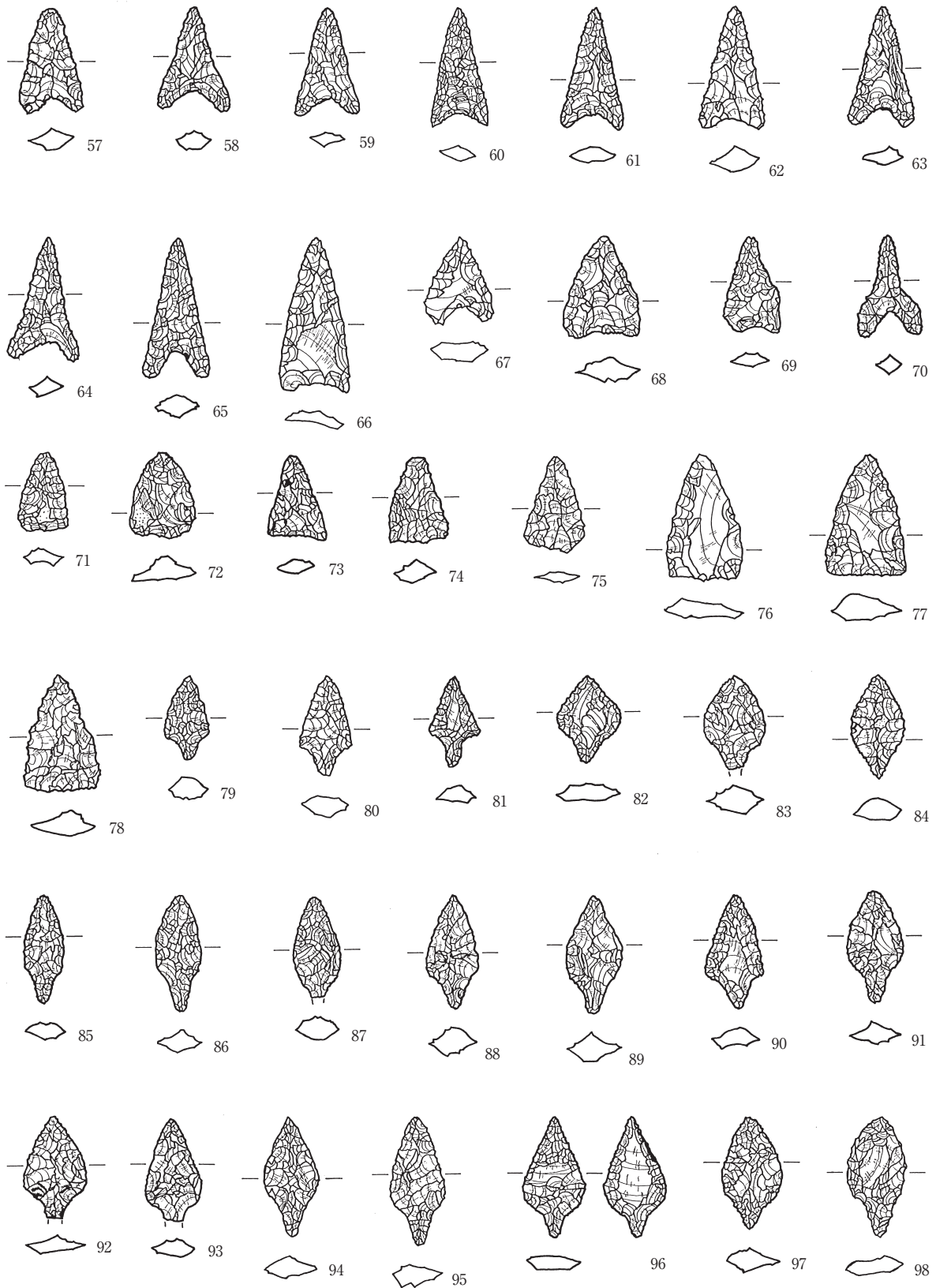
S=2/3

第51図 小型・ミニチュア土器



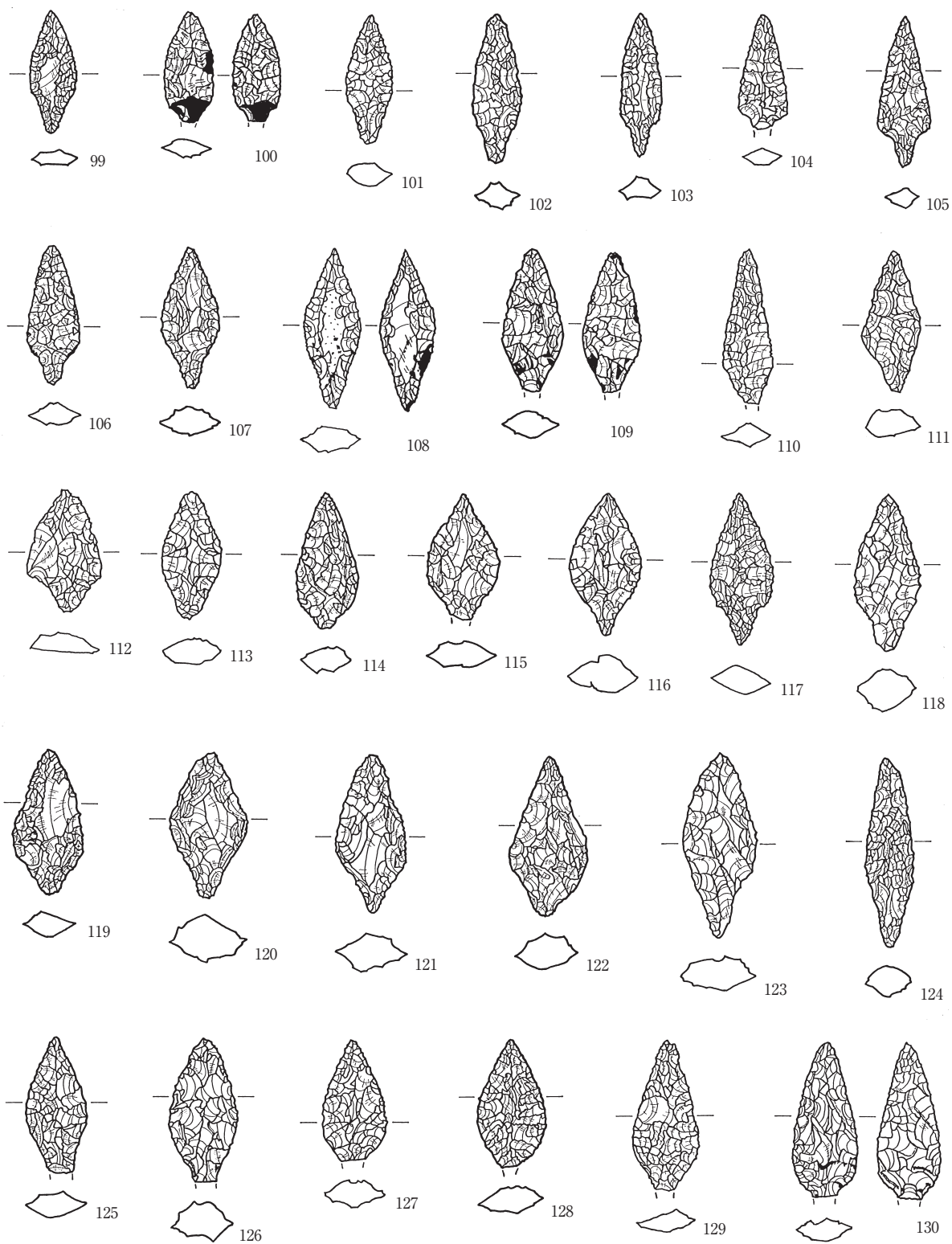
S=2/3

第52图 出土剥片石器 (1)



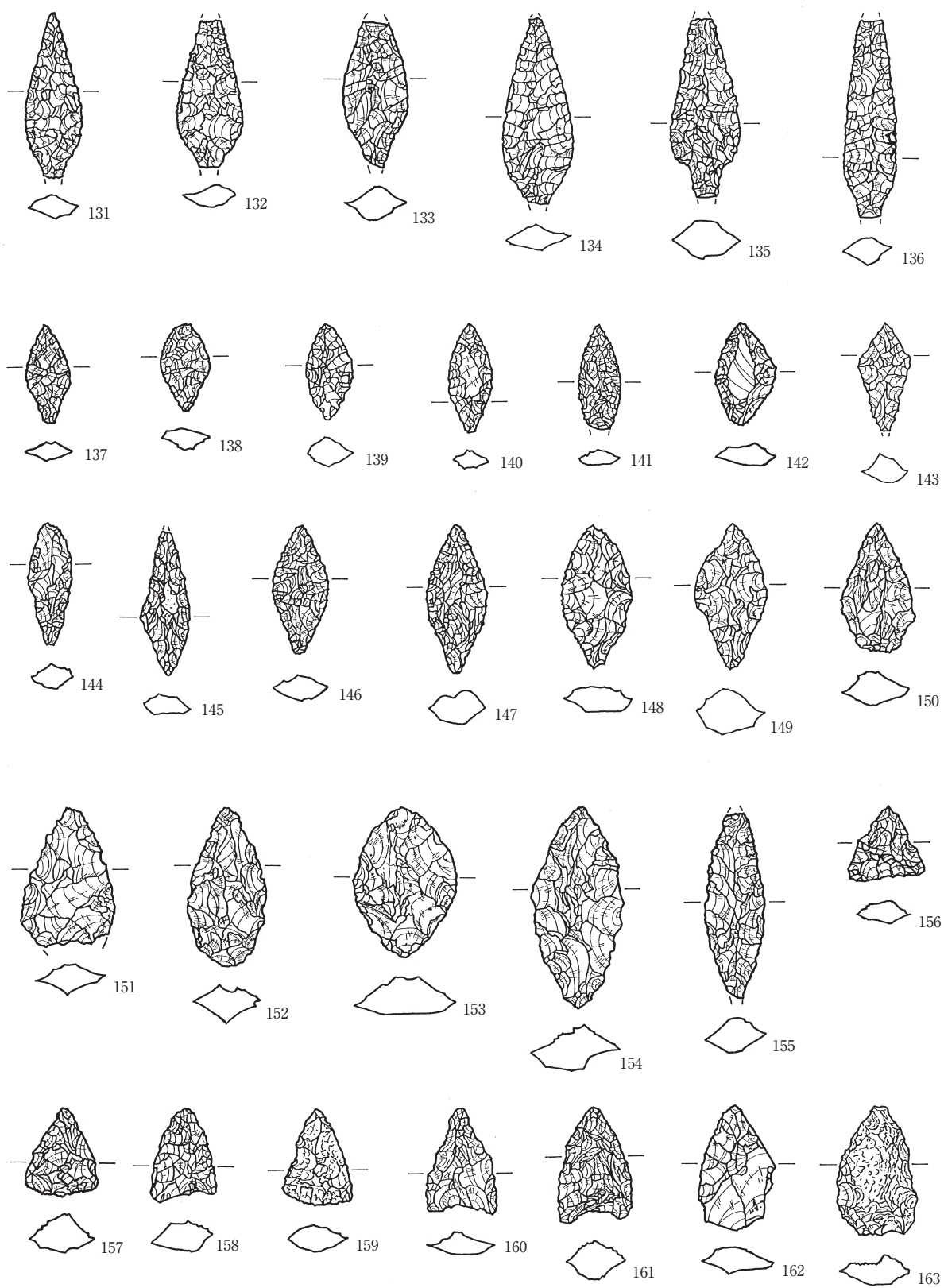
S=2/3

第53图 出土剥片石器(2)



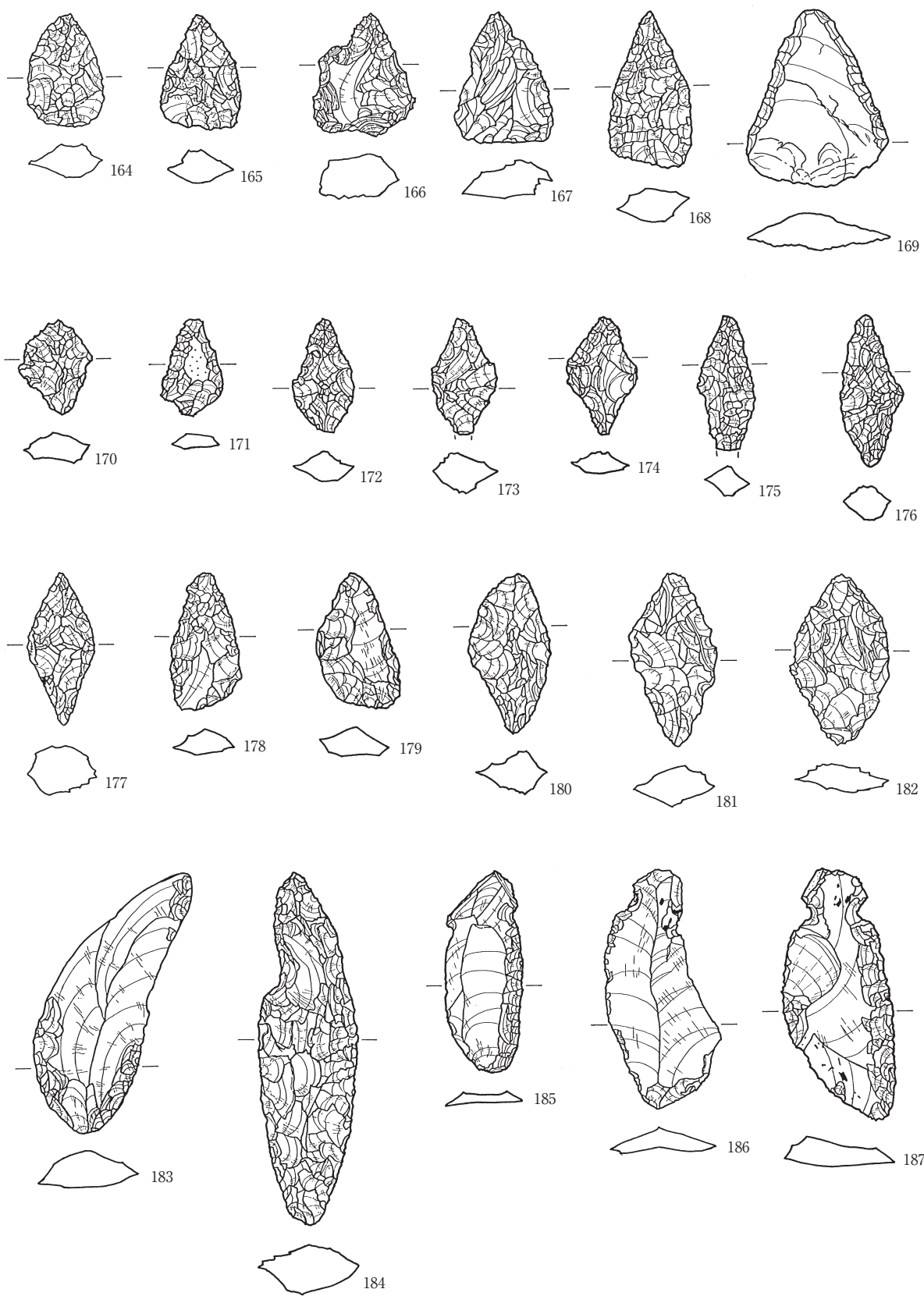
S=2/3

第54图 出土剥片石器 (3)



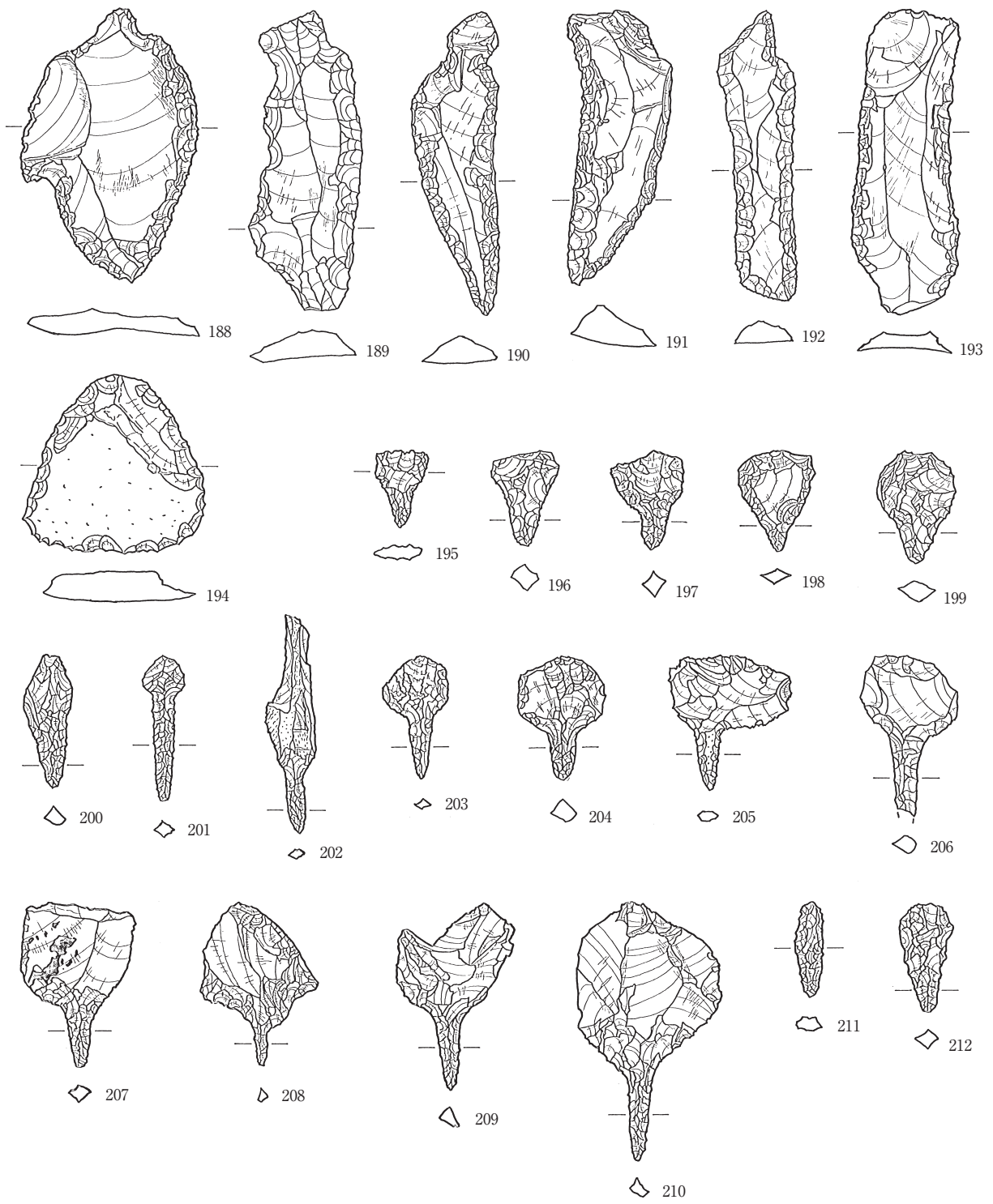
S=2/3

第55图 出土剥片石器(4)



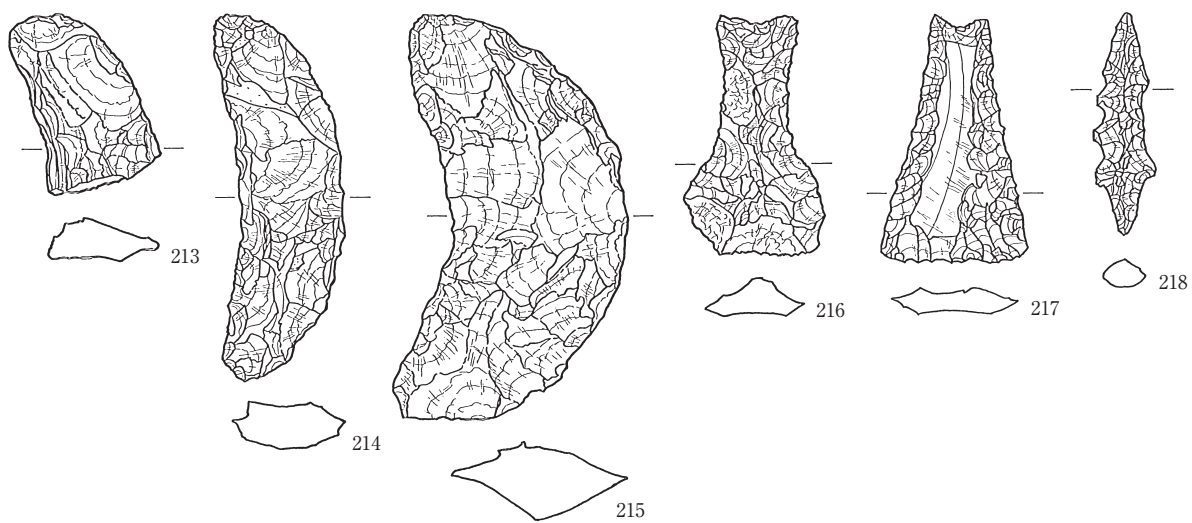
S=2/3

第56图 出土剥片石器 (5)



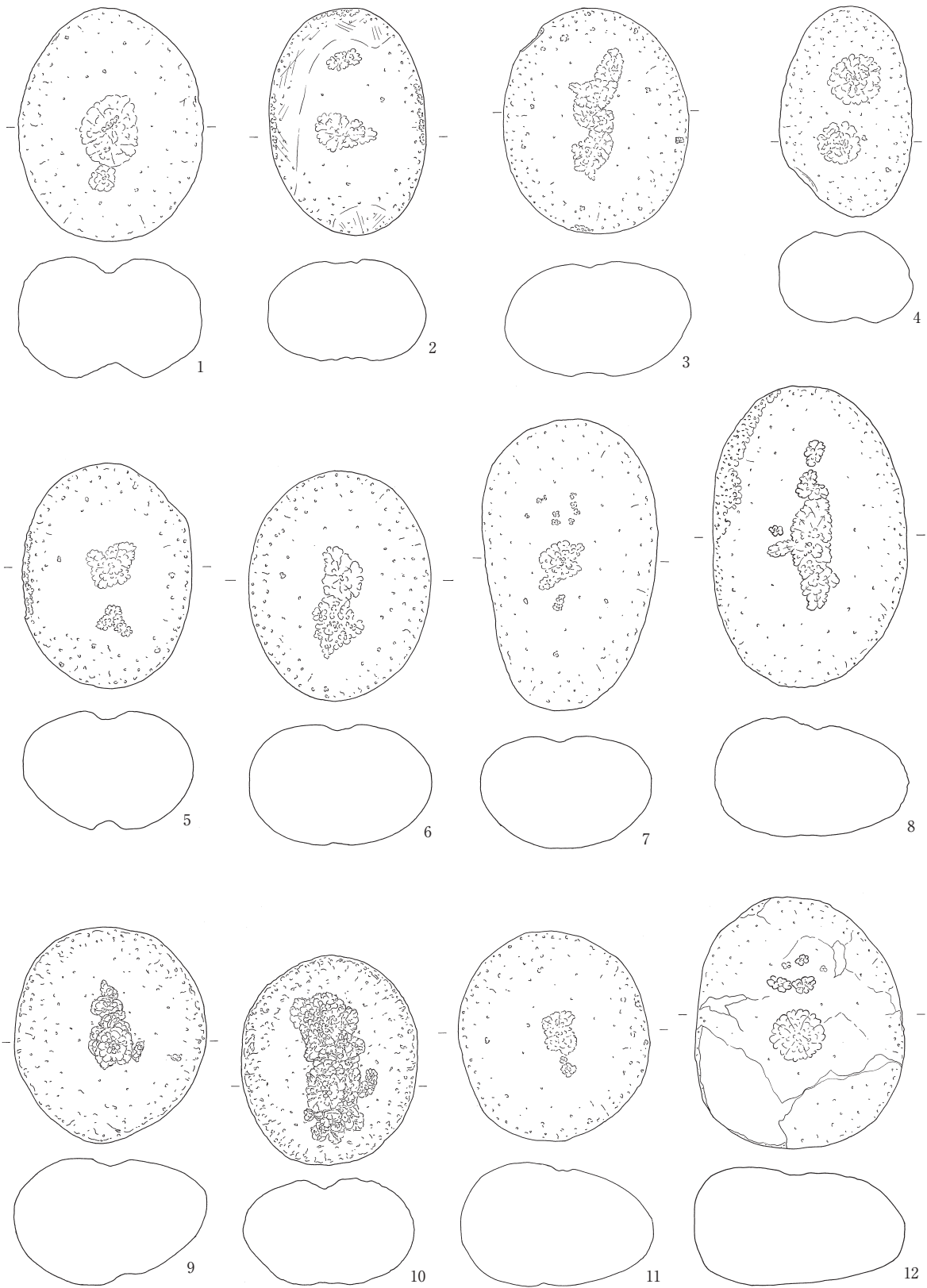
S=2/3

第57图 出土剥片石器 (6)



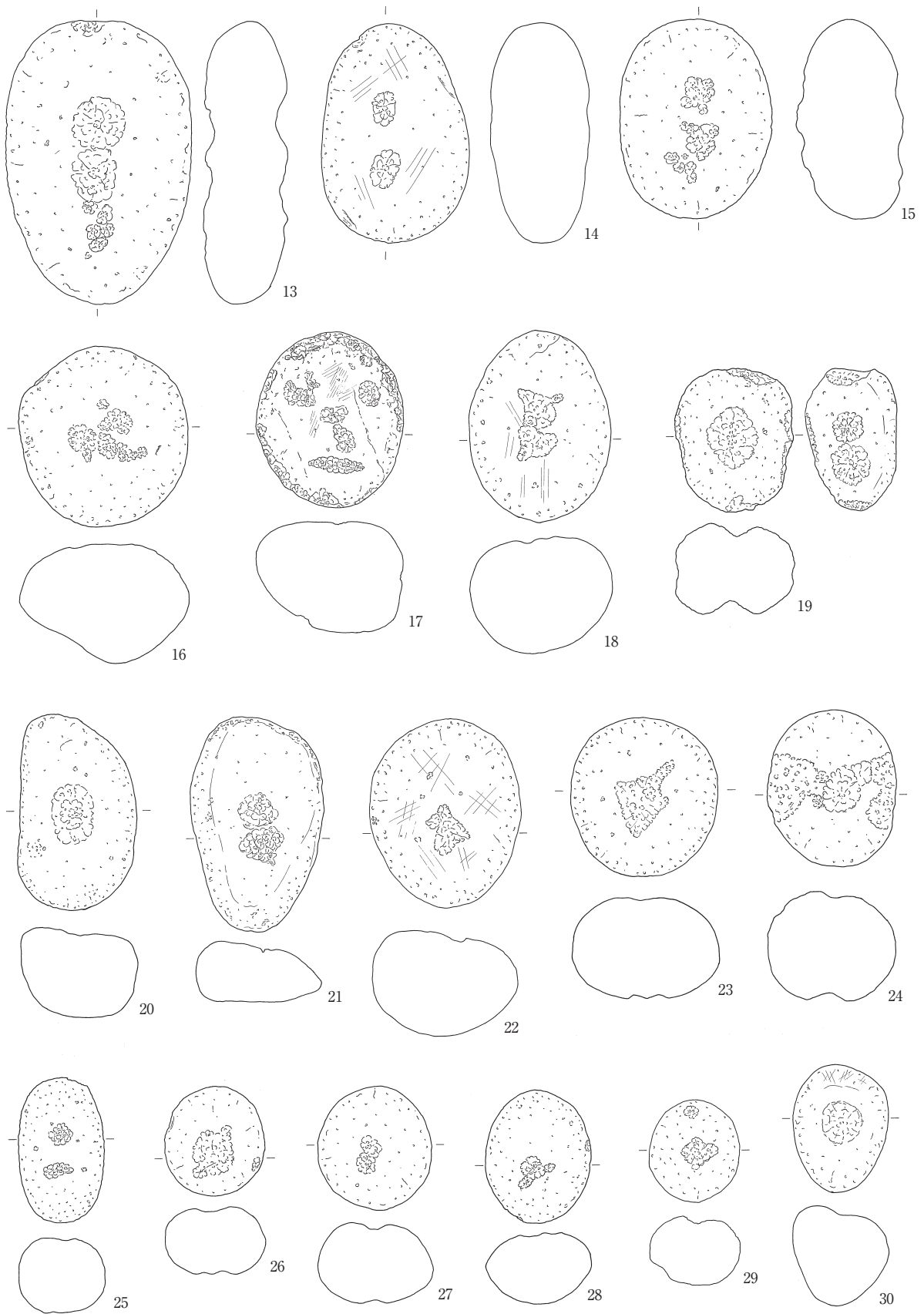
S=2/3

第58图 出土剥片石器 (7)



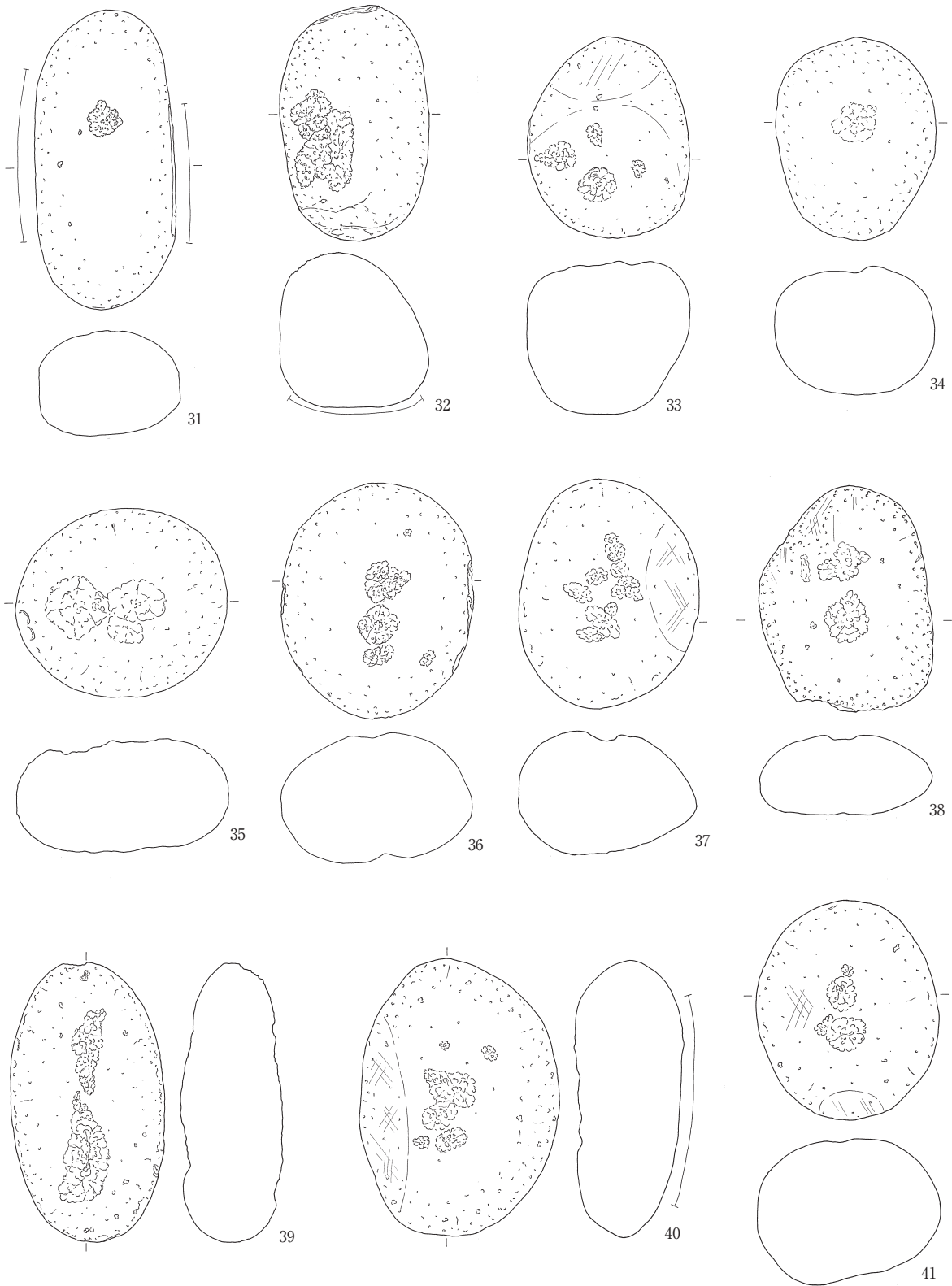
S=1/3

第59図 出土礫石器 (1)



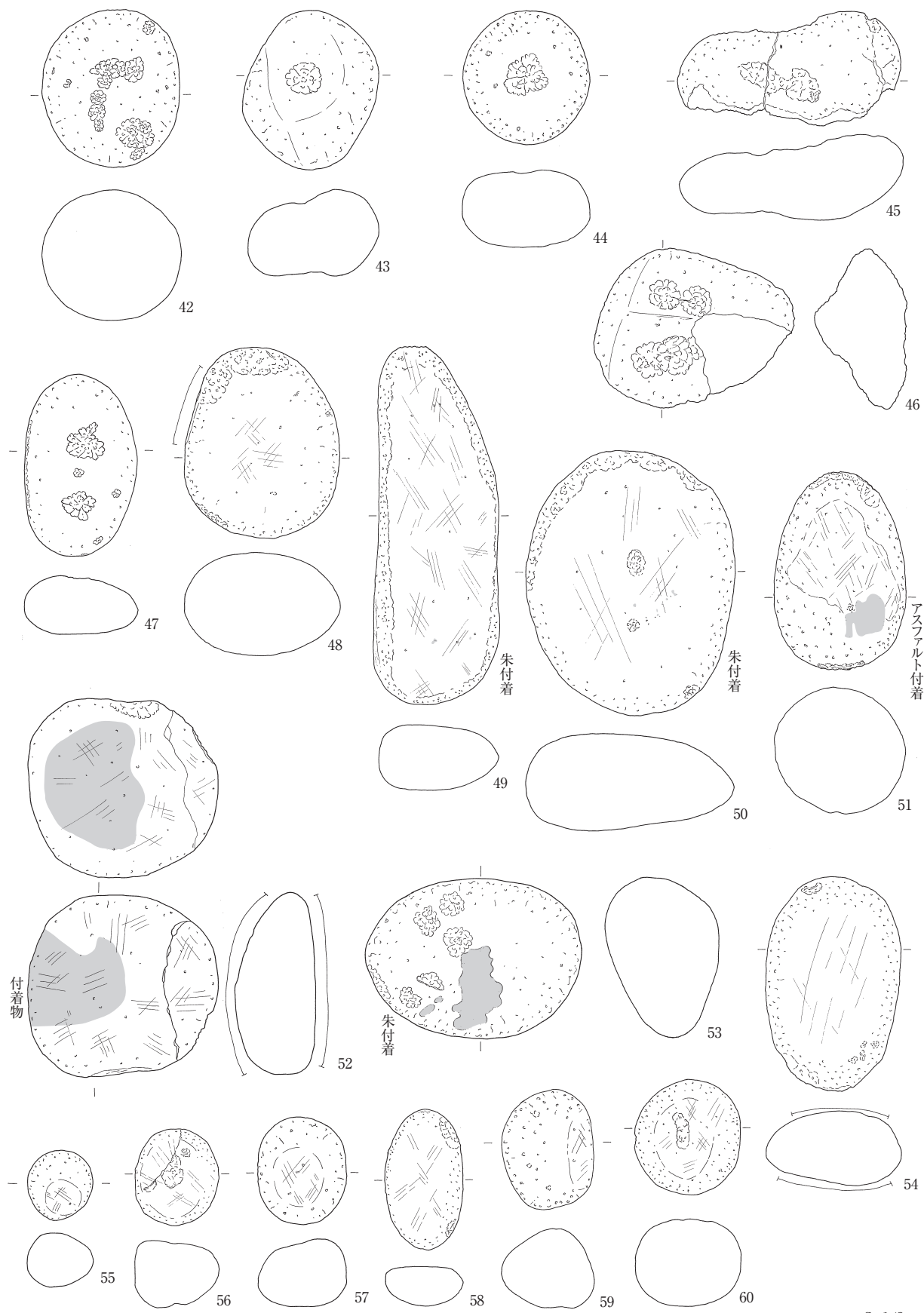
S=1/3

第60図 出土礫石器 (2)



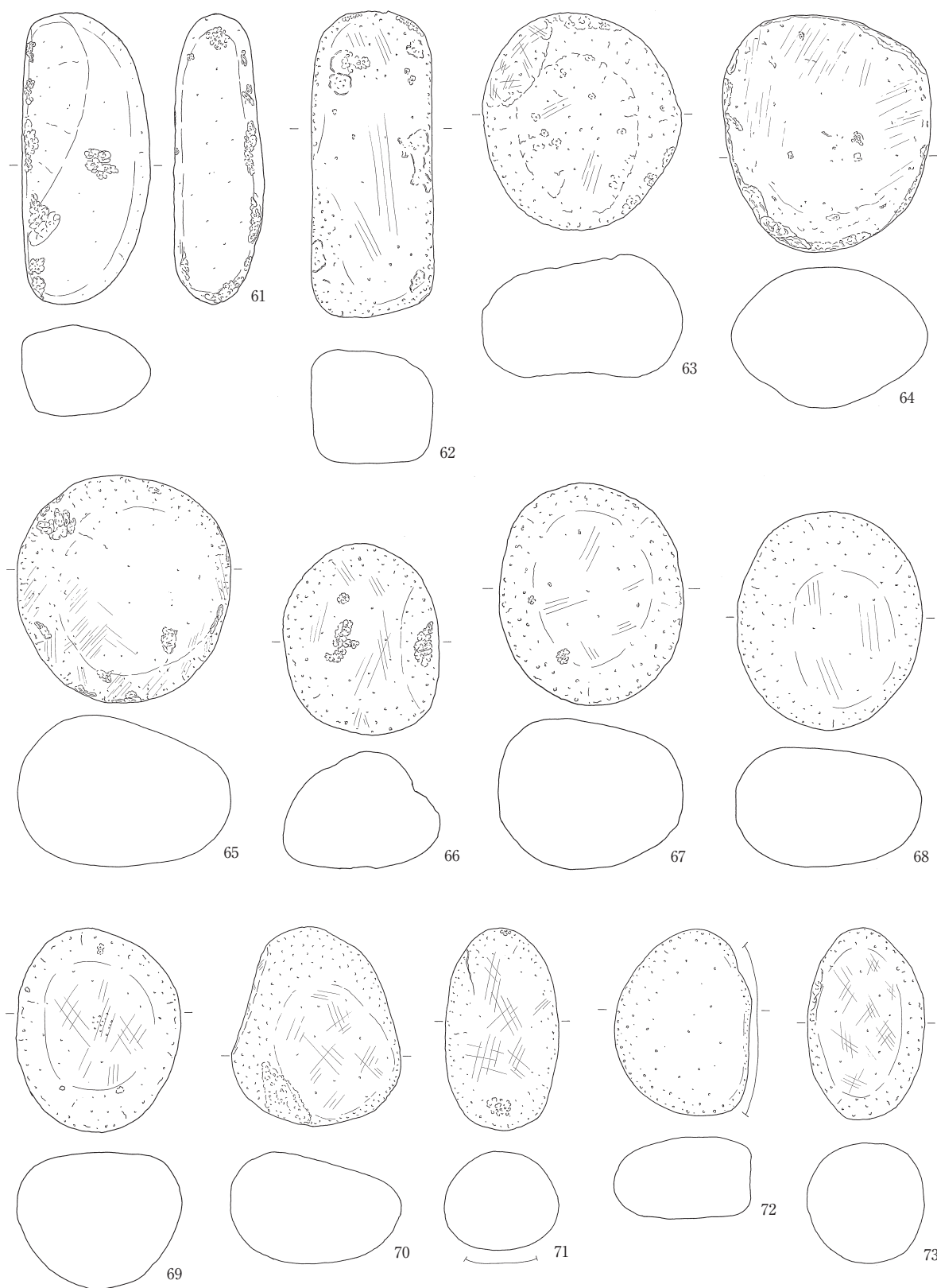
S=1/3

第61図 出土礫石器 (3)



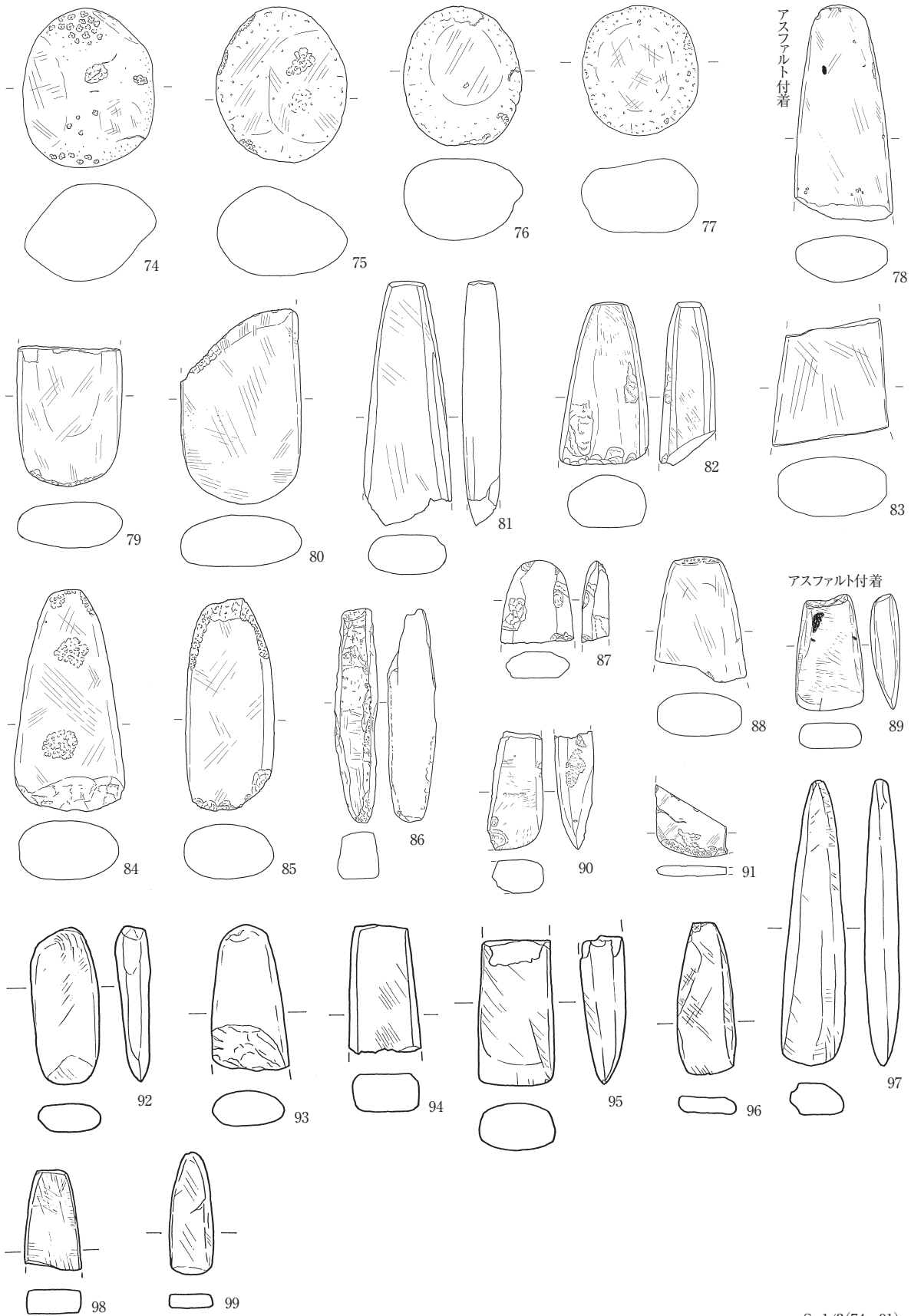
S=1/3

第62図 出土礫石器 (4)



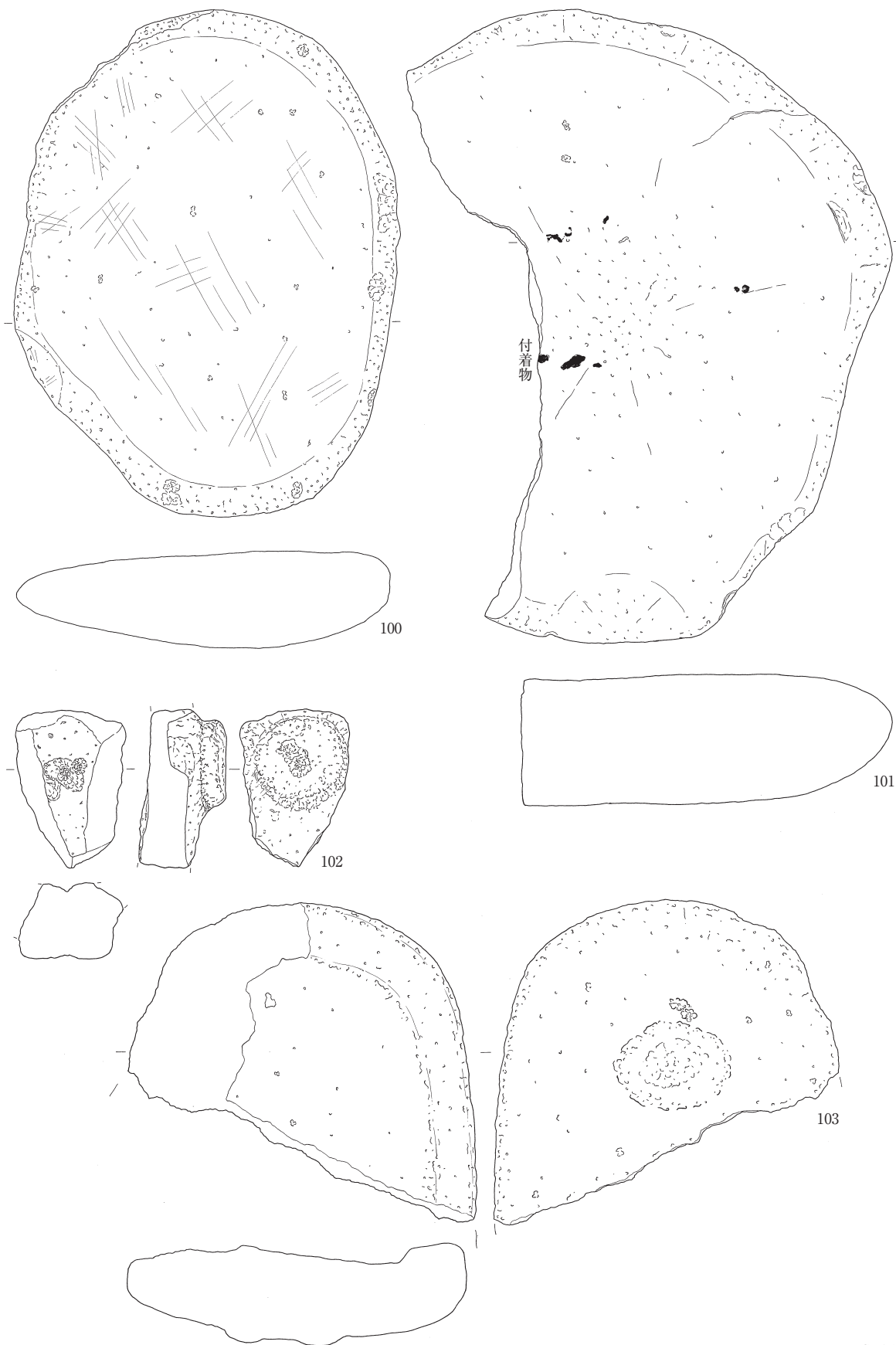
S=1/3

第63図 出土礫石器 (5)



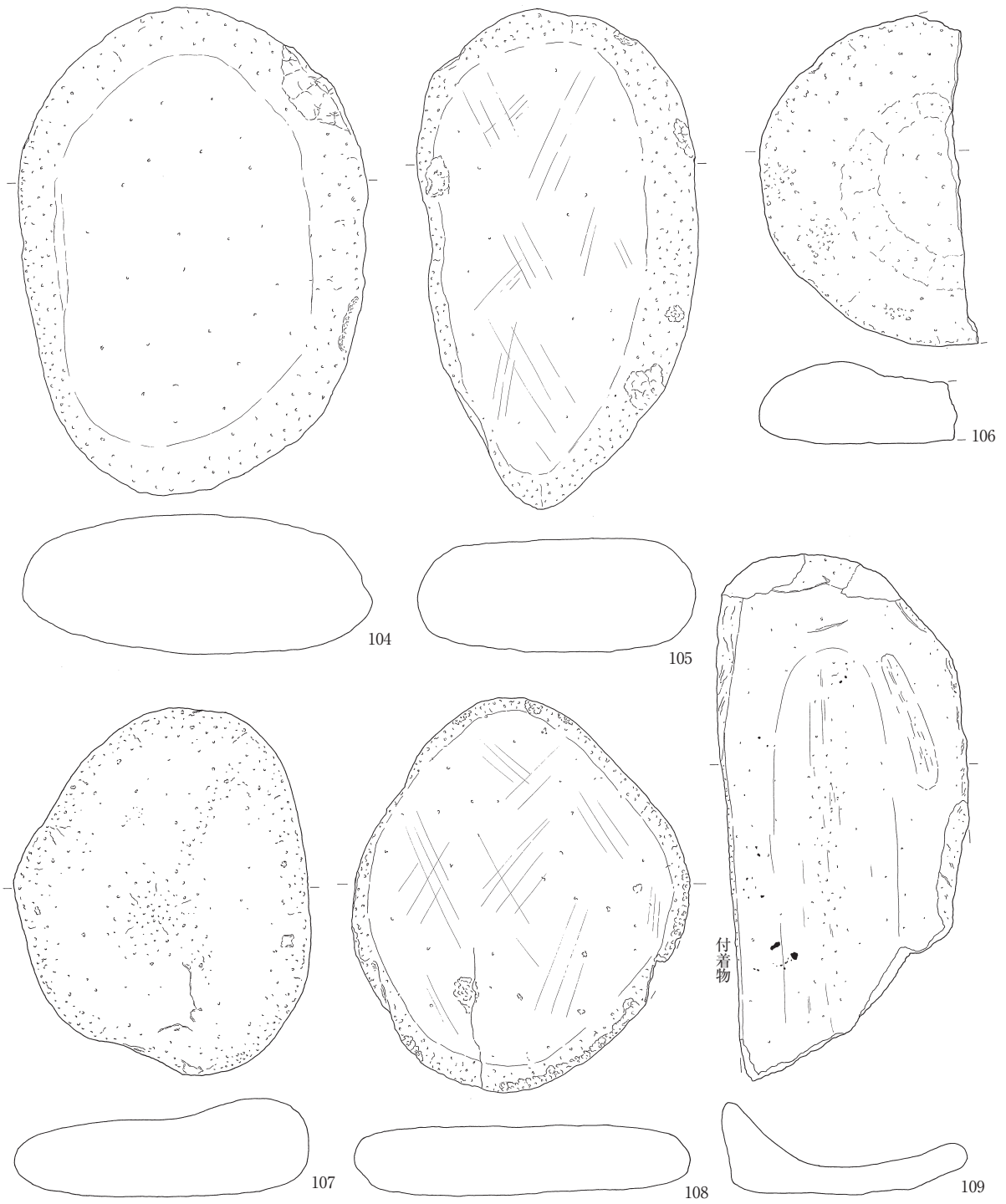
S=1/3(74~91)
S=2/3(92~99)

第64図 出土礫石器 (6)



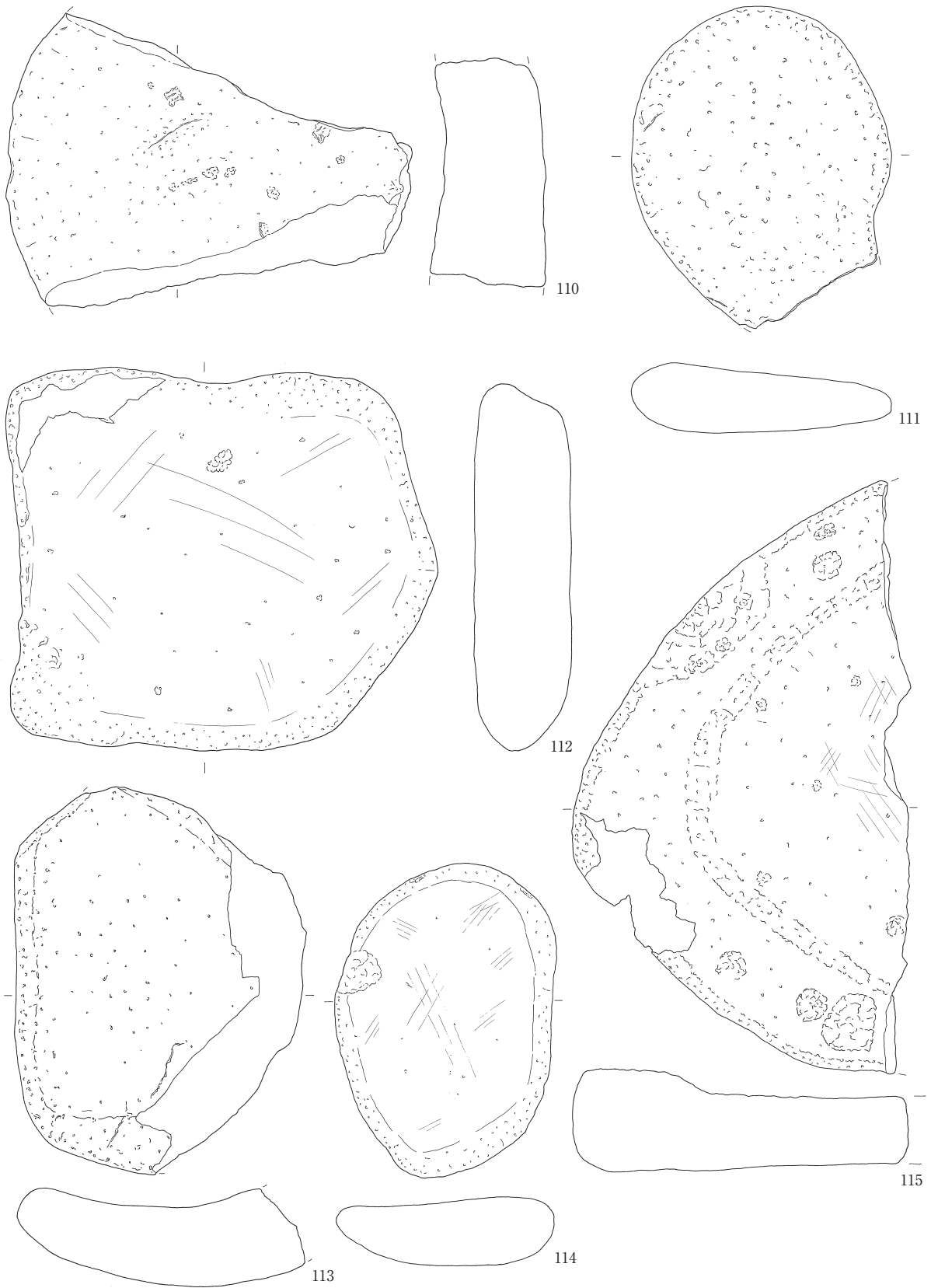
S=1/3

第65図 出土礫石器 (7)



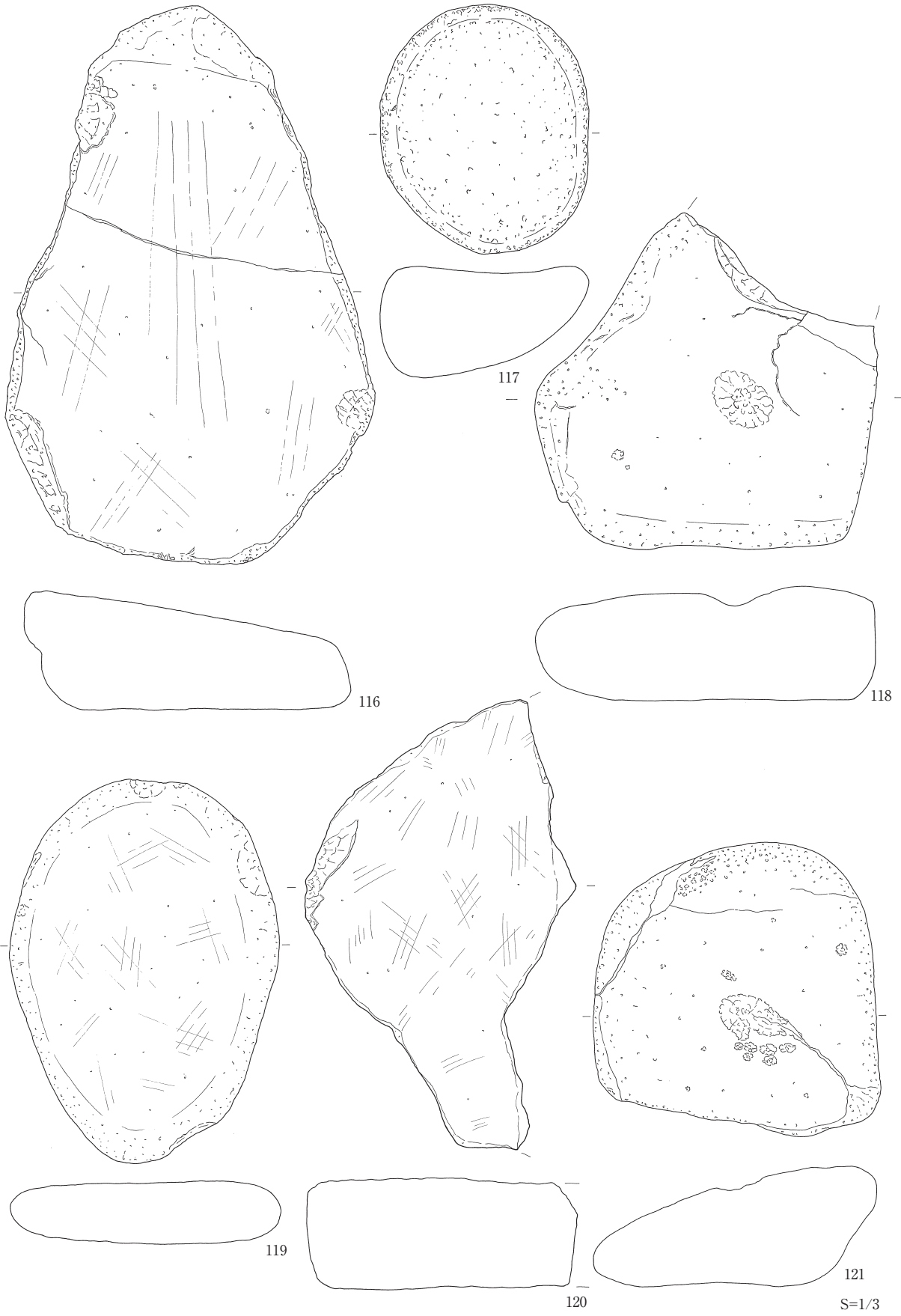
S=1/3

第66図 出土礫石器 (8)

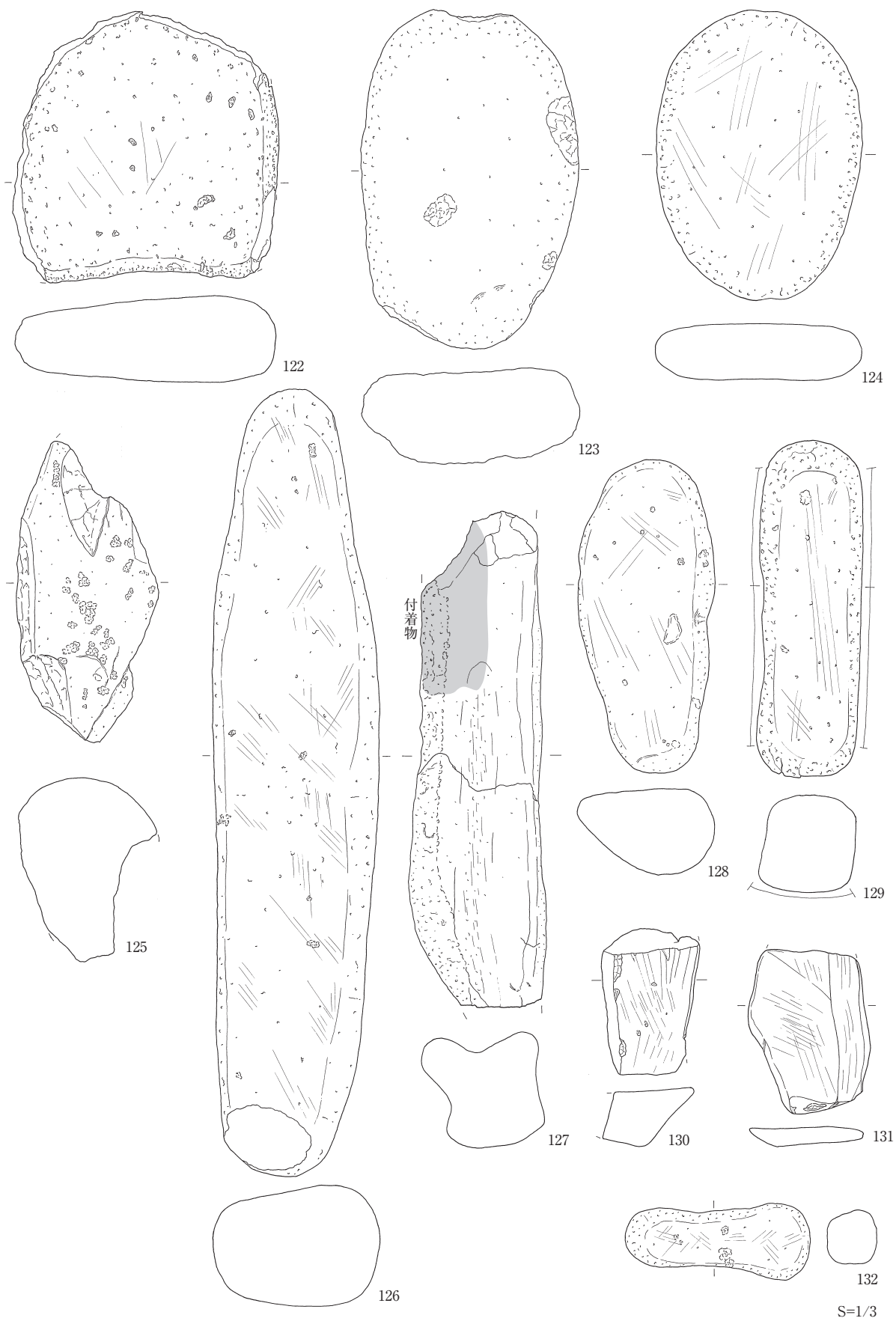


S=1/3

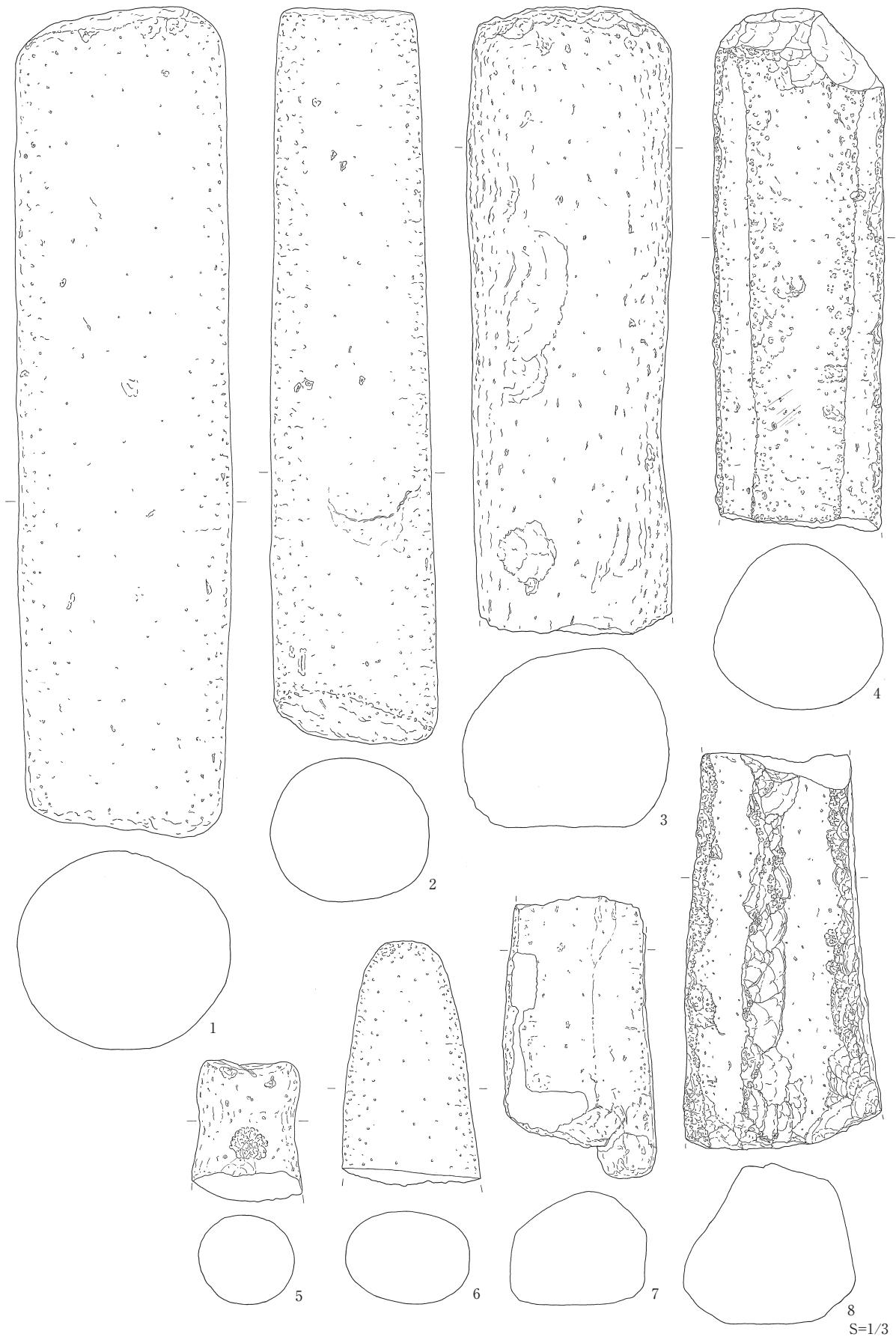
第67図 出土礫石器 (9)



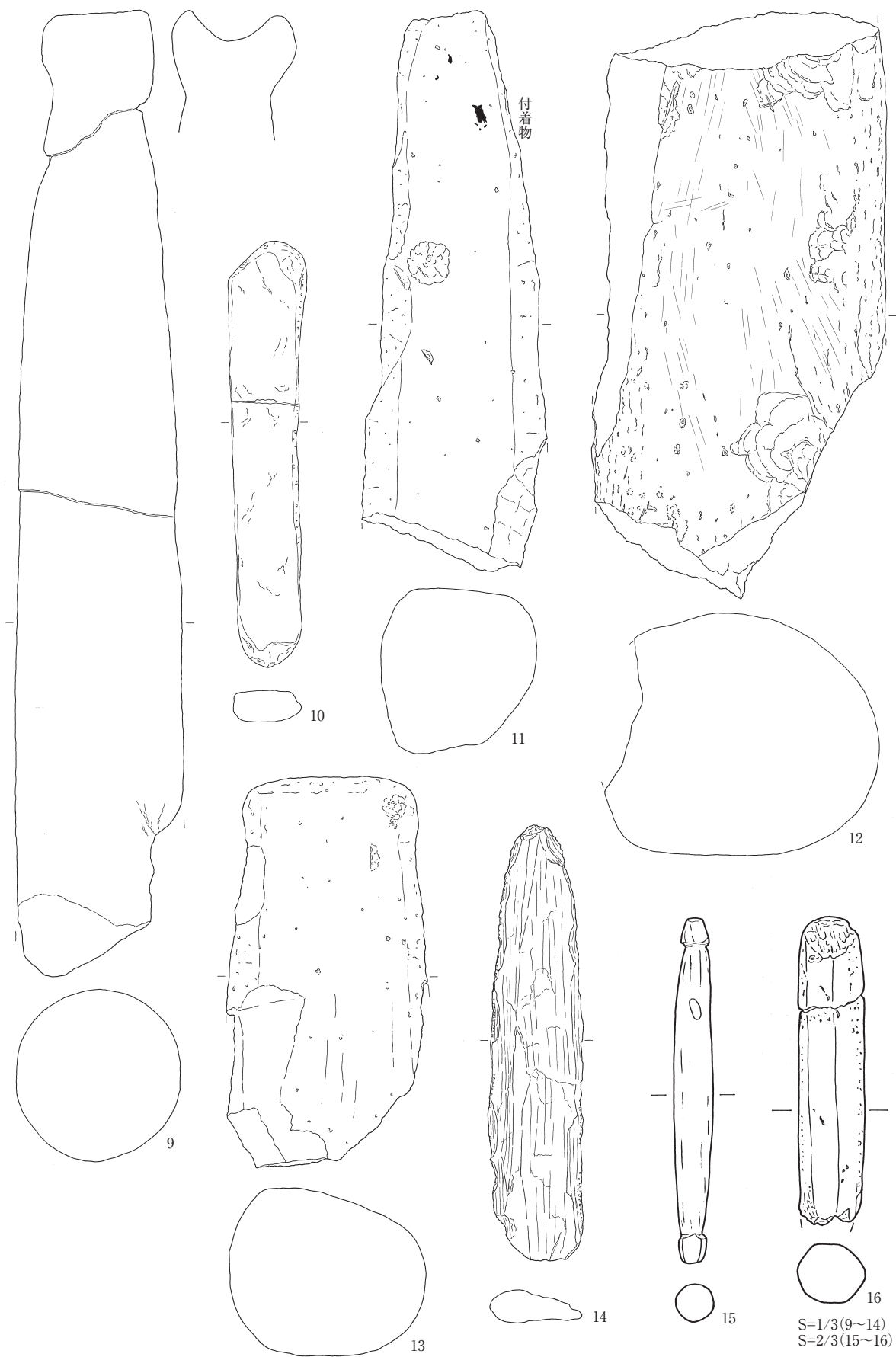
第68図 出土礫石器 (10)



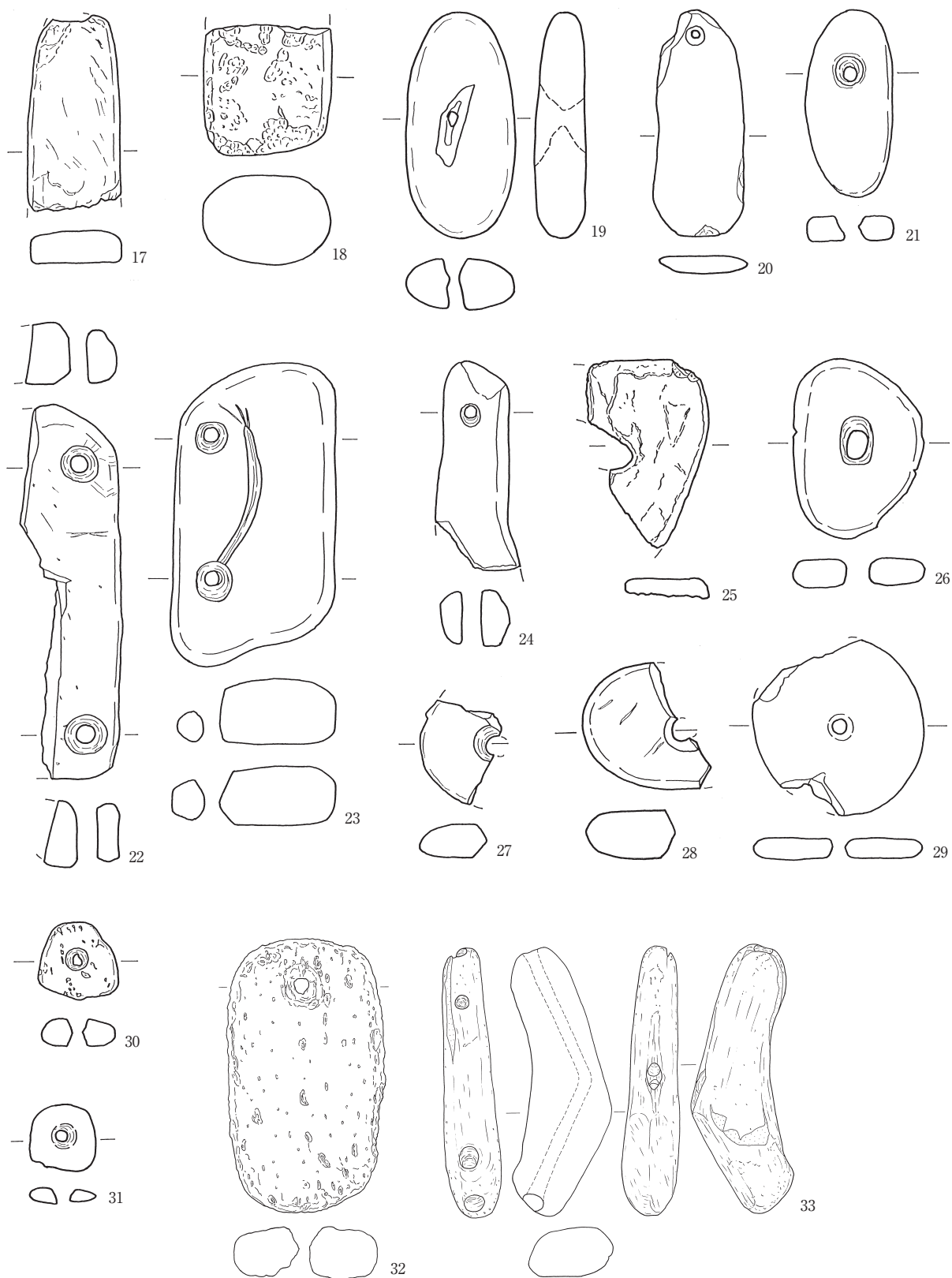
第69図 出土礫石器 (11)



第70図 出土石製品 (1)

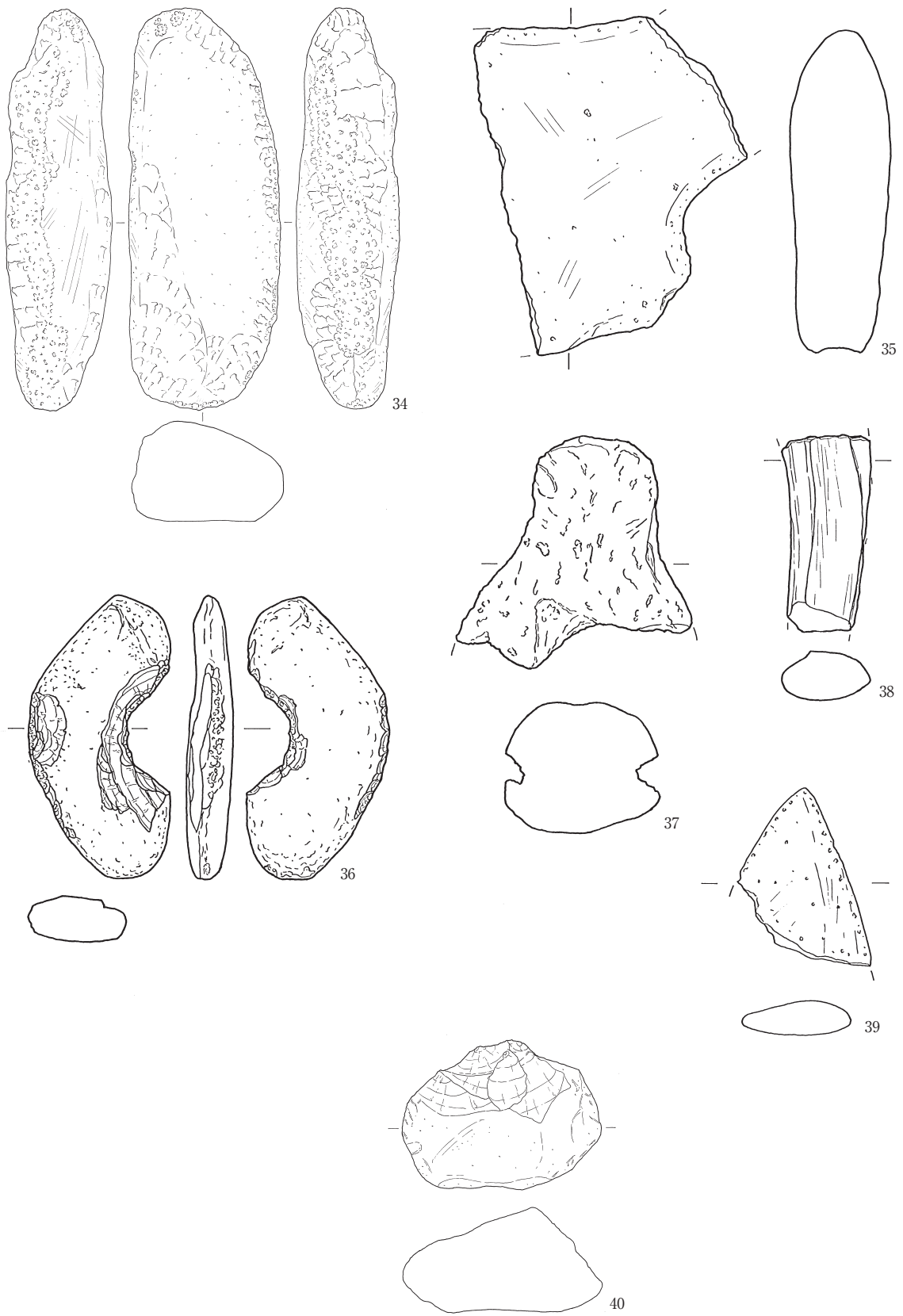


第71図 出土石製品 (2)



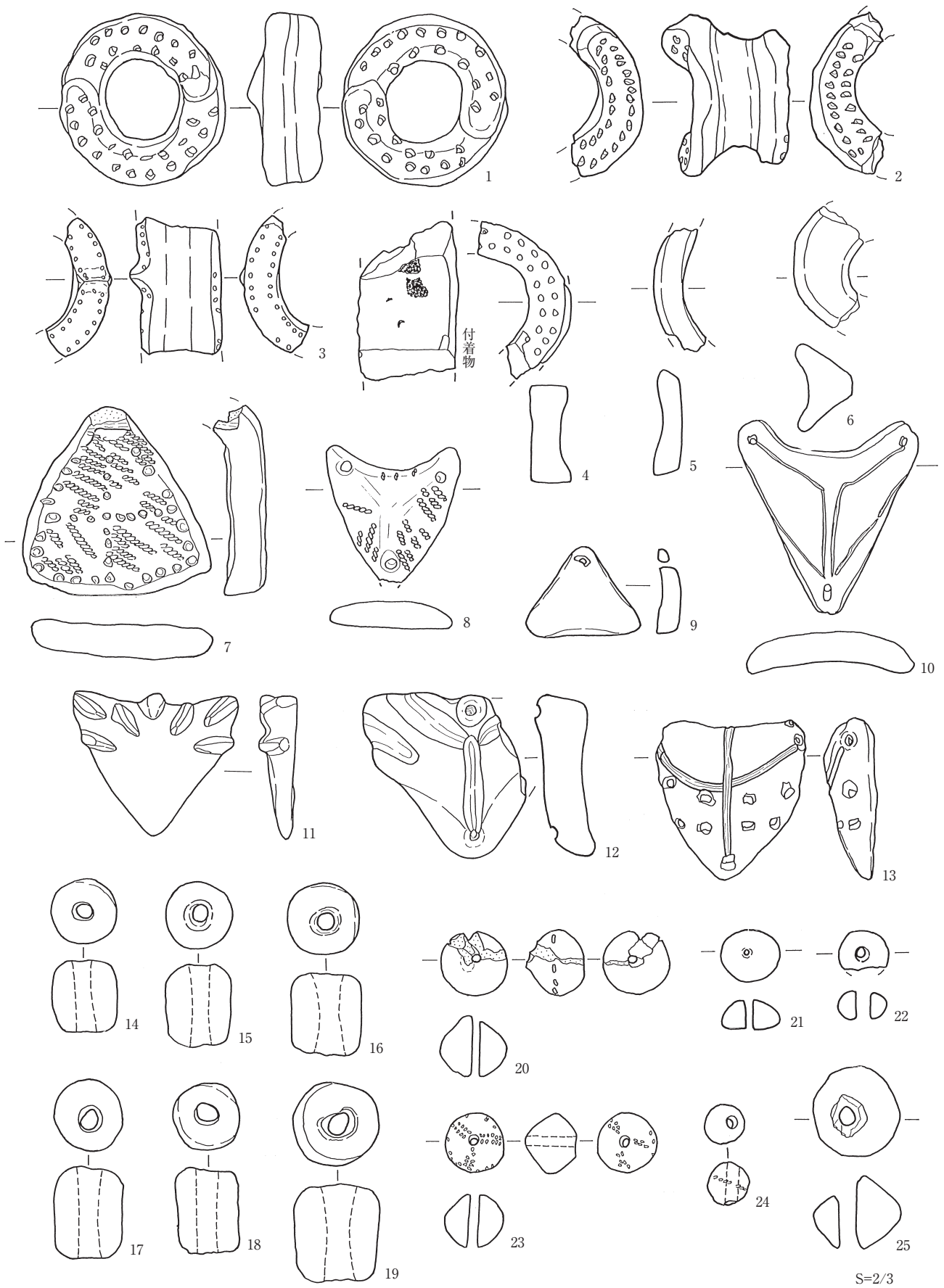
S=2/3(17~31)
 S=1/3(32~33)

第72図 出土石製品 (3)

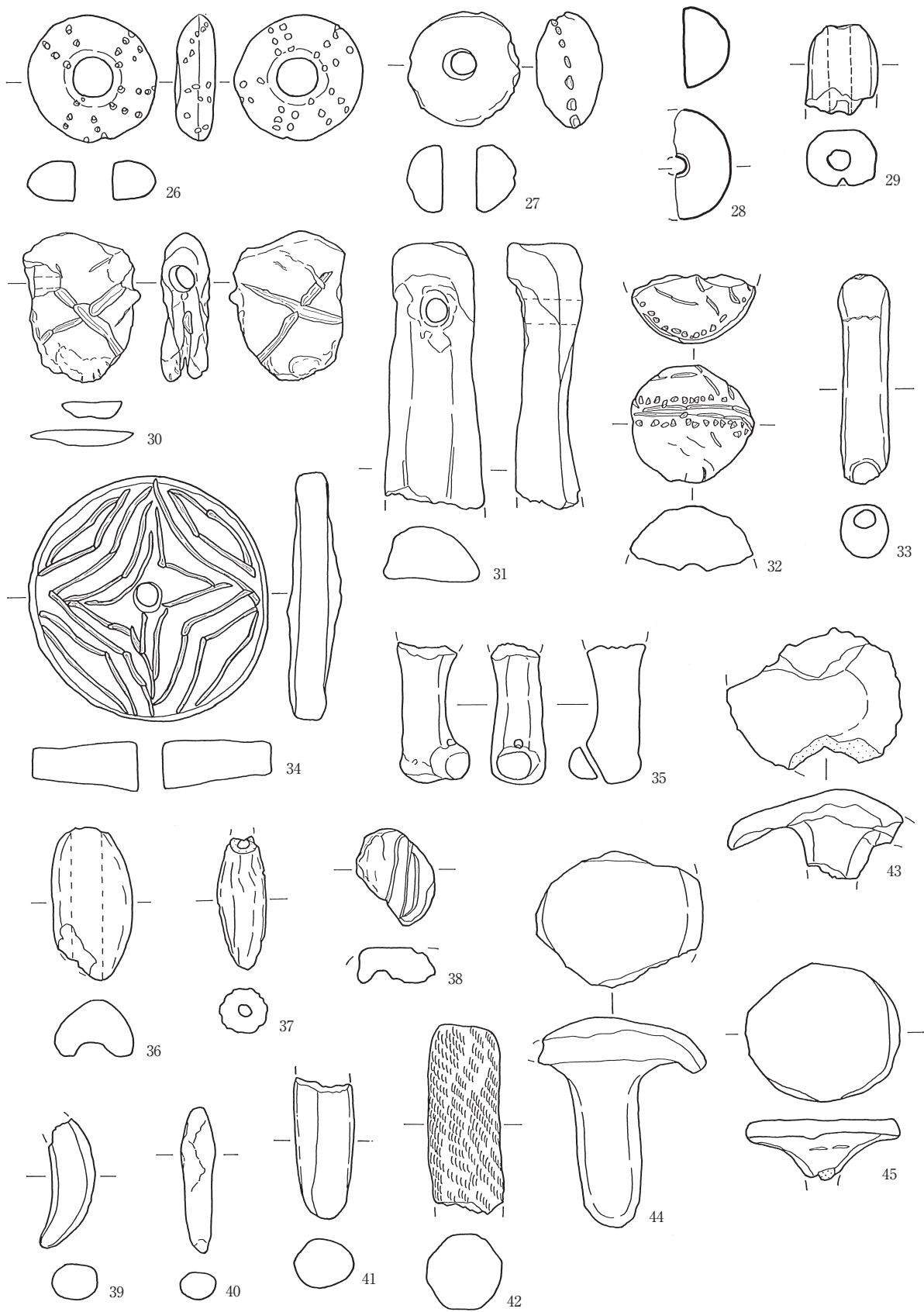


S=1/3(34,40)
 S=2/3(35~39)

第73図 出土石製品 (4)

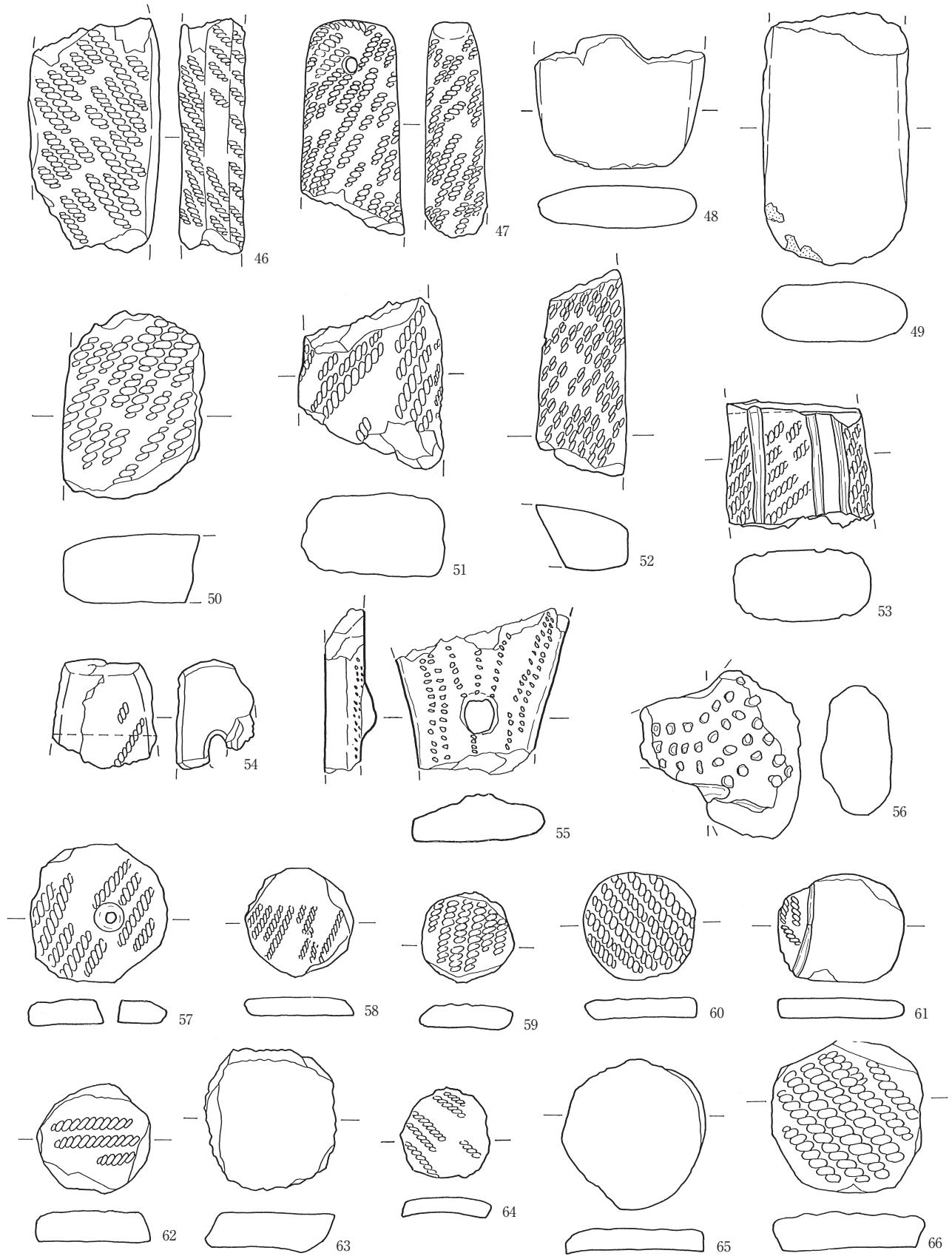


第74図 出土土製品 (1)



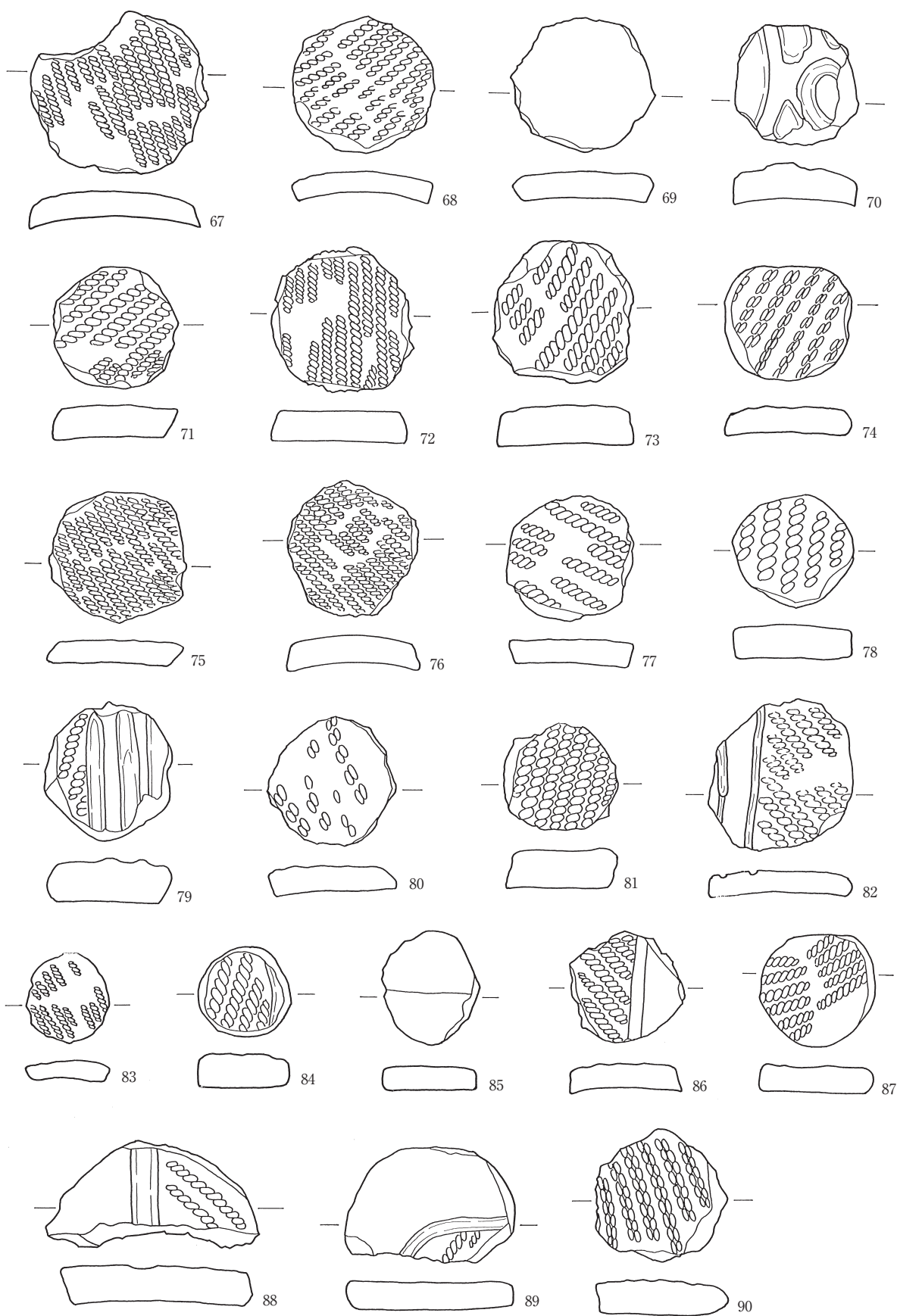
S=2/3

第75図 出土土製品 (2)



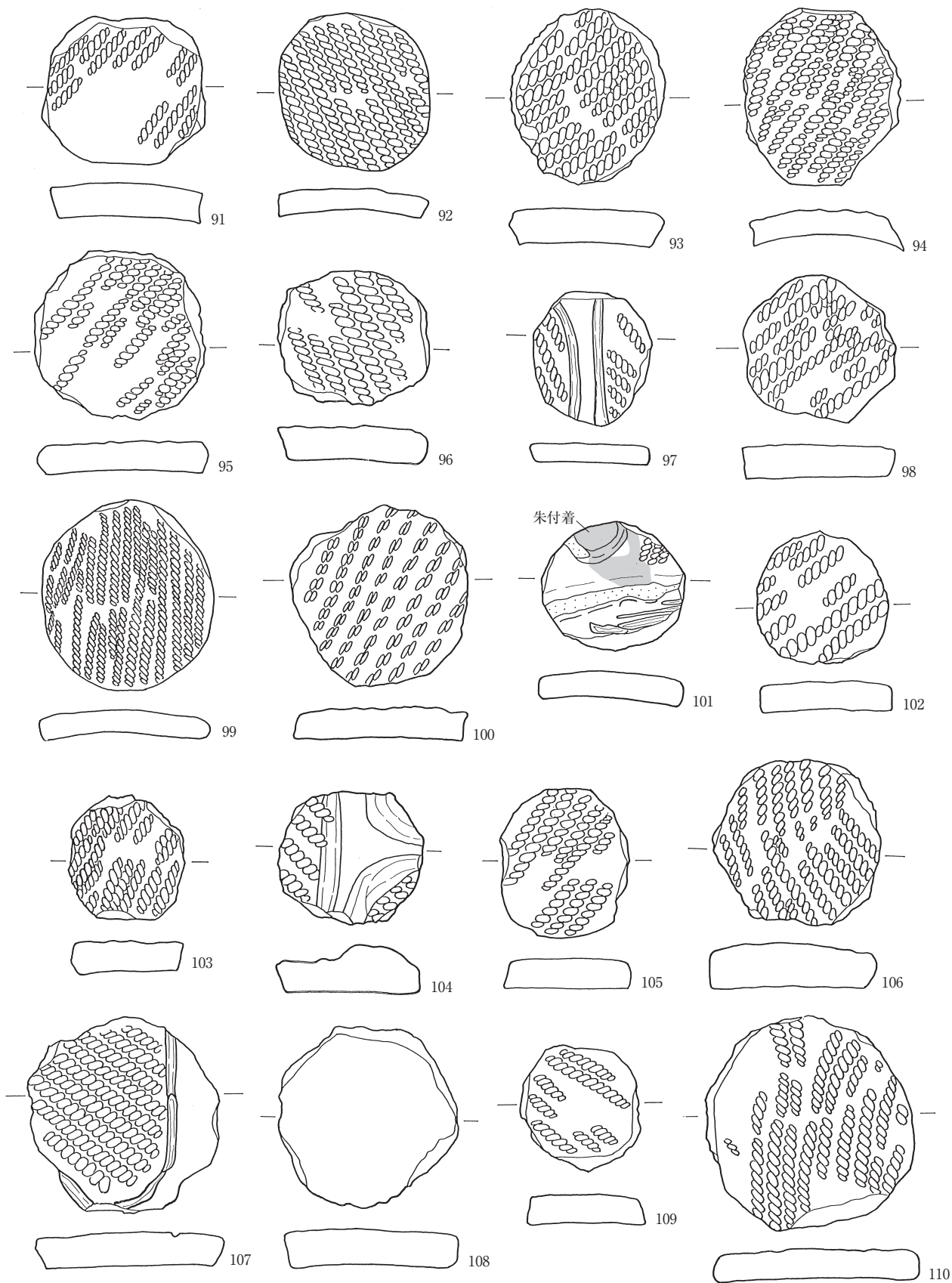
S=2/3

第76図 出土土製品 (3)



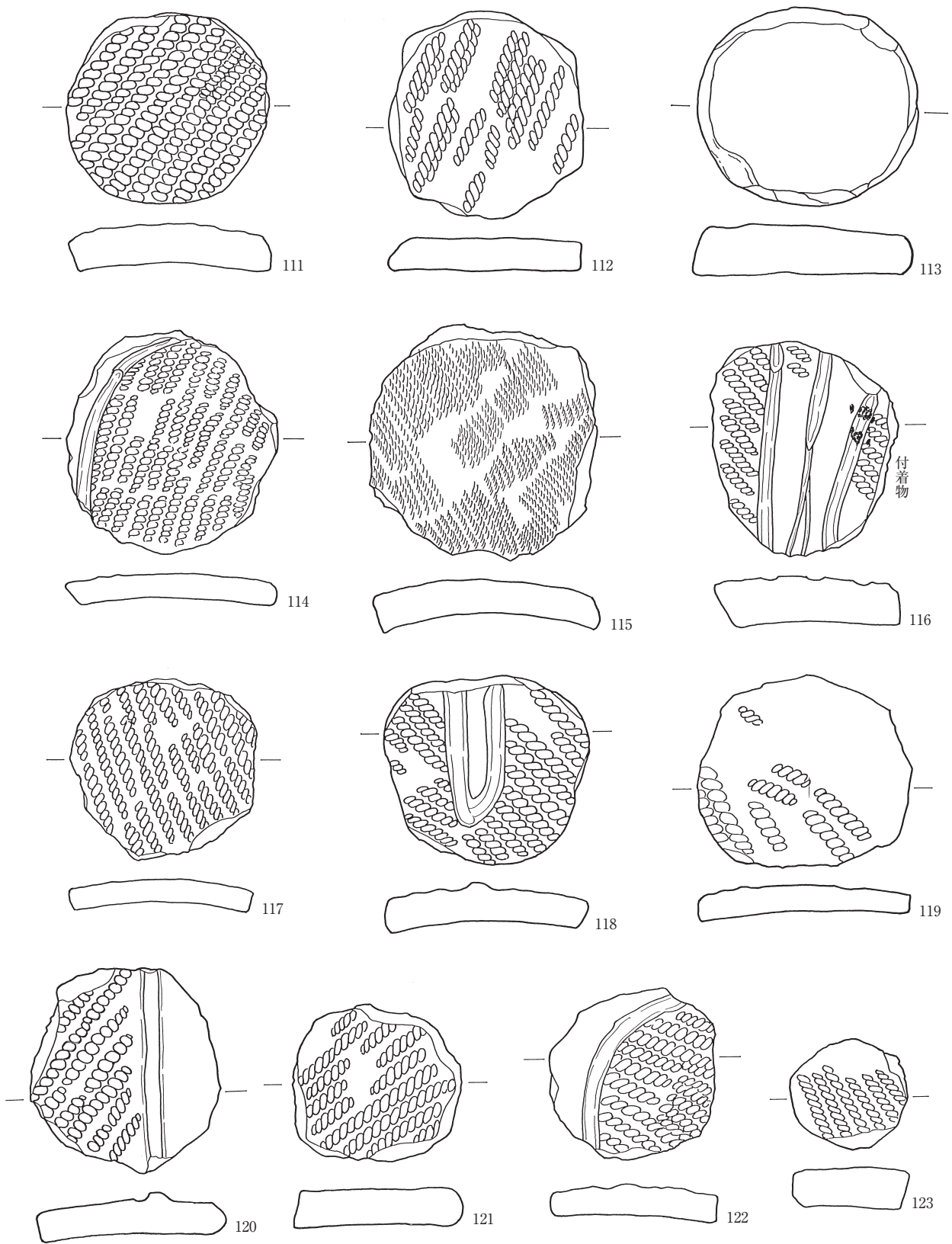
S=2/3

第77図 出土土製品 (4)



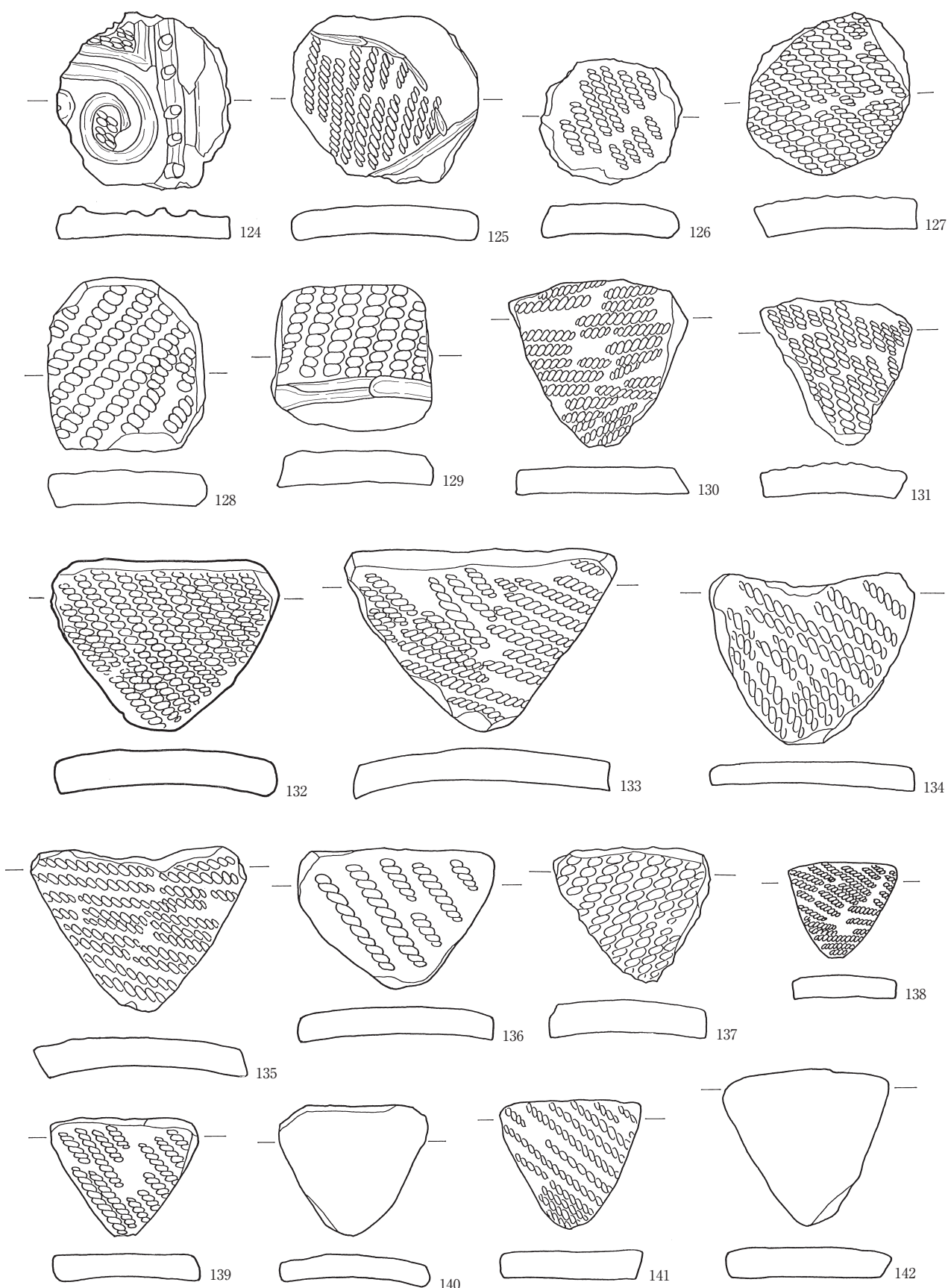
S=2/3

第78図 出土土製品 (5)



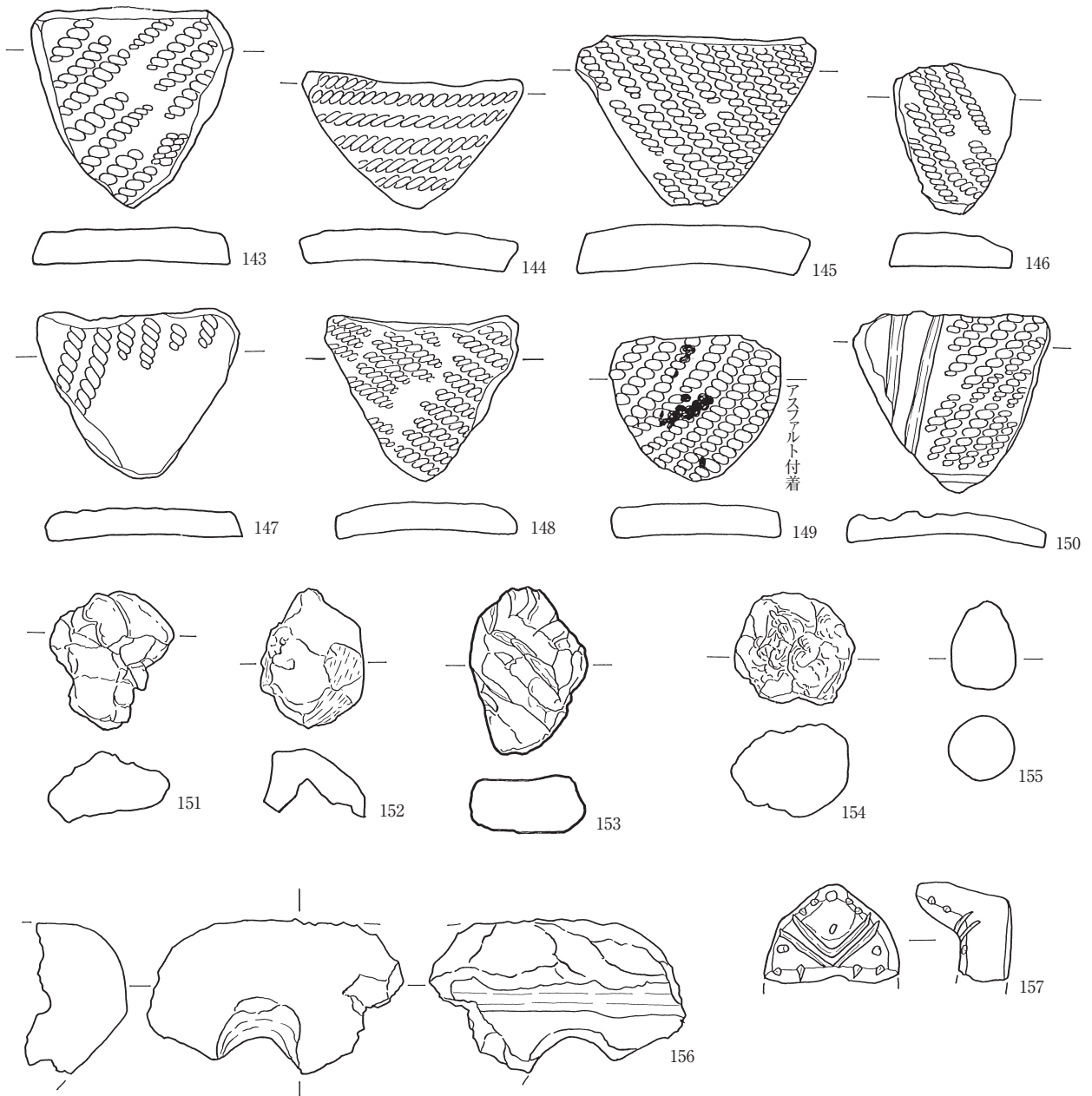
S=2/3

第79図 出土土製品 (6)

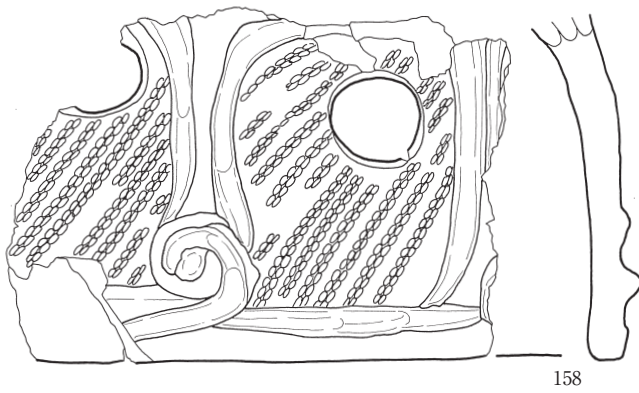


S=2/3

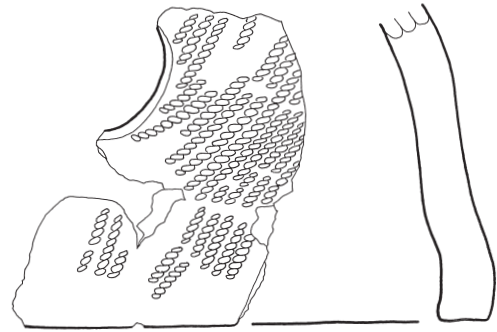
第80図 出土土製品 (7)



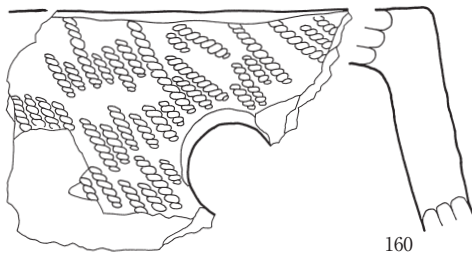
第81図 出土土製品 (8)



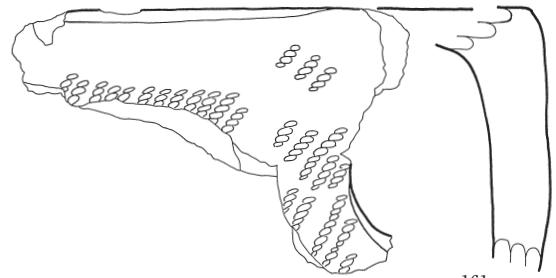
158



159



160



161

第82図 出土土製品 (9)



1

S=2/3

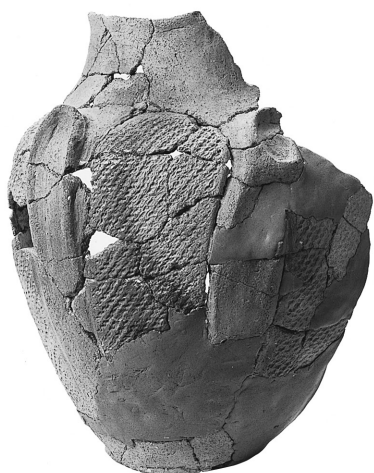
第83図 出土アスファルト

PL14 出土遺物(1)



土器(1)

PL15 出土遺物(2)



土器(2)

PL16 出土遺物(3)



土器(3)



土器(4)

PL18 出土遺物(5)

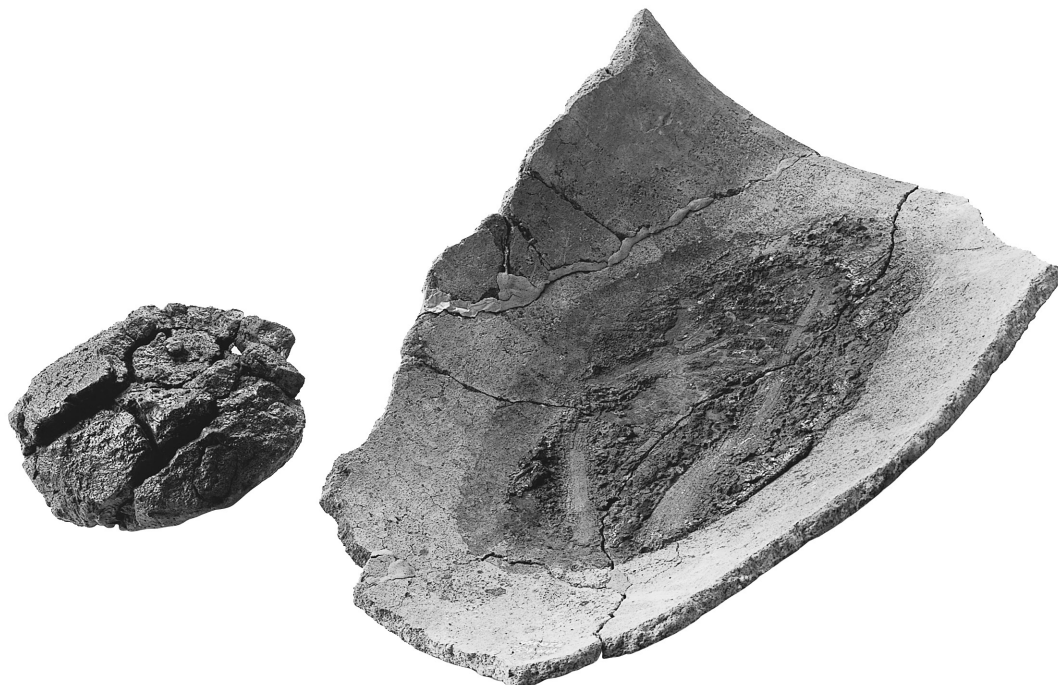


ミニチュア土器

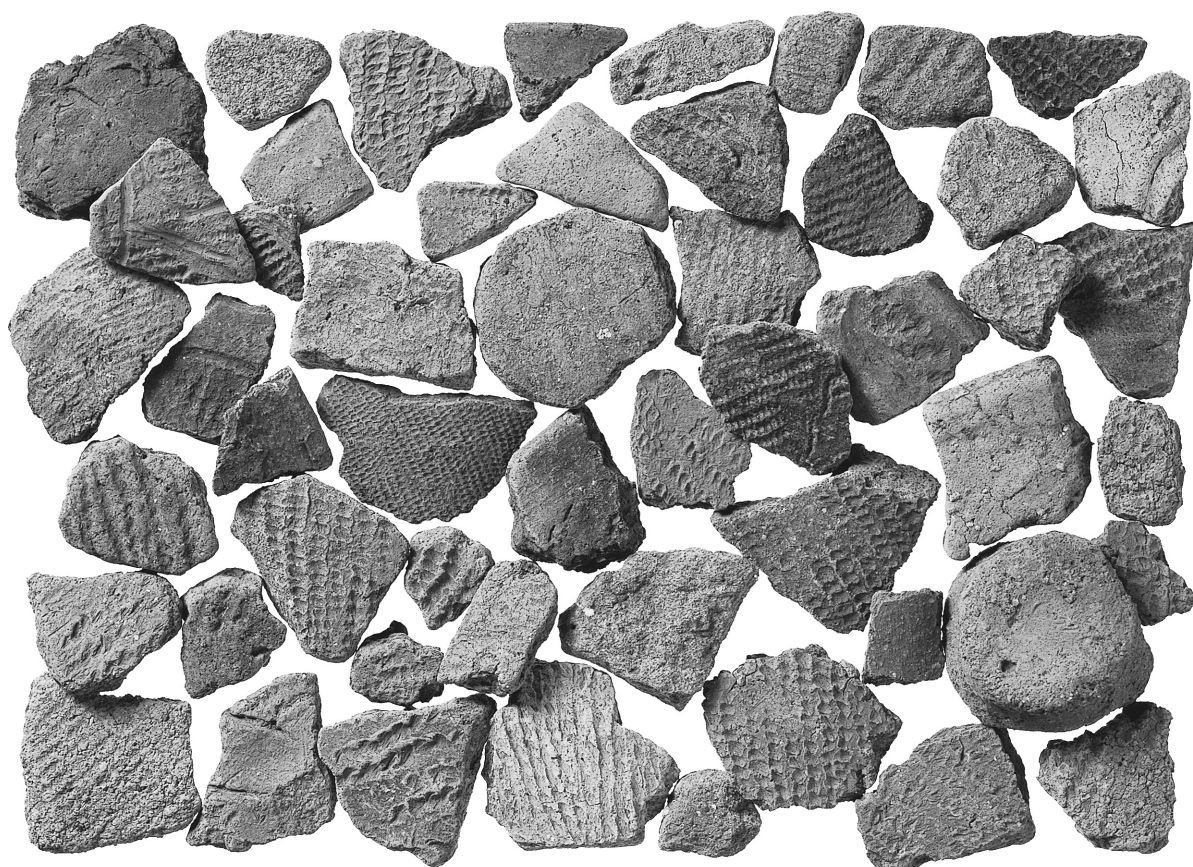


器台

PL19 出土遺物(6)

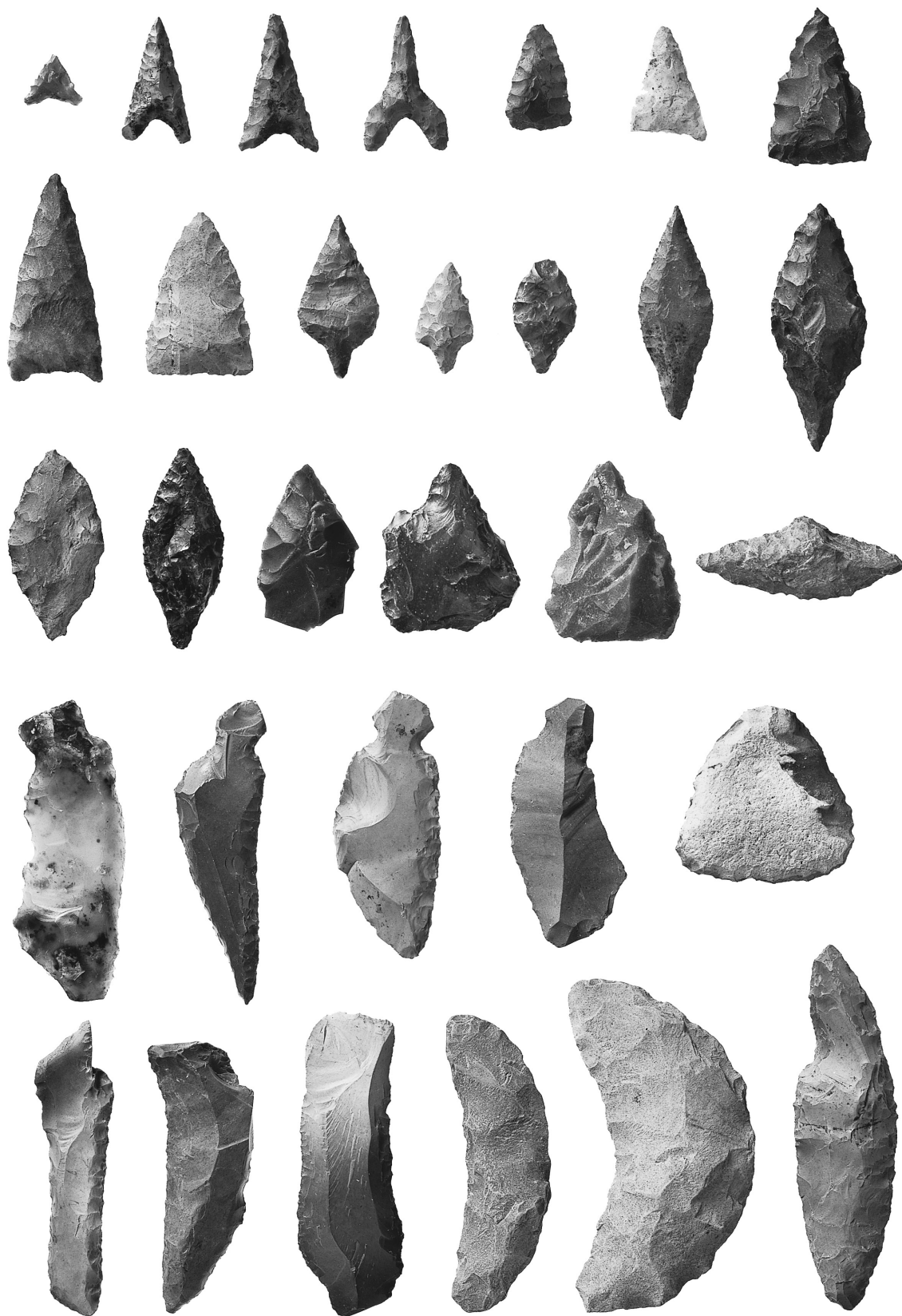


アスファルト塊・アスファルト付着土器片(パレット)



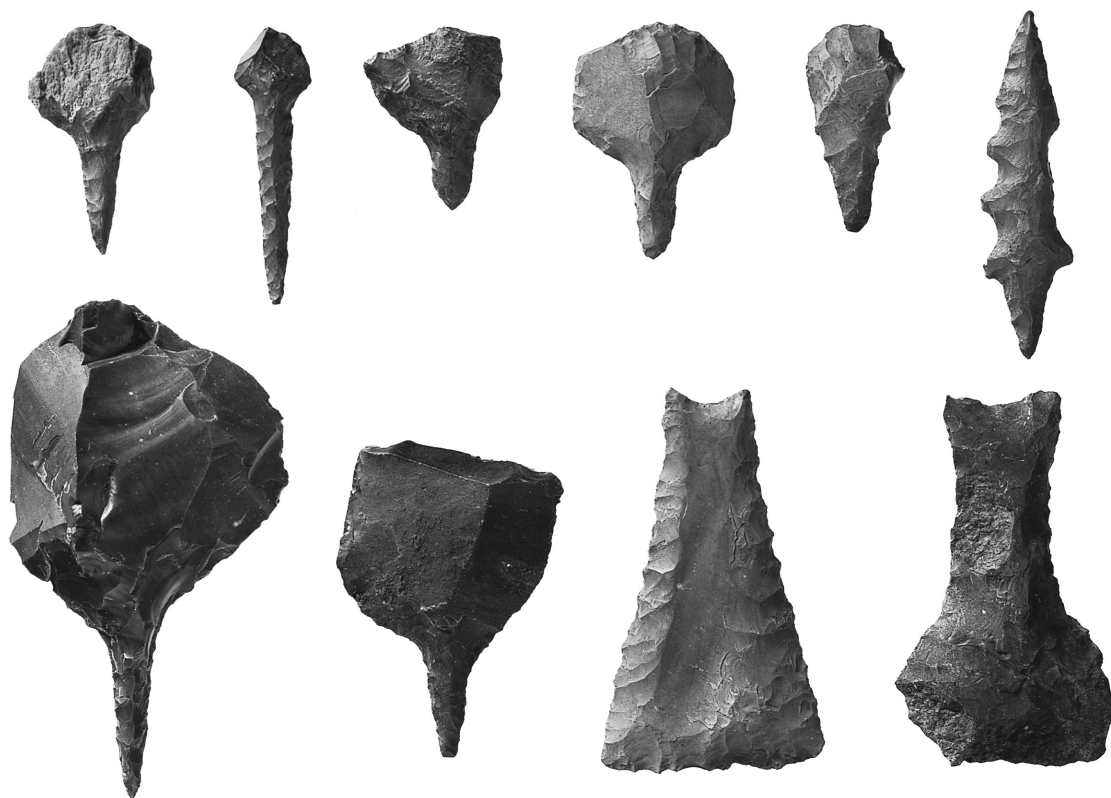
盛土層出土土器片

PL20 出土遺物(7)



剥片石器(1)

PL21 出土遺物 (8)



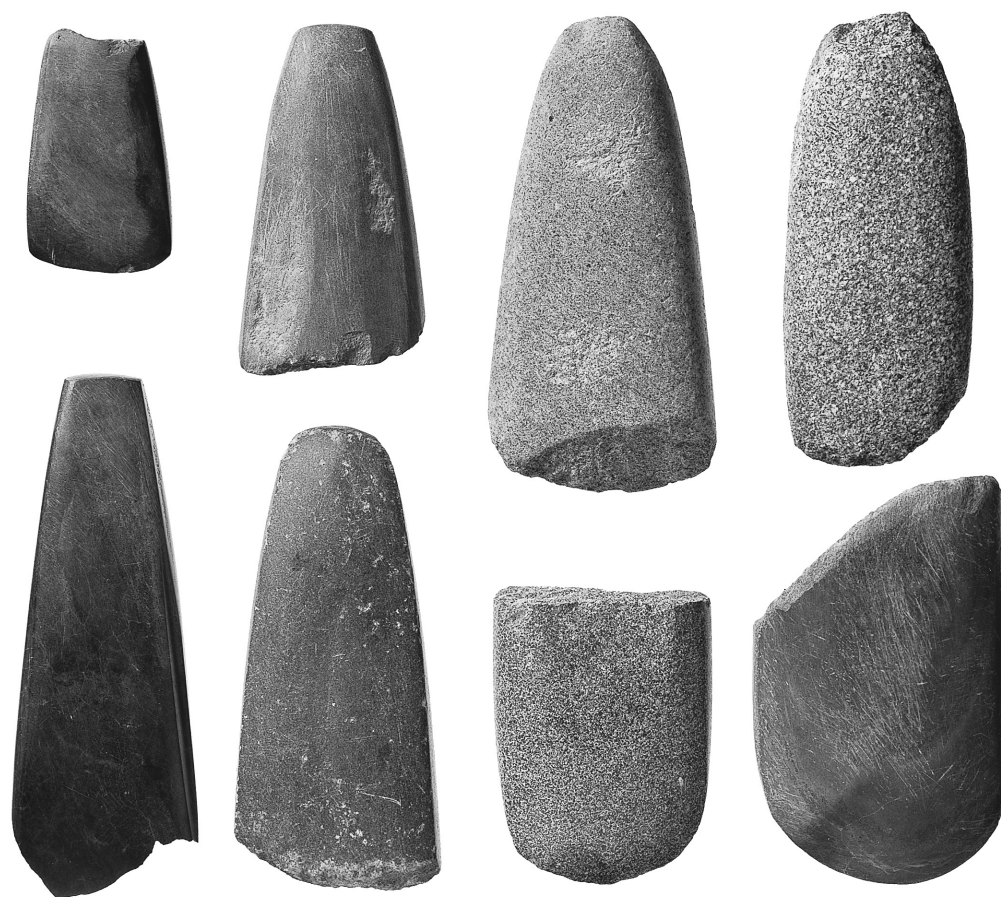
剥片石器 (2)



磨石類



小型磨製石斧



磨製石斧



石 皿



台 石



砥石



石棒類(1)

PL25 出土遺物 (12)



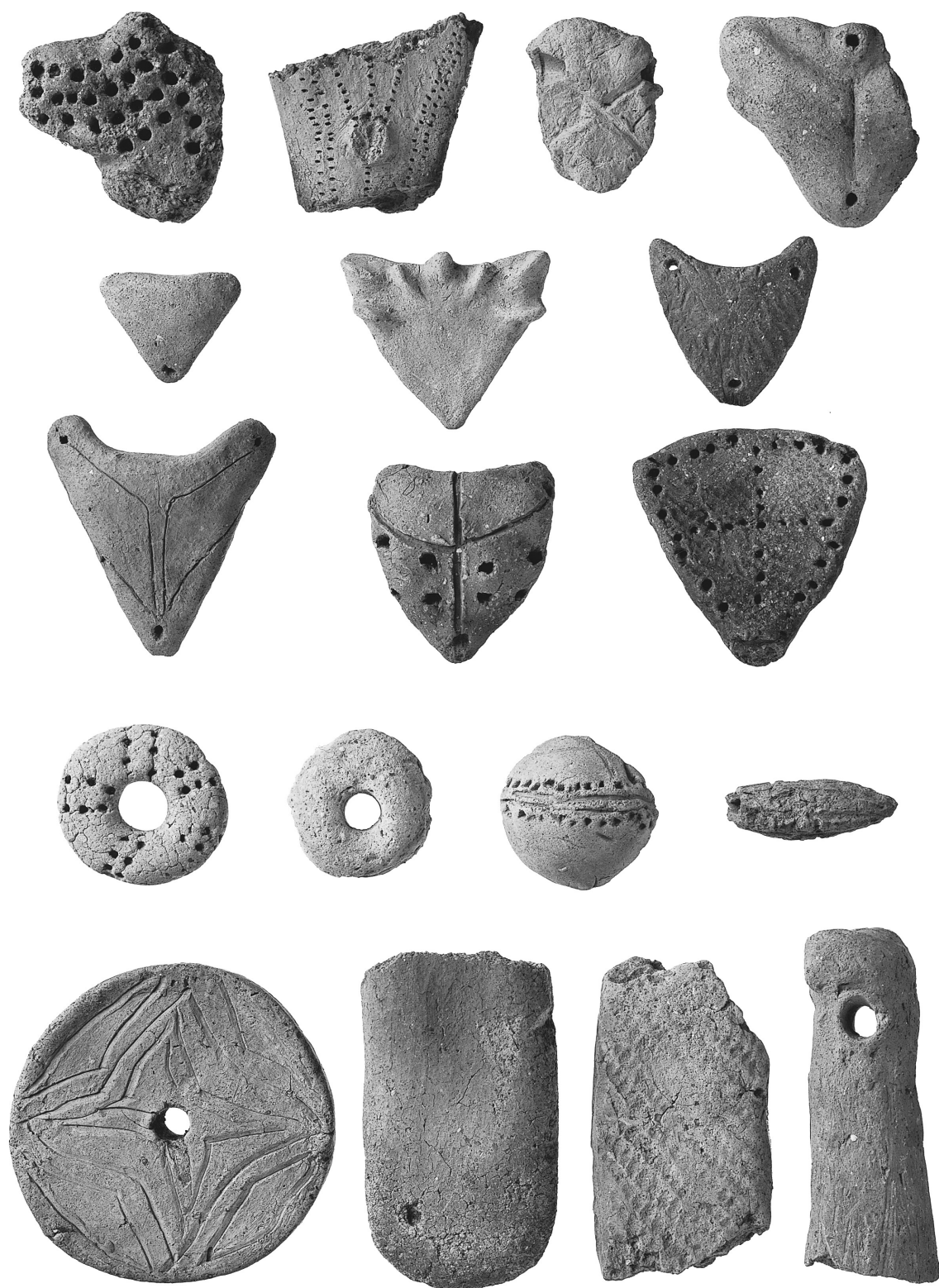
石製品



石棒類 (2)

土製品 (1)

PL26 出土遺物 (13)

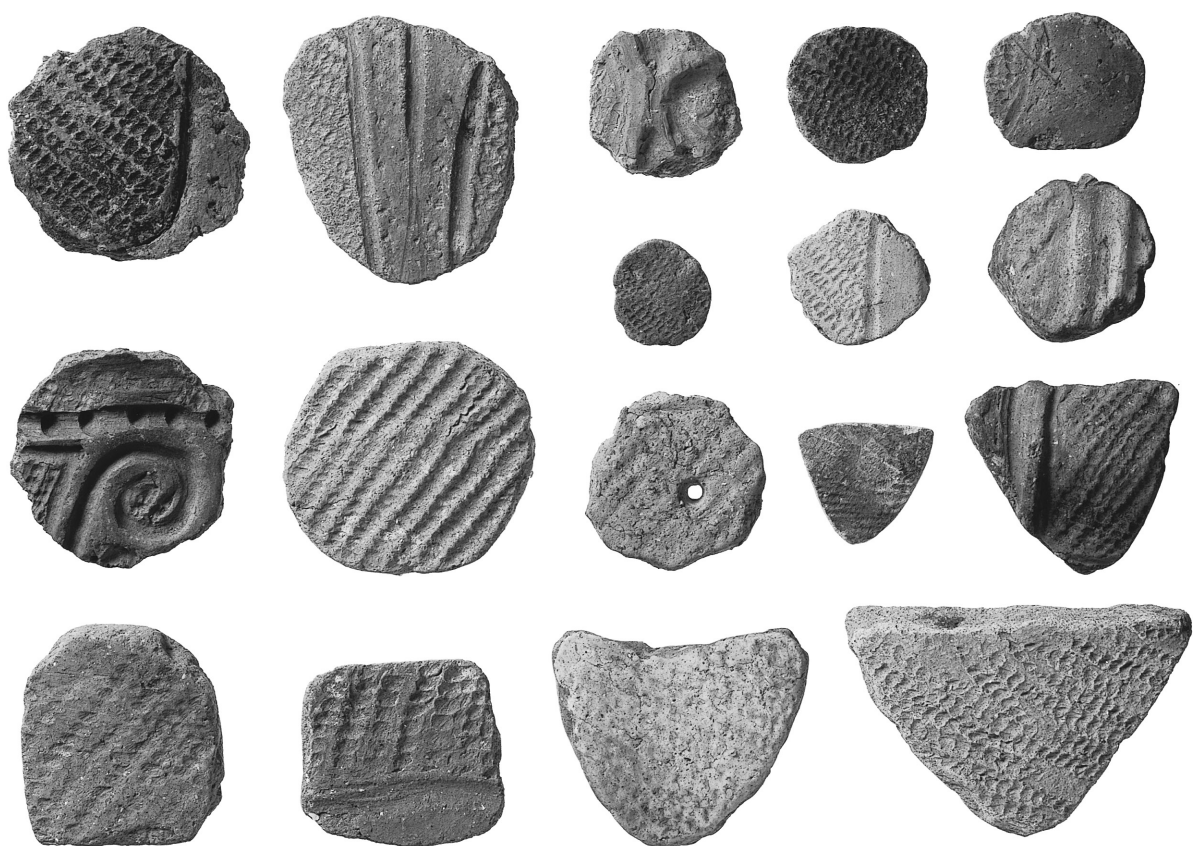


土製品 (2)

PL27 出土遺物(14)



土製品(3)



土製品(4)

出土遺物観察表

(1) 土器

No	図版番号	調査区	出土地点	出土No	層位	分類	実測(cm)			備考
							高さ	口径	厚さ	
1	37図-1	II b	FC48-01住	P-1		II A群	—	25.7	0.9	
2	37図-2	II b	FC48-01住 埋設炉			II A群	—	—	0.8	
3	37図-4	II a	FA54-01住 炉			III B群	14.0	—	1.0	
4	37図-5	II b	FE50-12土坑		29層	III B群	—	—	0.8	
5	37図-3	II b	FC50-02住	P-2		III B群	(44.0)	(26.3)	1.0	
6	37図-7	V	FG64-04住	P-3		IV群	—	—	1.0	
7	37図-6	II b	FB50-01土坑	P-1		IV群	—	—	0.8	
8	37図-8	V	FG62-04住	P-2		IV群	15.1	—	0.7	
9	38図-15	V	FH60-03住	P-3		IV群	17.5	—	0.6	
10	38図-11	V	FH62-03住	No5		IV群	—	—	0.4	
11	38図-9	V	FG64-02土坑			IV群	36.3	—	0.9	
12	38図-12	V	FG64-05住	P-3		IV群	31.5	—	0.8	
13	38図-13	V	FH60-03住	P-2		IV群	—	—	1.1	
14	38図-10	V	FH62-03住	P-14	2層	IV群	—	—	1.0	
15	38図-14	II b	FD48-01住	P-11		IV群	25.0	—	0.6	
16	39図-16	II b	FE48-01住	P-2		IV群	20.2	—	1.0	
17	39図-17	III	EI44-01住		1層	IV群	—	—	0.5	
18	39図-18	V	FH62-03住		1層	IV群	12.6	—	0.5	
19	39図-22	V	FH62-03住 周溝	P-15		IV群	—	—	0.5	
20	39図-20	II b	FB50-01土坑			IV群	—	—	1.2	
21	39図-23	III	北側トレンチ	P-1		IV群	—	—	1.4	
22	39図-19	V	FG62-01住			IV群	—	—	0.9	
23	39図-24	V	FH62-03住	P-5		IV群	—	—	0.4	
24	39図-21	V	FH62-03住	P-11		IV群	—	—	0.3	
25	39図-25	V	FH62-03住 炉			IV群	—	—	0.5	
26	39図-26	II a	FA52-04住			V群	17.5	—	0.5	
27	39図-27	II a	FB54-02住	P2	床上	V群	—	—	0.6	
28	40図-28	V	FJ60-01住	P1		V群	—	30.8	1.0	
29	40図-29	II a	FC58-01住	No1		V群	—	—	0.6	
30	40図-35	V	FG62-05住	P-5		V群	15.8	—	0.5	
31	40図-34	V	FI62-01住		4層	V群	—	—	0.5	
32	40図-30	V	FJ58-01住	P-4		V群	7.1	—	0.5	
33	40図-33	II a	FC58-01住	No1		V群	—	—	0.7	朱付着
34	40図-31	V	FJ60-01住		3層	V群	—	—	0.6	
35	41図-40	II b	FE48-01住	No3		VI群	—	—	1.0	
36	40図-37	II b	FC50-02住	P-1		VI群	—	13.8	0.6	
37	40図-32	II a	FC58-29	P-4		VI群	20.0	—	0.5	
38	40図-39	V	FG62-04住	P-3		VI群	8.5	—	0.6	
39	40図-38	V	FG62-05住	P-2		VI群	8.8	—	0.5	
40	40図-36	V	FH62-03住	P-13	2層	VI群	8.6	8.2	0.3	
41	41図-43	V	FH60-03住	P-5		VI群	6.4	—	0.5	
42	41図-42	II a	FE54-01住	No1		VI群	—	—	0.8	アスファルトのパレット
43	41図-45	III	EI44-01住		1層	VI群	6.1	—	0.5	
44	41図-44	V	FH60-03住	P-1		VI群	—	—	0.5	
45	41図-47	V	FJ58-01住	P-1	2層	VI群	9.0	—	0.5	
46	41図-41	II a	FB54-01住	P-2		VI群	—	—	0.5	
47	41図-51	II a	FB54-02住	P-1	床上	VI群	—	—	1.0	
48	41図-49	II b	FB52-04住	P-2		VI群	—	—	0.8	
49	41図-46	II b	FD48-01住	P-1		VI群	—	—	0.8	
50	41図-48	II b	FD48-01住	P-3		VI群	—	—	0.4	
51	41図-50	V	FJ58-01住	P-2		VI群	—	—	0.6	
52	42図-52	II b	FC48-01住			II A群			1.2	No52~No238までは拓本
53	42図-53	II b	FC48-01住		1層	II A群			1.7	
54	42図-54	IV	54-3			II A群			0.9	
55	42図-55	II a	FD60-9	P-3		II A群			0.6	
56	42図-56	II a	FC60-01住			II A群			0.7	

No	図版番号	調査区	出土地点	出土No	層位	分類	実測(cm)			備考
							高さ	口径	厚さ	
57	42図-57	II b	FC52-17			II A群			1.4	
58	42図-58	IV	45-3			II A群			10.0	
59	42図-59	IV	45-10			II A群			0.6	
60	42図-60	II b	FD50-01住			II A群			1.1	
61	42図-61	II b	FD50住			II A群			0.8	
62	42図-62	III	EI44-01住		1層	II A群			0.8	
63	42図-63	III	EI44-01住		1層	II A群			0.7	
64	42図-64	II b	FD50-01住			II A群			1.1	
65	42図-65	II b	FD50-01住			II A群			0.9	
66	42図-66	II a	FB56-02住			II A群			0.8	
67	42図-67	III	EI44-01住		3層	II A群			10.0	
68	42図-68	II a	FB56-02住			III A群			1.2	
69	43図-69	II b	FC48-01土坑		5層	III A群			0.9	
70	43図-70	II b	FE50-05土坑		2層	III A群			0.6	
71	43図-71	II a	FB54-01住			III A群			10.0	
72	43図-72	V	FG64-05住			III A群			1.1	
73	43図-73	II a	FE54-01住		上層	III A群			10.0	
74	43図-74	II a	FB56-01住	No1		III B群			0.5	
75	43図-75	II a	FE54-01住	No4		III B群			1.1	
76	43図-76	II b	FB52-01土坑			III B群			10.0	
77	43図-77	V	FH60-01土坑			III B群			10.0	
78	43図-78	IV	FH48-3			III B群			0.7	
79	43図-79	II b	FE50-12土坑			III B群			10.0	
80	43図-80	II b	FG52-10			III B群			1.1	
81	43図-81	V	FI62-04土坑		I層	III B群			0.4	
82	43図-82	II b	FD48-01住			III B群			0.5	
83	43図-83	V	FH62-03住		2層	III B群			0.6	
84	44図-84	II b	FD48-01住			III B群			1.2	
85	44図-85	II b	FD50-01住			III B群			1.2	
86	44図-86	II b	FF48-02土坑		1層	III B群			0.4	
87	44図-87	II b	FF48-02土坑		1層	III B群			1.1	
88	44図-88	II b	FC52-4			III B群			0.8	
89	44図-89	III	EJ44		CL	III B群			0.7	
90	44図-90	V	FH62-04住	No1		III B群			0.7	
91	44図-91	II b	FB48-01住		1層	III B群			10.0	
92	44図-92	II b	FC52-1			III B群			0.9	
93	44図-93	II b	FC52-14			III B群			0.8	
94	44図-94	V	FI60-09土坑			III B群			0.8	
95	44図-95	III	EI42グリット		CL	III B群			0.6	
96	44図-96	IV	FI46-4			III B群			0.6	
97	44図-97	II a	FB56-01住		3層上	III B群			0.4	
98	44図-98	II b	FC56-32			III B群			0.6	
99	44図-99	II b	FC50-02住			III B群			0.5	
100	44図-100	III	FH42-02住		1層	III B群			0.8	
101	44図-101	II b	FE50-12土坑			III B群			10.0	
102	44図-102	II b	FE50土坑			III B群			0.9	
103	44図-103	V	FI62-04土坑		床	III B群			1.1	
104	44図-104	V	FG62-04住		1層	III B群			10.0	
105	45図-105	III	EI44-01住		1層	III B群			0.9	
106	45図-106	II a	FA54-01住 炉			III B群			10.0	
107	45図-107	V	FG64-05住 炉			III B群			0.8	
108	45図-108	II b	FB52-03住			III B群			0.7	
109	45図-109	II b	FF48土坑、土坑2		1層	III B群			1.1	
110	45図-110	IV	1-5			III B群			0.7	
111	45図-111	V	FH62-04住	No1		III B群			0.8	
112	45図-112	IV	83-20			III B群			10.0	
113	45図-113	V	FG64-05住 炉			III B群			0.7	
114	45図-114	V	FH62-04住	No1		III B群			0.8	
115	45図-115	V	FG64-05住			III B群			0.8	
116	45図-116	II b	FC50-02住			III B群			0.9	

No	図版番号	調査区	出土地点	出土No	層位	分類	実測(cm)			備考
							高さ	口径	厚さ	
117	45図-117	V	FJ60-03土坑			ⅢB群			0.7	
118	45図-118	V	FI60-09土坑			ⅢB群			10.0	
119	45図-119	Ⅳ	11-12			ⅢB群			0.9	
120	45図-120	V	FH62-01住	No.1		ⅢB群			0.9	
121	45図-121	Ⅱb	FC52-4			ⅢB群			0.7	
122	45図-122	V	FI60-06土坑			ⅢB群			0.8	
123	45図-123	V	FG64-04住	No.1		ⅢB群			0.8	
124	45図-124	V	FG64-05住	No.3		ⅢB群			0.9	
125	45図-125	Ⅳ	12-5			ⅢB群			0.4	
126	45図-126	V	FG64-05住		柱穴3	ⅢB群			0.4	
127	45図-127	V	FI60-09土坑			ⅢB群			0.7	
128	45図-128	Ⅱb	FB50-18			ⅢB群			0.8	
129	46図-129	V	FG64-05住	No.5		ⅢB群			0.9	
130	46図-130	Ⅱb	FB52-34			ⅢB群			0.7	
131	46図-131	V	FG62-04住			Ⅳ群			0.5	
132	46図-132	V	FH62-03住		1層	Ⅳ群			0.6	
133	46図-133	V	FH62-03住		1層	Ⅳ群			0.5	
134	46図-134	V	FH62-04住	No.1		Ⅳ群			0.9	
135	46図-135	Ⅲ	EI44-01住		3層	Ⅳ群			0.4	
136	46図-136	Ⅲ	EI42グリット		CL	Ⅳ群			0.4	
137	46図-137	Ⅱb	FA50-01住		5層	Ⅳ群			0.7	
138	46図-138	Ⅲ	EJ40		CL	Ⅳ群			0.5	
139	46図-139	Ⅳ	1-6			Ⅳ群			0.6	
140	46図-140	Ⅲ	EI44-01住		3層	Ⅳ群			0.6	
141	46図-141	V	柱192			Ⅳ群			0.6	
142	46図-142	V	FG62-05住		1層	Ⅳ群			0.4	
143	46図-143	V	FH62-03住		2層	Ⅳ群			0.5	
144	46図-144	V	柱148			Ⅳ群			0.8	
145	46図-145	Ⅱb	FC52-10			Ⅳ群			0.4	
146	46図-146	V	FG62-03住			Ⅳ群			0.7	
147	46図-147	Ⅱb	FE48-01住	No.1		Ⅳ群			0.8	
148	46図-148	V	FG62-04住			Ⅳ群			0.5	
149	46図-149	V	柱157			Ⅳ群			0.4	
150	46図-150	V	柱163			Ⅳ群			0.7	
151	46図-151	V	FG62-02住			Ⅳ群			0.6	
152	46図-152	Ⅲ	EI42-01住		1層	Ⅳ群			0.9	
153	46図-153	V	FI60-02住		3層	Ⅳ群			0.6	
154	46図-154	V	FJ60-06土坑			Ⅳ群			0.6	
155	47図-155	Ⅲ	EI44住	No.2		Ⅳ群			0.6	
156	47図-156	V	柱164			Ⅳ群			0.6	
157	47図-157	V	FG64-01住		1層	Ⅳ群			0.8	
158	47図-158	V	柱155			Ⅳ群			0.6	
159	47図-159	V	柱157			Ⅳ群			0.5	
160	47図-160	Ⅲ	FH42-02住		1層	Ⅳ群			0.4	
161	47図-161	V	FI60-02住		3層	Ⅳ群			0.5	
162	47図-162	V	FH62-03住		2層	Ⅳ群			0.9	
163	47図-163	V	FG62-04住			Ⅳ群			0.5	
164	47図-164	Ⅱa	FB50-01土坑			Ⅳ群			0.8	
165	47図-165	Ⅱb	FB52-7			Ⅳ群			0.8	
166	47図-166	V	FG62-04住			Ⅳ群			0.6	
167	47図-167	V	FH62-03住		1層	Ⅳ群			0.5	
168	47図-168	Ⅱb	FD48-01住			Ⅳ群			0.5	
169	47図-169	V	柱189			Ⅳ群			0.4	
170	47図-170	V	FI60-01住	P-2		Ⅳ群			0.6	
171	47図-171	V	FG62-05住		2a層	Ⅳ群			10.0	
172	47図-172	Ⅲ	EI44住	No.3		Ⅳ群			10.0	
173	47図-173	V	柱164			Ⅳ群			0.6	
174	47図-174	V	FG62-04住			Ⅳ群			0.6	
175	47図-175	V	柱67			Ⅳ群			0.7	
176	47図-176	V	FH62-03住		3層	Ⅳ群			0.2	

No	図版番号	調査区	出土地点	出土No	層位	分類	実測(cm)			備考
							高さ	口径	厚さ	
177	47図-177	V	FG64-02土坑		1層	IV群			0.6	
178	47図-178	V	FG64-02土坑		1層	IV群			0.9	
179	47図-179	V	FI60-02住 炉			IV群			0.6	
180	47図-180	V	FG62-01住			IV群			0.6	
181	47図-181	V	柱173			IV群			0.7	
182	47図-182	V	柱164			IV群			0.6	
183	48図-183	V	FG62-04住		2層	IV群			10.0	
184	48図-184	II a	GB54-02住		2層	IV群			0.7	
185	48図-185	V	FH60-03住			IV群			0.9	
186	48図-186	V	柱138			V群			0.9	
187	48図-187	II a	FC58-01住			V群			0.9	
188	48図-188	IV	FI48-1	P-1		V群			10.0	
189	48図-189	V	柱27			V群			0.7	
190	48図-190	V	FJ58-01住	No2 No5	3層	V群			0.8	
191	48図-191	III	EI42-01住		1層	V群			0.6	
192	48図-192	II b	FD48-01住			V群			0.9	
193	48図-193	IV	FI48			V群			10.0	
194	48図-194	V	FI60-02住		3層	V群			0.6	
195	48図-195	V	FJ58-01住	No3		V群			0.5	
196	48図-196	II b	FD48-01住			V群			0.9	
197	48図-197	V	FG64-01住		1層	V群			0.6	
198	48図-198	V	柱119			V群			0.9	
199	49図-199	V	FJ60-01住			V群			0.7	
200	49図-200	III	EI42-01住		1層	V群			0.6	
201	49図-201	V	FG64-01住		2層	V群			1.2	
202	49図-202	V	FI60-02住		3層	V群			0.5	
203	49図-203	II a	FC56-01土坑	No1		V群			0.9	
204	49図-204	II a	FB54-02住		2層	V群			0.8	
205	49図-205	V	FH60-03住		1層	V群			10.0	
206	49図-206	II a	FB54-02住		2層	V群			0.7	
207	49図-207	V	FI62-03土坑			V群			0.9	
208	49図-208	V	柱232			V群			0.9	
209	49図-209	II b	FC50-15			V群			0.7	
210	49図-210	V	柱190			V群			0.8	
211	49図-211	II b	FC56土坑			V群			0.6	
212	49図-212	IV	FI48-1	P-2		V群			0.8	
213	49図-213	V	FJ60-01住	No3	3層	V群			0.9	
214	49図-214	II a	FC58-01住			V群			0.7	
215	49図-215	V	FH60-03住		1層	V群			0.9	
216	49図-216	II a	柱125			V群			0.9	
217	49図-217	II a	FC56-01土坑	No1		V群			0.8	
218	49図-218	V	FG64-01住		2層	V群			0.6	
219	49図-219	II a	柱125			V群			0.7	
220	49図-220	II a	FA52-05住			V群			0.7	
221	49図-221	V	FJ60-04土坑		1層	V群			0.9	
222	50図-222	II b	FA52-01住		3層	VI群			0.7	
223	50図-223	II b	FB52-10			VI群			10.0	
224	50図-224	II a	FE54-01住	No3		VI群			0.6	
225	50図-225	III	EI44-01住		3層	VI群			0.6	
226	50図-226	II b	FC54配石			VI群			10.0	
227	50図-227	V	FH62-04住	No1		VI群			0.9	
228	50図-228	V	FJ58-01住		2層	VI群			0.6	
229	50図-229	II b	FD50Cトレンチ			VI群			1.2	
230	50図-230	V	FH62-03住		2層	VI群			0.3	
231	50図-231	V	FG62-03住			VI群			0.7	
232	50図-232	V	FG64-01住		2層	VI群			10.0	
233	50図-233	V	FG62-05住		1層	VI群			0.4	
234	50図-234	V	FG64-02土坑		1層	VI群			0.8	
235	50図-235	V	FG62-04住			VI群			0.9	
236	50図-236	II b	FC54配石			VI群			0.6	

No	図版番号	調査区	出土地点	出土No	層位	分類	実測(cm)			備考
							高さ	口径	厚さ	
237	50図-237	V	FI60-03土坑			VI群			0.6	
238	50図-238	V	柱153			VI群			0.8	
239	51図-6	IIa	FA52-04住		3層		4.3	2.5	0.7	小型・ミニチュア土器
240	51図-18	IIa	FB54-02住	No2	2層		2.0	—	—	小型・ミニチュア土器
241	51図-10	IIb	FA50-01住	P-1			2.7	1.7	0.4	小型・ミニチュア土器
242	51図-16	IIb	FB52-03住	P-1			—	—	0.3	小型・ミニチュア土器
243	51図-14	IIb	FB52-03住	P-2			—	—	0.4	小型・ミニチュア土器
244	51図-5	IIb	FB52-03住	P-5			4.4	3.6	0.7	小型・ミニチュア土器
245	51図-3	IIb	FD48-01住	P-6			4.8	—	0.4	小型・ミニチュア土器
246	51図-8	IIb	FE48-01住	P-1			3.1	—	0.6	小型・ミニチュア土器
247	51図-7	IIb	FE46グリット		CL		3.5	—	0.5	小型・ミニチュア土器
248	51図-9	V	FG62-03住				3.0	2.3	0.4	小型・ミニチュア土器
249	51図-2	V	FG62-04住	P-1	1層		5.0	—	0.5	小型・ミニチュア土器
250	51図-13	V	FG62-04住	P-4			—	—	0.4	小型・ミニチュア土器
251	51図-12	V	FI58-01住	P-1			2.8	4.2	0.5	小型・ミニチュア土器
252	51図-4	V	FI60-02住	P-1	1層		3.9	3.6	0.4	小型・ミニチュア土器
253	51図-17	V	FJ58-01住	P-3			5.5	—	0.5	小型・ミニチュア土器
254	51図-15	V	FJ62-04住				—	—	0.5	小型・ミニチュア土器
255	51図-11	V	柱20				2.4	3.4	0.5	小型・ミニチュア土器
256	51図-1	V	FG62-30	P-1	CL		6.4	6.0	0.4	小型・ミニチュア土器
257	86図-1	IIa	24号古墳周溝				6.0	—	0.7	古代
258	86図-2	V	Vトレンチ				—	—	0.6	古代

(2) 剥片石器

石質

A 安山岩 B チャート C 礫岩 D 閃緑岩 E 頁岩 F 軽岩 G シルト H 凝灰岩 I ひすい J 硬質頁岩 K 鉄石
L 黒曜石 M 石灰岩 N 粘板岩 O 碧玉 P 玉髓 Q 石英 R 泥岩 S 砂岩 T 珪化木 U 花崗岩 ●アスファルト付着

No	図版番号	調査区	出土地点	出土No	層位	分類	実測(cm)			重さ(g)	石質	備考
							長さ	幅	厚さ			
1	53図-69	IIa	FA52-05住			A I a	2.4	(1.4)	0.3	(0.9)	J	
2	—	IIa	FB54-02住	No1		A I a	2.3	1.5	0.4	1.2	J	
3	53図-58	IIa	FB54-02住	No2	1層	A I a	2.6	1.8	0.4	1.0	J	
4	—	IIa	FB54-02住	No4	2層	A I a	(1.4)	(1.2)	0.3	(0.4)	J	
5	—	IIa	FB54-02住	No8		A I a	(1.9)	1.4	0.3	0.5	B	●
6	—	IIa	FB54-02住		2層	A I a	1.9	1.2	0.3	0.4	J	
7	—	IIa	FB56-03住	No2		A I a	(1.2)	1.3	0.3	(0.6)	J	
8	—	IIa	24号古墳	No1		A I a	(2.0)	1.5	0.3	(0.7)	J	
9	52図-34	IIa	FC56-3	No1		A I a	2.0	1.2	0.3	0.4	L	
10	—	IIa	FA54-28	No2		A I a	2.1	1.3	0.5	0.8	J	
11	—	IIa	FD58-4	No5		A I a	1.9	(1.2)	0.2	(0.3)	J	
12	—	IIa	FB54-14	No12		A I a	1.9	1.3	0.3	0.6	J	
13	—	IIa	FC60-25	No13		A I a	1.5	1.2	0.5	0.7	J	
14	—	IIa	FD60-2	No15		A I a	2.0	(1.1)	0.2	(0.4)	J	
15	—	IIa	FD60-22	No16		A I a	(1.6)	1.2	0.3	(0.5)	J	
16	—	IIa	FD60-22	No19		A I a	1.6	1.3	0.3	0.5	J	
17	—	IIa	FC56-26	No32		A I a	(1.8)	1.4	0.3	0.7	J	●
18	—	IIa	FD56-16	No33		A I a	1.8	(1.1)	0.3	0.5	Q	
19	—	IIa	FD56-11	No34		A I a	1.2	1.0	0.2	0.3	J	
20	—	IIa	FD54-29	No36		A I a	2.1	1.5	0.3	0.5	J	
21	—	IIa	FC56-30	No37		A I a	1.7	1.4	0.5	0.6	J	
22	—	IIa	FE56-13	No40		A I a	2.2	1.6	0.3	0.7	J	
23	—	IIa	FD54-34	No43		A I a	1.9	1.1	0.2	0.4	J	
24	—	IIa	FD56-17	No44		A I a	(2.3)	1.8	0.4	(1.0)	J	●
25	—	IIa	FD54-29	No45		A I a	(1.7)	1.5	0.4	(0.8)	J	
26	—	IIa	FA54-32	No46		A I a	2.9	(1.4)	0.3	(0.8)	J	
27	—	IIa	FD60-14	No48		A I a	(1.5)	1.1	0.3	(0.4)	J	

No	図版番号	調査区	出土地点	出土No	層位	分類	実測(cm)			重さ(g)	石質	備考
							長さ	幅	厚さ			
28	—	II a	FB54-18	No61		A I a	2.4	1.5	0.4	0.7	J	
29	—	II a	FA54-29	No68		A I a	2.4	(1.3)	0.3	(0.7)	J	
30	—	II a	FB56-7	No71		A I a	(1.9)	1.5	0.4	(1.1)	J	
31	—	II a	FD60-19	No81		A I a	2.1	1.4	0.4	0.8	J	
32	—	II a	FD60-21	No82		A I a	1.2	1.1	0.3	0.3	J	
33	—	II a	FE58-24	No87		A I a	1.6	0.9	0.2	0.3	J	
34	—	II a	FD54-35	No89		A I a	1.3	1.6	0.2	0.2	J	
35	—	II a			CL	A I a	(1.8)	1.4	0.3	(0.6)	J	
36	52図-11	II b	FA50-01住	No1		A I a	1.7	1.2	0.3	0.5	J	●
37	52図-38	II b	FA50-01住	No5		A I a	2.0	1.3	0.4	0.7	J	●
38	52図-53	II b	FA50-01住	No6		A I a	2.7	1.4	0.3	0.8	J	
39	52図-4	II b	FA50-01住	No7		A I a	1.7	1.4	0.4	0.5	J	
40	—	II b	FA50-01住	No8		A I a	(1.9)	1.4	0.4	(0.5)	J	
41	—	II b	FA52-02住	No1		A I a	2.2	1.5	0.3	(0.6)	J	
42	—	II b	FB48-01住	No1		A I a	(2.1)	1.7	0.3	(0.8)	J	●
43	52図-52	II b	FB52-03住	No2		A I a	2.6	1.5	0.4	0.9	J	●
44	52図-25	II b	FC50-02住	No8		A I a	1.9	1.5	0.4	0.7	J	
45	52図-22	II b	FC50-02住	No9		A I a	2.0	1.4	0.3	0.6	J	
46	52図-19	II b	FD48-01住	No1		A I a	2.0	1.5	0.3	0.6	J	
47	—	II b	FD48-01住	No2		A I a	(1.6)	1.3	0.3	(0.6)	J	
48	—	II b	FD48-01住	No3		A I a	(1.8)	(1.1)	0.4	(0.4)	J	
49	—	II b	FD48-01住	No4		A I a	(2.1)	(1.3)	0.4	(0.9)	Q	●
50	52図-42	II b	FD48-01住	No5		A I a	2.3	1.3	0.4	0.5	J	●
51	52図-16	II b	FD48-01住	No6		A I a	1.9	1.4	0.3	0.6	J	●
52	—	II b	FD48-01住	No7		A I a	(2.1)	1.4	0.3	(0.7)	J	
53	52図-36	II b	FD48-01住	No8		A I a	2.2	1.1	0.2	0.5	J	
54	—	II b	FD48-01住	No10		A I a	(3.1)	(1.5)	0.5	(1.8)	J	
55	52図-15	II b	FD48-01住	No16		A I a	1.8	1.3	0.3	0.5	J	●
56	—	II b	FD48-01住	No21		A I a	(2.4)	(1.5)	0.3	(0.8)	J	
57	52図-13	II b	FD50-01住	No2		A I a	1.7	1.4	0.3	0.5	J	
58	—	II b	FE48-05土坑	No1		A I a	1.8	(1.2)	0.4	0.5	Q	
59	52図-54	II b	柱144			A I a	2.6	1.6	0.3	0.7	J	●
60	52図-23	II b	柱253			A I a	1.9	1.4	0.2	0.5	J	
61	—	II b	柱270			A I a	2.5	(1.3)	0.3	(0.6)	J	
62	52図-2	II b	柱471			A I a	1.4	1.3	0.3	0.3	J	●
63	53図-62	II b	柱592			A I a	3.0	1.6	0.6	1.9	J	●
64	52図-12	II b	FB52グリット	No1		A I a	1.7	1.2	0.3	0.4	J	●
65	52図-26	II b	FC52グリット	No5		A I a	2.0	1.4	0.4	0.8	B ?	
66	—	II b	FD50-29			A I a	(1.6)	1.4	0.3	(0.6)	J	
67	—	II b	FE48グリット		CL	A I a	(2.1)	1.3	0.4	(0.9)	J	
68	52図-30	II b		No1		A I a	2.0	1.2	0.3	0.4	Q	●
69	53図-60	III	EI42-01住		1層	A I a	3.0	1.4	0.4	1.1	J	
70	52図-9	III	EI42-01住		2層	A I a	(1.7)	1.4	0.2	(0.5)	J	●
71	52図-45	III	EI44-01住		1層	A I a	2.4	1.4	0.3	0.8	J	●
72	52図-21	III	EI44-01住		2層	A I a	(1.9)	1.4	0.3	(0.5)	J	
73	52図-10	III	EI44-01住		3層	A I a	1.9	1.4	0.3	0.4	J	
74	53図-67	IV		No2		A I a	2.1	1.7	0.5	1.2	J	
75	53図-66	IV		No4		A I a	3.8	1.8	0.4	2.5	J	
76	—	IV		No7		A I a	(1.8)	1.4	0.3	(0.6)	J	
77	52図-8	IV	FI46-1			A I a	1.8	1.4	0.3	0.6	J	●
78	52図-3	IV	FI48-1			A I a	1.6	1.4	0.3	0.4	J	
79	52図-20	V	FG62-02住	No1		A I a	2.0	1.4	0.4	0.7	J	
80	52図-35	V	FG62-02住	No3		A I a	2.0	1.2	0.4	0.6	J	
81	52図-37	V	FG62-03住 炉	No1		A I a	2.0	1.3	0.3	0.5	J	
82	—	V	FG62-04住	No1		A I a	(1.8)	1.4	0.3	(0.8)	J	
83	—	V	FG62-04住	No3		A I a	1.9	(1.1)	0.3	(0.5)	J	
84	—	V	FG62-04住	No7		A I a	(1.7)	(1.3)	0.3	(0.6)	B	
85	—	V	FG62-04住	No9		A I a	(1.3)	1.2	0.3	(0.3)	J	
86	—	V	FG62-04住	No10		A I a	(1.7)	1.6	0.4	(0.7)	B	
87	52図-27	V	FG62-04住	No13		A I a	2.0	1.2	0.3	0.6	J	

No	図版番号	調査区	出土地点	出土No	層位	分類	実測 (cm)			重さ(g)	石質	備考
							長さ	幅	厚さ			
88	53図-61	V	FG62-05住	No1		A I a	3.0	1.5	0.4	1.0	J	
89	—	V	FG62-05住	No3		A I a	(1.9)	(1.0)	0.3	(0.6)	J	
90	—	V	FG62-05住	No7		A I a	(1.7)	1.5	0.3	(0.4)	B	
91	—	V	FG62-05住			A I a	(1.7)	(1.4)	0.4	(0.7)	J	
92	52図-29	V	FG64-01住			A I a	1.9	1.0	0.3	0.5	J	
93	52図-51	V	FH60-01住		1層	A I a	2.4	1.4	0.4	0.8	J	
94	—	V	FH60-03住	No3		A I a	1.9	(1.1)	0.3	(0.4)	J	
95	—	V	FH60-03住	No4		A I a	(1.8)	1.7	0.4	(1.0)	J	
96	—	V	FH60-03住	No5		A I a	2.0	(1.1)	0.3	(0.4)	J	
97	53図-68	V	FH60-03住	No7		A I a	2.5	1.9	0.7	2.8	Q	
98	53図-63	V	FH60-03住	No8		A I a	3.0	1.6	0.4	1.2	J	●
99	—	V	FH62-03住	No2	1層	A I a	(1.8)	(1.3)	0.4	(0.5)	J	
100	52図-5	V	FH62-03住	No3		A I a	1.6	1.6	0.3	0.6	J	
101	52図-14	V	FH62-03住	No4		A I a	1.8	1.4	0.3	0.4	J	
102	—	V	FH62-03住	No5	1層	A I a	(2.5)	1.7	0.4	(1.3)	J	
103	—	V	FH62-03住	No6	1層	A I a	1.8	(1.1)	0.3	(0.6)	J	
104	52図-55	V	FH62-03住	No7	1層	A I a	2.6	1.5	0.4	0.8	J	
105	52図-50	V	FH62-03住	No9	2層	A I a	2.5	1.3	0.3	0.6	J	
106	—	V	FH62-03住	No11		A I a	2.1	1.2	0.3	0.6	J	
107	—	V	FH62-03住	No12		A I a	2.3	(1.3)	0.3	(0.5)	J	
108	52図-56	V	FH62-03住	No16	3層	A I a	2.7	1.6	0.5	1.2	B	
109	52図-18	V	FH62-03住	No23		A I a	2.0	1.4	0.5	0.9	J	
110	53図-57	V	FH62-03住	No25		A I a	2.6	1.6	0.5	1.4	J	
111	52図-41	V	FH62-03住	No26		A I a	2.2	1.3	0.3	0.6	J	
112	—	V	FH62-03住	No27		A I a	(2.4)	(1.4)	0.3	1.0	J	
113	52図-39	V	FH62-03住	No28		A I a	2.1	1.2	0.3	0.4	J	
114	52図-40	V	FH62-03住	No30		A I a	2.1	1.4	0.4	0.7	J	●
115	53図-70	V	FH62-03住		1層	A I a	2.5	1.6	0.4	0.8	J	
116	—	V	FH62-03住			A I a	(1.9)	(1.3)	0.3	(0.5)	J	
117	53図-64	V	FI60-02住	No1		A I a	3.0	1.8	0.4	1.4	J	
118	52図-46	V	FI60-02住	No2		A I a	2.3	1.5	0.3	0.7	J	●
119	52図-44	V	FI60-02住	No4	1層	A I a	2.3	1.3	0.4	0.7	J	●
120	—	V	FI60-02住 P1			A I a	2.4	(1.2)	0.4	(0.7)	B	
121	52図-7	V	FI62-01住		1層	A I a	1.6	1.1	0.4	0.5	J	
122	53図-59	V	FJ60-01住	No2		A I a	2.6	1.6	0.3	0.9	J	
123	—	V	FH60-02土坑		1層	A I a	(1.6)	(1.2)	0.3	(0.6)	J	
124	—	V	FJ60-06土坑	No2		A I a	(1.2)	1.4	0.4	(0.4)	J	
125	52図-31	V	FH64-13	No4		A I a	1.8	1.1	0.2	0.3	J	
126	52図-32	V	FH64-32	No5		A I a	1.9	1.1	0.3	0.4	J	●
127	—	V	FH62-35	No8		A I a	(1.7)	1.4	0.4	0.7	J	
128	52図-1	V	FH62-13	No10		A I a	1.0	1.1	0.3	0.3	J	
129	52図-48	V	FH62-4	No12		A I a	2.4	1.5	0.4	0.1	J	
130	—	V	FG62-26	No15		A I a	(2.7)	(1.3)	0.4	(0.9)	J	
131	—	V	FG64-3	No16		A I a	(2.1)	(1.3)	0.4	0.8	J	
132	52図-49	V	FH62-22	No18		A I a	2.6	1.5	0.4	1.0	J	
133	53図-65	V	FH62-30	No19		A I a	3.4	1.6	0.5	1.3	J	●
134	52図-6	V	FH62-23	No24		A I a	1.6	1.4	0.3	0.5	J	
135	52図-24	V	FH64-27	No28		A I a	(1.8)	1.5	0.3	(0.6)	J	
136	52図-28	V	FH62-11	No36		A I a	1.8	1.2	0.3	0.5	J	
137	52図-43	V	FG62-34	No38		A I a	2.4	1.2	0.4	(0.7)	J	
138	52図-47	V	FJ60-27	No40		A I a	2.4	1.4	0.4	0.9	J	
139	52図-33	V	FH62-4	No43		A I a	2.1	1.1	0.3	0.5	J	
140	—	V	FH62-4	No44		A I a	(1.4)	1.0	0.2	(0.3)	J	
141	—	V	FJ58-33	No50		A I a	(2.2)	1.1	0.3	(0.6)	J	
142	—	V	FJ58-6	No51		A I a	2.3	1.7	0.4	1.1	B	
143	—	V	FG62-24		CL	A I a	2.2	(1.5)	0.6	(1.3)	J	
144	—	V	FH60-34		CL	A I a	2.0	(1.4)	0.4	(0.9)	J	
145	—	V	FH62-17		CL	A I a	2.6	1.6	0.3	0.6	J	
146	—	V	FH62-23		CL	A I a	2.7	1.7	0.4	1.0	J	
147	—	V	FI60-33		CL	A I a	2.7	1.7	0.5	1.6	J	

No	図版番号	調査区	出土地点	出土No	層位	分類	実測(cm)			重さ(g)	石質	備考
							長さ	幅	厚さ			
148	—	V	FI60-18		CL	A I a	(2.1)	1.2	0.2	(0.5)	B	●
149	—	V	FI60-8		CL	A I a	2.3	1.3	0.3	0.6	B	
150	—	V	FH62-21		CL	A I a	2.7	1.4	0.3	0.9	J	●
151	—	V	FI60-36		CL	A I a	1.8	1.3	0.3	0.5	J	●
152	—	V	FI62-14		CL	A I a	1.8	1.4	0.3	0.4	J	●
153	—	V	FI62-2		CL	A I a	(2.0)	1.7	0.2	(0.6)	J	●
154	—	V	FJ62-8		CL	A I a	(1.9)	1.1	0.3	(0.6)	J	
155	—	V			CL	A I a	2.0	(1.6)	0.5	(1.3)	J	
156	—	V	FJ62-8		CL	A I a	(1.7)	1.2	0.3	0.4	J	
157	—	V	FI62グリット		CL	A I a	1.8	1.2	0.4	0.7	B	
158	—	V	FI60-1		CL	A I a	1.5	1.3	0.3	0.5	J	
159	—	V	FI62-32			A I a	2.0	1.2	0.2	0.5	Q	●
160	—	V				A I a	(1.7)	(1.2)	0.2	(0.4)	Q	●
161	52図-17	V	FG64-35			A I a	1.8	1.4	0.2	0.4	J	
162	—	V	表採			A I a	(1.9)	(1.0)	0.2	(0.5)	J	
163	—	II a	FB54-02住		2層	A I b	2.0	1.4	0.4	1.2	J	
164	—	II a	FD60-20	No10		A I b	(2.3)	(1.9)	0.5	(1.7)	J	
165	—	II a	FB56-26	No11		A I b	3.2	1.3	0.3	1.2	J	
166	—	II a	FD56-24	No66		A I b	(1.7)	(1.4)	0.4	(0.7)	J	
167	—	II a	表採			A I b	1.9	1.7	0.4	0.9	J	
168	—	II a	表採			A I b	2.1	1.9	0.5	1.5	J	
169	—	II b	FA50-01住	No3		A I b	2.5	(1.5)	0.5	(1.0)	J	
170	53図-75	II b	FB52-03住	No6		A I b	2.4	1.5	0.2	0.7	J	
171	53図-77	II b	FD48-01住	No20		A I b	3.0	2.0	0.6	3.0	J	
172	—	II b	FE46-01住			A I b	1.3	(1.1)	0.4	(0.4)	J	
173	53図-76	III	EI44グリット		CL	A I b	3.2	1.8	0.4	2.3	J	
174	—	IV		No6		A I b	2.4	1.5	0.5	1.5	J	
175	53図-72	V	FG62-02住	No2		A I b	2.1	1.6	0.6	1.9	J	
176	53図-74	V	FG62-04住			A I b	2.1	1.4	0.5	1.3	J	
177	53図-78	V	FG62-05住	No2		A I b	2.9	1.9	0.7	2.4	J	
178	53図-73	V	FG64-05住	No1		A I b	2.1	1.4	0.3	0.6	J	●
179	—	V	FG62-22	No48		A I b	2.3	(1.4)	0.5	(1.3)	J	
180	—	V	FH64-16		CL	A I b	3.1	1.6	0.5	1.8	J	
181	—	V	FI60-1		CL	A I b	1.9	1.5	0.5	1.2	J	
182	—	V	FJ58-32			A I b	(3.1)	1.6	0.8	(4.4)	J	
183	53図-71	V	表採			A I b	1.9	1.2	0.4	0.9	J	
184	—	V	FG64-03住	No1		A I b?	2.0	(1.4)	0.3	(0.6)	J	●
185	53図-104	II a	FA52-05住	No1		A II	(2.8)	1.2	0.3	(1.0)	J	
186	—	II a	FB54-02住	No6		A II	(2.2)	1.2	0.4	(0.9)	J	
187	54図-125	II a	FB56-01住	No2		A II	(3.3)	1.5	0.7	(2.9)	J	
188	—	II a	FB56-01住	No3		A II	(2.8)	1.4	0.5	(1.8)	J	
189	54図-89	II a	FB56-01住	No53		A II	2.9	1.4	0.7	2.0	B	
190	—	II a	FB56-03住	No1		A II	3.7	1.3	0.4	1.7	J	
191	55図-133	II a	FB54-01土坑			A II	(3.6)	1.6	0.8	(3.9)	J	●
192	54図-128	II a	FB54-01土坑	No49		A II	(3.1)	1.7	0.6	(3.1)	J	
193	54図-122	II a	FB54-01土坑	No50		A II	3.9	1.9	1.0	5.3	J	
194	—	II a	FD56-03土坑	No64		A II	(2.3)	(1.3)	0.6	(1.5)	K	
195	—	II a	FD60-22	No3		A II	(2.2)	1.5	0.4	(0.9)	J	●
196	—	II a	FB56-30	No7		A II	(2.5)	1.4	0.6	(1.1)	J	
197	—	II a	FC56-18	No8		A II	2.7	1.3	0.8	3.1	J	
198	—	II a	FD60-17	No18		A II	(2.2)	1.4	0.5	(1.4)	J	●
199	—	II a	FD60-11	No20		A II	3.0	1.6	0.8	2.4	J	
200	—	II a	FC58-30	No21		A II	(2.2)	1.1	0.3	(0.7)	J	●
201	—	II a	FC56-7	No24		A II	2.7	1.5	0.5	1.3	J	
202	—	II a	FD56-5	No28		A II	2.4	1.0	0.5	0.7	J	
203	—	II a	FE54-11	No41		A II	(3.2)	1.4	0.6	(2.2)	J	
204	—	II a	FE56-13	No42		A II	3.2	1.6	0.5	2.2	J	
205	—	II a	FD56-31	No47		A II	4.8	1.2	0.4	2.1	J	
206	—	II a	FD54-29	No51		A II	(4.2)	(1.6)	0.8	(5.1)	J	
207	—	II a	FD56-12	No52		A II	(4.4)	1.5	0.7	(5.1)	J	

No	図版番号	調査区	出土地点	出土No	層位	分類	実測 (cm)			重さ(g)	石質	備考
							長さ	幅	厚さ			
208	—	II a	FD56-2	No56		A II	2.9	1.0	0.5	1.3	J	
209	—	II a	FD56-8	No57		A II	3.4	1.3	0.5	1.9	J	
210	—	II a	FD54-34	No58		A II	(2.9)	1.5	0.4	(1.9)	J	
211	—	II a	FD56-20	No67		A II	2.6	1.2	0.5	1.2	J	
212	—	II a	FC56-24	No76		A II	(3.1)	1.4	0.6	(2.0)	J	
213	—	II a	FD60-19	No77		A II	3.1	1.3	0.6	1.9	J	
214	—	II a	FD56-16	No78		A II	1.6	0.8	0.3	0.3	J	
215	—	II a	FC58-30	No79		A II	(2.4)	(1.5)	0.3	(1.0)	J	
216	—	II a	FD58-34	No83		A II	3.2	1.2	0.6	1.9	J	
217	—	II a	FD60-7	No84		A II	3.0	1.2	0.4	1.3	J	●
218	54図-101	II b	FB48-01住	No3		A II	3.1	1.1	0.5	1.2	J	
219	—	II b	FB48-01住	No4		A II	2.3	1.3	0.6	1.4	J	
220	55図-136	II b	FB52-04住	No1		A II	(4.9)	1.3	0.7	(3.4)	J	●
221	54図-116	II b	FB52-04住	No2		A II	3.5	1.7	0.9	3.9	Q	
222	54図-107	II b	FC50-02住	No4		A II	3.4	1.4	0.6	2.1	J	
223	54図-100	II b	FC50-02住	No5		A II	(2.6)	1.2	0.4	(1.3)	J	●
224	—	II b	FC50-02住	No10		A II	3.9	1.3	1.0	2.8	J	●
225	54図-109	II b	FD48-01住			A II	(3.5)	1.5	0.6	(2.3)	J	●
226	54図-115	II b	FD50-01住	No3		A II	(3.1)	1.7	0.7	(2.8)	J	
227	53図-84	II b	FF48-02土坑		1層	A II	2.6	1.3	0.5	1.2	J	
228	54図-111	II b	FC50グリット	No4		A II	3.4	1.4	0.7	2.6	J	
229	—	II b	FD50グリット		CL	A II	(3.1)	1.5	0.6	(2.6)	J	
230	54図-112	II b	FD50グリット			A II	3.0	1.8	0.5	2.4	J	
231	53図-96	II b	FD52グリット	No6		A II	3.0	1.5	0.3	1.4	J	●
232	—	II b	FF44グリット		I層	A II	(3.8)	1.2	0.5	(2.1)	J	
233	53図-94	II b	FF46グリット		CL	A II	3.0	1.3	0.5	1.2	J	
234	54図-129	II b	表採			A II	(3.6)	1.6	0.5	(2.4)	J	
235	54図-110	II b	FD54-5	No1		A II	(3.8)	1.2	0.5	(2.0)	J	
236	53図-95	II b	FC56-32	No2		A II	3.2	1.4	0.5	1.6	J	
237	54図-106	II b	FC56-33	No3		A II	3.4	1.3	0.5	1.5	J	●
238	—	II b		No4		A II	(2.6)	1.2	0.5	(1.4)	J	
239	54図-117	III	EI42-01住		2層	A II	3.8	1.6	0.6	3.2	J	
240	53図-98	III	EI44-01住		1層	A II	3.0	1.5	0.5	1.6	J	
241	55図-134	III	170号址		1層	A II	(4.6)	1.7	0.7	(4.0)	J	
242	54図-126	III	EH40グリット		CL	A II	(3.5)	1.7	1.0	(3.6)	J	●
243	54図-127	III	EI40グリット		CL	A II	(3.0)	1.5	0.6	(1.6)	J	
244	54図-130	III	EI40グリット		CL	A II	(3.8)	1.6	0.5	(2.8)	J	●
245	54図-118	III	EI44グリット		CL	A II	3.8	1.6	1.0	4.5	J	
246	—	III	EI44グリット		CL	A II	(2.6)	1.5	0.5	(1.8)	J	
247	54図-108	III	EJ44グリット		CL	A II	3.9	1.4	0.6	2.7	J	●
248	53図-80	III	表採			A II	2.5	1.3	0.5	1.2	J	
249	54図-113	IV		No3		A II	3.1	1.4	0.6	2.6	J	
250	—	IV		No5		A II	(3.1)	1.7	0.7	(4.2)	J	●
251	54図-123	IV	FI44グリット			A II	4.5	1.8	0.8	4.6	J	
252	—	V	FG62-01住	No1	炉	A II	(3.3)	1.4	0.4	(1.7)	J	
253	—	V	FG62-02住	No4		A II	(3.2)	1.6	0.6	(2.8)	J	
254	—	V	FG62-04住	No2		A II	(3.1)	1.4	0.6	(2.1)	J	
255	—	V	FG62-04住	No8		A II	(2.9)	1.2	0.3	(1.2)	J	
256	—	V	FG62-04住	No12		A II	(3.9)	1.3	0.7	(3.7)	J	●
257	54図-105	V	FG62-04住	No15		A II	3.7	1.2	0.5	1.6	J	
258	—	V	FG62-05住	No5		A II	(3.3)	1.3	0.5	(1.7)	J	
259	53図-82	V	FG64-01住 P2	No1		A II	2.2	1.6	0.4	1.0	J	
260	—	V	FG64-04住	No2	1層	A II	(3.0)	1.4	0.6	(2.4)	J	●
261	53図-93	V	FG64-04住		1層	A II	(2.5)	1.4	0.5	(1.4)	J	
262	53図-83	V	FG64-05住	No3		A II	(2.3)	1.5	0.6	(1.7)	J	
263	54図-121	V	FG64-05住	No4		A II	3.9	1.7	0.9	4.4	J	
264	—	V	FH60-03住	No6		A II	(3.3)	1.4	0.4	(1.5)	J	
265	—	V	FH62-03住	No1		A II	(2.4)	1.3	0.6	(1.6)	J	
266	—	V	FH62-03住	No8	2層	A II	(2.3)	1.2	0.6	(1.5)	J	
267	—	V	FH62-03住	No13		A II	(2.4)	1.2	0.6	(1.8)	J	

No	図版番号	調査区	出土地点	出土No	層位	分類	実測 (cm)			重さ(g)	石質	備考
							長さ	幅	厚さ			
268	—	V	FH62-03住	No.14		A II	(3.8)	1.5	0.5	(2.8)	J	
269	55図-132	V	FH62-03住	No.15		A II	(3.6)	1.6	0.5	(3.0)	J	
270	—	V	FH62-03住	No.17	3層	A II	3.3	1.9	0.9	4.1	J	
271	53図-90	V	FH62-03住	No.20	3層	A II	2.8	1.4	0.5	1.4	J	
272	53図-91	V	FH62-03住	No.21		A II	2.7	1.4	0.5	1.5	J	
273	53図-85	V	FH62-03住	No.22		A II	2.6	0.9	0.4	0.8	J	
274	54図-114	V	FH62-03住	No.31	2層	A II	2.3	1.5	0.6	2.8	J	
275	—	V	FI60-02住	No.5	床上	A II	(2.8)	1.3	0.5	(1.6)	J	
276	—	V	FI62-01住 P1		2層	A II	(3.5)	1.2	0.4	(1.6)	J	
277	—	V	FJ60-01住	No.1		A II	(2.3)	1.6	0.6	(2.2)	J	
278	—	V	FG64-02土坑	No.1		A II	3.2	1.8	0.9	4.2	Q	
279	—	V	FG64-04土坑	No.47		A II	(3.2)	1.4	0.4	(1.6)	J	
280	—	V	FH60-01土坑			A II	(2.4)	1.1	0.4	(1.0)	J	
281	—	V	FJ60-03土坑			A II	(4.1)	1.7	0.6	(4.2)	J	
282	54図-119	V	FJ60-06土坑	No.1		A II	3.5	1.7	0.8	3.8	J	
283	53図-92	V	柱48			A II	(2.5)	1.6	0.4	(1.3)	J	●
284	54図-103	V	柱53	No.1		A II	3.5	1.0	0.5	1.5	J	
285	53図-97	V	柱100			A II	2.8	1.5	0.5	1.8	J	
286	—	V	柱101			A II	2.6	1.4	0.6	1.6	J	
287	54図-99	V	FG62-11	No.1		A II	2.9	1.1	0.3	0.9	J	
288	55図-135	V	FI60-22	No.3		A II	(4.4)	1.7	1.0	(6.0)	J	
289	—	V	FH62-36	No.7		A II	3.0	1.3	0.4	1.4	J	
290	—	V	FH62-24	No.9		A II	(2.4)	1.0	0.4	(1.0)	J	
291	53図-79	V	FH62-13	No.11		A II	2.0	1.1	0.5	0.8	J	
292	—	V	FH64-21	No.14		A II	2.9	1.4	0.6	1.9	J	●
293	54図-120	V	FG62-10	No.17		A II	3.5	1.9	1.1	5.4	J	
294	53図-81	V	FH64-31	No.25		A II	2.2	1.2	0.4	0.7	J	
295	53図-86	V	FH64-35	No.26		A II	2.9	1.1	0.5	1.3	J	
296	—	V	FH64-26	No.29		A II	3.4	1.2	0.8	2.0	J	
297	53図-87	V	FH64-20	No.30		A II	(2.5)	1.1	0.5	(1.3)	J	
298	54図-124	V	FH64-11	No.31		A II	4.6	1.2	0.7	3.4	J	
299	—	V	FH64-21	No.32		A II	2.3	0.8	0.4	0.5	J	
300	53図-88	V	FG64-5	No.35		A II	2.8	1.3	0.6	1.8	J	●
301	—	V	FG62-14	No.41		A II	3.4	1.2	0.7	2.3	J	
302	—	V	FG64-14		CL	A II	3.3	1.2	0.5	2.0	J	
303	—	V	FG64-27		CL	A II	3.4	1.6	0.6	2.0	J	
304	—	V	FH60-32		CL	A II	(2.3)	1.3	0.3	(0.9)	J	
305	—	V	FH62-21		II層	A II	(2.8)	1.5	0.7	(2.4)	J	
306	—	V	FH62-18		CL	A II	(2.7)	1.3	0.6	(1.7)	J	
307	—	V	FH64-16		CL	A II	(2.9)	1.6	0.6	(2.6)	J	●
308	—	V	FI60-19		CL	A II	(2.1)	1.1	0.6	(1.9)	J	
309	—	V			CL	A II	3.5	1.3	0.7	1.6	J	
310	—	V			CL	A II	(3.3)	1.3	0.6	(1.8)	J	
311	—	V			CL	A II	3.4	1.1	0.5	1.3	J	
312	—	V	FH62グリット		CL	A II	3.4	1.6	0.6	3.3	B	
313	55図-131	V	FH64-6			A II	(4.0)	1.4	0.6	(2.9)	J	
314	—	V			II層	A II	2.6	1.3	0.5	1.3	J	●
315	—	V			III層	A II	2.7	1.9	0.7	2.4	B	
316	55図-102	V	表採			A II	3.6	1.1	0.6	2.3	J	
317	55図-154	II a	FB54-02住	No.3		A III	4.9	2.3	1.2	9.5	B	
318	—	II a	FB54-02住	No.7		A III	1.4	1.5	0.6	2.2	J	●
319	—	II a	FB54-02住		2層	A III	3.4	0.9	0.6	2.0	J	
320	—	II a	FB56-01住	No.1		A III	(2.8)	(1.7)	0.6	(1.8)	Q	
321	55図-152	II a	FB56-01住	No.4		A III	3.9	2.0	0.9	6.8	J	
322	55図-155	II a	FD56-03土坑	No.39		A III	(4.6)	1.5	0.8	(4.7)	J	
323	—	II a	FC58-23	No.4		A III	(3.5)	1.3	0.6	(2.1)	J	
324	—	II a	FD60-22	No.9		A III	(2.5)	1.1	0.4	(1.2)	J	
325	—	II a	FC58-8	No.14		A III	2.5	1.3	0.6	1.9	J	●
326	—	II a	FD60-12	No.17		A III	2.9	1.2	0.4	(1.6)	J	
327	—	II a	FD56-11	No.22		A III	3.8	1.4	0.7	3.2	B	

No	図版番号	調査区	出土地点	出土No	層位	分類	実測(cm)			重さ(g)	石質	備考
							長さ	幅	厚さ			
328	—	II a	FC56-28	No23		A III	(3.2)	1.3	0.7	(2.5)	B	
329	—	II a	FC58-7	No26		A III	3.3	1.3	0.5	1.9	J	
330	—	II a	FD54-34	No35		A III	(3.6)	1.5	0.8	(4.4)	J	
331	—	II a	FE56-26	No38		A III	3.1	1.7	0.8	3.5	J	
332	—	II a	FD56-19	No54		A III	3.0	1.3	0.5	1.9	J	
333	—	II a	FE56-14	No55		A III	3.0	1.5	0.4	1.8	J	
334	—	II a	FE54-23	No63		A III	3.6	1.3	0.5	1.9	J	
335	—	II a	FD56-12	No69		A III	(4.8)	1.6	0.6	(5.1)	J	
336	—	II a	FC56-12	No70		A III	2.9	1.2	0.6	2.0	J	
337	—	II a		No72		A III	(2.8)	(0.8)	0.5	(1.2)	J	
338	—	II a	FC56-29	No74		A III	2.8	0.8	0.5	1.2	J	
339	—	II a	FD60-20	No80		A III	(2.9)	1.0	0.6	(1.6)	J	
340	—	II a	FD58-6	No86		A III	(2.5)	1.2	0.5	1.4	J	
341	—	II a	FD60-31	No88		A III	3.1	1.6	1.1	3.4	J	
342	—	II a	FD60-22			A III	(3.2)	1.7	0.5	(2.1)	J	
343	55図-147	II b	FA52-01住	No1		A III	3.6	1.5	1.0	3.9	J	
344	—	II b	FB48-01住	No2		A III	(3.4)	1.3	0.6	(3.0)	J	
345	—	II b	FC48-01住	No1		A III	3.5	1.4	0.8	3.0	J	
346	55図-140	II b	FC50-01住	No1		A III	2.6	1.1	0.4	1.1	J	
347	55図-145	II b	FC50-02住	No2		A III	3.5	1.2	0.5	1.8	J	
348	—	II b	FB52-03土坑	No1		A III	(2.9)	1.3	0.7	2.4	J	
349	55図-141	II b	柱214	No1		A III	(2.5)	1.0	0.5	(1.0)	J	
350	55図-143	II b	FC48-35	No19		A III	(2.7)	1.2	0.7	(1.5)	J	
351	—	II b	FE48グリット			A III	(3.6)	1.5	0.9	(4.6)	J	
352	55図-149	II b	FH50グリット		CL	A III	3.6	1.8	1.1	5.3	J	
353	55図-139	III	EH42-02住		4層	A III	2.3	1.1	0.7	1.5	J	
354	—	III	EI44グリット		CL	A III	3.2	0.9	0.5	1.3	J	
355	55図-148	III	表採			A III	3.5	1.7	0.6	3.7	J	
356	—	IV		No1		A III	(2.6)	1.4	0.4	(1.2)	J	
357	55図-144	V	FG62-04住	No6		A III	3.0	1.1	0.6	1.6	J	
358	55図-142	V	FG62-04住	No16		A III	2.5	1.4	0.6	1.8	J	
359	55図-150	V	FG62-04住			A III	3.2	1.8	1.0	4.5	Q	
360	55図-151	V	FG64-01住	No1	3層	A III	(3.4)	2.3	0.8	(5.0)	J	
361	55図-153	V	FG64-04住	No1		A III	(3.7)	2.6	0.9	(7.5)	J	●
362	—	V	FG64-05住			A III	(2.8)	1.4	0.6	2.4	J	
363	—	V	FH60-03住	No1		A III	2.3	1.3	0.6	1.4	J	
364	—	V	FH60-03住	No2		A III	(2.7)	1.4	0.7	(2.2)	J	
365	55図-138	V	FH62-03住	No10	2層	A III	2.1	1.2	0.5	1.1	J	
366	—	V	FH62-03住			A III	(3.5)	2.3	0.9	(6.3)	J	
367	55図-137	V	FI60-09土坑			A III	2.4	1.1	0.4	0.9	J	
368	55図-146	V	FH62-36	No6		A III	3.2	1.4	0.6	2.0	Q	
369	—	V	FH64-15	No20		A III	3.0	1.3	0.8	1.6	J	●
370	—	V	FH64-4	No22		A III	2.3	1.3	0.4	1.2	J	●
371	—	V	FG64-34	No27		A III	2.8	1.5	0.4	1.6	J	
372	—	V	FH62-14	No42		A III	(2.5)	1.4	0.5	(1.5)	J	
373	—	V	FH62-12	No45		A III	2.8	1.9	0.3	0.8	J	
374	—	V	GA60-26	No54		A III	(4.3)	1.5	0.7	(3.8)	J	
375	—	V	FG62-11		CL	A III	3.0	1.3	0.5	1.3	J	
376	—	V	FH62グリット		CL	A III	(2.6)	1.0	0.6	(1.2)	J	
377	—	V	FI58-18		CL	A III	2.3	1.0	0.5	0.8	J	
378	—	V	FG62-05住	No4		A III?	(2.7)	(1.9)	0.7	(3.0)	J	
379	—	V	FH62-03住	No19	3層	A III?	(3.5)	1.2	0.7	(2.7)	J	
380	—	V	FH64-10	No23		A III?	(1.7)	(1.2)	(0.7)	(1.1)	J	
381	—	V	FG64-32	No33		A III?	(2.3)	(1.8)	(0.7)	(1.8)	J	
382	56図-175	II a	FB58-03住	No25		A IV	(3.3)	1.4	0.9	(3.7)	J	
383	—	II a	24号古墳 周溝			A IV	3.5	2.5	0.7	4.9	J	
384	—	II a	24号古墳	No2		A IV	3.6	2.3	1.0	6.6	J	
385	—	II a	24号古墳			A IV	3.6	1.4	1.0	4.1	J	
386	—	II a	FE54-18	No31		A IV	4.7	1.7	1.1	6.0	J	
387	—	II a	FC56-16	No59		A IV	3.1	1.9	0.6	3.3	J	

No	図版番号	調査区	出土地点	出土No	層位	分類	実測 (cm)			重さ(g)	石質	備考
							長さ	幅	厚さ			
388	—	II a	FB54-7	No60		AIV	3.5	2.2	1.1	6.6	B	
389	—	II a	FC56-33	No62		AIV	2.6	1.3	0.6	1.8	J	
390	—	II a	FD56-34	No65		AIV	(3.2)	1.8	0.8	(3.5)	J	
391	—	II a	FC58-21	No73		AIV	3.2	2.1	0.6	3.7	B	
392	—	II a	FC58-25	No75		AIV	2.2	1.4	0.8	2.1	J	
393	—	II a	FE58-2	No90		AIV	3.8	1.9	1.2	5.8	J	
394	56図-173	II b	FB52-03住	No3		AIV	(2.9)	1.1	1.0	(3.3)	J	
395	56図-172	II b	FC50-02住	No7		AIV	2.9	1.5	0.7	2.3	J	
396	55図-162	II b	FD48-01住	No9		AIV	3.0	1.9	0.6	2.7	J	●
397	55図-161	II b	FD48-01住	No12		AIV	2.8	1.8	1.1	3.6	J	
398	55図-160	II b	FD48-01住 炉	No15		AIV	2.6	1.7	0.5	1.6	J	
399	55図-157	II b	FD48-01住	No19		AIV	2.1	1.8	1.0	2.5	J	
400	55図-156	II b	FD48-01住			AIV	1.9	1.8	0.5	1.2	J	
401	55図-159	II b	FD48-01住			AIV	2.4	1.7	0.6	1.8	J	
402	56図-182	II b	FD50-01住	No1		AIV	4.3	2.5	0.7	5.8	J	
403	—	II b	FE48-01住	No2		AIV	2.2	1.4	0.6	1.5	J	
404	56図-166	II b	FE48-01住			AIV	3.1	2.5	1.1	8.1	J	
405	—	II b	FE50-01土坑		4層	AIV	2.8	(1.6)	0.4	(1.4)	J	
406	56図-181	II b	柱32			AIV	4.4	2.2	1.0	6.9	J	
407	55図-163	II b	柱405			AIV	3.2	2.0	0.8	3.6	J	
408	56図-164	II b	FB52グリット	No2		AIV	2.8	1.9	0.9	3.9	J	
409	56図-183	II b	FE46グリット		CL	AIV	6.5	4.0	0.9	17.1	J	
410	—	II b	FF44グリット		I層	AIV	3.4	1.8	0.7	3.5	J	
411	56図-176	II b		No3		AIV	3.8	1.6	0.9	3.6	J	
412	56図-174	II b	FC54-35	No5		AIV	2.9	1.7	0.5	2.3	J	
413	56図-167	III	170号址		1層	AIV	3.3	2.5	0.9	5.8	J	
414	56図-169	III	170号址		1層	AIV	4.4	3.7	0.9	10.8	J	
415	55図-158	III	表採			AIV	2.3	1.6	0.7	1.7	J	
416	56図-177	IV		No9		AIV	3.9	1.7	1.2	6.0	J	●
417	—	V	FG62-01住 炉	No2		AIV	(2.6)	1.8	0.5	(2.0)	J	
418	56図-168	V	FG62-04住	No11		AIV	3.9	2.1	0.8	5.6	B	
419	56図-165	V	FG62-04住	No14		AIV	2.9	2.0	0.9	3.9	J	
420	56図-170	V	FG62-04住			AIV	2.4	1.8	0.7	2.4	J	
421	56図-171	V	FG62-05住	No6		AIV	2.4	1.6	0.4	1.3	J	
422	—	V	FG64-05住	No5		AIV	2.4	1.6	0.6	2.1	J	
423	—	V	FH62-03住	No24		AIV	4.7	2.8	0.9	11.2	J	
424	56図-179	V	FH62-03住	No29		AIV	3.4	2.1	0.7	5.2	J	
425	56図-178	V	FJ58-01住	No1		AIV	3.5	1.8	0.6	3.0	J	
426	56図-180	V	FJ58-01住	No2	2層	AIV	4.0	2.1	1.1	6.6	J	
427	—	V	FG64-27	No34		AIV	2.4	1.9	0.7	2.4	J	
428	—	V	FH62-9	No37		AIV	2.8	2.0	0.7	2.6	J	
429	—	V	GA58-12	No52		AIV	3.7	1.8	1.0	3.6	B	●
430	—	V	FG62-23		CL	AIV	3.7	1.8	0.8	5.2	J	
431	—	V	FI62-2		CL	AIV	4.1	2.4	0.8	7.5	J	
432	—	III	E140グリット		CL	AIV?	2.9	0.9	0.4	1.2	J	
433	—	II a	FD60-4	No6		A	(2.2)	1.3	0.5	(1.5)	J	
434	—	II a	FB54-1	No30		A	(3.3)	1.5	0.4	(2.1)	J	
435	—	II b	FC50-02住	No1		A	1.7	0.9	0.4	0.6	J	
436	—	II b	FD48-01住			A	(2.3)	(1.0)	(0.3)	(0.7)	J	
437	—	III	FA42-01土坑			A	3.0	(1.0)	0.6	(1.7)	J	
438	—	V	FG62-16	No2		A	(2.1)	(1.3)	(0.5)	(0.9)	J	
439	—	V	FI60-34		CL	A	2.1	(1.4)	0.3	(0.6)	J	
440	—	II b	柱348	No1		A?	1.8	1.0	0.4	0.6	J	
441	—	V	FH62-03住			B I	5.7	2.4	1.2	13.6	J	
442	56図-184	V	FI62-03住	No1		B I	8.9	2.5	1.2	22.2	J	
443	56図-185	II b	FD48-01住	No13		C I	5.1	1.9	0.8	5.2	J	
444	57図-189	III	EJ44グリット		CL	C I	7.3	2.8	0.9	18.1	Q	
445	56図-187	V	FI62-01住			C I	6.3	2.8	0.7	11.2	J	
446	57図-188	V	FJ60-01住	No3		C I	6.7	4.3	0.8	17.2	J	
447	56図-186	V	FJ60-06土坑			C I	6.0	2.9	0.9	8.9	J	●

No	図版番号	調査区	出土地点	出土No	層位	分類	実測(cm)			重さ(g)	石質	備考
							長さ	幅	厚さ			
448	—	V	GA60-7	No53		C I	5.7	2.2	0.7	9.7	J	
449	57図-190	II b	FA50-01住	No9	5層	C	7.4	2.1	1.1	9.9	J	
450	—	II b	FA50-01住	No4		D II	3.9	2.0	0.7	4.3	J	
451	57図-193	II b	FB52-03住	No4		D II	7.4	2.6	0.8	12.3	J	
452	57図-191	II b	FD48-01住	No11		D II	6.6	2.3	1.0	16.4	J	
453	57図-192	II b	FE48-17			D II	7.1	1.9	0.7	8.3	J	
454	—	V	FG62-04住			D II	8.1	2.8	1.3	24.6	J	
455	57図-194	II b	FC50-02住	No11		D?	4.3	4.4	0.8	14.2	J	
456	—	II a	FB54-02住	No5		E I	3.3	2.1	0.7	3.0	B	
457	—	II a	FD56-31	No27		E I	(3.1)	1.8	0.6	(1.7)	J	
458	—	II a	FD56-31	No29		E I	4.6	2.7	3.2	9.8	J	
459	—	II a	FD58-6	No85		E I	(2.4)	1.6	0.5	(1.5)	J	
460	—	II a	FE60-1			E I	4.4	2.1	1.1	6.8	J	
461	57図-202	II b	FD48-01住	No14		E I	5.2	1.2	1.4	3.9	T	
462	57図-200	II b	FD48-01住	No17		E I	3.7	1.2	0.7	1.7	J	
463	57図-206	II b	柱143	No1		E I	(3.9)	2.4	0.5	(3.5)	J	
464	57図-205	II b	柱561			E I	3.3	2.9	0.7	1.9	J	
465	57図-201	II b	柱567			E I	3.5	1.0	0.5	0.9	J	
466	57図-204	II b	FE48グリット			E I	3.0	2.1	0.7	3.3	J	
467	—	II b	表採			E I	3.4	2.1	0.6	3.8	J	
468	57図-199	III	EI44-01住		3層	E I	2.7	1.9	0.8	3.9	J	
469	57図-196	III	EJ44グリット		CL	E I	2.3	1.6	0.6	2.1	J	
470	57図-195	IV	FH46-3			E I	1.8	1.3	0.3	0.7	B	
471	57図-198	V	FG64-02住 炉			E I	2.4	1.8	0.4	1.5	H	
472	57図-207	V	FG64-04住		1層	E I	4.0	2.8	0.7	4.8	J	●
473	57図-209	V	FH62-03住	No18	3層	E I	4.5	2.8	0.7	4.7	J	
474	57図-210	V	FH62-03住	No32	1層	E I	6.3	3.5	1.6	20.0	J	
475	57図-203	V	FJ60-01住	No4		E I	3.0	1.6	0.6	1.5	B	
476	57図-197	V	柱153	No1		E I	2.4	1.8	0.6	1.9	J	
477	57図-208	V	FJ58-12	No49		E I	3.9	2.8	0.9	6.2	J	
478	—	V	FG62-30		CL	E I	4.3	5.5	1.3	17.9	J	
479	57図-211	II b	FB52-03住	No1		E II	2.3	0.7	0.3	0.5	J	
480	57図-212	V	FJ58-4	No39		E II	2.6	1.3	0.6	1.7	J	
481	—	V	FI60-9		CL	E II	4.7	1.7	0.7	4.6	J	
482	58図-213	II b	FD48-01住	S-9		F I	(3.5)	(3.0)	(0.8)	(8.4)	N	
483	58図-214	V	FG62-05住	No8	1層	F I	7.2	2.6	1.2	19.8	S	
484	58図-215	V			I層	F I	8.0	4.7	1.5	50.0	S	
485	58図-217	II b	FA50-01住	No2		F II	4.9	2.9	0.5	6.8	J	
486	58図-218	II b	柱573			F II	4.4	1.2	0.5	1.8	J	
487	58図-216	V	FJ60-01住	No5		F II	4.7	2.7	0.8	7.3	E	

(3) 礫石器

石質

A 安山岩 B チャート C 礫岩 D 閃緑岩 E 頁岩 F 軽岩 G シルト H 凝灰岩 I ひすい J 硬質頁岩 K 鉄石英
L 黒曜石 M 石灰岩 N 粘板岩 O 碧玉 P 玉髓 Q 石英 R 泥岩 S 砂岩 T 珪化木 U 花崗岩 ●アスファルト付着

No	図版番号	調査区	出土地点	出土No	層位	分類	実測(cm)			重さ(g)	石質	備考
							長さ	幅	厚さ			
1	59図-2	II a	FB54-02住	S-4		G I	11.3	7.8	5.1	655	A	
2	59図-5	II a	FB54-02住	S-5		G I	11.2	8.5	5.9	700	A	
3	—	II a	FB54-02住	S-15		G I	(8.4)	6.0	3.3	(220)	A	
4	60図-23	II a	FB54-03住	S-3		G I	8.2	7.6	5.2	450	A	
5	—	II a	FB54-03住	S-6		G I	9.0	7.8	5.85	570	A	
6	60図-14	II a	FB56-01住	S-1		G I	11.3	7.6	5.1	600	A	
7	—	II a	FB56-01住	S-1		G I	6.6	5.5	5.8	300	A	
8	59図-6	II a	FB56-02住	S-1		G I	11.5	9.1	6.0	860	A	
9	—	II a	FD56-03土坑	S-63		G I	9.5	8.0	5.7	550	A	
10	—	II a	柱109	S-94		G I	5.0	4.7	4.0	100	A	

No	図版番号	調査区	出土地点	出土No	層位	分類	実測 (cm)			重さ(g)	石質	備考
							長さ	幅	厚さ			
11	-	II a	柱169			G I	9.3	7.9	4.9	480	A	
12	-	II a	FB54-4	S-6		G I	10.0	6.9	4.8	460	A	
13	-	II a	FB54-16	S-1		G I	8.9	7.0	5.6	420	A	
14	-	II a	FB54-21	S-11		G I	8.5	6.3	4.3	300	A	
15	59図-1	II a	FB54-22	S-86		G I	11.7	9.2	6.0	800	A	
16	-	II a	FB56グリット			G I	12.6	12.1	7.0	1,200	A	
17	-	II a	FC56-33	S-33		G I	9.4	8.2	6.0	600	A	
18	-	II a	FC56-33	S-34		G I	(7.8)	7.3	5.0	(240)	A	
19	-	II a	FC56-33	S-35		G I	7.0	7.0	3.8	250	A	
20	-	II a	FC56-34	S-27		G I	6.8	5.8	3.2	150	A	
21	-	II a	FC58-14	S-36		G I	(7.4)	5.9	3.6	(210)	A	
22	-	II a	FC58-22	S-23		G I	11.2	9.2	6.1	800	A	
23	-	II a	FD56-3	S-37		G I	6.4	5.7	4.6	200	A	
24	-	II a	FD56-15	S-88		G I	11.6	9.5	5.9	780	A	
25	-	II a	FD60-31	S-92		G I	21.0	5.5	5.4	1,210	A	
26	-	II a	FE56-14	S-56		G I	10.6	8.9	5.3	630	A	
27	-	II a	FE56-20	S-50		G I	7.5	6.5	2.2	150	A	
28	-	II b	FA50-01住	S-6		G I	11.3	11.1	4.6	550	A	
29	-	II b	FA50-01住	S-10		G I	12.2	8.3	5.9	800	A	
30	-	II b	FA52-01住	S-1		G I	11.2	6.6	5.0	490	A	
31	-	II b	FB52-03住	S-14		G I	4.9	4.6	3.8	100	A	
32	-	II b	FB52-03住	S-16		G I	12.8	9.6	7.1	770	A	
33	-	II b	FB52-03住	S-18		G I	8.8	7.5	5.5	420	A	
34	-	II b	FB52-03住	S-25		G I	12.5	6.3	4.5	440	A	
35	-	II b	FB52-03住	S-26		G I	9.3	8.2	4.2	330	A	
36	61図-34	II b	FB52-03住	S-30		G I	9.8	7.8	6.3	660	A	
37	60図-30	II b	FD48-01住	S-10		G I	6.1	4.9	5.1	210	A	
38	-	II b	FD48-01住	S-11		G I	10.7	(8.5)	7.7	(910)	A	
39	-	II b	FD48-01住	S-15		G I	12.7	8.3	4.7	630	A	
40	-	II b	FD48-01住	S-18		G I	9.3	9.1	2.6	320	A	
41	61図-35	II b	FD48-01住	S-21		G I	10.3	9.2	5.5	750	A	
42	-	II b	FD48-01住	S-22		G I	9.5	7.0	3.6	290	A	
43	-	II b	FD48-01住	S-24		G I	8.5	7.0	5.8	395	A	
44	60図-17	II b	FE48-01住	S-4		G I	9.0	7.6	5.7	470	A	
45	-	II b	FC48-07土坑	S-1		G I	13.1	7.0	3.5	430	A	
46	-	II b	FE50-01土坑			G I	6.1	5.8	5.1	250	A	
47	-	II b	FF56-01土坑	S-2		G I	(9.4)	(7.6)	6.4	(580)	A	
48	-	II b	FF56-01土坑	S-6		G I	(13.7)	8.8	4.8	(835)	A	
49	-	II b	柱23			G I	6.4	5.9	4.2	200	A	
50	-	II b	柱33	S-1		G I	10.5	7.4	5.5	530	A	
51	-	II b	柱146			G I	7.3	5.7	4.1	220	A	
52	61図-36	II b	柱372			G I	11.5	9.4	6.3	880	A	
53	60図-18	II b		S-7		G I	9.8	7.3	6.0	470	A	
54	-	II b		S-12		G I	11.2	8.5	6.0	700	A	
55	59図-10	II b		S-26		G I	10.5	8.8	5.3	595	A	
56	59図-9	II b		S-30		G I	10.8	9.5	6.3	790	A	
57	-	II b		S-35		G I	9.2	7.1	6.4	520	A	
58	60図-22	II b		S-37		G I	9.7	7.8	5.4	560	A	
59	62図-45	II b		S-43		G I	11.7	6.0	4.5	340	A	
60	-	II b		S-44		G I	(10.9)	8.9	4.9	(580)	A	
61	59図-12	II b		S-46		G I	12.6	10.5	5.9	900	A	
62	59図-8	II b		S-48		G I	15.0	9.7	6.0	1,130	A	
63	59図-11	II b		S-47		G I	10.5	9.6	6.2	830	A	
64	60図-29	II b		S-86		G I	5.3	4.6	3.5	105	A	
65	-	II b		S-4		G I	12.8	8.7	5.8	970	A	
66	-	II b		S-10		G I	11.2	9.4	3.7	480	A	
67	62図-31	II b		S-15		G I	14.5	6.8	5.0	770	A	
68	-	II b		S-17		G I	11.4	7.7	4.8	500	A	
69	61図-32	II b		S-20		G I	11.4	7.3	7.6	1,000	A	
70	-	II b		S-21		G I	7.2	5.8	3.7	170	A	

No	図版番号	調査区	出土地点	出土No	層位	分類	実測(cm)			重さ(g)	石質	備考
							長さ	幅	厚さ			
71	-	Ⅲ	EH40グリット		CL	G I	6.2	5.4	4.0	170	A	
72	-	Ⅲ		S-26		G I	8.7	7.4	5.6	470	A	
73	61図-40	Ⅲ		S-32		G I	13.5	9.8	5.3	970	A	
74	-	Ⅲ		S-37		G I	11.4	10.2	5.9	990	A	
75	59図-3	Ⅲ		S-39		G I	11.2	9.3	5.7	810	A	
76	-	Ⅲ		S-48		G I	7.3	6.0	5.0	230	A	
77	60図-21	Ⅲ			CL	G I	11.0	6.8	3.1	280	A	
78	60図-13	V	FG62-04住			G I	14.6	9.5	4.3	770	A	
79	62図-43	V	FG62-04住	S-10		G I	8.4	7.0	4.5	360	A	
80	-	V	FG62-04住	S-32		G I	9.8	8.2	7.0	721	A	
81	-	V	FG64-01住	S-5		G I	7.2	4.7	3.9	173	A	
82	-	V	FG64-04住		I層	G I	7.7	7.4	4.5	310	A	
83	60図-16	V	FG64-05住	S-2		G I	9.3	8.7	5.1	620	A	
84	-	V	FG64-05住 P2	S-1		G I	8.0	6.9	6.7	500	A	
85	60図-20	V	FH60-03住	S-4		G I	10.1	5.9	5.6	390	A	
86	61図-39	V	FH62-03住	S-6		G I	13.6	7.5	5.0	615	A	
87	60図-25	V	FH62-03住	S-12	3層	G I	7.5	4.4	3.8	180	A	
88	-	V	FH62-03住	S-19		G I	8.7	5.9	5.8	361	A	
89	60図-28	V	FH62-03住	S-26		G I	6.9	5.3	3.6	170	A	
90	-	V	FI60-02住	S-1		G I	(11.6)	(8.4)	4.9	(605)	A	
91	-	V	FI62-04住	S-2		G I	6.4	6.0	5.4	196	A	
92	-	V	FJ58-01住	S-13		G I	8.4	7.0	6.4	396	A	
93	62図-46	V	FJ60-01住	S-1		G I	10.0	8.4	4.8	280	A	
94	61図-33	V	FJ60-01住	S-2		G I	9.8	7.9	7.4	760	A	
95	59図-4	V	FJ60-01住	S-13		G I	10.4	6.7	4.5	400	A	
96	-	V	FJ60-01住	S-16		G I	10.0	5.5	4.8	428	A	
97	61図-38	V	FI60-04土坑			G I	11.0	8.5	3.9	450	A	
98	-	V	FJ60-06土坑	S-1		G I	11.0	7.1	5.3	508	A	
99	-	V	柱167	S-1		G I	10.7	8.5	4.8	620	A	
100	60図-26	V	柱189			G I	5.6	5.1	3.8	110	A	
101	61図-37	V	柱191	S-1		G I	11.2	8.7	6.0	840	A	
102	61図-41	V	FG62-11	S-24		G I	10.7	8.9	7.1	750	A	
103	-	V	FG62-23	S-10		G I	9.6	8.9	9.1	1,040	A	
104	-	V	FG62-23	S-11		G I	7.2	6.8	6.8	404	A	
105	-	V	FG62-23	S-22		G I	5.9	5.5	5.7	340	A	
106	-	V	FG62-26	S-17		G I	6.2	6.0	4.3	313	A	
107	-	V	FG62-29	S-1		G I	7.7	6.9	6.1	415	A	
108	-	V	FG62-35			G I	(11.1)	10.6	6.6	(1,200)	A	
109	-	V	FG62-35	S-6		G I	8.3	6.2	5.4	345	A	
110	60図-24	V	FH60-17	S-21		G I	8.0	6.5	5.6	380	A	
111	-	V	FH62-3	S-1		G I	8.9	7.9	4.2	374	A	
112	60図-27	V	FH62-3	S-19		G I	6.4	5.9	4.1	180	A	
113	-	V	FH62-4	S-4		G I	12.7	11.4	7.6	1,500	A	
114	60図-15	V	FH62-4	S-29		G I	10.3	7.8	5.5	450	A	
115	-	V	FH62-6	S-9		G I	11.9	6.5	5.2	551	A	
116	62図-42	V	FH62-12			G I	8.2	7.2	6.8	510	A	
117	59図-7	V	FH62-18	S-3		G I	14.5	8.8	5.6	950	A	
118	-	V	FH62-18	S-49		G I	9.5	8.2	4.7	544	A	
119	60図-19	V	FH62-24			G I	7.3	4.2	4.7	250	A	
120	-	V	FH64-4	S-3		G I	7.7	7.7	6.7	401	A	
121	-	V	FH64-4	S-4		G I	10.2	7.8	5.3	504	A	
122	-	V	FH64-5	S-2		G I	8.2	6.0	4.1	264	A	
123	-	V	FH64-11	S-29		G I	8.2	7.1	7.0	695	A	
124	-	V	FH64-11	S-30		G I	(7.8)	(5.6)	5.5	(347)	A	
125	-	V	FH64-14	S-12		G I	5.6	4.9	4.9	197	A	
126	-	V	FH64-20	S-13		G I	5.5	4.5	4.5	188	A	
127	-	V	FI60-4		Ⅱ層	G I	11.4	7.1	3.3	360	A	
128	-	V	FI62-2			G I	12.5	9.7	6.2	900	A	
129	62図-44	V	FI62-3			G I	7.1	6.7	4.0	250	A	
130	-	V	FI62-6	S-16		G I	8.9	6.1	5.0	350	A	

No	図版番号	調査区	出土地点	出土No	層位	分類	実測 (cm)			重さ(g)	石質	備考
							長さ	幅	厚さ			
131	-	V	FI62-13			G I	(6.2)	(7.2)	5.8	(340)	A	
132	-	V	FI62-31・32			G I	(10.3)	10.3	6.8	(1,050)	A	
133	-	V	FI62-33			G I	11.0	8.6	4.7	520	A	
134	-	V	FI62-33			G I	11.6	9.8	7.0	970	A	
135	-	V	FJ60-25	S-46		G I	12.5	8.3	5.1	736	A	
136	-	V	GA58-3	S-52		G I	7.5	5.9	3.5	240	A	
137	-	V	GA58-11	S-56		G I	10.7	7.7	5.4	540	A	
138	-	V	GA58-18	S-53		G I	10.2	7.7	6.7	540	A	
139	-	V	GA58-24	S-54		G I	16.1	10.7	7.3	1,230	A	
140	-	II a	FA54-22	S-78		G II	9.9	7.6	3.4	410	A	
141	-	II a	FD56-28	S-68		G II	10.0	8.4	5.1	500	A	
142	-	II b	FC50-01住	S-1		G II	10.9	9.5	5.8	870	A	
143	-	II b	FC50-01住	S-8		G II	11.7	6.1	6.0	550	S	
144	62図-48	II b	FD48-01住	S-7		G II	10.0	8.2	5.4	630	A	
145	-	II b	FE48-01住	S-1		G II	11.2	8.0	5.2	760	A	
146	62図-47	II b	柱12			G II	9.5	6.0	3.0	270	A	
147	-	II b		S-19		G II	15.0	7.7	3.3	600	A	
148	-	V	FG62-05住	S-13		G II	11.5	8.4	6.3	930	A	
149	-	V	FJ58-01住			G II	22.0	8.5	6.5	1,800	S	
150	-	V	FH62-35	S-9		G II	11.2	8.4	(5.2)	(670)	S	
151	-	V	FJ58-30	S-41	IV層	G II	(11.4)	6.9	2.4	(288)	N	
152	-	V	FJ58-30	S-42	IV層	G II	8.8	3.3	3.0	137	N	
153	-	II a	FA52-04住	S-3		G III	7.3	6.1	4.3	220	A	
154	-	II a	FA54-02住	S-1		G III	8.6	7.0	5.2	420	A	
155	64図-76	II a	FB54-02住	S-10		G III	7.2	6.2	4.2	250	A	
156	63図-67	II a	FB54-02住	S-11		G III	11.1	9.1	7.5	960	A	
157	-	II a	FB56-03住	S-2		G III	5.7	5.7	3.8	130	A	
158	-	II a	FD54-01住	S-65		G III	5.8	(5.0)	4.7	(145)	A	
159	-	II a	24号古墳	S-1		G III	11.3	8.3	6.5	850	A	
160	-	II a	24号古墳	S-3		G III	4.2	3.75	3.4	75	A	
161	63図-72	II a	FD56-03土坑	S-66		G III	9.3	6.2	4.1	410	A	
162	62図-59	II a	FD56-03土坑	S-67		G III	6.3	4.9	4.2	170	A	
163	-	II a	FD56-03土坑	S-83		G III	(14.9)	(13.4)	5.4	(1,310)	N	
164	-	II a	柱14	S-77		G III	8.8	8.4	4.1	360	A	
165	-	II a	FA52-04	S-1		G III	16.5	7.8	5.6	1,170	A	
166	-	II a	FA52-04	S-2		G III	7.8	6.1	3.8	220	A	
167	-	II a	FA54-26	S-46		G III	9.1	7.8	4.8	450	A	
168	-	II a	FA54-29	S-75		G III	5.6	5.0	3.85	130	A	
169	-	II a	FA54-29	S-80		G III	11.3	(6.9)	5.8	(660)	S	
170	-	II a	FA54-35	S-81		G III	(7.2)	(6.4)	5.0	(290)	A	
171	-	II a	FB54-15	S-9		G III	6.9	6.5	5.3	325	S	
172	-	II a	FB54-17	S-10		G III	9.7	7.7	6.0	620	A	
173	-	II a	FB54-34	S-38		G III	(9.3)	4.9	4.4	(260)	G	
174	-	II a	FB54-35	S-84		G III	5.9	5.4	4.1	140	A	
175	62図-55	II a	FB54-35	S-85		G III	3.7	3.4	2.8	50	A	
176	-	II a	FB56-8	S-44		G III	15.5	6.3	3.3	540	S	
177	-	II a	FB56-20	S-45		G III	12.6	10.5	7.0	1,280	A	
178	-	II a	FC54-18	S-40		G III	10.2	9.1	6.3	760	A	
179	-	II a	FC56-16	S-4		G III	15.6	12.1	8.2	2,000	A	
180	-	II a	FC58-27	S-5		G III	11.9	8.8	6.7	950	A	
181	-	II a	FD54-10	S-2		G III	(14.7)	9.0	6.5	(1,200)	A	
182	-	II a	FD54-30	S-69		G III	11.1	9.1	6.8	860	A	
183	-	II a	FD54-36	S-87		G III	15.2	7.0	6.8	1,180	A	
184	-	II a	FD56-11	S-28		G III	15.7	9.7	7.1	1,520	A	
185	-	II a	FD56-14	S-70		G III	9.2	8.2	7.1	660	A	
186	-	II a	FD56-14	S-71		G III	5.9	5.3	3.5	120	A	
187	-	II a	FD56-14	S-72		G III	6.0	4.9	4.0	110	A	
188	-	II a	FD56-15	S-89		G III	7.9	7.5	5.4	400	A	
189	-	II a	FD56-29	S-60		G III	(9.8)	(9.8)	(4.3)	(500)	A	
190	-	II a	FD56-35	S-59		G III	6.2	5.9	3.4	180	S	

No	図版番号	調査区	出土地点	出土No	層位	分類	実測(cm)			重さ(g)	石質	備考
							長さ	幅	厚さ			
191	-	II a	FE54-17・23	S-57		GⅢ	8.3	5.9	6.3	420	A	
192	-	II a	FF54-24	S-48		GⅢ	9.7	8.2	3.0	410	A	
193	-	II a	FE56-7	S-53		GⅢ	9.4	6.9	6.6	600	A	
194	-	II a	FF56-20	S-51		GⅢ	8.3	6.6	5.0	410	A	
195	-	II a	表採			GⅢ	7.4	5.8	5.4	340	A	
196	-	II a	表採			GⅢ	7.9	4.2	4.2	200	A	
197	-	II a	表採			GⅢ	7.6	6.4	5.0	390	S	
198	-	II a	表採			GⅢ	10.3	7.7	4.0	520	S	
199	-	II b	FA50-01住	S-1		GⅢ	12.8	9.0	4.1	850	A	
200	-	II b	FA50-01住	S-3		GⅢ	7.2	5.5	4.9	285	A	
201	-	II b	FA50-01住	S-4		GⅢ	7.4	4.5	3.7	200	A	
202	-	II b	FA50-01住	S-9		GⅢ	7.8	6.6	5.0	390	A	
203	-	II b	FA50-01住	S-11		GⅢ	(12.5)	9.0	5.2	(820)	A	
204	-	II b	FA50-01住	S-14		GⅢ	11.1	9.8	8.2	1,220	A	
205	-	II b	FA50-01住	S-16		GⅢ	(11.3)	9.7	6.3	(980)	A	
206	-	II b	FA50-01住	S-18		GⅢ	9.4	7.8	5.3	590	A	●
207	-	II b	FB52-02住	S-2		GⅢ	10.3	8.0	4.8	600	A	
208	62図-56	II b	FB52-03住	S-1		GⅢ	5.1	4.4	3.5	89	H	
209	-	II b	FB52-03住	S-6		GⅢ	10.3	8.0	6.0	690	A	
210	-	II b	FB52-03住	S-12		GⅢ	11.3	7.2	6.3	740	A	
211	62図-49	II b	FB52-03住	S-29		GⅢ	18.8	6.5	3.4	855	A	ベンガラ付着
212	-	II b	FC50-02住	S-2		GⅢ	6.7	4.7	3.9	190	A	
213	-	II b	FC50-02住	S-3		GⅢ	10.5	7.5	5.5	660	A	
214	-	II b	FC50-02住	S-8		GⅢ	7.4	5.1	4.3	230	A	
215	62図-50	II b	FC50-02住	S-12		GⅢ	13.8	11.0	5.1	1,250	A	ベンガラ付着
216	-	II b	FD48-01住	S-1		GⅢ	10.0	5.7	3.6	315	A	
217	63図-63	II b	FD48-01住	S-12		GⅢ	10.8	9.9	6.1	820	A	
218	63図-73	II b	FD48-01住	S-20		GⅢ	9.5	5.9	6.0	425	A	
219	-	II b	FD50-01住	S-2		GⅢ	12.3	8.9	5.3	825	A	
220	-	II b	FD50-01住	S-3		GⅢ	12.6	8.0	5.9	825	A	
221	-	II b	FD50-01住	S-4		GⅢ	11.3	7.5	5.3	770	A	
222	63図-64	II b	FE48-01住	S-2		GⅢ	11.7	10.3	6.9	1,100	A	
223	-	II b	FE48-01住	S-6		GⅢ	12.1	10.0	4.8	910	A	
224	-	II b	23号古墳	S-1		GⅢ	(14.9)	8.2	6.9	(930)	A	
225	-	II b	FB50-01土坑	S-1		GⅢ	10.2	6.1	3.5	350	A	
226	-	II b	FC48-07土坑	S-2		GⅢ	16.1	6.4	4.5	620	A	
227	-	II b	FE50-01土坑	S-3		GⅢ	11.0	7.7	5.9	800	U	
228	-	II b	FF48土坑			GⅢ	11.1	8.6	5.5	660	A	
229	-	II b	FF56-01土坑	S-1		GⅢ	12.2	8.2	7.3	930	A	
230	-	II b	FF56-01土坑	S-5		GⅢ	10.6	10.5	4.2	700	A	
231	-	II b	FG56-01土坑	S-1		GⅢ	10.3	8.3	6.2	600	A	
232	-	II b	FG56-01土坑	S-49		GⅢ	7.8	6.1	5.8	360	A	
233	-	II b	土坑7	S-1		GⅢ	13.0	(9.5)	5.0	(985)	A	
234	-	II b	柱88			GⅢ	8.9	7.7	5.7	490	A	
235	62図-52	II b	柱251			GⅢ	10.0	9.5	4.2	550	A	付着物
236	-	II b	FE50グリット			GⅢ	10.2	6.8	6.8	650	A	
237	63図-71	II b		S-1		GⅢ	10.1	5.7	4.9	490	U	
238	63図-70	II b		S-7		GⅢ	9.9	8.4	5.6	660	A	
239	-	II b		S-9		GⅢ	8.4	(4.8)	2.5	(120)	A	
240	-	II b		S-11		GⅢ	12.3	8.3	5.7	880	A	
241	-	II b		S-12		GⅢ	19.0	8.2	7.6	2,220	U	
242	-	II b		S-16		GⅢ	9.5	7.1	4.5	420	A	
243	62図-58	II b		S-16		GⅢ	7.3	4.1	2.1	85	S	
244	-	II b		S-24		GⅢ	8.1	6.1	4.1	270	A	
245	64図-77	II b		S-25		GⅢ	6.2	6.0	3.8	190	A	
246	-	II b		S-26		GⅢ	8.3	6.2	5.8	390	A	
247	-	II b		S-31		GⅢ	11.0	7.3	4.8	560	A	
248	-	II b		S-34		GⅢ	9.9	7.2	4.9	515	A	
249	-	II b		S-42		GⅢ	10.7	8.1	8.1	850	A	
250	-	II b		S-45		GⅢ	9.7	8.2	6.2	550	A	

No	図版番号	調査区	出土地点	出土No	層位	分類	実測(cm)			重さ(g)	石質	備考
							長さ	幅	厚さ			
251	63図-65	II b		S-47		GⅢ	11.3	10.7	7.1	1,260	A	
252	-	II b		S-54		GⅢ	12.3	9.6	6.2	1,200	U	
253	62図-54	II b		S-56		GⅢ	11.2	7.1	3.9	500	A	
254	-	II b		S-60		GⅢ	8.5	8.2	3.8	460	A	
255	62図-53	II b		S-87		GⅢ	11.4	8.4	5.9	770	A	朱付着
256	64図-74	II b		S-104		GⅢ	8.3	6.8	5.0	390	S	
257	-	II b		S-2		GⅢ	19.7	9.4	3.4	1,000	A	
258	-	II b		S-5		GⅢ	17.5	7.1	5.5	1,040	N	
259	-	II b		S-8		GⅢ	9.5	8.5	8.0	880	A	
260	-	II b		S-12		GⅢ	11.4	8.2	7.1	1,000	A	
261	-	II b		S-1		GⅢ	10.5	9.0	4.5	580	A	
262	-	II b		S-2		GⅢ	11.0	8.1	4.5	610	A	
263	-	II b		S-3		GⅢ	8.5	6.6	4.8	330	A	
264	62図-51	II b		S-6		GⅢ	10.3	6.8	6.7	610	A	●
265	-	II b		S-9		GⅢ	7.0	6.6	4.9	315	A	
266	-	II b		S-11		GⅢ	11.8	9.5	6.5	1,100	A	
267	-	II b		S-12		GⅢ	10.9	7.3	5.1	590	A	
268	-	II b		S-18		GⅢ	9.6	8.2	6.3	690	A	
269	-	Ⅲ		S-2		GⅢ	11.6	8.0	5.1	680	A	
270	-	Ⅲ		S-14		GⅢ	10.3	5.7	4.7	400	A	
271	-	Ⅲ		S-21		GⅢ	10.2	5.6	2.8	250	A	
272	62図-60	Ⅲ		S-22		GⅢ	6.0	5.5	4.6	195	A	
273	-	Ⅲ		S-33		GⅢ	15.3	8.2	7.4	1,570	U	
274	-	V	FG62-02住	S-1		GⅢ	7.4	7.6	6.0	438	A	
275	-	V	FG62-04住	S-7		GⅢ	14.0	7.2	4.2	510	A	
276	62図-57	V	FG62-04住	S-16		GⅢ	5.6	4.6	3.5	120	A	
277	64図-75	V	FG62-04住	S-25		GⅢ	7.9	6.8	4.6	340	A	
278	-	V	FG62-04住	S-31		GⅢ	(11.1)	6.1	6.5	(506)	A	
279	-	V	FG62-04住	S-33		GⅢ	12.2	11.5	6.2	1,064	A	
280	-	V	FG62-05住	S-1		GⅢ	12.0	9.5	6.4	767	A	
281	-	V	FG62-05住	S-2		GⅢ	7.0	5.0	4.7	236	A	
282	-	V	FG62-05住	S-3		GⅢ	10.3	8.5	7.7	746	A	
283	-	V	FG62-05住	S-10		GⅢ	(10.8)	8.0	6.5	(825)	S	
284	-	V	FG62-05住	S-11		GⅢ	10.8	7.8	6.2	575	A	
285	-	V	FG62-06住	S-5		GⅢ	12.0	7.9	5.7	571	A	
286	-	V	FG64-01住	S-4		GⅢ	8.0	5.8	4.7	214	A	
287	-	V	FG64-04住	S-1		GⅢ	10.4	9.0	6.7	892	A	
288	-	V	FG64-04住?			GⅢ	7.5	7.7	5.9	403	A	
289	-	V	FH60-03住	S-1		GⅢ	13.6	8.0	4.7	500	A	
290	63図-66	V	FH60-03住	S-2		GⅢ	9.5	7.8	5.8	540	A	
291	-	V	FH62-03住	S-17		GⅢ	4.4	3.8	3.6	76	A	
292	-	V	FH62-03住 P14			GⅢ	5.3	5.2	5.0	178	A	
293	-	V	FI58-01住	S-1		GⅢ	11.1	8.9	6.6	795	A	
294	-	V	FJ58-01住	S-2		GⅢ	15.0	6.8	3.2	451	S	
295	-	V	FJ58-01住	S-4	3層	GⅢ	(8.9)	6.5	5.3	(411)	A	
296	-	V	FJ58-01住	S-6	3層	GⅢ	10.6	8.1	4.2	564	S	
297	-	V	FJ58-01住	S-7	3層	GⅢ	11.7	4.7	8.2	564	A	
298	-	V	FJ58-01住	S-8	3層	GⅢ	(9.5)	9.2	4.7	(591)	A	
299	-	V	FJ58-01住	S-11		GⅢ	10.2	6.1	5.2	444	A	
300	-	V	FJ60-01住	S-4		GⅢ	10.2	9.2	9.0	565	A	
301	-	V	FJ60-01住	S-5		GⅢ	11.0	4.5	3.6	200	R	
302	-	V	FJ60-01住	S-7		GⅢ	14.4	9.9	6.8	1,430	A	
303	-	V	FJ60-01住	S-9		GⅢ	(8.0)	(5.6)	4.5	(292)	A	
304	-	V	FJ60-01住	S-12		GⅢ	11.7	9.3	6.7	946	A	
305	-	V	FJ60-01住	S-14	3層	GⅢ	14.0	6.0	4.4	536	S	
306	63図-68	V	FH60-01土坑	S-1		GⅢ	10.8	9.1	5.9	840	A	
307	-	V	FH60-01土坑	S-1		GⅢ	10.8	6.7	5.2	410	A	
308	-	V	FI60-06土坑	S-1		GⅢ	9.5	(7.4)	6.0	(670)	A	
309	-	V	FI60-06土坑	S-2		GⅢ	7.2	(4.6)	5.6	(250)	A	
310	-	V	FG62-16	S-23		GⅢ	6.4	4.8	4.5	202	A	

No	図版番号	調査区	出土地点	出土No	層位	分類	実測(cm)			重さ(g)	石質	備考
							長さ	幅	厚さ			
311	-	V	FG62-26	S-18		GⅢ	8.4	7.4	6.1	649	A	
312	-	V	FG62-31	S-20		GⅢ	9.5	8.3	5.3	629	A	
313	-	V	FG62-36	S-10		GⅢ	12.5	11.1	7.4	1,500	A	
314	-	V	FG64-14	S-10		GⅢ	8.1	8.1	4.5	480	U	
315	-	V	FG64-20	S-11		GⅢ	11.8	5.0	3.5	350	S	
316	-	V	FG64-36	S-31		GⅢ	4.8	4.1	4.7	162	A	
317	-	V	FH60-23			GⅢ	(9.0)	5.6	(4.6)	(360)	A	
318	-	V	FH62-4	S-3		GⅢ	5.8	4.9	3.5	106	A	
319	-	V	FH62-4	S-7		GⅢ	12.0	7.9	6.0	715	A	
320	-	V	FH62-5	S-5		GⅢ	5.5	4.7	3.6	123	A	
321	-	V	FH62-9	S-32		GⅢ	(7.3)	(5.0)	2.9	(120)	A	
322	-	V	FH62-14	S-8		GⅢ	5.8	5.4	4.6	208	A	
323	-	V	FH62-27	S-2		GⅢ	7.4	6.6	7.1	640	A	
324	-	V	FH62-36	S-4		GⅢ	13.8	9.2	7.1	1,500	A	
325	-	V	FH62-36	S-5		GⅢ	12.4	9.2	7.0	1,000	A	
326	-	V	FH64-3	S-2		GⅢ	6.4	7.3	5.5	297	A	
327	63図-69	V	FH64-19	S-14		GⅢ	10.3	8.3	6.8	750	A	
328	-	V	FH64-26	S-25		GⅢ	9.3	6.0	4.5	470	S	
329	63図-61	V	FH64-27	S-26		GⅢ	(14.4)	6.4	4.5	(750)	A	
330	-	V	FH64-31	S-7		GⅢ	14.0	7.1	6.6	1,300	A	
331	-	V	FH64-32	S-6		GⅢ	9.5	8.4	5.8	760	A	
332	-	V	FI60-4		Ⅱ層	GⅢ	8.2	8.0	5.7	410	A	
333	-	V	FI62-2			GⅢ	11.5	(6.9)	3.8	(370)	A	
334	-	V	FJ58-6	S-44	Ⅳ層	GⅢ	(10.9)	8.9	6.8	(987)	U	
335	-	V	FJ58-11	S-48		GⅢ	13.4	8.8	5.0	750	S	
336	-	V	FJ58-30	S-40	Ⅳ層	GⅢ	10.5	6.4	4.8	505	A	
337	63図-62	V			Ⅱ層	GⅢ	15.2	6.2	5.7	1,000	A	
338	-	V	表採			GⅢ	8.9	7.6	6.6	520	A	
339	-	V	表採			GⅢ	(14.7)	9.7	6.4	(1,400)	A	
340	-	V	表採			GⅢ	7.7	5.9	4.7	295	A	
341	-	V	表採			GⅢ	8.5	7.5	5.9	453	A	
342	-	Ⅱb	FE48-01住	S-3		G	6.5	5.6	4.5	190	A	
343	-	Ⅱb	FE48-01住	S-5		G	7.5	5.3	4.7	210	A	
344	-	Ⅱb		S-6		G	6.6	5.1	4.6	200	S	
345	-	Ⅱb		S-10		G	7.0	4.2	3.4	130	A	
346	-	Ⅱb		S-13		G	5.9	5.7	4.6	190	A	
347	-	Ⅱa	FA52-04住	S-4		HⅠa	(6.1)	(7.1)	2.2	(100)	S	
348	-	Ⅱa	FB54-02住	S-7	1層	HⅠa	(4.7)	4.2	2.6	(80)	A	
349	64図-86	Ⅱa	FB54-02住			HⅠa	11.0	2.2	2.5	104	S	
350	-	Ⅱa	FA54-29	S-76		HⅠa	(8.0)	6.5	1.4	(50)	F	
351	64図-83	Ⅱa	FB56-19	S-1		HⅠa	(6.5)	6.0	3.1	(200)	S	
352	64図-89	Ⅱa	FC56-33	No2		HⅠa	5.6	3.5	1.5	53.5	S	●
353	64図-88	Ⅱa	FC58-29	S-91		HⅠa	(6.4)	4.3	2.2	(110)	R	
354	64図-87	Ⅱb	FA50-01住	S-15		HⅠa	(4.2)	(3.7)	1.3	(34.6)	A	
355	64図-81	Ⅱb	FB52-03住	S-1		HⅠa	(12.6)	4.1	2.0	(185)	N	
356	64図-85	Ⅱb	FC50-02住	S-11		HⅠa	(10.9)	4.6	2.7	(250)	U	
357	64図-91	Ⅱb	柱20			HⅠa	(3.7)	(3.7)	0.6	(9.4)	R	
358	64図-78	V	FG64-01住	S-3		HⅠa	(11.2)	4.6	2.4	(230)	S	●
359	64図-79	V	FG64-05住	S-1		HⅠa	(7.3)	5.4	2.3	(180)	D	
360	64図-80	V	FH60-03住	S-5		HⅠa	(10.0)	6.2	2.6	(260)	S	
361	-	V	FH62-03住	S-11		HⅠa	(5.5)	4.7	3.2	(138)	A	
362	64図-90	V	FJ60-01住	S-17		HⅠa	(6.0)	(2.7)	1.7	(52.2)	N	
363	64図-82	V	FJ60-01住	S-18		HⅠa	(8.4)	4.5	2.7	(160.4)	N	
364	64図-84	V	FH62-21	S-36		HⅠa	(11.4)	5.7	3.0	(310)	A	
365	-	V	FH64-27		Ⅱ層	HⅠa	8.0	4.7	2.8	170	A	
366	-	V	FI60-27		Ⅱ層	HⅠa	4.0	(5.1)	2.7	(360)	A	
367	64図-92	Ⅱa	FB54-02住		2層	HⅠb	4.0	1.7	0.7	8.2	N	
368	64図-95	Ⅱa	FC58-8	No1		HⅠb	3.75	2.0	1.1	17.1	R	
369	64図-97	Ⅱa	FD58-6	No1		HⅠb	7.3	1.6	0.85	15.8	R	
370	64図-94	Ⅱb	FA50-01住	S-19		HⅠb	(3.3)	1.7	0.9	(12.2)	R	

No	図版番号	調査区	出土地点	出土No	層位	分類	実測(cm)			重さ(g)	石質	備考
							長さ	幅	厚さ			
371	64図-99	II b	柱48	S-1		H I b	3.1	1.1	0.3	1.7	S	
372	64図-96	II b	FF46グリット		CL	H I b	3.9	1.5	0.4	4.7	S	
373	64図-98	III	EI44-01住		CL	H I b	(2.55)	(1.4)	0.6	(4.1)	R	
374	64図-93	V	FH62-03住		1層	H I b	(3.7)	(2.0)	0.9	(8.4)	N	
375	-	II a	FD58-9	S-93		H I	(6.0)	4.8	2.1	(90)	R	
376	-	II a	FA52-05住	S-1		I I ~ II	(9.0)	(8.1)	3.9	(530)	A	
377	70図-106	II a	FB54-02住	S-12		I I ~ II	16.6	(9.3)	3.9	(840)	A	
378	-	II a	FB54-02住	S-14		I I ~ II	17.5	10.5	9.5	2,300	A	
379	69図-124	II a	FB56-03住	S-1		I I ~ II	15.4	10.9	3.0	700	A	
380	-	II a	24号古墳	S-2		I I ~ II	14.4	13.6	4.3	1,060	A	
381	67図-112	II a	FD56-03土坑	S-82		I I ~ II	22.1	19.4	5.0	3,680	A	
382	67図-111	II a	FA54-22	S-79		I I ~ II	(16.3)	13.2	3.6	(950)	A	
383	-	II a	FC54-12	S-15		I I ~ II	22.0	12.8	5.3	2,280	A	
384	68図-118	II a	FC56-16	S-3		I I ~ II	(17.8)	18.0	6.0	3,010	A	
385	-	II a	FC60-34	S-24		I I ~ II	19.2	14.4	5.1	2,550	A	
386	-	II a	FD54-30	S-74		I I ~ II	(14.1)	(6.4)	5.7	(650)	A	
387	-	II a	FD56-7	S-41		I I ~ II	(9.3)	(6.5)	5.5	(460)	A	
388	-	II a	FD56-14	S-73		I I ~ II	14.3	(9.3)	2.6	(510)	A	
389	-	II a	FD56-23	S-61		I I ~ II	(13.7)	12.1	4.3	(1,160)	A	
390	-	II a	FD56-23	S-62		I I ~ II	19.7	12.8	4.3	1,510	A	
391	-	II a	FD60-2	S-7		I I ~ II	(12.4)	11.4	7.1	(2,200)	A	
392	-	II a	FE54-17・23	S-58		I I ~ II	(9.0)	(8.5)	7.1	(810)	A	
393	-	II a	FE56-13	S-55		I I ~ II	(11.4)	(8.6)	(3.1)	(440)	A	
394	-	II a	FE56-20	S-54		I I ~ II	14.4	12.0	6.8	1,400	A	
395	-	II b	FA50-01住	S-8		I I ~ II	(19.5)	(15.3)	4.3	(1,890)	A	
396	66図-105	II b	FA52-03住	S-27		I I ~ II	23.1	13.2	5.3	2,945	A	
397	-	II b	FB52-02住	S-3		I I ~ II	30.0	19.0	6.7	5,100	A	
398	-	II b	FB52-03住	S-2		I I ~ II	(12.6)	(11.5)	6.2	(1,480)	A	
399	67図-115	II b	FB52-03住	S-10		I I ~ II	(30.2)	(17.0)	5.3	(2,420)	A	
400	-	II b	FB52-03住	S-13		I I ~ II	(13.0)	(9.6)	3.0	(650)	A	
401	-	II b	FB52-03住	S-20		I I ~ II	(14.2)	(13.5)	5.6	(1,520)	A	
402	-	II b	FC50-02住	S-1		I I ~ II	14.7	14.1	5.2	1,680	A	
403	-	II b	FC50-02住	S-4		I I ~ II	(19.5)	13.5	9.5	(4,950)	A	
404	-	II b	FC50-02住	S-6		I I ~ II	(21.0)	18.8	5.0	(3,220)	A	
405	-	II b	FC50-02住	S-10		I I ~ II	21.5	18.0	4.8	2,620	A	
406	69図-123	II b	FC50-02住	S-13		I I ~ II	18.0	11.6	5.0	1,565	A	
407	-	II b	FD48-01住	S-2		I I ~ II	34.0	14.5	8.2	6,250	A	
408	-	II b	FD48-01住	S-3		I I ~ II	20.3	19.0	6.9	4,500	A	
409	-	II b	FD48-01住	S-4		I I ~ II	21.7	17.0	5.0	2,930	A	
410	68図-119	II b	FD48-01住	S-5		I I ~ II	20.3	14.3	3.3	1,650	U	
411	-	II b	FD48-01住	S-16		I I ~ II	19.8	12.2	5.5	1,730	A	
412	-	II b	FD48-01住	S-17		I I ~ II	15.2	13.2	5.8	1,260	A	
413	68図-117	II b	FB50-01土坑	S-2		I I ~ II	13.2	10.8	5.7	1,080	A	
414	-	II b	FE50-05土坑	S-1		I I ~ II	(16.0)	11.0	7.2	(1,680)	A	
415	-	II b	FF56-01土坑	S-3		I I ~ II	(14.4)	(14.2)	6.7	(1,580)	A	
416	-	II b	柱31			I I ~ II	34.0	20.5	5.8	4,500	A	
417	69図-122	II b	柱85	S-1		I I ~ II	14.0	13.8	4.6	(1,520)	A	
418	65図-102	II b	柱191			I I ~ II	(8.0)	(5.6)	4.0	(150)	A	
419	-	II b		S-13		I I ~ II	15.8	10.1	3.9	740	A	
420	-	II b		S-18		I I ~ II	14.5	14.5	4.7	1,570	A	
421	67図-114	II b		S-28		I I ~ II	16.0	11.2	3.5	940	A	
422	66図-104	II b		S-58		I I ~ II	22.9	16.6	6.6	3,030	A	
423	68図-120	II b		S-70		I I ~ II	23.9	(14.3)	5.8	(2,650)	U	
424	-	II b		S-1		I I ~ II	17.5	16.0	7.5	2,720	A	
425	-	II b		S-4		I I ~ II	21.0	12.1	7.4	2,380	S	
426	-	II b		S-13		I I ~ II	11.2	10.6	7.0	880	A	
427	-	II b		S-8		I I ~ II	21.0	8.4	4.9	840	A	
428	67図-113	II b		S-14		I I ~ II	(19.4)	(14.8)	4.6	(1,930)	A	
429	-	III	EJ40グリット		CL	I I ~ II	7.4	5.2	2.2	110	A	
430	68図-116	III	中央レンチ	S-25		I I ~ II	29.6	19.7	6.3	4,650	A	

No	図版番号	調査区	出土地点	出土No	層位	分類	実測 (cm)			重さ(g)	石質	備考
							長さ	幅	厚さ			
431	65図-100	Ⅲ	中央トレンチ	S-31		ⅠⅠ～Ⅱ	26.0	19.8	5.0	3,740	A	
432	68図-121	Ⅲ		S-18		ⅠⅠ～Ⅱ	15.6	15.0	6.3	1,830	A	
433	66図-108	Ⅲ		S-20		ⅠⅠ～Ⅱ	18.7	16.1	3.3	1,140	A	
434	-	Ⅲ			CL	ⅠⅠ～Ⅱ	14.7	7.9	4.7	720	A	
435	-	V	FG62-03住 炉	S-2		ⅠⅠ～Ⅱ	(16.4)	(14.7)	7.0	(2,400)	A	
436	-	V	FG62-04住	S-9		ⅠⅠ～Ⅱ	(29.5)	(21.5)	(10.0)	(1,300)	A	
437	-	V	FG62-04住	S-34		ⅠⅠ～Ⅱ	(11.8)	(9.7)	5.8	(966)	A	
438	67図-110	V	FG62-05住	S-4		ⅠⅠ～Ⅱ	(20.7)	(14.9)	5.9	(2,270)	A	
439	-	V	FG62-05住	S-5		ⅠⅠ～Ⅱ	(12.5)	(8.9)	5.9	(1,028)	U	
440	-	V	FG62-05住	S-6	2層	ⅠⅠ～Ⅱ	(5.8)	(5.7)	3.0	(51)	A	
441	-	V	FG62-05住	S-7		ⅠⅠ～Ⅱ	(19.0)	(18.0)	6.3	(2,900)	A	
442	-	V	FG62-05住	S-9		ⅠⅠ～Ⅱ	(20.5)	(15.7)	5.7	(2,850)	A	
443	-	V	FG62-05住			ⅠⅠ～Ⅱ	(9.6)	(6.4)	5.0	(390)	A	
444	-	V	FG64-01住	S-1		ⅠⅠ～Ⅱ	(38.5)	(24.5)	8.7	(10,850)	A	
445	-	V	FG64-02住 炉	S-1		ⅠⅠ～Ⅱ	13.8	8.3	2.6	402	A	
446	-	V	FH60-03住	S-12		ⅠⅠ～Ⅱ	(14.3)	9.0	5.7	(450)	A	
447	-	V	FH62-03住	S-1	1層	ⅠⅠ～Ⅱ	(3.5)	(2.2)	(2.7)	(28)	A	
448	-	V	FH62-03住	S-2	1層	ⅠⅠ～Ⅱ	(9.2)	7.3	3.1	(150)	A	
449	-	V	FH62-03住	S-3	1層	ⅠⅠ～Ⅱ	(12.2)	(6.5)	6.5	(336)	A	
450	-	V	FH62-03住	S-7		ⅠⅠ～Ⅱ	(32.0)	22.5	7.0	(1,050)	A	
451	-	V	FH62-03住	S-8		ⅠⅠ～Ⅱ	33.7	27.0	16.8	17,800	S	
452	-	V	FH62-03住	S-9		ⅠⅠ～Ⅱ	(18.0)	(10.6)	(6.7)	(1,550)	A	
453	66図-107	V	FH62-03住	S-10		ⅠⅠ～Ⅱ	17.4	13.9	4.6	1,390	A	ベンガラ付着
454	-	V	FH62-03住	S-13		ⅠⅠ～Ⅱ	25.5	21.2	6.7	4,150	A	
455	-	V	FH62-03住	S-14	3層	ⅠⅠ～Ⅱ	(15.8)	(12.5)	8.3	(1,870)	A	
456	-	V	FH62-03住	S-20		ⅠⅠ～Ⅱ	(14.0)	(12.5)	4.4	(1,120)	A	
457	-	V	FH62-03住	S-24		ⅠⅠ～Ⅱ	(16.5)	(9.4)	9.4	(928)	A	
458	-	V	FI60-02住	S-2		ⅠⅠ～Ⅱ	(8.3)	(6.0)	2.5	(142)	A	
459	-	V	FI62-01住	S-2		ⅠⅠ～Ⅱ	15.2	8.4	7.1	2,050	A	
460	-	V	FJ58-01住	S-1		ⅠⅠ～Ⅱ	25.5	(25.0)	7.3	(6,600)	A	
461	-	V	FJ58-01住	S-3		ⅠⅠ～Ⅱ	(11.4)	(8.0)	4.4	(745)	A	
462	-	V	FJ58-01住	S-5	3層	ⅠⅠ～Ⅱ	(17.2)	(14.0)	4.0	(1,500)	T	
463	66図-109	V	FJ60-01住	S-6		ⅠⅠ～Ⅱ	24.8	11.8	4.4	980	A	付着物
464	-	V	FJ60-01住	S-8		ⅠⅠ～Ⅱ	(16.6)	(9.5)	(8.3)	(1,700)	A	
465	-	V	FJ60-01住	S-10		ⅠⅠ～Ⅱ	9.5	(8.1)	2.8	(310)	A	
466	-	V	FJ60-01住	S-11		ⅠⅠ～Ⅱ	(13.3)	(6.2)	4.3	(803)	A	
467	-	V	FJ60-01住	S-15		ⅠⅠ～Ⅱ	(12.5)	(10.3)	5.9	(1,199)	A	
468	-	V	FI60-06土坑	S-1		ⅠⅠ～Ⅱ	19.4	20.0	9.2	4,500	A	
469	-	V	FI60-06土坑	S-2		ⅠⅠ～Ⅱ	22.0	20.0	8.3	5,500	A	
470	-	V	FI60-06土坑	S-3		ⅠⅠ～Ⅱ	25.0	21.5	12.3	8,300	S	
471	-	V	FI60-06土坑	S-4		ⅠⅠ～Ⅱ	23.3	22.2	5.7	2,500	A	
472	-	V	FI60-08土坑	S-1		ⅠⅠ～Ⅱ	36.4	31.5	9.0	13,200	A	
473	-	V	FI60-08土坑	S-2		ⅠⅠ～Ⅱ	30.0	29.5	13.8	17,700	A	
474	-	V	FG62-17	S-10		ⅠⅠ～Ⅱ	26.0	21.5	6.0	5,500	A	
475	-	V	FH60-29			ⅠⅠ～Ⅱ	(10.2)	(7.4)	5.5	(540)	A	
476	-	V	FH62-16			ⅠⅠ～Ⅱ	17.0	20.2	4.9	3,300	A	
477	-	V	FH62-16			ⅠⅠ～Ⅱ	(24.0)	(19.5)	4.8	3,400	A	
478	-	V	FH62-35	S-15		ⅠⅠ～Ⅱ	37.5	35.0	16.5	26,350		
479	65図-103	V	FH64-3	S-8	CL	ⅠⅠ～Ⅱ	13.1	19.3	5.5	1,110	A	
480	-	V	FH64-4	S-5		ⅠⅠ～Ⅱ	(8.1)	(7.8)	(4.7)	(413)	A	
481	-	V	FH64-9			ⅠⅠ～Ⅱ	(21.2)	(17.2)	8.7	(3,950)	A	
482	-	V	FH64-13	S-11		ⅠⅠ～Ⅱ	(18.1)	(12.4)	7.9	(2,100)	A	
483	65図-101	V	FH64-26	S-27		ⅠⅠ～Ⅱ	32.4	(21.9)	6.6	(6,250)	A	付着物
484	-	V	FH64-33	S-28		ⅠⅠ～Ⅱ	(12.4)	(8.9)	(6.0)	(921)	A	
485	-	V	FI60-23			ⅠⅠ～Ⅱ	(29.5)	(23.2)	10.0	(11,650)	S	
486	-	V	FI60-27			ⅠⅠ～Ⅱ	(13.0)	10.9	6.5	(1,420)	U	
487	-	V	FJ58-12	S-43		ⅠⅠ～Ⅱ	13.9	12.0	5.0	942	A	
488	-	V	FJ58-23	S-37		ⅠⅠ～Ⅱ	(15.0)	(12.0)	(3.8)	(855)	A	
489	-	V	FJ62-4			ⅠⅠ～Ⅱ	44.6	32.0	14.5	28,600	S	
490	-	V	GA60-4	S-47		ⅠⅠ～Ⅱ	(9.6)	(8.1)	4.3	(343)	A	

No	図版番号	調査区	出土地点	出土No	層位	分類	実測(cm)			重さ(g)	石質	備考
							長さ	幅	厚さ			
491	-	V	表採			I I ~ II	13.4	10.7	6.2	1,100	A	
492	-	V	表採			I I ~ II	(11.2)	(8.4)	5.4	(956)	A	
493	-	V	表採			I I ~ II	19.7	19.1	9.0	5,700	A	
494	-	V				I I ~ II	(34.2)	(31.5)	20.5	(21,700)	A	
495	-	V				I I ~ II	(29.5)	(23.2)	10.0	(11,650)	S	
496	69図-125	V	FG64-01住	S-2		I II	15.9	(7.5)	9.7	(1,650)	N	
497	69図-129	II a	FB54-02住	S-13		I III	17.8	5.2	5.1	900	A	
498	-	II a	FB56-01住	S-3		I III	(10.5)	(9.1)	4.3	(390)	S	
499	69図-127	II a	FB54-2	S-30		I III	(26.2)	7.2	6.1	(1,530)	A	スス付着
500	69図-131	II b	FB52-03住	S-7		I III	(8.7)	(6.1)	1.6	(100)	A	
501	69図-132	II b	FC50-01住	S-5		I III	9.8	4.1	2.1	100	S	
502	-	II b	FB50-01土坑	S-3		I III	37.0	15.0	9.0	9,000	A	
503	69図-130	II b	FE50-01土坑		3層	I III	(7.7)	(5.1)	3.1	(140)	A	
504	-	V	FG62-04住			I III	(11.0)	(10.4)	4.3	(562)	A	
505	69図-126	V	FH60-03住			I III	41.7	8.8	6.4	4,400	A	
506	69図-128	V	FH62-03住	S-25		I III	16.5	7.2	4.5	750	A	
507	-	V	FH62-9	S-33		I III	(14.1)	(6.4)	(5.1)	(442)	A	
508	-	V	GA58-18	S-55		I III	(7.5)	(5.9)	1.7	(90)	A	
509	-	II a	FB56-01住	S-4		J	(9.1)	6.4	4.0	(285)	N	
510	-	V	FH62-16			J	(44.0)	(22.0)	10.0	(1,370)	U	

(4) 石製品・石核

No	図版番号	調査区	出土地点	出土No	層位	分類	実測(cm)			重さ(g)	石質	備考
							長さ	幅	厚さ			
1	71図-15	II a			CL	L I	8.9	1.0	1.0	9.3	S	
2	70図-6	II a	FC56-33	S-43		L I	(13.0)	7.4	4.9	(800)	A	
3	70図-3	II b	FB52-03住	S-11		L I	(33.1)	10.9	8.9	(5,350)	A	
4	70図-5	II b	FD48-01住	S-14		L I	(7.3)	5.7	5.3	(300)	A	
5	71図-12	II b	FD48-01住	S-19		L I	(30.1)	(14.4)	12.7	(8,250)	A	
6	70図-1	II b	FE48-01住	S-7		L I	43.8	11.3	10.2	8,590	A	
7	70図-2	II b	FE48-01住	S-8		L I	38.6	8.7	7.9	4,280	A	
8	70図-8	II b	23号古墳	S-2		L I	(20.9)	10.5	10.6	(3,150)	A	
9	70図-4	II b	柱324			L I	(27.3)	9.8	8.8	(3,300)	A	
10	68図-7	II b	柱408	S-1		L I	(14.6)	7.9	6.0	(1,085)	A	
11	-	V	FG62-03住 炉	S-3		L I	(10.0)	5.0	4.1	(311)	A	
12	71図-11	V	FG62-04住	S-3		L I	(29.2)	9.4	8.5	(2,910)	A	付着物
13	72図-17	V	FG62-05住			L I	(4.7)	2.3	0.8	15.1	N	
14	71図-9	V	FH60-03住			L I	(50.4)	8.6	9.9	(2,260)	H	
15	-	V	FH62-03住	S-4		L I	(7.5)	7.2	5.2	(289)	S	
16	71図-16	V	FH62-03住	No4		L I	(8.0)	1.7	1.5	(29.5)	A	
17	-	V	FI60-02住	S-3		L I	(10.5)	10.1	(7.0)	(826)	A	
18	-	V	FI60-02住	S-4とS-5		L I	11.7	11.0	12.0	1,910	A	
19	72図-18	V	FJ58-01住	No3		L I	(3.3)	3.2	2.2	36.6	A	
20	71図-13	V	FJ58-28	S-51		L I	(20.4)	10.4	8.7	(2,520)	A	
21	-	V	表採			L I	6.0	1.5	0.5	(7.9)	N	
22	71図-14	III		S-35		L II	22.6	4.8	1.7	250	N	
23	-	V	FG62-04住	S-36		L II	(16.8)	7.8	4.5	(878)	A	
24	71図-10	II b	FD48-01住	S-23		L	22.3	4.0	1.6	285	N	
25	-	V	FI62-01住	S-1	I層	L	5.8	1.9	0.7	30	N	
26	72図-20	II a	FB54-02住	No1		N III	5.7	2.2	0.4	8.4	N	
27	72図-30	II a	FC58		CL	N I	1.9	2.0	0.7	2.9	A	
28	72図-25	II b	FD48-22	S-8		N III	(4.7)	(3.0)	0.4	(8.5)	N	
29	72図-31	II b	FE56			N I	(1.7)	1.6	0.4	8.5	N	
30	72図-32	II b		S-129		N II	13.6	7.9	2.7	270	A	
31	72図-29	III	EI42-01住		2層	N III	(4.3)	4.3	0.5	12.1	G	
32	72図-22	V	FG62-04住	No1		N III	(9.4)	(2.3)	1.7	(38.7)	G	
33	72図-28	V	FG62-05住	No1		N III	(3.1)	(2.8)	1.2	(10.8)	G	
34	72図-33	V	FG64-01住	No1		N III	18.5	14.2	2.3	102.5	N	石笛?

No	図版番号	調査区	出土地点	出土No	層位	分類	実測 (cm)			重さ (g)	石質	備考
							長さ	幅	厚さ			
35	72図-24	V	FH60-03住	No1		NⅢ	(5.2)	1.5	1.3	12.9	G	
36	72図-21	V	FH60-03住	No2		NⅢ	4.7	2.2	0.6	11.7	R	
37	72図-23	V	FH62-03住	No2		NⅡ	7.0	4.1	1.6	53.4	G	
38	72図-19	V	FJ58-01住	No1		NⅢ	5.7	2.8	1.2	22.0	G	
39	72図-26	V	FJ60-06土坑	No1		NⅢ	4.5	3.3	0.7	10.7	G	
40	72図-27	V	FJ60-06土坑	No2		NⅢ	(2.6)	(1.8)	0.8	(3.7)	G	
41	73図-34	Ⅱa	FD56-⑧	S-47		O	20.1	7.1	5.1	1,240	D	半円形盤状石器
42	73図-35	V	FJ58-01住 床直	S-9	3層	O	8.3	6.7	2.5	170	A	青龍刀形石器
43	73図-39	Ⅱa	FB56-03住	S-3		不明	(4.4)	(3.3)	0.8	(10.0)	A	
44	73図-38	Ⅲ	EJ-42		CL	不明	(4.8)	2.2	1.2	(18.2)	A	
45	73図-36	Ⅲ			Ⅱ層	O	7.0	3.5	1.1	30.0	N	
46	73図-37	V	FH62-03住	S-18		不明	(5.7)	(5.3)	(4.0)	(300)	F	
47	73図-40	V	FG62-05住	S-8		石核	(10.0)	7.4	5.2	(440)	E	
48	-	V	FH62-18	S-50		石核	(8.0)	(5.7)	(4.0)	(160)	H	

(5) 土製品・特殊土器

No	図版番号	調査区	出土地点	出土No	層位	分類	法量			備考
							高さ	幅	厚さ	
1	74図-1	Ⅲ	170号址		CL	耳飾り	4.5	4.5	2.0	
2	74図-2	Ⅱa	FD60-2	No1		耳飾り	(4.3)	-	3.5	
3	74図-3	V	柱4			耳飾り	(3.7)	-	2.5	
4	74図-4	Ⅱb	FE48-01住		1層	耳飾り	(4.1)	-	2.6	ウルシ付着
5	74図-5	V	FI62-01住			耳飾り	(3.3)	-	3.0	
6	74図-6	Ⅱa	-		CL	耳飾り	(3.2)	-	2.3	
7	74図-7	V	FH62-03住			三角形土製品	5.1	5.0	0.8	
8	74図-8	V	FH62-03住		1層	三角形土製品	3.7	(3.0)	0.7	
9	74図-9	Ⅱb	FD48-01住	No4		三角形土製品	3.1	2.4	0.5	
10	74図-10	Ⅱa	FD58-36	No16		三角形土製品	4.9	4.4	0.8	
11	74図-11	Ⅲ	EI44-01住		2層	三角形土製品	4.5	4.0	1.0	
12	74図-12	Ⅱb	FC48-01住	No2		三角形土製品	4.4	(4.0)	1.4	
13	74図-13	Ⅱa	24号古墳			三角形土製品	4.1	4.1	1.4	
14	74図-14	V	FI60-02住			土玉	1.9	1.8	1.7	
15	74図-15	V	FI60-02住	No2		土玉	2.1	1.8	1.8	
16	74図-16	V	FI60-02住	No3		土玉	2.1	1.9	2.0	
17	74図-17	V	FI60-03住	No5		土玉	2.4	1.8	1.8	
18	74図-18	V	FI60-02住			土玉	2.3	1.7	1.7	
19	74図-19	V	FI60-03住	No4		土玉	2.6	2.3	2.3	
20	74図-20	Ⅱa	FD56-34	No12		土玉	1.8	1.6	1.6	
21	74図-21	Ⅱa	柱110			土玉	1.6	1.4	0.8	
22	74図-22	Ⅲ	EI42グリット		CL	土玉	1.3	(1.0)	0.8	
23	74図-23	V	FG62-05住	No2		土玉	1.6	1.6	1.4	
24	74図-24	V	FH62-03住	No1	2層	土玉	1.1	1.1	1.1	
25	74図-25	V	FI60-06土坑	No1	1層	土玉	2.4	2.4	1.9	
26	75図-26	Ⅱb	FH50グリット		CL	環状土製品	3.3	3.2	1.0	
27	75図-27	Ⅱa	FE54-5	No7		有孔土製品	2.9	2.9	1.7	
28	75図-28	V	GA58-10	No7		有孔土製品	2.7	(1.4)	(1.2)	
29	75図-29	Ⅱb	FF48 柱7			有孔土製品	2.3	1.8	1.4	
30	75図-30	V	FI62-01住		1層	有孔土製品	3.7	2.7	1.2	
31	75図-31	Ⅲ	EI44-01住		2層	有孔土製品	(6.8)	2.6	1.3	
32	75図-32	Ⅱb	FA50-01住	No4		有孔土製品	3.1	3.0	1.5	
33	75図-33	V	FG62-04住	No1		有孔土製品	5.4	1.3	1.3	
34	75図-34	Ⅱa	表採			有孔土製品	6.0	6.2	1.2	
35	75図-35	Ⅱb	FA50-01住	No3		有孔土製品	(3.6)	1.4	1.8	
36	75図-36	V	FG62-05住	No4		土錘	(3.8)	2.0	1.1	
37	75図-37	Ⅳ	Ⅳ	No2		土錘	2.0	1.5	1.5	
38	75図-38	V	FG62-05住	No3		土錘	3.1	2.0	(0.8)	
39	75図-39	V	FG64-32		CL	棒状土製品	(3.0)	1.0	0.8	
40	75図-40	Ⅱa	FE54-23	No11		棒状土製品	3.7	0.8	0.7	

No	図版番号	調査区	出土地点	出土No	層位	分類	法量			備考
							高さ	幅	厚さ	
41	75図-41	V	FI58-24		CL	棒状土製品	(3.4)	1.5	1.2	
42	75図-42	II b	FB52-02住	No1		棒状土製品	4.7	1.7	2.0	
43	—	V	FJ60-01住	No6		棒状土製品	(3.6)	0.8	0.7	
44	75図-43	V	FI62-01住			キノコ形土製品	(4.5)	(3.0)	—	
45	75図-44	III	中央トレンチ	No1		キノコ形土製品	5.4	4.3	—	
46	75図-45	V	Vトレンチ		III層	キノコ形土製品	(4.0)	(3.5)	(1.5)	
47	76図-46	II b-F	FC54-29			斧状土製品	(6.2)	3.5	1.8	
48	76図-47	II b	FB50-01土坑			斧状土製品	(5.7)	2.7	1.7	
49	76図-48	III	EI42-01住		2層	斧状土製品	(3.5)	4.5	1.1	
50	76図-49	III	EH42		CL	斧状土製品	(6.5)	3.9	2.1	
51	76図-50	III	EI42-01住		1層	斧状土製品	(5.0)	(3.7)	1.8	
52	76図-51	III	EI42-01住		2層	斧状土製品	(4.5)	3.9	2.1	
53	76図-52	III	170号址		1層	斧状土製品	5.5	(2.3)	1.5	
54	76図-53	II a	FD58-6			斧状土製品	(3.3)	3.9	1.9	
55	76図-54	III	EI42-01住		2層	斧状土製品	(2.8)	2.8	2.0	
56	—	V	FG64-04住		床上	斧状土製品	(5.0)	3.5	1.6	
57	76図-55	V	GA58-16			土偶	(4.0)	4.5	1.3	
58	76図-56	V	FJ58-01住		1層	土偶	(3.7)	(5.0)	1.8	
59	76図-57	V	FH62-03住		I層	盤状土製品(丸)	3.7	3.7	0.6	
60	76図-58	V	FH62-03住	No2		盤状土製品(丸)	3.0	2.9	0.5	
61	76図-59	V	FG62-04住	No5		盤状土製品(丸)	2.5	2.5	0.6	
62	76図-60	II a	FB54-02住	No2		盤状土製品(丸)	3.0	2.8	0.5	
63	76図-61	II a	FD56-10	No5		盤状土製品(丸)	3.4	2.9	0.5	
64	76図-62	II a	—		CL	盤状土製品(丸)	3.0	2.9	0.8	
65	76図-63	III	EI42-01住		2層	盤状土製品(丸)	3.7	(3.5)	0.9	
66	76図-64	V	FH62-03住	No3	2層	盤状土製品(丸)	2.4	2.3	0.4	
67	76図-65	II b	FE50-1			盤状土製品(丸)	4.0	3.7	0.6	
68	76図-66	V	Vトレンチ		III層	盤状土製品(丸)	4.1	4.0	1.0	
69	77図-67	II b	柱10			盤状土製品(丸)	4.5	4.3	0.6	
70	77図-68	II b	FA50-01住	No2		盤状土製品(丸)	3.7	3.5	0.5	
71	77図-69	II a	FB54-02住	No1		盤状土製品(丸)	3.5	3.2	0.7	
72	77図-70	II b	FB52-03住	No2		盤状土製品(丸)	3.1	3.1	0.9	
73	77図-71	II a	FE56-26	No6		盤状土製品(丸)	3.3	3.1	0.8	
74	77図-72	II a	FD60-26	No18		盤状土製品(丸)	3.7	3.8	0.8	
75	77図-73	II b	FE48-01住		3層	盤状土製品(丸)	3.6	3.6	1.0	
76	77図-74	III	EI42・EI44 ③		CL	盤状土製品(丸)	3.3	3.0	0.6	
77	77図-75	V	FG62-04住	No8		盤状土製品(丸)	3.5	3.5	0.6	
78	77図-76	V	FH62-03住	No1	1層	盤状土製品(丸)	3.5	3.5	0.7	
79	77図-77	II a	FA52-05住			盤状土製品(丸)	3.2	3.2	0.6	
80	77図-78	V	FH62-03住		1層	盤状土製品(丸)	3.1	3.0	0.8	
81	77図-79	II a	FC58-9	No3		盤状土製品(丸)	3.5	3.3	1.1	
82	77図-80	II b	FC48-01住	No1		盤状土製品(丸)	3.3	3.3	0.7	
83	77図-81	V	FI62-01住 ②		1層	盤状土製品(丸)	2.9	2.8	1.0	
84	77図-82	V	FH62-03住		1層	盤状土製品(丸)	3.8	3.6	0.5	
85	77図-83	IV	FI46		CL	盤状土製品(丸)	2.3	2.1	0.5	
86	77図-84	II b	FE54グリット	No1		盤状土製品(丸)	2.5	2.2	0.8	
87	77図-85	II b	FF54グリット	No2		盤状土製品(丸)	2.9	2.5	0.6	
88	77図-86	III	EI44-01住		1層	盤状土製品(丸)	3.0	2.9	0.6	
89	77図-87	V	FJ58-01住	No2	IV層①	盤状土製品(丸)	3.0	2.9	0.7	
90	77図-88	II a	FD58-27	No19		盤状土製品(丸)	5.5	(2.1)	0.9	
91	77図-89	II b		No12		盤状土製品(丸)	4.5	(2.8)	0.7	
92	77図-90	II a	FB58-31	No4		盤状土製品(丸)	3.5	3.5	0.9	
93	78図-91	IV	45-5			盤状土製品(丸)	4.3	3.8	0.9	
94	78図-92	V	FG64-14		CL	盤状土製品(丸)	4.0	4.0	0.5	
95	78図-93	III	EI42 ①		埋め土	盤状土製品(丸)	4.6	4.1	0.9	
96	78図-94	III	EI44-01住		3層	盤状土製品(丸)	4.6	4.1	0.7	
97	78図-95	III	EI42-01住		1層	盤状土製品(丸)	4.6	4.3	0.8	
98	78図-96	V	FH62-03住	No4		盤状土製品(丸)	3.9	3.5	0.8	
99	78図-97	V	FI60-23			盤状土製品(丸)	3.4	3.1	0.5	
100	78図-98	III	170号址			盤状土製品(丸)	4.0	3.7	0.9	

No	図版番号	調査区	出土地点	出土No	層位	分類	法量			備考
							高さ	幅	厚さ	
101	78図-99	V	FJ58-01住		2層	盤状土製品(丸)	5.0	4.5	0.6	
102	78図-100	II b	FD48-01住		2層	盤状土製品(丸)	4.7	4.7	0.7	
103	78図-101	II b	FD48-03住			盤状土製品(丸)	3.8	3.3	0.7	朱付着
104	78図-102	II a	FC56-6	No2		盤状土製品(丸)	3.5	3.5	0.7	
105	78図-103	II b	FC50-01住	No1		盤状土製品(丸)	3.2	3.0	0.7	
106	78図-104	II a	FD56-20			盤状土製品(丸)	3.8	3.5	1.2	
107	78図-105	II a	FD58-18	No14		盤状土製品(丸)	3.9	3.4	0.8	
108	78図-106	II a	FC56-36	No10		盤状土製品(丸)	4.5	4.3	1.1	
109	78図-107	II a	FD58-18	No17		盤状土製品(丸)	5.1	4.7	0.8	
110	78図-108	III	EI42-01住		1層	盤状土製品(丸)	4.7	4.5	1.0	
111	78図-109	V	FJ60-01住	No2		盤状土製品(丸)	3.0	3.0	0.7	
112	78図-110	II b	柱18			盤状土製品(丸)	5.5	5.5	0.8	
113	79図-111	V	FI62-01住	No1		盤状土製品(丸)	5.2	4.8	1.0	
114	79図-112	II b	FF54-14			盤状土製品(丸)	5.3	5.0	0.9	
115	79図-113	V	Vトレンチ		CL	盤状土製品(丸)	5.8	5.0	1.3	
116	79図-114	V	FG62-04住	No6		盤状土製品(丸)	5.7	5.5	0.6	
117	79図-115	II a	FD56-23			盤状土製品(丸)	6.0	5.8	1.0	
118	79図-116	II b	FE48-01住	No1		盤状土製品(丸)	5.5	5.0	1.2	ウルシ付着
119	79図-117	II b	柱51			盤状土製品(丸)	4.7	4.5	0.6	
120	79図-118	II a	FE56-1			盤状土製品(丸)	5.4	4.8	1.0	
121	79図-119	V	FJ58-01住	No4		盤状土製品(丸)	5.5	5.0	0.7	
122	79図-120	II a	FD58-9			盤状土製品(丸)	5.3	4.9	1.0	
123	79図-121	II b	FE48-01住		3層	盤状土製品(丸)	4.4	4.0	0.9	
124	79図-122	III	EI42・EI44 ④		CL	盤状土製品(丸)	4.3	4.3	0.8	
125	79図-123	V	FH60-01住	No2		盤状土製品(丸)	3.1	2.8	1.0	
126	80図-124	II a	FD56-3			盤状土製品(丸)	4.6	4.6	0.8	
127	80図-125	II b	FG50グリット			盤状土製品(丸)	5.0	4.3	0.7	
128	80図-126	V	FJ60-01住	No1		盤状土製品(丸)	3.6	3.3	0.7	
129	80図-127	III	EI44-01住		1層	盤状土製品(丸)	4.3	3.9	0.8	
130	—	V	FG62-04住	No2		盤状土製品(丸)	3.4	3.2	0.9	
131	—	V	FG62-04住	No3		盤状土製品(丸)	5.0	3.8	0.7	
132	—	V	FG62-04住	No4		盤状土製品(丸)	3.8	3.4	0.6	
133	—	V	FH60-03住			盤状土製品(丸)	3.4	3.2	0.8	
134	—	V	FI62-01住		1層	盤状土製品(丸)	2.6	2.6	0.7	
135	—	V	FJ60-06土坑			盤状土製品(丸)	3.0	2.4	0.6	
136	—	V	FG62-11		CL	盤状土製品(丸)	3.2	3.0	0.5	
137	—	V	FG62-15		CL	盤状土製品(丸)	4.5	4.1	0.7	
138	—	V	FG64-20		CL	盤状土製品(丸)	4.2	3.6	0.6	
139	—	V	FH62-2		CL	盤状土製品(丸)	4.0	3.6	0.6	
140	—	V	FH60-6		CL	盤状土製品(丸)	3.0	3.0	0.8	
141	—	V	FI60-20		CL	盤状土製品(丸)	3.5	3.3	0.7	
142	—	V	FI62-33		CL	盤状土製品(丸)	3.0	2.5	0.3	
143	—	V	FJ58-27	No8		盤状土製品(丸)	3.8	3.8	0.7	
144	—	V	FJ58-33	No4		盤状土製品(丸)	3.1	2.8	0.6	
145	—	V	FJ58-34	No2		盤状土製品(丸)	4.7	3.9	1.0	
146	—	V	FJ62-13		CL	盤状土製品(丸)	4.3	4.0	0.6	
147	—	V	GA58-16	No1		盤状土製品(丸)	4.7	4.3	0.9	
148	—	V	GA58-17	No3		盤状土製品(丸)	5.1	5.1	0.7	
149	—	V	GA60-25	No6		盤状土製品(丸)	3.5	3.4	0.7	
150	—	V	GA60-7	No5		盤状土製品(丸)	3.1	2.8	0.6	
151	—	V	Vトレンチ		1層	盤状土製品(丸)	3.2	3.0	0.8	
152	—	V	Vトレンチ			盤状土製品(丸)	3.8	3.4	0.8	
153	—	V	Vトレンチ		II層	盤状土製品(丸)	3.7	3.6	0.8	
154	—	V	Vトレンチ		II層	盤状土製品(丸)	3.8	3.5	0.9	
155	80図-128	V	FI62-01住 P1 ③			盤状土製品(四角)	4.3	4.6	0.9	
156	80図-129	V	FI62-01住 P1 ④			盤状土製品(四角)	4.3	3.8	0.8	
157	80図-130	V	FJ60-01住	No5		盤状土製品(三角)	4.6	4.3	0.6	
158	80図-131	III	EI44-01住		1層	盤状土製品(三角)	4.0	3.7	0.7	
159	80図-132	V	GA58-30			盤状土製品(三角)	6.0	4.6	0.9	
160	80図-133	II b	FD48-03住			盤状土製品(三角)	5.8	4.8	0.8	

No	図版番号	調査区	出土地点	出土No	層位	分類	法量			備考
							高さ	幅	厚さ	
161	80図-134	II b	FD48-01住		1層	盤状土製品(三角)	5.5	4.2	0.5	
162	80図-135	II b	FF46グリット		CL	盤状土製品(三角)	5.3	4.0	0.8	
163	80図-136	II b	FD48-01住		3層	盤状土製品(三角)	5.3	3.7	0.7	
164	80図-137	II b	FB52-03住	No4		盤状土製品(三角)	4.1	3.5	0.8	
165	80図-138	II a	FD56-33			盤状土製品(三角)	2.9	2.6	0.5	
166	80図-139	II b	FD48-01住		3層	盤状土製品(三角)	4.0	3.0	0.6	
167	80図-140	V	FG62-05住			盤状土製品(三角)	4.0	3.5	0.6	
168	80図-141	III	EI42 ②		CL	盤状土製品(三角)	3.8	3.3	0.7	
169	80図-142	II b	FF48グリット		CL	盤状土製品(三角)	4.1	4.1	0.8	
170	81図-143	II b	FD48-01住		1層	盤状土製品(三角)	4.5	4.5	0.7	
171	81図-144	II b	FF46グリット		CL	盤状土製品(三角)	5.0	2.8	0.7	
172	81図-145	II a	FD58-12	No15		盤状土製品(三角)	5.5	3.8	0.9	
173	81図-146	II a	FE56-26	No8		盤状土製品(三角)	3.3	2.8	0.8	
174	81図-147	V	FG62-05住	No1		盤状土製品(三角)	3.7	4.5	0.6	
175	81図-148	V	FG62-04住	No7		盤状土製品(三角)	4.4	3.5	0.6	
176	81図-149	V	FG62-04住			盤状土製品(三角)	3.9	3.3	0.7	アスファルト付着
177	81図-150	II b	FB52-03住	No1		盤状土製品(三角)	4.4	4.0	0.5	
178	81図-151	V	FG64-35		CL	粘土塊	3.0	2.8	1.4	
179	81図-152	II a	FA54-31	No9		粘土塊	3.1	2.3	1.4	
180	81図-153	V	GA58-17			粘土塊	3.8	2.7	1.3	
181	81図-154	V	FG62グリット		CL	粘土塊	2.6	2.5	2.1	
182	82図-158	V	FG64-05住			器台	(13.0)	(9.3)	1.0	
183	82図-160	V	FG64-27			器台	(8.4)	(6.3)	1.5	
184	82図-161	V	FI60-35 1			器台	(10.5)	(7.0)	1.8	
185	82図-159	V	FI60-35 2			器台	(6.0)	(8.4)	1.3	
186	81図-155	IV		No1		不明	(3.5)	1.2	1.1	
187	81図-156	V	FJ60-06土坑	No2		不明	(5.5)	(3.8)	(2.0)	
188	81図-157	V	FI62-01住			不明	3.0	(2.1)	1.1	

(6) 動物遺体

No	出土遺構・層位	時代	調査区	グリッド	骨の種類	備考	点数
1	GD64住居	縄文中期	II		微細骨片	出土遺構は『御所野II』報告済	1
2	FA52-03住	縄文中期	II a		イノシシ 基節骨(骨幹一遠位部)		1
3	FA52-03住	縄文中期	II a		微細骨片		1
4	FA52-04住	縄文中期	II a		微細骨片		5
5	FA52-05住	縄文中期	II a		微細骨片		11
6	FB54-01住	縄文中期	II a		微細骨片		1
7	FB54-02住	縄文中期	II a		シカ 鹿角(先端部)、左肩甲骨(骨幹部(棘一部含))		1
8	FB54-02住	縄文中期	II a		微細骨片		1
9	FB56-01住	縄文中期	II a		微細骨片		5
10	FB56-02住	縄文中期	II a		微細骨片		4
11	FC58-01住	縄文中期	II a		微細骨片		4
12	FD54-01住	縄文中期	II a		微細骨片		1
13	24号址	平安	II a		微細骨片		1
14	FB54-01土坑	縄文中期	II a		シカ 鹿角		1
15	FB54-01土坑	縄文中期	II a		微細骨片		5
16	FC56-01土坑	縄文中期	II a		イノシシ 上顎第3後臼歯		1
17	FC56-01土坑	縄文中期	II a		微細骨片		3
18	FC56-03土坑	縄文中期	II a		微細骨片		1
19	FD56-01土坑	縄文中期	II a		微細骨片		1
20	FD56-03土坑	縄文中期	II a		微細骨片		1
21	FD56-06土坑	縄文中期	II a		微細骨片		2
22	柱4	縄文中期	II a		微細骨片		1
23	柱11	縄文中期	II a		微細骨片		1
24	柱12	縄文中期	II a		微細骨片		1
25	柱14	縄文中期	II a		微細骨片		1
26	柱92	縄文中期	II a		微細骨片		1

No	出土遺構・層位	時代	調査区	グリッド	骨の種類	備考	点数
27	柱118	縄文中期	IIa		微細骨片		1
28	盛土	縄文中期	IIa	FA54	シカ 鹿角、左肩甲骨(中間部破片)シカorイノシシ 頭蓋骨(破片)		1
29	盛土	縄文中期	IIa	FA54			49
30	盛土	縄文中期	IIa	FB54	イノシシ? 頭蓋骨(破片)		1
31	盛土	縄文中期	IIa	FB54			114
32	盛土	縄文中期	IIa	FB56	シカ 中手・中足骨(遠位部(滑車)破片)		1
33	盛土	縄文中期	IIa	FB56	シカorイノシシ 手根・足根骨(破片)		1
34	盛土	縄文中期	IIa	FB56	微細骨片		253
35	盛土	縄文中期	IIa	FB58	微細骨片		9
36	盛土	縄文中期	IIa	FC54	微細骨片		8
37	盛土	縄文中期	IIa	FC56	微細骨片		205
38	盛土	縄文中期	IIa	FC58	微細骨片		220
39	盛土	縄文中期	IIa	FC60	微細骨片		25
40	盛土	縄文中期	IIa	FC61	微細骨片		2
41	盛土	縄文中期	IIa	FD54	微細骨片		13
42	盛土	縄文中期	IIa	FD56	微細骨片		57
43	盛土	縄文中期	IIa	FD58	微細骨片		26
44	盛土	縄文中期	IIa	FD60	微細骨片		260
45	盛土	縄文中期	IIa		微細骨片		69
46	盛土	縄文中期	IIa	FD58	キツネorタヌキ 左上腕骨(近位端一骨幹)		1
47	盛土	縄文中期	IIa	FE58	微細骨片		1
48		縄文中期	IIa	FC58	イノシシ 中節骨(完存)		1
49		縄文中期	IIa	FD56	イノシシ 第2・5末節骨(完存)		1
50		縄文中期	IIa	FD56	シカorイノシシ 手根・足根骨		1
51		縄文中期	IIa	FD60	シカ 鹿角		1
52		縄文中期	IIa	FE56			1
53	FA50-01住	縄文中期	IIb		ニホンジカ環椎	(株)バリノサーヴェイ分析	1
54	FA50-01住	縄文中期	IIb		ニホンジカ左 角座骨+角座	(株)バリノサーヴェイ分析	2
55	FA50-01住	縄文中期	IIb		ニホンジカ左 角幹片	(株)バリノサーヴェイ分析	1
56	FA50-01住	縄文中期	IIb		ニホンジカ右tA1	(株)バリノサーヴェイ分析	1
57	FA50-01住	縄文中期	IIb		微細骨片		183
58	FA52-01住	縄文中期	IIb		微細骨片		1
59	FA52-02住	縄文中期	IIb		微細骨片		1
60	FA52-03住	縄文中期	IIb		微細骨片		1
61	FB52-03住	縄文中期	IIb		微細骨片		13
62	FB52-04住	縄文中期	IIb		微細骨片		4
63	FB52-04住	縄文中期	IIb		微細骨片		4
64	FC50-01住	縄文中期	IIb		微細骨片		18
65	FD48-01住	縄文中期	IIb		微細骨片		26
66	FD48-03住	縄文中期	IIb		微細骨片		5
67	16号址	平安	IIb		微細骨片		1
68	181号址	平安	IIb		微細骨片		1
69	FB50-01土坑	縄文中期	IIb		微細骨片		10
70	FB52-03土坑	縄文中期	IIb		微細骨片		8
71	FB52-04土坑	縄文中期	IIb		微細骨片		1
72	FC48-02土坑	縄文中期	IIb		微細骨片		1
73	FC48-06土坑	縄文中期	IIb		微細骨片		1
74	FC48-07土坑	縄文中期	IIb		微細骨片		1
75	FF48-01土坑	縄文中期	IIb		微細骨片		1
76	FF48-02土坑	縄文中期	IIb		微細骨片		1
77	柱7	縄文中期	IIb		微細骨片		1
78	柱19	縄文中期	IIb		微細骨片		1
79	柱36	縄文中期	IIb		微細骨片		1
80	柱37	縄文中期	IIb		微細骨片		5
81	柱89	縄文中期	IIb		微細骨片		1
82	柱128	縄文中期	IIb		微細骨片		2
83	柱129	縄文中期	IIb		微細骨片		1
84	柱351	縄文中期	IIb		微細骨片		1
85	柱464	縄文中期	IIb		微細骨片		1
86	柱561	縄文中期	IIb		微細骨片		1

No	出土遺構・層位	時代	調査区	グリッド	骨の種類	備考	点数
87	柱567	縄文中期	Ⅱb		微細骨片		1
88	EI44-01住	縄文中期	Ⅲ		微細骨片		1
89	EH44-03住	縄文中期	Ⅲ		微細骨片		4
90		不明	Ⅲ	EI44	微細骨片		1
91	1層	不明	Ⅲ	EI44	微細骨片		1
92	2層	不明	Ⅲ	EI44	微細骨片		3
93	3層	不明	Ⅲ	EI44	微細骨片		2
94		不明	Ⅲ		微細骨片		1
95	盛土	縄文中期	Ⅳ		微細骨片		1
96	FG62-02住	縄文中期	Ⅴ		微細骨片		2
97	FG62-03住	縄文中期	Ⅴ		微細骨片		1
98	FG62-04住	縄文中期	Ⅴ		イノシシ 第2・5中節骨(完存)	大型	1
99	FG62-04住	縄文中期	Ⅴ		シカorイノシシ 中心足根骨		1
100	FG62-04住	縄文中期	Ⅴ		微細骨片		73
101	FG62-05住	縄文中期	Ⅴ		シカorイノシシ 基節骨(近位破片)		1
102	FG62-05住	縄文中期	Ⅴ		微細骨片		52
103	FG64-01住	縄文中期	Ⅴ		微細骨片		3
104	FG64-03住	縄文中期	Ⅴ		微細骨片		4
105	FG64-04住	縄文中期	Ⅴ		微細骨片		5
106	FG64-05住	縄文中期	Ⅴ		微細骨片		23
107	FH60-03住	縄文中期	Ⅴ		シカ 足根骨(破片)		1
108	FH60-03住	縄文中期	Ⅴ		微細骨片		16
109	FH62-03住	縄文中期	Ⅴ		シカorイノシシ 中手・中足骨(遠位部(滑車)破片)		1
110	FH62-03住	縄文中期	Ⅴ		シカorイノシシ 指骨(破片)		1
111	FH62-03住	縄文中期	Ⅴ		微細骨片		46
112	FH62-04住	縄文中期	Ⅴ		シカ 鹿角		1
113	FH62-04住	縄文中期	Ⅴ		シカorイノシシ 中手・中足骨(遠位部(滑車)破片)		1
114	FH62-04住	縄文中期	Ⅴ		微細骨片		5
115	FI60-02住	縄文中期	Ⅴ		微細骨片		1
116	FJ60-01住	縄文中期	Ⅴ		微細骨片		2
117	FG64-02土坑	縄文中期	Ⅴ		微細骨片		8
118	FG64-04土坑	縄文中期	Ⅴ		分析		1
119	遺構確認面	縄文中期	Ⅴ	FG62	微細骨片		3
120	遺構確認面	縄文中期	Ⅴ	FH60	シカ 中手骨(中間部尾面破片)		1
121	遺構確認面	縄文中期	Ⅴ	FH62	微細骨片		1
122	遺構確認面	縄文中期	Ⅴ	FH64	微細骨片		2
123	遺構確認面	縄文中期	Ⅴ	FJ62	微細骨片		1
124	盛土	縄文中期	Ⅴ	FG62	FG62-35		1
125	盛土	縄文中期	Ⅴ	FG64	分析		2
126	盛土	縄文中期	Ⅴ	FH64	ツキノワグマ 中手・中足骨 遠位部		1
127	盛土	縄文中期	Ⅴ	GA58	微細骨片		4
128	盛土	縄文中期	Ⅴ	GA60	微細骨片		1
129	70号址	平安	東側		イノシシ 上顎第3後臼歯	出土遺構は『御所野Ⅱ』報告済	1
130	110号址	平安	東側		微細骨片	出土遺構は『御所野Ⅱ』報告済	2
131	138号址	平安	東側		微細骨片	出土遺構は『御所野Ⅱ』報告済	2
132	148号址	平安	東側		微細骨片	出土遺構は『御所野Ⅱ』報告済	1
133	DF22住	縄文中期	西側		微細骨片	出土遺構は『御所野Ⅱ』報告済	2
134	165号址	平安	西側		微細骨片	出土遺構は『御所野Ⅱ』報告済	1

(7) 植物遺体

No	出土遺構・層位	時代	調査区	出土地点 グリッド名	骨の種類	備考	点数
1	FB54-02住	縄文中期	Ⅱa		オニグルミ核		1
2	柱107	縄文中期	Ⅱa		トチノキ種子		2
3	柱107	縄文中期	Ⅱa		トチノキ種子・種皮		1
4	柱128	縄文中期	Ⅱa		トチノキ種子		1
5	柱142	縄文中期	Ⅱa		トチノキ種子		2
6	柱143	縄文中期	Ⅱa		トチノキ種子		1

No	出土遺構・層位	時代	調査区	出土地点 グリッド名	骨の種類	備考	点数
7	柱165	縄文中期	II a		トチノキ種子		1
8	柱167	縄文中期	II a		トチノキ種子		2
9	柱198	縄文中期	II a		クリ子葉		1
10		縄文中期	II a	FC58	炭化種子		1
11		縄文中期	II a	FD58	オニグルミ核、トチノキ種子?		1
12		縄文中期	II a	FD58	クリ子葉		5
13		縄文中期	II a	FD58	クリ子葉?		2
14		縄文中期	II a	FD58	炭化種子		2
15		縄文中期	II a	FD58	トチノキ種子・種皮		4
16		縄文中期	II a	FD60	オニグルミ核、クリ子葉		2
17		縄文中期	II a	FD60	オニグルミ核、トチノキ種子・種皮、クリ子葉		3
18		縄文中期	II a	FD60	クリ子葉		1
19		縄文中期	II a	FD60	クリ子葉?		1
20		縄文中期	II a	FD60	トチノキ種子・種皮		6
21		縄文中期	II a	FE58	クリ子葉?		1
22	FA50-01住	縄文中期	II b		オニグルミ核		2
23	FA50-01住	縄文中期	II b		クリ子葉		2
24	FA52-05住	縄文中期	II b		クリ子葉		7
25	FA52-05住	縄文中期	II b		クリ子葉?		2
26	FA52-05住	縄文中期	II b		オニグルミ核		3
27	FA52-05住	縄文中期	II b		オニグルミ核?		2
28	FA52-05住	縄文中期	II b		トチノキ種子?		2
29	FA52-05住	縄文中期	II b		トチノキ果実?		1
30	FA52-05住	縄文中期	II b		オニグルミ核、トチノキ種子・種皮		2
31	FA52-05住	縄文中期	II b		トチノキ種子・種皮、ニワトコ種子(未炭化)		2
32	FA52-05住	縄文中期	II b		トチノキ種子・種皮		9
33	FA52-05住 3層	縄文中期	II b		トチノキ種子・種皮		1
34	FA52-05住 炉	縄文中期	II b		トチノキ種子		1
35	FA52-05住	縄文中期	II b		コナラ属子葉		2
36	FB52-03住	縄文中期	II b		オニグルミ核		1
37	FB52-03住	縄文中期	II b		炭化種子?		1
38	FB52-03住	縄文中期	II b		トチノキ種子?		1
39	FB52-04住	縄文中期	II b		オニグルミ核		1
40	FB54-01住 P1	縄文中期	II b		トチノキ種子		1
41	FC48-01住	縄文中期	II b		トチノキ種子・種皮		1
42	FC48-01住 1層	縄文中期	II b		クリ子葉		1
43	FD48-01住	縄文中期	II b		オニグルミ核、クリ子葉		2
44	FD48-01住	縄文中期	II b		オニグルミ核、不明(何かの果皮)		2
45	FD48-01住	縄文中期	II b		オニグルミ核		1
46	FE48-01住	縄文中期	II b		クリ子葉		1
47	FE48-01住	縄文中期	II b		不明(何かの果皮)		1
48	柱23	縄文中期	II b		オニグルミ核		1
49	柱24	縄文中期	II b		オニグルミ核、トチノキ種子、種子(何かの果皮)		3
50	柱25	縄文中期	II b		オニグルミ核、クリ子葉		2
51	柱27	縄文中期	II b		クリ子葉		1
52	柱31	縄文中期	II b		トチノキ種子・種皮		1
53	柱37	縄文中期	II b		オニグルミ核、トチノキ種子、クリ子葉?		多数
54	柱37 2層	縄文中期	II b		オニグルミ核、トチノキ種子・種皮、クリ子葉		多数
55	柱37 3層	縄文中期	II b		オニグルミ核、トチノキ種子・種皮、クリ子葉		多数
56	柱37 4層	縄文中期	II b		オニグルミ核、トチノキ種子・種皮、クリ子葉		多数
57	柱37 5層	縄文中期	II b		オニグルミ核、トチノキ種子・種皮、クリ子葉		多数
58	柱37 6層	縄文中期	II b		トチノキ種子・種皮		多数
59	柱40	縄文中期	II b		オニグルミ核、トチノキ種子・種皮、クリ子葉		3
60	柱45	縄文中期	II b		オニグルミ核、トチノキ種子・種皮、クリ子葉		多数
61	柱45 1層	縄文中期	II b		オニグルミ核、トチノキ種子・種皮、クリ子葉		多数
62	柱45 2層	縄文中期	II b		オニグルミ核、トチノキ種子・種皮、クリ子葉		多数
63	柱45 3層	縄文中期	II b		トチノキ種子		多数
64	柱45 4層	縄文中期	II b		トチノキ種子		多数
65	柱45 5層	縄文中期	II b		オニグルミ核、トチノキ種子・種皮、クリ子葉		多数
66	柱45 6層	縄文中期	II b		オニグルミ核、トチノキ種子・種皮、クリ子葉		多数

No	出土遺構・層位	時代	調査区	出土地点 グリッド名	骨の種類	備考	点数
67	柱71	縄文中期	IIb		トチノキ種子・種皮、クリ子葉		2
68	柱72	縄文中期	IIb		クリ子葉		1
69	柱98	縄文中期	IIb		クリ子葉?		1
70	柱130	縄文中期	IIb		クリ子葉?		1
71	柱146	縄文中期	IIb		オニグルミ核、クリ子葉		2
72	柱147	縄文中期	IIb		オニグルミ核		1
73	柱148	縄文中期	IIb		炭化種子?		1
74	柱253	縄文中期	IIb		オニグルミ核、クリ子葉		2
75	柱254	縄文中期	IIb		オニグルミ核、トチノキ種子		2
76	柱260	縄文中期	IIb		トチノキ種子・種皮、クリ子葉		2
77	柱265	縄文中期	IIb		トチノキ種子、クリ子葉		2
78	柱343	縄文中期	IIb		トチノキ種子・種皮、クリ子葉		2
79	柱353	縄文中期	IIb		クリ子葉		1
80	柱545	縄文中期	IIb		オニグルミ核、クリ子葉		2
81	柱556	縄文中期	IIb		オニグルミ核、クリ子葉		2
82	FG62-02住	縄文中期	V		コナラ属子葉		1
83	FG62-04住	縄文中期	V		クリ子葉		4
84	FG62-04住	縄文中期	V		クリ子葉?		1
85	FG62-04住	縄文中期	V		炭化物		1
86	FG62-04住	縄文中期	V		トチノキ種子?		1
87	FG64-03住	縄文中期	V		炭化種子		1
88	FH60-03住	縄文中期	V		炭化種子		1
89	FH60-03住	縄文中期	V		クリ子葉		1
90	FH62-03住	縄文中期	V		オニグルミ核		2
91	FH62-03住	縄文中期	V		クリ子葉		7
92	FH62-03住	縄文中期	V		炭化種子		1
93	FH62-03住 1層	縄文中期	V		オニグルミ核		1
94	FH62-03住 1層	縄文中期	V		クリ子葉		1
95	FH62-03住 2層	縄文中期	V		オニグルミ核		1
96	FH62-03住 3層	縄文中期	V		オニグルミ核		4
97	FI60-02住	縄文中期	V		トチノキ種子?		2
98	FI60-02住	縄文中期	V		オニグルミ核		2
99	FI60-02住	縄文中期	V		クリ子葉?		3
100	FI60-02住	縄文中期	V		炭化種子?		1
101	FI60-02住	縄文中期	V		トチノキ種子・種皮		3
102	FI60-03土坑	縄文中期	V		トチノキ種子、クリ子葉		2
103	FJ58-01住	縄文中期	V		オニグルミ核		1
104	FJ60-01住	縄文中期	V		クリ子葉?		2
105	FJ62-03土坑	縄文中期	V		クリ子葉?		1
106	柱43	縄文中期	V		クリ子葉?		1
107	柱52	縄文中期	V		トチノキ種子?、オニグルミ核		1
108	柱53	縄文中期	V		オニグルミ核		1
109	柱71	縄文中期	V		トチノキ種子・種皮		1
110	柱72	縄文中期	V		トチノキ種子?		1
111	I層		V	FI60	オニグルミ核		1
112		縄文中期	V	GA58	クリ子葉?		1
113		縄文中期	V	GA58	炭化種子?		1
114		縄文中期	V	GA58	トチノキ種子		2
115		縄文中期	V	GA58	トチノキ種子、オニグルミ核		2
116		縄文中期	V	GA58	トチノキ種子、炭化種子?		2
117		縄文中期	V	GA58	トチノキ種子・種皮		2
118		縄文中期	V	GA60	クリ子葉?		1

(8) アスファルト

No.	図版番号	出土遺構・層位	時代	調査区	出土地点 グリッド名	重量等	備考	点数
1		FB54-02住	縄文中期	II a		5.3g		1
2	83図-1		縄文中期	II a	FD58	162.2g		1
3		FG64-03住	縄文中期	V		4.4g		1

(9) 琥珀

No.	出土遺構・層位	時代	調査区	出土地点 グリッド名	内容	備考	点数
1	FB54-02住 2層	縄文中期	II a				1
2	FB56-01住	縄文中期	II a				1
3	FB56-02住	縄文中期	II a				1
4	柱167	縄文中期	II a				1
5	柱93	縄文中期	II a				1
6		縄文中期	II a	FB54			3
7		縄文中期	II a	FB56			2
8		縄文中期	II a	FC56			3
9		縄文中期	II a	FC58			1
10		縄文中期	II a	FD54			1
11		縄文中期	II a	FD56			3
12		縄文中期	II a	FD58			3
13		縄文中期	II a	FD60			1
14	EI44-01住 1層	縄文中期	II b				1
15	EI44-01住 3層	縄文中期	II b				1
16		縄文中期	II b	EJ40			1
17		縄文中期	II b	FE46			1
18		縄文中期	II b	FF46			1
19	1層	縄文中期	II b	FF48			1
20		縄文中期	II b	FI42			1
21		縄文中期	II b	FI44			1
22	170号址	古代	III				2
23	FG64-04住	縄文中期	V				1
24	FG64-04住 1層	縄文中期	V				1
25	FG64-05住	縄文中期	V				1
26	FH60-03住	縄文中期	V		No.1		6
27	FI60-02住	縄文中期	V				4
28		縄文中期	V				6

V. 古代の調査結果（83～86図）

過去の御所野遺跡の調査で8世紀を中心とし一部9世紀まで下がる時期が想定される古墳18基と古墳と関係ある土坑7基、8世紀後半～11世紀前半の竪穴住居跡42棟を報告している（『御所野Ⅱ』に掲載）。今回報告分は縄文時代の配石遺構と重複し古墳群があった地区で（第86図）、新たに古墳の周溝の一部（3基）、竪穴住居跡1棟、列石1基を検出している。

170号竪穴住居跡（第84図）

配石遺構の西側（Ⅲ区）に位置する。竪穴西側は調査区外に広がっており竪穴の形状は不明であるが、東西に長い長方形を呈する竪穴と思われる。南北2.60m、深さ72cmを測り、堆積土は1 a～1 b層十和田 a 降下火山灰を含む黒色土と暗褐色土の混土、1 c 層黒色土と暗褐色土の混土となり、1 b 層に川原石を多く含んでいる。

遺物は出土していない。

23号古墳（第84・86図）

配石遺構の南西（Ⅱ b 区）に位置する。東部が開口する円形周溝の南西部に相当し、調査区外に広がっている。深さ85cmを測り、底部は凹凸が激しい。堆積土は1層黄褐色ローム粒を含む黒色土、2～3層黒色土、4～5層暗褐色度と黒褐色土の混土、6～8層黒色土、9～10層黒褐色土と暗褐色土の混土、11～12層褐色土とにぶい黄橙色ロームの混土となる。

遺物は出土していない。

24号古墳（第84・86図）

配石遺構の北側（Ⅱ a 区西端）に位置する。南東部が開口する円形の周溝の南西部で、深さは25～55cm、底部は凹凸が激しい。堆積土は1 a 層十和田 a 火山灰、1 b 層十和田 a 火山灰を含む黒色土、2 a～2 c 層黒色土、3 a～3 b、4 a 層炭化材片を含む黒褐色土、4 b 層焼土粒を含む褐色土となり、いずれの堆積土中にも10～25cmの川原石を多く含んでいる。

遺物は出土していない。

25号古墳（第83・86図）

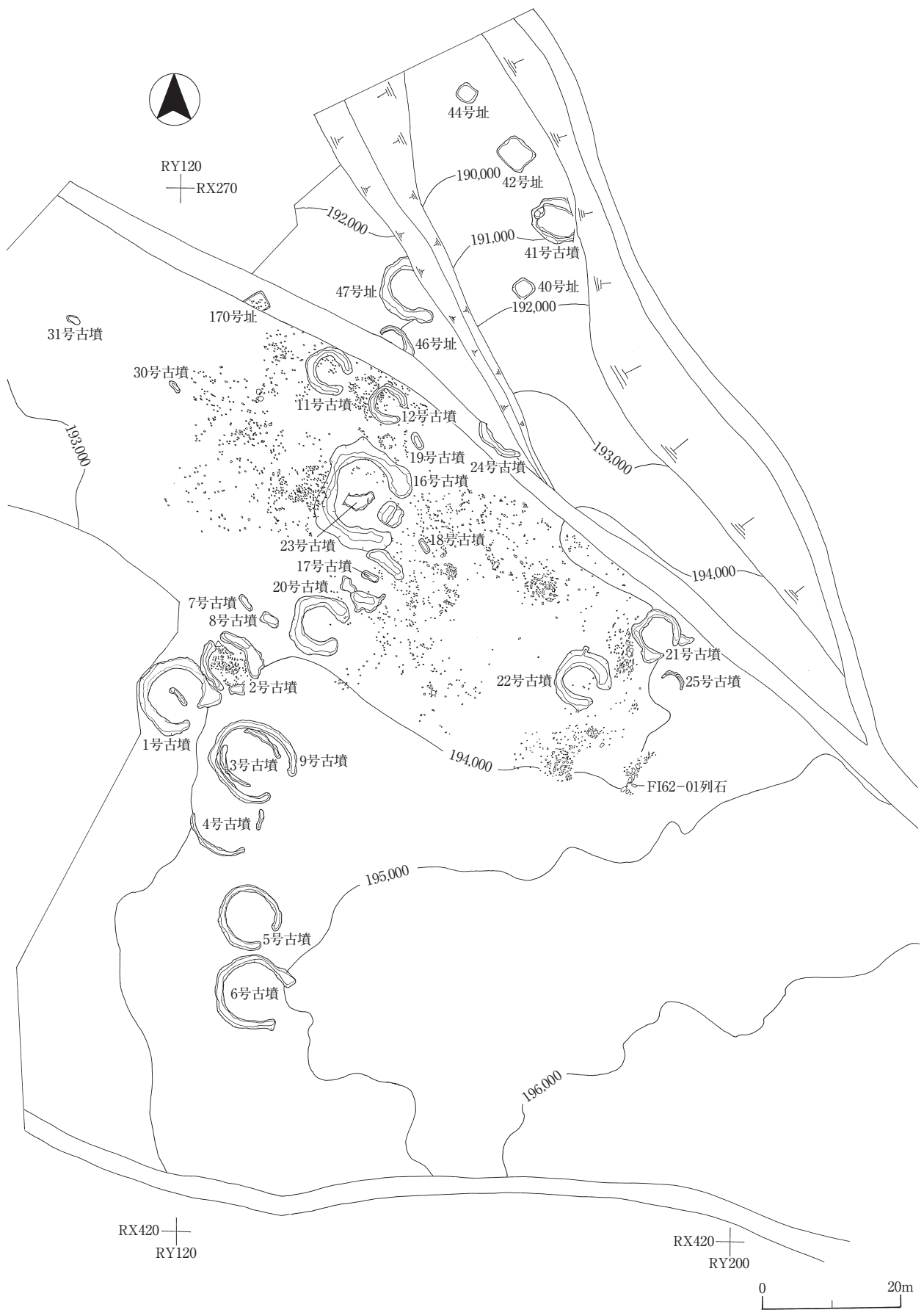
配石遺構の東側（Ⅴ調査区北端）に位置する。円形周溝北東部に相当し、深さ18cm、堆積土は1層十和田 a 降下火山灰を含む黒色土、2層灰黄褐色土と黒色土の混土となる。

遺物はロクロ不使用内黒坏（1）1点が出土している。

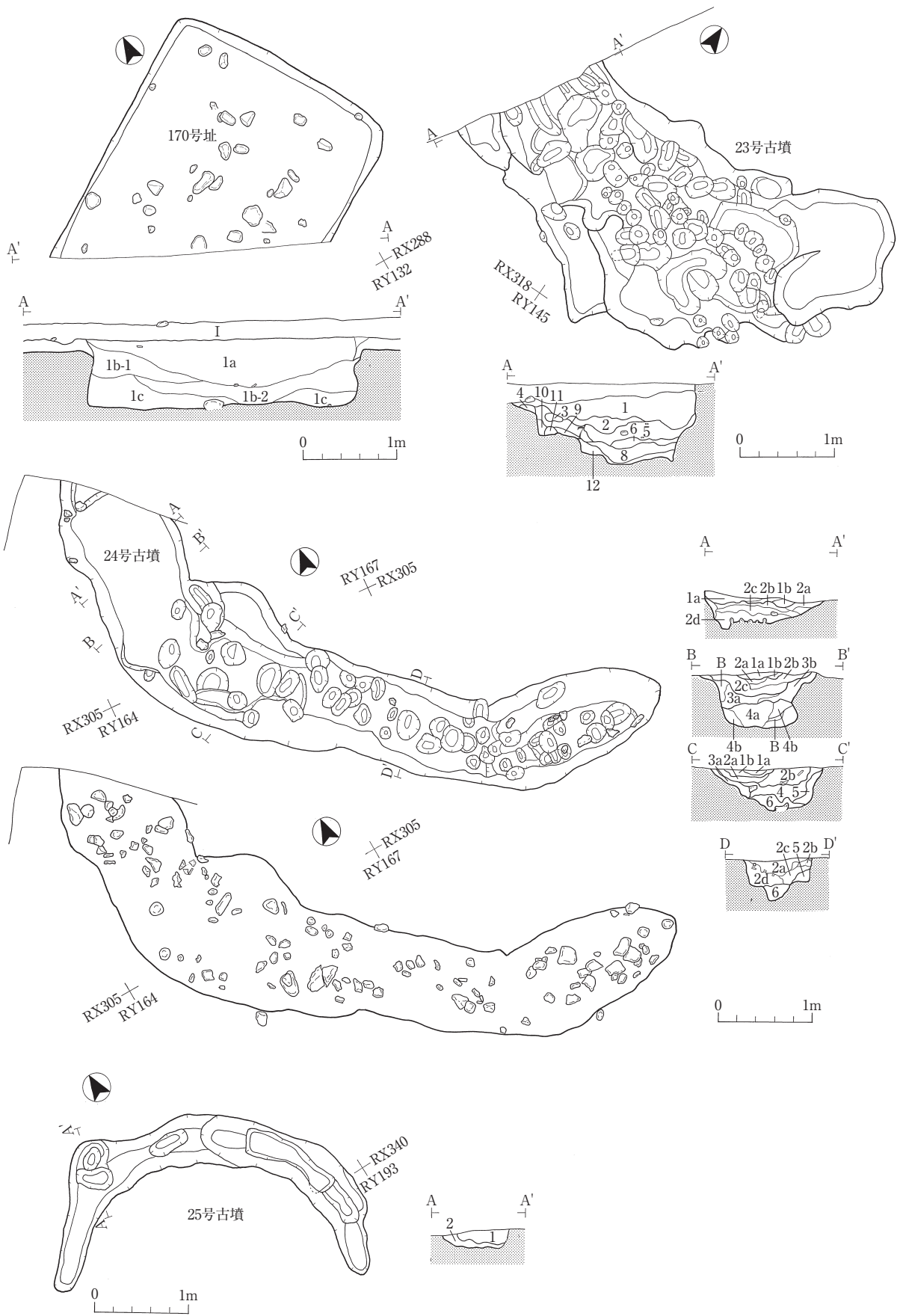
FI62-01列石（第84～86図）

配石遺構の西側（Ⅴ調査区南東部）に位置する。長さ10cm程の川原石から1 mを超える大きな花崗岩などを直線的に並べたものである。これらの石は縄文時代の配石遺構に使われていたものと思われるが、石が基本土層Ⅱ層に類似する層に置かれていること、石の下からロクロ不使用の内黒坏（第85図2）が出土していることから、古代あるいは古代以降の遺構である。

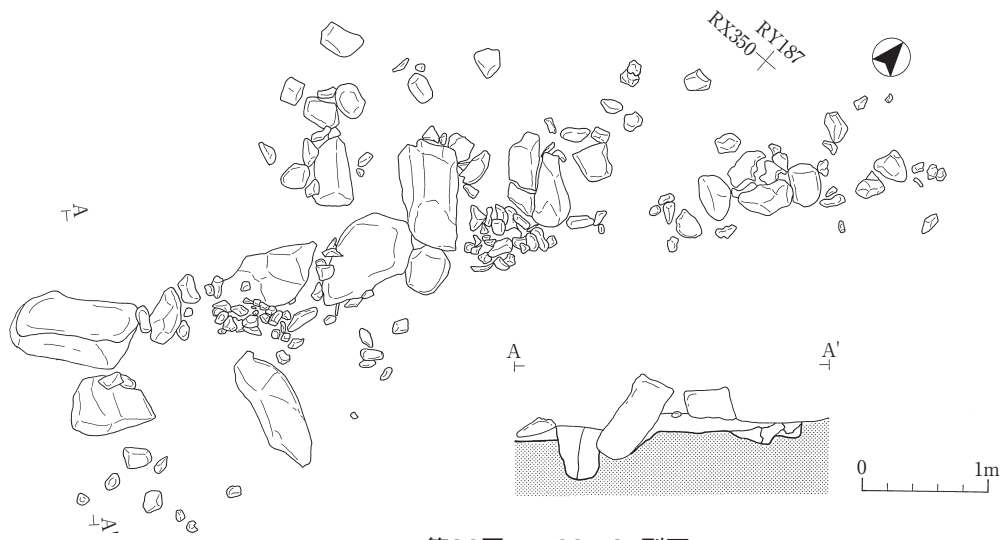
南北に列状に連なっていることから、意図的に配置されたものと考えられる。



第84図 古代遺構配置図



第85図 竪穴住居跡・古墳



第86図 FI62-01列石



第87図 出土土器

PL28 古代の遺構



24号古墳周溝



25号古墳



170号址



FI62-01列石

VI. 鑑定及び分析

1. 御所野遺跡から出土した炭化植物遺体の調査 平成16年3月20日

辻誠一郎（国立歴史民俗博物館）、辻圭子、大松しのぶ（早稲田大学大学院）

御所野遺跡では、縄文時代中期の竪穴住居址および掘立柱構造物の柱穴から燃焼によって炭化した種実遺体が多数採取された。とくにFA52-05住居址からはきめ細かく炭化種実類が取り上げられており、住居内での植物とのかかわり方や日常生活における植物資源利用の様相を知るために豊富な状況を提供するとみられた。また、掘立柱構造物の柱穴からは、柱の抜き去り時に投入されたと判断される大量のトチの種子を主とする炭化種子類が採取されており、単なる食料資源としてではなく、祭礼的な意味をもつ植物遺体群であることが察せられた。これらの点に着眼して、植物遺体群の内容と性格を検討し、民俗植物学的に興味深い知見を得ることができたので、意義をまとめておきたい。

(1) FA52-05住居址

植物遺体群として資料番号184～279の97資料が採取されている。これらのうちトチノキ種子に同定された植物遺体を含む資料は30資料に及び、それぞれの資料においても量的に非常に多かった。形状がつかめないうえに同定できなかった炭化物には、トチノキ種子が細かく砕けているものが相当量あるものと察せられ、実際には30資料をはるかに越える資料がトチノキ種子を含むものと考えられる。トチノキ種子のほかに同定できたものは、オニグルミ核、コナラ属子葉、クリ子葉であった。オニグルミ核を含む資料は7資料、コナラ属子葉を含む資料は5資料、クリ子葉を含む資料は11資料であった。これら以外に同定できたのは、資料番号190のトチノキ種子が多量（検討資料中で最多）に含まれる資料から未炭化のニワトコ種子が検出されたのみである。未炭化の理由として、鳥や昆虫による現生種実の混入が考えられる。いずれにしても植物遺体群は、トチノキ種子、クリ子葉、オニグルミ核、コナラ属子葉の4群からなっていることが分かる。

(2) その他の住居址

その他の住居址から採取された植物遺体は59資料にのぼる。同定できたものは、トチノキ種子、オニグルミ核、クリ子葉の3群で、FA52-05住居址で見られたコナラ属子葉は同定できなかった。トチノキ種子を含む資料は4資料で量的にもとくに多いというものではなかった。一方、オニグルミ核を含む資料は30資料にのぼり、大小の破片のみからなり、量的にも多かった。クリ子葉を含む資料は15資料あるが、いずれも資料について数点が完形1個を含むのみで、量的には乏しい。

(3) 掘立柱構造物の柱穴

柱穴37と45の二つの柱穴からは、層位的に複数にわたって資料が採取され、かつ量も多かった。柱穴37については資料番号152～157が採取されており、植物遺体の総量は297gにのぼった。内訳はほとんどがトチノキ種子によって占められるものの、わずかにオニグルミ核とクリ子葉が含まれていることが分かった。またこの柱穴では4mm以上のあまり破損していないトチノキ種子が多いことも特徴である。柱穴45については資料番号160～166が採取されており、植物遺体の総量は551gにのぼった。炭化した乾燥植物遺体量としてきわめて大きな値である。内訳はほとんどがトチノキ種子によって占められるものの、ここでもオニグルミ核とクリ子葉がわずかに含まれている。柱穴の中央部の堆積物からは371gの植物遺体が得られており、総量の約67%を占める。

このほかの柱穴で植物遺体の量が比較的多かったのは柱穴71である。ここでも同様にトチノキ種子が圧倒

的に多く、クリ子葉を伴っている。

しかし、その他の柱穴の植物遺体の内容をみると、必ずしもトチノキ種子が圧倒するわけではなく、オニグルミ核やクリ子葉がめだつ場合もある。

柱穴に投入されたとみられる炭化した植物遺体は、トチノキ種子、オニグルミ核、クリ子葉に限定されていることが分かる。これは、住居内で採取された植物遺体の内容と共通する点である。

(4) 植物とのかかわりについて

住居および掘立柱構造物の柱穴から採取された炭化植物遺体の内容は、トチノキ種子、オニグルミ核、クリ子葉を共通に含んでおり、トチノキ種子が圧倒する場合が多かった。住居からはこれらにコナラ属子葉が加わる。これらの4群は、縄文時代の主要澱粉供給源とされてきたもので、御所野遺跡の縄文時代中期においても主要な4群が確認されたといえよう。

ところで、近年では青森県の三内丸山遺跡やその南の近野遺跡では、縄文時代中期の後半にトチノキが遺跡内や周辺に拡大し、トチノキを利用した証拠として加工場や貯蔵穴が確認されている。トチノキの利用は縄文時代前期や中期前半においては確認されていない。このことを考えると、御所野遺跡での植物利用にトチノキが確実に取り込まれていることは重要であり、縄文時代中期のどの段階においてトチノキ利用が生業に取り込まれるのか、その移行のプロセスと年代の解明がこれからの中期後半の社会文化の形成と変容の原因を解きあかす鍵となるだろう。いったいトチノキ利用をもつ社会文化がどこで発生し、どこからどこへ伝播したのか、縄文社会を具体化する興味深い課題である。

一方、住居にしても柱穴にしてもトチノキ種子をはじめとする炭化植物遺体が多量に検出されることは、単に偶然燃焼を受けたものを棄てたという行為ではないことを強く示唆している。とりわけ柱穴の中の炭化植物遺体は、燃焼を受けた種実群が意図して柱穴に投入されたと考えたほうが理解しやすい。しかも掘立柱構造物の柱を抜いたあとに投入していることは、明瞭な意図がなければありえないことであろう。また、大量の植物遺体を投入した柱穴37と45の二つの柱穴では、大量のトチノキ種子に少量のオニグルミ核とクリ子葉が含まれていることも偶然ではないだろう。掘立柱を抜き取る時に、邪気を封じるために投入したか、重要な収穫物であるトチノキ種子などに火をかけ、新しい生命の到来を予祝したのかもしれない。もしそうだとすれば、柱を立てることが天上から神聖なものを導く行為になり、柱を抜き取るという行為までを含めた一連の行事を考えないわけにはいかない。掘立柱はほんとうに建物と呼んでもよい構造物だったのだろうか。

御所野遺跡の縄文時代中期の植物遺体の産出状況や内容は、単に縄文人の植物資源利用だけを語っているものではないようである。さらに産出状況や状況証拠を掘り起こし、炭化植物遺体やその投入の意義を検討する余地がある。

2. 御所野遺跡における植物珪酸体（プラントオパール）分析

総合研究大学院大学文科科学研究科日本歴史研究専攻 村本 周三

はじめに

竪穴建物の屋根については、長い間ススキなどを利用した所謂茅葺きを中心に検討されてきた。しかし、縄紋時代については発掘調査の成果に基づいた実証的な研究はほとんど行われておらず、イメージによって議論がなされているにすぎない。岩手県下では、その証拠を提供する火災住居は多いものの、直接の証拠である茅状炭化物などの検出報告は稀である。

筆者らは火災住居以外でも茅葺きであるか否かを検討するための遺物として植物珪酸体（プラントオパール）に着目してきた。植物珪酸体は植物の細胞に形成される非結晶の珪酸で、化学的、物理的に安定であり、酸性土壌中でも残留性に優れている（近藤・佐瀬 1986 etc）。植物珪酸体は由来種や部位によって異なった形態を示すが、分析の対象として多用されるのは、イネ科植物の機動細胞で形成される珪酸体（以下、機動細胞珪酸体）である。機動細胞珪酸体は葉の上表皮細胞の著しく肥大した細胞の細胞膜内面に密着して形成され、給源細胞の形態を写し、一部の植物では属、種、亜種まで同定可能であると考えられる研究者もいる（藤原 1976）。また、機動細胞の数、葉身面積、植物乾燥重量は高い正の相関関係を持つことが知られており、土壌中の機動細胞珪酸体の密度から埋没した給源植物の量を推定することが可能である。よって、植物珪酸体分析をもちいれば、給源植物の推定量から用途の議論が可能である。

屋根材の推定を目的に竪穴住居跡覆土の植物珪酸体分析を行った例としては、東京都秋川市宮ヶ谷戸遺跡、東京都調布市原山遺跡、東京都目黒区大橋遺跡、埼玉県新座市新開遺跡などの例があるが、いずれも屋根材への茅の大量使用については否定的な結果が示された。しかし、分析事例が非常に少ないため、竪穴住居跡の廃棄と上屋の解体、上屋根材の処理の問題など発掘調査の成果と分析の結果の連携が十分でなく、分析事例を蓄積することによって分析を行うにあたっての問題点を洗い出す必要がある。

今回、一戸町教育委員会のご厚意により御所野遺跡FG64-01号住居跡より土壌試料を採取させていただき、屋根材推定のため植物珪酸体分析を行った。

試料の採取と観測

土壌試料採は洗浄した移植ゴテを用いて遺構垂直断面を削り、新たな面を露出させた後になるべく表面近くから採取し、試料毎にユニパックへ入れた。試料採取場所は別図に示した。垂直方向の連続試料を得ること目的とし、約1m間隔でそれぞれ2.5cm刻みに採取した。採取した土壌試料は60℃で1週間ほど乾燥させ、乾重量を測定して分析に供するまでデシケータに保存した。

乾燥土壌試料0.2gに10%過酸化水素水15mlを加えた後、超音波発信器（28kHz±3kHz・300W）に30分程度掛け、土塊を破碎した後、数日間静置し、有機物を分解した。過酸化水素処理を経た土壌試料は再度超音波発信器を用いて懸濁し、沈降法により粒径30~100μmのフラクションを回収、乾燥させた。

処理した土壌試料は前述のグリセリン・メタノール混合液（グリセリン：メタノール=2：1）5mlを加え、前述の超音波発信器に1分程度かけ懸濁した後に、試験管シェイカーを用いて懸濁状態を維持しつつ、マイクロピペッターで40μl採ってプレパラートを作成した。プレパラートは、1土壌試料あたり10枚以上作成して検鏡して、機動細胞珪酸体の検出数を観測して記録、試料重量と機動細胞珪酸体の検出数の比率に基づいて土壌試料中の機動細胞珪酸体数を推定した。顕微鏡下での機動細胞珪酸体の判定には近藤・佐瀬

(1986) と藤原 (1979)、杉山・藤原 (1986) によって行った。種の同定については、機動細胞珪酸体数によって屋根材に茅が使用されている可能性が指摘できる段階で行うこととした。

結果と考察

観測結果を表1に示した。いずれの試料も検出された機動細胞珪酸体数が少なく、遺構覆土内ではほぼ均一であり、床面直上での集中が見られない。また、多い試料でも1gあたり17,000個程度であり、ススキ (*Miscanthus Inensis*) が地上部1gあたり28,000個、ヨシ (*Phragmites communis*) が14,000個であることを考えると(藤原 1979)、土屋根住居の下葺きに少量のイネ科植物を使用した可能性も低い。

FG64-01号住居跡は火災などの埋没過程を類推させるイベントなしに埋没しているため、埋没前の上屋の状態や埋没過程は不明である。しかし、上屋の解体ないし崩落→周堤土(堅穴掘削時に掘りあげた土)の流入ないし埋め戻し→周辺の土の流入という過程を経た可能性は高い。よって、上屋の残滓は、解体後に屋根材が堅穴外に持ち出されていないと考えた場合、床面直上を中心に遺存していると考えられる。そのため、屋根材としてイネ科植物が用いられていた場合、床面直上に屋根材に由来する機動細胞珪酸体が集中しているはずである。観測結果では、床面直上に機動細胞珪酸体が集中しておらず、数も少ないことから上屋材など大量に使用するために茅が堅穴内に持ち込まれたとは考えがたい。また、種の同定を行っていないためさらなる分析が必要であるが、層毎に機動細胞珪酸体数に顕著な差がないことから埋没中の周辺植生に大きな変化はなかったものと考えられる。

おわりに

今回の分析からFG64-01号住居が茅葺きである可能性が低いといえる。しかし、建石(1995)などで指摘されているように埋没後の植物珪酸体の挙動、特に風化や土中での挙動には不明な点があるため、さらなる詳細な分析と事例の蓄積が必要である。また、埼玉県新座市新開遺跡や同嵯峨山遺跡で発掘調査と植物珪酸体分析の両方に携わった経験から、遺構覆土の自然化学分析を有効に行うためには発掘調査の段階で遺構埋没過程を推定しておくことが非常に重要であると考え、現在は困難であるFG64-01号住居跡のような非火災住居跡で土層観察からの埋没過程推定をどのように行うか検討する必要もある。

参考文献

近藤練三・佐瀬隆(1986)「植物珪酸体 その特性と応用」『第四紀研究』25(1) pp.31-63 第四紀学会

杉山真二・藤原宏志(1986)「機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定」

『考古学と自然科学』19 pp.69-84 文化財科学会

建石徹(1993)「自然化学分析とその成果」『はらやま』 pp.399-415 調布市原山遺跡調査会

藤原宏志(1979)「プラント・オパール分析法の基礎的研究(3)」

『考古学と自然科学』12 pp.29-42 日本文化財科学会

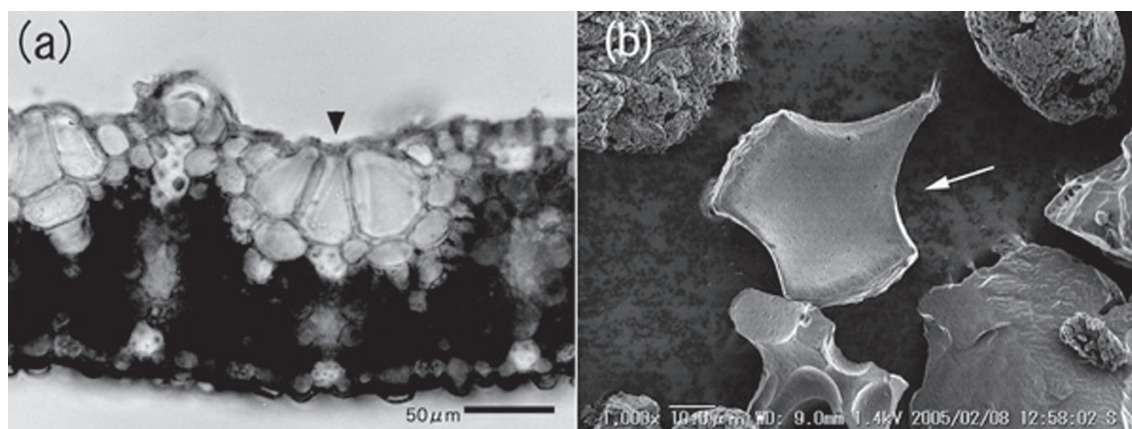


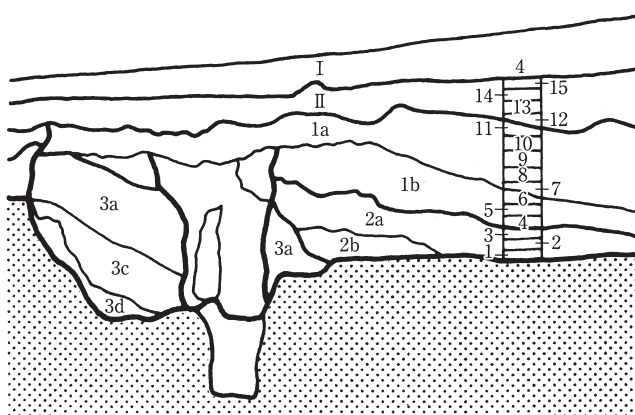
図1 機動細胞珪酸体

(a) はススキの生葉の断面。矢印が機動細胞である。(b) は機動細胞珪酸体の例としてシバ属の機動細胞珪酸体の走査電子顕微鏡画像を示した。

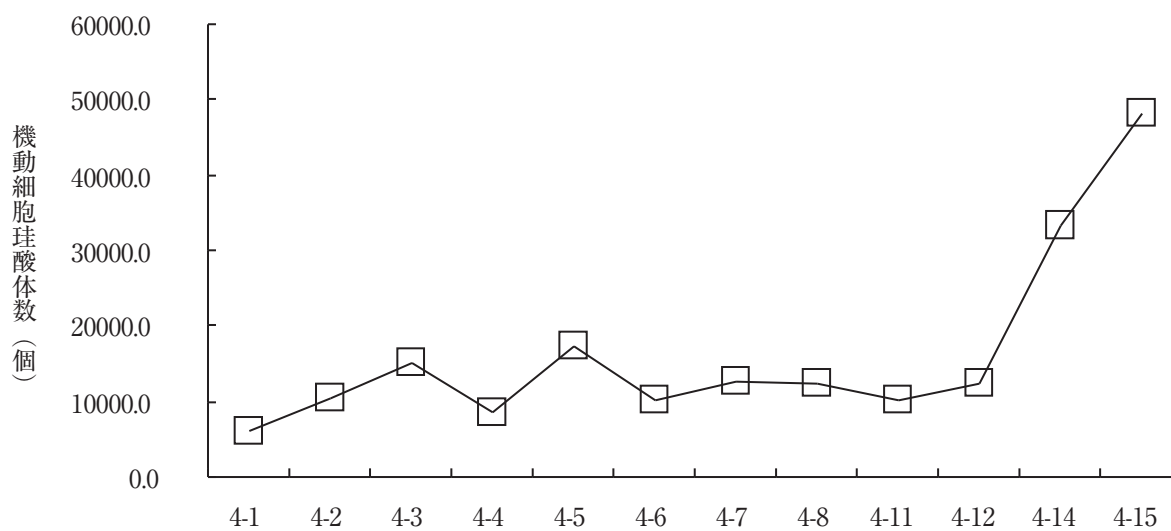
表1 各資料の推定1gあたりの珪酸体個数

試料番号	試料重量 (g)	1 gあたりの珪酸体個数 (個)	層序
4-1	0.2060	5946.6	2a
4-2	0.1993	10348.7	2a
4-3	0.1958	15130.2	2a
4-4	0.1987	8527.7	1b
4-5	0.2068	17327.5	1b
4-6	0.2015	10297.8	1b
4-7	0.1980	12689.4	1a
4-8	0.1985	12468.5	1a
4-11	0.2044	10151.7	1a
4-12	0.2057	12457.5	II
4-14	0.1959	33435.4	II
4-15	0.1992	48067.3	II

図2 試料採取位置図 (FG64-01住居跡)



試料採取位置と機動細胞珪酸体数の関係



3. 御所野遺跡出土種子類の¹⁴C年代測定

小林謙一、坂本稔、新免歳靖（国立歴史民俗博物館年代測定研究グループ）、
辻誠一郎、松崎浩之（東京大学）、村本周三（総合研究大学院大学）

岩手県一戸町御所野遺跡出土種子類の¹⁴C年代測定を試みた。試料は、一戸町教育委員会より提供を受けた縄文中期住居出土の種子類を、辻誠一郎と大松が国立歴史民俗博物館で整理し、小林がその中から測定用資料を選択した。18点の堅果類を測定した。

試料については、一覧を表1に付す。試料の種別については、辻が分類した。

1 炭化物の処理

試料については、文末の補註に示す手順で試料処理を行った。（1）前処理の作業は、国立歴史民俗博物館の年代測定資料実験室において小林・新免・村本が行った。（2）二酸化炭素化と精製、（3）グラファイト化については、坂本が行ったものとパレオラボに委託したものがある。

2 測定結果

年代測定に適した試料であったかどうかを検討するには、試料の状態観察及び炭素含有率からのチェックが有効である。試料の重量について、AAA処理を行った量（処理量）に対する回収量の比（回収／処理）、二酸化炭素を得るために燃烧した量（燃烧量）に対する精製して得られた二酸化炭素の炭素相当量の比（炭素含有率2）、処理量に対する炭素相当量の比、すなわち前者と後者の積（炭素相当量／処理）を検討した結果。今回の測定試料は、すべて50%以上の炭素含有率を示し、炭素含有率が良好であった。年代測定に適した試料といえる。

時期ごとに暦年較正年代についてみる。

縄文中期円筒上層d式期では、IWGS-20は紀元前3105-2905calBCに91%、IWGS-21は前3120-2915calBCに74%、IWGS-301は前3095-2920calBCに95%と、おおむね前3000年頃で一致するが、IWGS-132は明らかに新しく前2465-2270calBCと後期初頭大木10式（新）の時期に比定される（小林2004）。この試料が出土したFC48-01住は埋炉に円筒上層d式をもつが、測定した種子は覆土中1層の出土であり、上層からの混入の可能性はある。

縄文中期円筒上層e式～大木8b式期では、IWGS-298が前3110-2905calBCに87%である。これは、GH68-01住出土で、この住居は2層以上からは大木8b式、3・4層からは大木8a式・円筒上層e式が出土とされる。出土層位は2層とされるが、小林による三内丸山遺跡などでの測定結果による縄文中期土器の年代推定（小林2005）からみると、測定結果からはもっとも新しい前2930年頃と捉えても、大木8a式に比定される年代である。IWGS-303は、GD62-01住で、報告者によれば、時期を特定できる出土遺物はないが、竪穴の形態・柱穴配置・炉から、円筒上層d式及び大木8a式に比定されている。較正年代で、前2875-2630calBCに95%であり、大木8b式から大木9式に比定される年代である。

大木9式期では、IWGS-7,17,118,124,136,300,305が測定されている。うち、IWGS-136が炭素年代で $3945 \pm 25^{14}\text{C}$ BPと少し新しく、較正年代で前2565-2345calBCと、大木10式から後期にかけての年代である。同様に、やはり新しいIWGS-118が $3900 \pm 40^{14}\text{C}$ BPで、較正年代で2475-2280calBCとなる。ほかは、¹⁴C年代で4180~4075¹⁴C BPおよび較正年代でおおむね前2800年代から2600年代に比定され、大木9式、関東地方の加曽利E3式に比定される暦年代である。

大木10式に比定される試料は、IWGS-47,141,283,288,304である。IWGS-141が $4115 \pm 25^{14}\text{C}$ BPで、やや古いものの、較正年代で前2860-2575calBCで、新しい方にみれば大木9式と10式期の境くらいの年代とみることが出来る。いってみれば上述した大木9式期に比定されているIWGS-118と逆の関係である。それ以外の試料では、較正年代で前2500年頃を中心とした年代に位置づけられ、中期末葉から後期初頭の年代といえる。

以上のように、IWGS-132と、IWGS-136については、明らかに出土した住居の比定期と測定年代が異なるが、それ以外ではおおむね整合的な結果となっている。

平成15年度科学研究費補助金「基盤研究（A・1）（一般）縄文弥生時代の高精度年代体系の構築」（代表 今村峯雄 課題番号13308009）（今村編2004）、平成17年度科学研究費補助金（学術創成研究）「弥生農耕の起源と東アジア炭素年代測定による高精度編年体系の構築—」（研究代表 西本豊弘 課題番号16GS0118）、平成17年度科学研究費補助金「基盤研究（C）AMS炭素14年代測定を利用した東日本縄紋時代前半期の実年代の研究」（研究代表 小林謙一 課題番号17520529）の成果を用いている。

暦年較正については今村峯雄氏の方法に従う。本稿は、1・補註を坂本、他を小林が執筆した。

<補註>

試料については下記の手順で処理した。

（1）前処理：酸・アルカリ・酸による化学洗浄（AAA処理）。

種子のAAA処理は、自動処理装置（Sakamoto et al. 2002）を用いた。80℃、各1時間で、希塩酸溶液（1N-HCl）で岩石などに含まれる炭酸カルシウム等を除去（2回）し、さらにアルカリ溶液（1N-NaOH）でフミン酸等を除去する工程を5回、さらに2回酸処理（1N-HCl 240分以上）を行いアルカリ分を除いた後、純水を使って洗浄した（5回）。

（2）二酸化炭素化と精製：酸化銅により試料を燃焼（二酸化炭素化）、真空ラインを用いて不純物を除去。

AAA処理の済んだ乾燥試料を、500mgの酸化銅とともに石英ガラス管に投げ、真空に引いてガスバーナーで封じ切った。このガラス管を電気炉で850℃で3時間加熱して試料を完全に燃焼させた。得られた二酸化炭素には水などの不純物が混在しているので、ガラス製真空ラインを用いてこれを分離・精製した。

（3）グラファイト化：鉄触媒のもとで水素還元し、二酸化炭素をグラファイト炭素に転換。アルミ製カソードに充填。

1.5mgの炭素量を目標にグラファイトに相当する二酸化炭素を分取し、水素ガスとともに石英ガラス管に封じた。これを電気炉でおよそ600℃で12時間加熱してグラファイトを得た。ガラス管にはあらかじめ触媒となる鉄粉が投じてあり、グラファイトはこの鉄粉の周囲に析出する。グラファイトは鉄粉とよく混合した後、穴径1mmのアルミニウム製カソードに600Nの圧力で充填した。

（4）測定

AMSによる ^{14}C 測定は、2004年度にIWGS-7,17,20,21,47,118,124,132,283,298は同時に調製した標準試料とともに、加速器分析研究所（機関番号IAAA）に委託した。IWGS-304,305は東京大学工学研究系のタンデム加速器施設（機関番号MTC）で同時に調製した標準試料とともに測定した。残りは2005年度に、(株)パレオラボ（機関番号PLD）へ委託した。

年代データの ^{14}C BPという表示は、西暦1950年を基点にして計算した ^{14}C 年代（モデル年代）であること

を示す (BPまたはyr BPと記すことも多いが、本稿では ^{14}C BPとする)。 ^{14}C 年代を算出する際の半減期は、5,568年を用いて計算することになっている。誤差は測定における統計誤差 (1標準偏差、68%信頼限界) である。

AMSでは、グラファイト炭素試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を加速器により測定する。正確な年代を得るには、試料の同位体効果を測定し補正する必要がある。同時に加速器で測定した $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比により、 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比に対する同位体効果を調べ補正する。 $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比は、標準体 (古生物belemnite化石の炭酸カルシウムの $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比) に対する千分率偏差 $\delta^{13}\text{C}$ (パーミル, ‰) で示され、この値を-25‰に規格化して得られる $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比によって補正する。補正した $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、 ^{14}C 年代値 (モデル年代) が得られる。

測定値を較正曲線IntCal04 (^{14}C 年代を暦年代に修正するためのデータベース、2004年版) (Reimer et al 2004) と比較することによって暦年代 (実年代) を推定できる。両者に統計誤差があるため、統計数的に扱う方がより正確に年代を表現できる。すなわち、測定値と較正曲線データベースとの一致の度合いを確率で示すことにより、暦年代の推定値確率分布として表す。暦年較正プログラムは、国立歴史民俗博物館で作成したプログラムRHCAL (OxCal Programに準じた方法) を用いている。統計誤差は2標準偏差に相当する、95%信頼限界で計算した。年代は、較正された西暦 cal BCで示す。()内は推定確率である。

<参考文献>

今村峯雄2004『課題番号13308009基盤研究 (A・1) (一般) 縄文弥生時代の高精度年代体系の構築』(代表今村峯雄)

小林謙一 2004『縄文社会研究の新視点—炭素14年代測定の利用—』六一書房

小林謙一 2005「付着炭化物のAMS炭素14年代測定による円筒土器の年代研究」『特別史跡三内丸山遺跡年報-8-平成16年度』青森県教育委員会

小林謙一・西本豊弘2003「年代がわかると歴史観が変わる・2」『歴史を探るサイエンス』国立歴史民俗博物館、pp. 1-64

Reimer, Paula J.; Baillie, Mike G.L.; Bard, Edouard; Bayliss, Alex; Beck, J Warren; Bertrand, Chanda J.H.; Blackwell, Paul G.; Buck, Caitlin E.; Burr, George S.; Cutler, Kirsten B.; Damon, Paul E.; Edwards, R Lawrence; Fairbanks, Richard G.; Friedrich, Michael; Guilderson, Thomas P.; Hogg, Alan G.; Hughen, Konrad A.; Kromer, Bernd; McCormac, Gerry; Manning, Sturt; Ramsey, Christopher Bronk; Reimer, Ron W.; Remmele, Sabine; Southon, John R.; Stuiver, Minze; Talamo, Sahra; Taylor, F.W.; van der Plicht, Johannes; Weyhenmeyer, Constanze E. 2004 IntCal04 Terrestrial Radiocarbon Age Calibration, 0-26 Cal Kyr BP Radiocarbon 46(3), 1029-1058(30).

表1 御所野遺跡年代測定試料(種子類)一覧

試料	調査年	地区	出土区	種類	型式	備考
IWGS -7	1997	東	HA118住 1層	オニグルミ	縄文中期大木9	御所野 II 33p
IWGS -17	1998	中央	1区GE60-1住 No2	クリ	縄文中期大木9	御所野 II 68p
IWGS -20	1998	中央	GE62-07住 埋設炉	オニグルミ	縄文中期円筒上層d	御所野 II 70p
IWGS -21	1998	中央	GF64-02住 No1	クリ	縄文中期円筒上層d	御所野 II 73p
IWGS -47	1998	東	GI144住 No1 床上	クリ子葉	縄文中期 大木10	御所野 II 22・23p
IWGS -118	1999	中央	FA50-01住 FB52-7 No2	クリ子葉	縄文中期大木9	
IWGS -124	1999	中央	FB52-03住 FC52-8 No1	オニグルミ	縄文中期大木9	
IWGS -132	2000	中央	FC48-01住 FC49-11 1層 No1	クリ	縄文中期円筒上層d	
IWGS -136	2000	中央	FD48-01住 FC46-36 No3	クリ?	縄文中期大木9	
IWGS -141	1999	中央	FE48-01住 No3	クリ	縄文中期 大木10	
IWGS -283	1996	西	DE24-01住 DE24 IV-3 2層(火災住居)	オニグルミNo1	縄文中期 大木10(新)	御所野 II 110p
IWGS -288	1997	西	DF22-01住 DF20 IV6 (火災住居)	オニグルミ	縄文中期 大木10(新)	御所野 II 123p
IWGS -298	1990?	中央	GH68-01住 2層	オニグルミ	縄文中期 円筒上層e~大木8b	御所野 I 62p
IWGS -300	1994	中央	GD64-01住 4層 (大形住居)	クリ	縄文中期 大木9式	御所野 II 63p
IWGS -301	1991	中央	GB44-01住 1層No2 盛土遺構最下層面検出	不明種子	縄文中期円筒上層d	御所野 I 74p
IWGS -303	?	中央	GD62-01住 GC66 炉上面	オニグルミ	縄文中期円筒上層e式 ・大木8b式	御所野 II 69p
IWGS -304	?	中央	GD66-01住 GC66 4層	オニグルミ	縄文中期 大木10	御所野 II 65p
IWGS -305	1991?	東	HB120-01住	オニグルミNo5	縄文中期大木9	

表2 測定結果と暦年較正年代

試料番号	測定機関番号	炭素年代 $\delta^{13}\text{C}\%$	^{14}C BP (補正值)	暦年較正 cal BC (%) は確率密度	
IWGS-7	IAAA-32066	(-29.4)	4080 ± 40	2860-2805	16.7%
				2755-2715	7.3%
				2705-2545	60.0%
				2540-2490	11.4%
IWGS-17	IAAA-32067	(-21.99)	4220 ± 40	2905-2835	36.9%
				2815-2675	58.6%
IWGS-20	IAAA-32068	(-29.8)	4390 ± 40	3310-3300	0.6%
				3285-3275	0.4%
				3265-3240	3.1%
IWGS-21	IAAA-32069	(-26.3)	4420 ± 40	3105-2905	91.3%
				3325-3225	18.6%
				3225-3215	1.0%
IWGS-47	IAAA-32070	(-24.7)	4060 ± 50	3175-3155	2.4%
				3120-2915	73.5%
				2860-2805	12.4%
IWGS-118	IAAA-32071	(-29.1)	3900 ± 40	2755-2720	5.3%
				2705-2470	77.7%
				2475-2280	92.3%
IWGS-124	IAAA-32075	(-28.8)	4110 ± 40	2250-2230	2.3%
				2220-2210	0.9%
				2870-2800	23.4%
IWGS-132	IAAA-32072	(-25.8)	3860 ± 40	2790-2785	0.6%
				2780-2570	70.1%
				2510-2500	1.3%
IWGS-136	PLD-4441	(-20.7 ± 0.1)	3945 ± 25	2465-2270	79.8%
				2260-2205	15.7%
				2565-2530	11.9%
IWGS-141	PLD-4446	(-21.6 ± 0.1)	4115 ± 25	2495-2390	66.0%
				2385-2345	17.6%
				2860-2805	25.0%
IWGS-283	IAAA-32074	(-28)	3990 ± 40	2760-2715	14.4%
				2705-2575	56.1%
				2620-2590	3.0%
				2590-2455	88.4%
IWGS-288	PLD-4445	(-24.1 ± 0.1)	3970 ± 20	2445-2440	0.4%
				2420-2405	1.4%
				2375-2350	2.3%
				2565-2520	43.1%
IWGS-298	IAAA-32073	(-28.1)	4400 ± 40	2495-2460	52.3%
				3315-3290	2.0%
				3290-3270	1.4%
				3265-3235	4.7%
IWGS-300	PLD-4443	(-23. ± 0.1)	4140 ± 25	3170-3160	0.5%
				3110-2905	86.9%
				2870-2825	18.9%
				2825-2800	8.6%
IWGS-301	PLD-4444	(-26 ± 0.1)	4405 ± 25	2795-2625	67.9%
				3095-2920	95.4%
IWGS-303	PLD-4442	(-25.2 ± 0.1)	4155 ± 25	2875-2830	19.2%
				2820-2660	71.9%
				2650-2630	4.3%
IWGS-304	MTC-04713	(-25.4)	4175 ± 40	2890-2830	21.4%
				2820-2630	74.1%
IWGS-305	MTC-04714	(-27.4)	4075 ± 35	2855-2810	14.9%
				2750-2720	4.5%
				2700-2550	63.2%
				2535-2490	12.9%

註) $\delta^{13}\text{C}$ 値は、加速器による同位体効果補正のための測定値で、正確な $\delta^{13}\text{C}$ 値ではないため、() で参考値として示す。

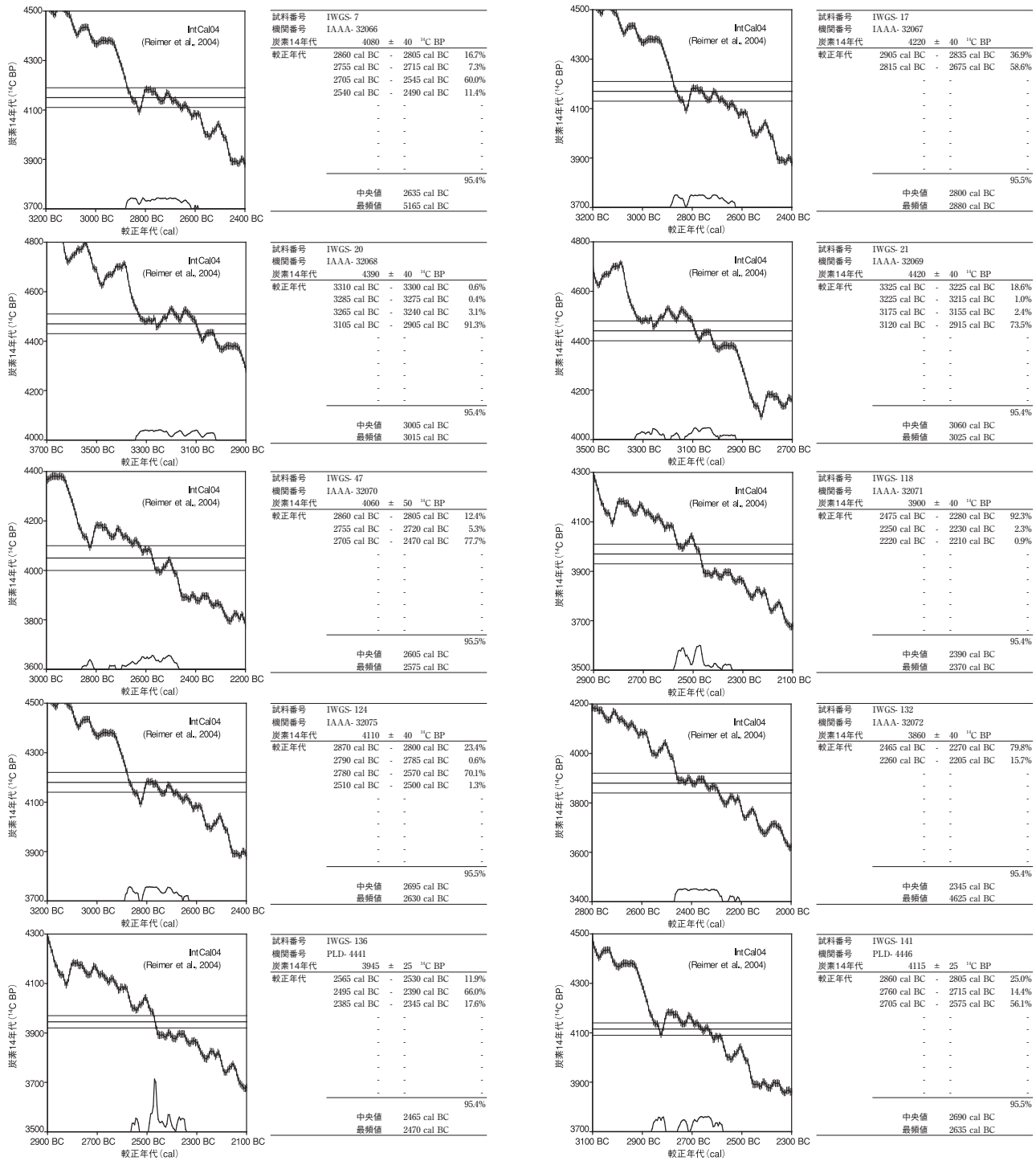


図 御所野遺跡測定種子類試料の暦年較正確率密度分布（その1）

中央値はその左右で確率密度が等しくなる値、最頻値はもっとも高い確率を与える値であるが、どちらも統計学上の数値であり、試料の年代として推奨される値とは限らない。

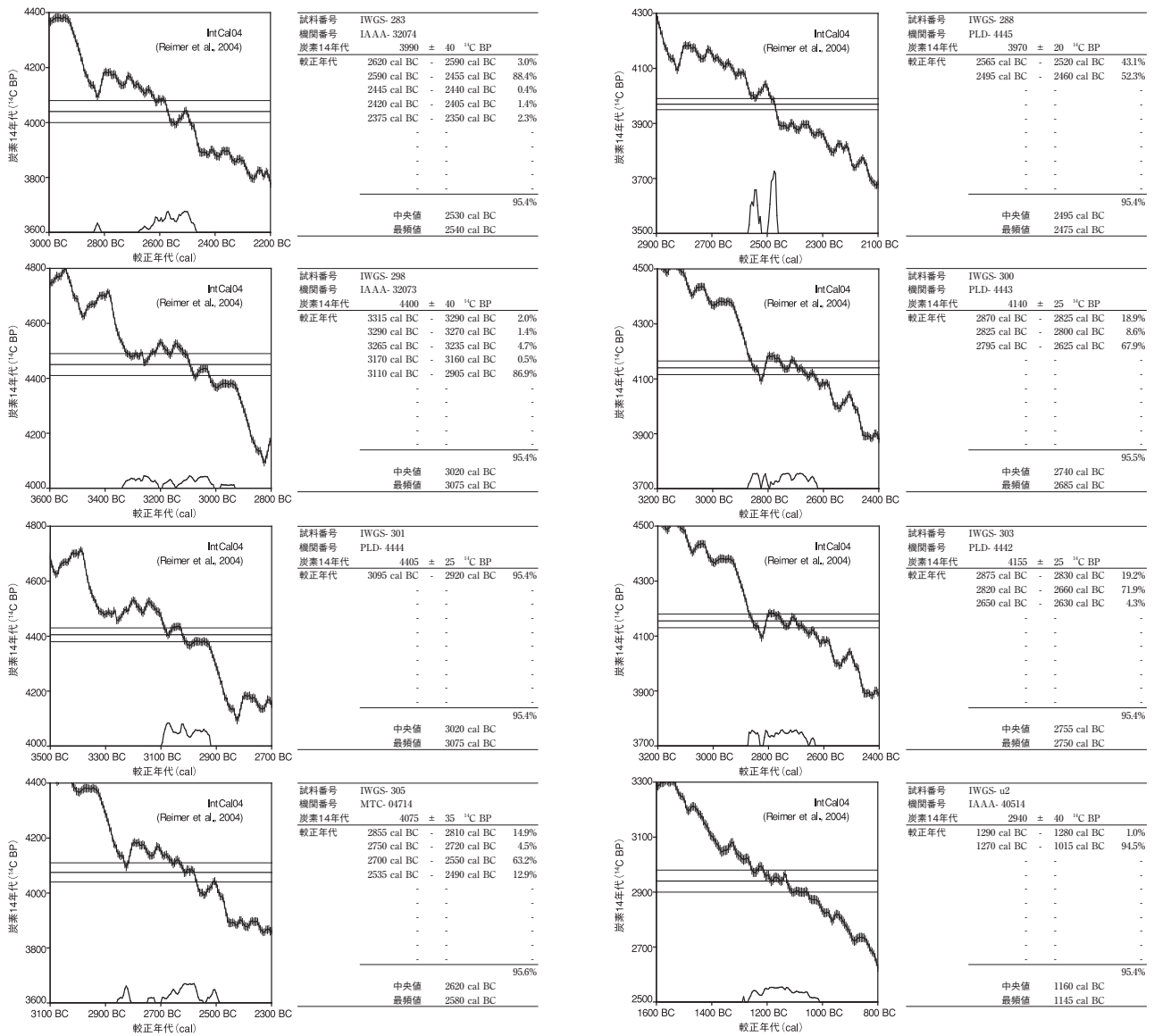


図 御所野遺跡測定種子類試料の暦年較正確率密度分布 (その2)

中央値はその左右で確率密度が等しくなる値、最頻値はもっとも高い確率を与える値であるが、どちらも統計学上の数値であり、試料の年代として推奨される値とは限らない。

4. 御所野遺跡の骨角製品と焼骨について

西本豊弘・浪形早季子

御所野遺跡の1994年から2005年の発掘調査で出土した動物遺体は約2000点である。それらはすべて焼骨であり、大部分は1 cm以下の小片であった。これらは白色化したものが大半であった。その中には加工品2点の他に、シカ、イノシシ、ツキノワグマ、キツネもしくはタヌキ、種不明中型獣が含まれていた。

1. 加工品

角製品 ①

鹿角の先端部分である。鹿角の先端は、シカが自然に木などにこすり付けるので研磨された状態になるので、この資料も自然資料のものである可能性がある。しかし、この資料では内部の海綿体が偏っていることと、全体に細いことから人為的に研磨されたものと判断した。器種としては、2歳の時に生える1本角を利用していることから、角座近くに孔を開けて使う装飾品が想定される。

骨製品 ②

長さ31mm・幅8mmの小さな破片である。長軸の両端は折れている。両側縁には擦り切り痕が見られる。シカの中手骨や中足骨などの内面が空洞の骨を細長く擦り切って作ったもので、おそらくヤス先の間部分であろう。

2. 獣骨

大部分は小さな破片であり、部位や種の同定は不可能であった。その中で、シカは、角片と思われるものが5点見られた。シカは大半が鹿角であり、その他は中手骨や中足骨の破片や手根骨や足根骨、末節骨など四肢骨の先端部の小さな骨がみられた。但し、左肩甲骨の破片が1点みられた。イノシシは、歯の破片が2点あり、それらは上顎第3後臼歯である。よく磨耗していることから老獣個体と推測されるものが含まれていた。その他に頭蓋骨破片や顎骨破片、右橈骨遠位部、基節骨、中節骨2点、末節骨、中間手根骨が確認された。橈骨は骨端が癒合しておらず、若い個体であった。中節骨の1点はその形態から見て側指の中節骨であったが、かなり大きな個体のものであった。

ツキノワグマは、中手骨または中足骨の遠位部の破片が1点含まれていた。骨端部分が癒着しており、成獣個体である。その他に、タヌキかキツネ程度の大きさの哺乳類の左上腕骨の近位部破片が1点見られた。骨端部が癒着しており、成獣個体である。また、種不明小型獣の四肢骨の破片が1点みられた。

表1 御所野遺跡出土動物遺体一覧表

種名	部位名	左右	残存部分	備考	調査区	出土地点 グリット名	遺構名	時代	No.
ツキノワグマ	中手・中足骨		遠位部		V	FH64-6	盛土	縄文中期	1725
キツネorタヌキ	上腕骨	L	近位端一骨幹		IIa	FD58-6	盛土	縄文中期	1671
シカ	鹿角				IIa	第4トレンチ2層	FB54-01土坑	縄文中期	1502
シカ	鹿角				IIa	FB54-30		縄文中期	1522
シカ	鹿角				IIa	FD60-21		縄文中期	1640
シカ	鹿角		先端部		IIa	2層	FB54-02住居	縄文中期	1690
シカ	鹿角				V	No6	FH62-04住居	縄文中期	1832
シカ	肩甲骨	L	骨幹部(棘一部含)		IIa	2層	FB54-02住居	縄文中期	1690
シカ	中手骨		中間部破片		IIa	FB54-30		縄文中期	1522
シカ	中手骨		中間部尾面破片		V	FH60-6	遺構確認面	縄文中期	1717
シカ	中手・中足骨		遠位部(滑車)破片		IIa	FB56-29		縄文中期	1550
シカ?	手根骨?				IIa		FB58-02住	縄文中期	1487
シカ	足根骨		破片		V	No7	FH60-03住居	縄文中期	1815
シカ	末節骨		完存		III	EI-42トレンチ	170号住居跡	古代	5

種名	部位名	左右	残存部分	備考	調査区	出土地点 グリット名	遺構名	時代	No
イノシシ	上顎第3後臼歯				IIa		FC56-01土坑	縄文中期	1685
イノシシ?	頭蓋骨		破片		IIa	FB54-1		縄文中期	1528
イノシシ	顎骨		破片		IIa	FB52-1	FB56-05住	縄文中期	1474
イノシシ	橈骨	R	遠位部	若獣	III	EI-42トレンチ	EI44-01住2層	縄文中期	8
イノシシ	基節骨		骨幹-遠位部		IIa	周溝	FA52-03住居	縄文中期	1689
イノシシ	中節骨		完存		IIa	FC58-7		縄文中期	1578
イノシシ	第2・5中節骨		完存	大型	V	No8	FG62-04住居	縄文中期	1734
イノシシ	第2・5末節骨		完存		IIa	FD56-20		縄文中期	1622
イノシシ	中間手根骨		完存		III	EI-42トレンチ	EH42-03住3層	縄文中期	15
シカorイノシシ	頭蓋骨		破片		IIa	FB54-30		縄文中期	1522
シカorイノシシ	中手・中足骨		遠位部(滑車)破片		V	No4	FH62-04住居	縄文中期	1830
シカorイノシシ	中手・中足骨		遠位部(滑車)破片		V	FH64-20, 1層	FH62-03住居	縄文中期	1940
シカorイノシシ	基節骨		近位破片		V	No17	FG62-05住居	縄文中期	1883
シカorイノシシ	指骨		破片		V	No13	FH62-03住居	縄文中期	1932
シカorイノシシ	中心足根骨				V	No69	FG62-04住居	縄文中期	1790
シカorイノシシ	手根・足根骨				V	FD56-21		縄文中期	1623
シカorイノシシ	手根・足根骨		破片		V	FB56-34		縄文中期	1552



骨製品・動物遺体

骨製品 (1. 装飾品 2. ヤス先) 3. ツキノワグマ中手・中足骨 4. キツネまたはタヌキ左上腕骨 5~12. イノシシ (5・6. 上顎第3後臼歯 7. 手根骨 8. 右橈骨 9. 基節骨 10. 中節骨 11. 第2・5中節骨 12. 第2・5末節骨 13~21. シカ (13. 末節骨 14・15. 中手骨 16. 左肩甲骨 17~21. 角)

Ⅶ. むすび

本書は国指定史跡を受けた後の発掘調査のうち平成11年度以降の調査についてまとめている。調査の目的は各年度によって異なるが、基本的には配石遺構周辺部の掘立柱建物跡の遺構復原のためのデータをきちんと把握することであった。この中央部の掘立柱建物は平成4年の西側の調査で検出しており配石遺構の外側への分布を想定していたが、その後平成11年度以降遺構復原のための調査を継続して特に西側トレンチ（Ⅱb区）を設定して調査したところ予想通り柱穴を大量に検出、その配置から6～7棟の建物跡を想定、その調査結果にもとづき平成13年度に遺構を復原している。その後同じ建物が果たして配石遺構群のその他の地区でどのように分布するのかを確認するため北側（Ⅱa区）、さらに東側（Ⅴ区）にそれぞれトレンチを設定して調査を進めた。

ところが調査した場所には必ず竪穴住居跡などほかの遺構がほぼ全面に分布しており、それらの遺構も併行して調査しなければならなかったし、また遺構の重複が多いため柱穴などの認識が非常に難しかった。特に北側調査区ではトレンチを掘り下げてまもなく遺物を大量に含む堆積土（盛土）が一面に分布しており、しかもその堆積土が識別の難しい黒褐色土系の堆積土のため特に柱穴の検出が難しかった。したがって今回北側の調査区で柱穴状のピットを多く検出したのは、いずれも地山が辛うじて残っていた北西部に集中しており、そこで掘立柱建物跡を2棟確認している。

Ⅴ区にも同じく竪穴住居跡が密集しており、そのなかで比較的希薄な場所で柱穴状のピットを検出して、それを基準にして周辺に拡張していった。その結果一部竪穴住居跡のなかで掘られていた柱穴を確認して同じく2棟の掘立柱建物跡を確認している。以上の調査結果から配石遺構群の周辺では西側の調査区同様、北側、さらには東側にも掘立柱建物が分布していたことが明らかになった。ただ再三指摘しているように竪穴住居跡などと重複している例が多いことから柱穴の識別が非常に難しく、果たしてどの程度の遺構の状況なのか言及はできないが、今までの調査の状況から見てそれほど長期にわたって構築されたものではないと思われる。しかも以上の遺構はⅤ期の竪穴住居跡、あるいは小判形土坑などとも重複する例がほとんどないことからほぼ同じ時期、あるいはきわめて近い時期の所産ではないかと考えられる。以上が中央部の配石遺構群周辺の掘立柱建物跡の状況である。

同じような柱穴のなかには特に規模が大きく、しかもその配置が掘立柱建物のように6個並列しない大型の柱穴が北側トレンチ（Ⅱa区）あるいは東側トレンチ（Ⅴ区）のいずれも中央部で検出されている。また西側のⅢ区でも巨大な柱穴が検出されている。今のところこのような大型の大規模な柱穴のなかにもⅡb区のFC48掘立柱建物のような配列となるものもあるが、あるいはなかには建物とならず独立柱の可能性もある。いずれそれらについても今後検討していきたい。

中央部の掘立柱建物の復原のための資料を得るための調査も平成17年度でほぼ終了し、配石遺構の周辺に数は少ないが掘立柱建物跡が分布することが明らかになった。この成果をもとに平成18年度に建物を復原する予定である。ただ掘立柱建物跡以外の遺構も多く検出しており、竪穴住居跡、大型土坑、墓坑、さらに炉跡なども検出している。これらの中心部の遺構を詳細に調査することにより、遺構群の変遷も大筋で明らかになってきたし、墓域の形成から周辺での祭祀の様相にも今後言及できそうである。それらについては今後しっかりとした学術調査の計画をたてて実施していきたい。

報告書抄録

ふりがな	ごしょのいせき							
書名	御所野遺跡Ⅲ							
副書名								
巻次								
シリーズ名	一戸町文化財調査報告書							
シリーズ番号	第53集							
編著者名	高田和徳・中村明央							
編集機関	一戸町教育委員会							
所在地	〒028-5311 岩手県二戸郡一戸町高善寺字大川鉢24-9 TEL 0195-33-2111							
発行年月日	2006年3月							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東側経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	番号					
御所野遺跡	岩手県二戸郡 一戸町岩館字 御所野	03524		40° 11' 22"	140° 19' 02"	1999.6.1 ～ 2005.7.29	1,746㎡	遺跡整備に伴う 発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
御所野遺跡	集落跡 古墳群	縄文 古代	竪穴住居跡 掘立柱建物跡 柱穴群 土坑 陥穴 配石遺構 古墳		縄文土器 石器 石製品 土製品 土師器 炭化植物種実 動物遺存体			

一戸町文化財調査報告書第53集

御所野遺跡Ⅲ

平成18年3月27日印刷

平成18年3月31日発行

発行 一戸町教育委員会

岩手県二戸郡一戸町高善寺字大川鉢24の9

(0195) 33-2111

印刷 株式会社吉田印刷